體　尺　何糎
產　地　道(府縣)郡(市)町村
前回檢査地　何年何月定期臨時郡町村
右御檢査被成下度此段相願候也
年　月　日
住　所
所有者(管理者)　氏　名㊞
樺太廳長官宛

第二號樣式

可

備考
一　直徑一、二糎トス
二　輪廓ナシ

第三號樣式（縱五寸橫七寸）

第　號
種牡牛(馬)證明書
住　所
所有者(管理者)
種類名號　種　號
生年月日　年　月　日
體　尺　糎
毛色特徵　毛(斑)
有效區域
檢査地
右種牡牛(馬)タルコトヲ證明ス
年　月　日
樺太廳

表

裏

檢査年月日	有效期間	檢査委員官氏名印

〔樺法〕

第四號樣式（縱五寸橫七寸）

臨第　號
種牡牛(馬)證明書
住　所
所有者(管理者)
種類名號　種　號
生年月日　年　月　日
體　尺　糎
毛色特徵　毛(斑)
有效區域
檢査地
右種牡牛馬取締規則第四條第四項ニ依リ臨時檢査ニ合格シタルコトヲ證明ス
年　月　日
樺太廳

表

裏

檢査年月日	有效期間	檢査委員官氏名印

〔樺法〕

第五號樣式（縱五寸橫七寸）

第　號
種牡牛(馬)證明書
住　所
所有者(管理者)
種類名號　種　號
生年月日　年　月　日
體　尺　糎
毛色特徵　毛(斑)
有效區域
檢査地
右種牡牛馬取締規則第十三條ニ依リ本證明書ヲ下付ス
年　月　日
樺太廳

表

裏

檢査年月日	有效期間	檢査委員官氏名印

第六號樣式

種牡牛(馬)種付簿　昭和　年

一種牡牛(馬)

種類　毛色　號　生年月日　體尺　產地

種付牡牛(馬)	種付年月日	產駒			摘要	所有者(管理者)	
種名	年	體	毛	特		住所	氏名
類	號	齡	尺	色	徵	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	分娩月日	性			

住所
所有者(管理者)

注意　摘要欄ニハ流產又ハ血統證ヲ交付シタルコト等ノ事項ヲ記入スヘシ

第七號樣式　(用紙半紙)

種付牝牛(馬)產駒(駒)成績報告

種牡牛(馬)何種何號

本年種付牝牛(馬)數				本年產犢(駒)頭數				事故	
洋種	雜種	在來種	計	牝	牡	計	不受胎	流產	其他	計	摘要

右報告候也

年　月　日

住所
所有者(管理者)

樺太廳長官　宛

注意　摘要欄ニハ不受胎、流產斃死等ノ主因產駒一般ノ概況其ノ他參考トナルヘキモノヲ記入スルコト

●種牡牛馬檢査委員心得

昭和三年八月三十日
訓令第四百二十五號
農林部　支廳　支廳出張所

種牡牛馬檢査委員心得左ノ通定ム

種牡牛馬檢査委員心得

第一條　種牡牛馬ノ合格不合格ハ第二條乃至第六條ニ依リ之ヲ決定スヘシ但シ檢査標準ニ達セサルモ牛馬ノ蕃殖及種牡牛馬ノ分布狀況ヲ參酌シ第八條第三號ニ依リ區域ヲ限定シテ特ニ合格セシムルコトヲ得

第二條　奬勵品種以外ノ牛馬ハ特ニ優秀ナルカ又ハ特殊ノ事情ナキ限リ之ヲ不合格トスヘシ

第三條　種牡牛檢査ノ標準ハ種牡牛馬取締規則第八條ニ依ルノ外資質優良ニシテ惡質ノ疾病又ハ惡癖ナク品種特有ノ毛色體尺特徵ヲ有スルコトヲ要ス但シ「ホルスタイン」種中赤白斑毛ノモノハ不合格トスヘシ

第四條　種牡馬檢査ノ標準ハ種牡牛馬取締規則第八條ニ依ルノ外資質優良ナルコトヲ要件トシ其ノ役種別體型ハ左ノ規準ニ據ルヘシ

役種別	身幹ニ對スル胸圍率(百分率) 理想	合格	管理	身幹 理想	合格	管理	圍 合格
輕種	一四六糎以上一五五糎以下	一四六糎以上一六〇糎以下	一四六糎以上一六三糎以下(サラブレット種)	一一三以上	一一〇以上	一九糎以上	一八糎以上
中間種	一四六糎以上一五八糎以下	一四六糎以上一六〇糎以下		一一六以上	一一二以上	二〇糎以上	一九糎以上
重種	一五二糎以上一六〇糎以下	一四六糎以上一六二糎以下		一一八以上	一一六以上	二一糎以上	二〇糎以上

血統純良又ハ骨格拔群優良ニシテ改良上有益ト認ムルモノハ右規準ニ依ラサルコトヲ得

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル馬ハ之ヲ合格ト爲スコトヲ得ス

一　喘鳴症ヲ有スルモノ

二　間歇性眼炎ヲ有スルモノ
三　構造不良ニ因スル飛節内旋ノ著シキモノ
四　肢ノ鍾直及蹄ノ踏著不正ナル爲管骨瘤又ハ趾骨瘤ヲ發生シ運動ニ障碍アルモノ
五　遺傳性確實ナル無色素眼ヲ有スルモノ
六　忌ムヘキ性癖ヲ有スルモノ

第六條　檢査ノ都度其ノ檢査前ニ於テ種牡牛馬ニ供用シタル實績ヲ參酌スヘシ

第七條　種牡牛馬證明書ノ有效期間ハ左ノ各號ニ依ルヘシ
一　定期檢査ノ場合ニ於テハ檢査當日ヨリ翌年十月三十一日迄トス
二　其ノ年定期檢査前ニ於ケル臨時檢査ノ場合ニ於テハ檢査當日ヨリ其ノ年十月三十一日迄トス
三　其ノ年定期檢査後ニ於ケル臨時檢査ノ場合ニ於テハ檢査當日ヨリ翌年十月三十一日迄トス

前項各號ノ場合ニ於テ十八月以下ノ牛ニアリテハ十八月ニ達スル日滿三歲以下ノ馬ニアリテハ滿三歲ニ達スル日ヲ以テ證明書有效期間ノ始期トス

第八條　種牡牛馬ノ有效區域ハ其ノ資質ニ應シ左ノ各號ニ依ルヘシ
一　樺太廳管内（甲）
血統體格共ニ優良ニシテ全島ヲ通シテ有效區域ト爲スニ足ルモノ
二　支廳又ハ支廳出張所管内（乙）
血統體格稍前者ニ劣ルモ支廳又ハ支廳出張所管内ヲ有效區域ト爲スニ足ルモノ
三　町村一圓（丙）
本令第一條但書ニ依リ町村一圓ヲ有效區域トシテ種付許可ノ必要アルモノ

第九條　檢査委員檢査ヲ結了シタルトキハ第一號乃至第五號樣式ニ依リ樺太廳長官ニ報告スヘシ但シ臨時檢査ニアリテハ第一號樣式ニ依ル報告ヲ除ク

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

種牡牛馬檢査成績報告

年　月　日　　種牡牛馬檢査委員　官　氏　　名印

樺太廳長官宛

何年度種牡牛馬定期檢査結了ニ付左記ノ事項及復命候也

一　種牡牛馬一般ノ資質
一　不合格牛馬ノ原因
一　將來ニ對スル意見（例、檢査日割、種牡牛馬供用上注意スヘキ要點等）

參考

種牡牛馬飼養管理ノ狀況

第二號樣式ノ一

定期檢査成績表（牛又ハ馬）

檢査所	檢査年月日	出願頭數 新出願	出願頭數 前回合格	出願頭數 計	檢査頭數 合格頭數 新出願	檢査頭數 合格頭數 前回合格	檢査頭數 合格頭數 計	檢査頭數 不合格頭數 新出願	檢査頭數 不合格頭數 前回合格	檢査頭數 不合格頭數 計	檢査頭數 合計	不參頭數

注意

前回合格ノ欄ニハ前回ノ定期檢査ニ合格シタルモノ及其ノ後ノ臨時檢査ニ合格シタルモノヲ記載スヘシ

第二號樣式ノ二

臨時檢査成績表（牛又ハ馬）

檢査所	檢査年月日	出願頭數	檢査頭數 合格頭數	檢査頭數 不合格頭數	檢査頭數 計	不參頭數
計						

第三號樣式ノ一

定期（臨時）檢査合格馬種類年齡體尺別頭數表

種類	年齢	體尺 一四〇糎以下	一四〇糎以上一四五糎以上	一四五糎以上一五〇糎以上	一五〇糎以上一五五糎以上	一五五糎以上一六〇糎以上	計
洋種	明ヶ三歳						
	明ヶ四歳以上						
	明ヶ八歳以上						
	明ヶ十二歳以上						
	計						
雑種	明ヶ三歳						
	明ヶ四歳以上						
	明ヶ八歳以上						
	明ヶ十二歳以上						
	計						
和種	明ヶ三歳						
	明ヶ四歳以上						
	明ヶ八歳以上						
	明ヶ十二歳以上						
	計						
合計							

〔樺法〕

第三號樣式ノ二

定期（臨時）檢査合格牛種類年齢別頭數表

種類	年齢	明ヶ二歳	明ヶ三歳	明ヶ四歳以上	明ヶ八歳以上	計
洋種						
雑種						
其他						
計						

〔樺法〕

第四號樣式

定期（臨時）檢査種類別頭數表（牛又ハ馬）

種類	出願頭數	檢査頭數	合格頭數	不合格頭數
洋種				
雑種				
計				

種		
和種 計		
合計		

注意

合格頭數欄中馬匹ノ內國產洋種ハ其ノ父馬ノ種類ニ依リ（例アノ一（サラ二）不明六（九））細別スルコト

第五號樣式

種牡牛（馬）檢査名簿

何々支廳（出張所）管內

證明書番號	種類	名號	生年月日	體尺	胸圍及胸管圍ノ體尺ニ對スル百分率	胸圍及胸管圍ノ體尺ニ對スル百分率	毛色	特徵	產地	血統 父	血統 母	前回檢査成績	今回檢査成績	有效期間	摘要	所有者（又ハ管理者）郡町村	所有者（又ハ管理者）氏名又ハ名稱

注意

一　名簿ハ支廳又ハ出張所別ニ作製スヘシ

二　父名母名ノ下ニ種類ヲ註記スヘシ但シサラブレッド種ハ（サラ）アングロノルマン種ハ（ア、ノ、）ホルスタイン種ハ（ホ）ホルスタイン雜種ハ（ホ雜）ノ如ク略記スルコトヲ得

三　今回檢査成績ノ欄ニハ合格不合格ノ別ヲ載スヘシ

四　摘要欄ニハ前年ノ種付牝牛（馬）數及產犢（駒）歩合並牛（馬）格ノ良否等ヲ記入スヘシ

五　種牡牛ニアリテハ胸圍及胸圍ノ體尺ニ對スル百分率並管圍及管圍ノ體尺ニ對スル百分率ハ記入ノ要ナシ

〔樣法〕

●種畜貸付規則

昭和五年五月二十八日
廳令第二十號

種畜貸付規則左ノ通定ム

種畜貸付規則

第一條　本令ニ於テ種畜ト稱スルハ種牡牛馬ヲ謂フ

第二條　牛馬ノ改良蕃殖ヲ圖ル爲樺太廳中央試驗所長（以下單ニ中央試驗所長ト稱ス）ハ其ノ適當ト認メタル農業者ヲ以テ組織シタル組合又ハ農業者若ハ町村ニ對シ本令ニ依リ種畜ヲ貸付スルコトアルヘシ

第三條　種畜ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ニ依リ毎年六月末日迄ニ中央試驗所長ニ出願スヘシ但シ農業者ニ在リテハ二名以上ノ保證人ヲ定メ之ニ連署スルコトヲ要ス

第四條　前條ノ願書ニハ左記事項ヲ具シタル書類ヲ添附スヘシ但シ農業者ニ在リテハ町村長ノ證明アル財產調書、組合ニ在リテハ組合定款又ハ組合規約組合員名簿及收支豫算書並借受ニ關スル組合總會ノ決議錄、町村ニ在リテハ歲入出豫算書並借受ニ關スル町村會ノ決議錄ノ添附ヲ要ス

一　種付ヲ行ハムトスル牝畜ノ種類並部落別見込頭數

二　種畜ノ飼養管理ノ方法及一年間ノ所要經費豫算

三　種付ノ方法及種付料ヲ徵收セムトスルモノハ其ノ金額及徵收方法ニ關スル規程

四　畜舍及種付所ノ位置構造坪數並其ノ見取圖

五　飼養者ノ住所氏名及其ノ履歷ノ大要

第五條　種畜貸付ノ許可ヲ受ケタル後前條第二號乃至第四號ノ事項又ハ飼養者ヲ變更セムトスルトキハ中央試驗所長ノ認可ヲ受クヘシ

種畜貸付ノ許可ヲ受ケタル後組合定款又ハ組合規約ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨中央試驗所長ニ屆出ツヘシ

第六條　種畜貸付ノ許可ヲ受ケタルトキハ直ニ第二號書式ノ請書ヲ差出シ受領書ト引替ニ種畜ノ貸付ヲ受クヘシ

種畜ノ貸付又ハ返納ノ場所及期日ハ中央試驗所長之ヲ指定ス

第七條　保證人ハ現ニ樺太ニ住居シ左ノ各號ニ該當セサル者ニ限ル

一　無能力者

二　破產ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

前項保證人ノ資格ニ關シテハ町村長ノ證明ヲ要ス

第八條　保證人ハ借受者ニ於テ貸付種畜返納ノ手續ヲ怠リ又ハ賠償ノ責ヲ果サザルトキハ借受者ニ代リ之ヲ所辨スヘキモノトス

〔樣法〕

第九條　種畜貸付期間ハ三年以内トス但シ繼續貸付ヲ受ケムトスル者ハ期間滿了ノ日ヨリ三月前ニ中央試驗所長ニ出願スヘシ

第十條　貸付種畜ノ價格ハ貸付ノ際中央試驗所長之ヲ定ム但シ檢査ノ上之ヲ變更スルコトアルヘシ

第十一條　種畜ノ借受者ハ第三號書式ノ種付畜帳ヲ備付ケ種付ニ關スル必要ナル事項ヲ記入スヘシ

第十二條　種畜ノ借受者ハ毎年一月十日迄ニ前年中ニ於ケル前條種付畜帳ノ謄本ヲ中央試驗所長ニ提出スヘシ

第十三條　貸付種畜疾病ニ罹リタルトキハ借受者ハ直ニ獸醫ノ診療ヲ受ケ其ノ診斷書ヲ添ヘ遲滯ナク中央試驗所長ニ屆出ツヘシ但シ一時ノ輕症ニ付テハ屆出ヲ要セス

第十四條　中央試驗所長若ハ所轄樺太廳支廳長ハ貸付種畜ノ飼養管理種付其ノ他ニ關シ必要ト認ムル事項ヲ指示シ又ハ官吏ヲシテ之カ檢査ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十五條　相續ニ因リ種畜貸付ニ關スル權利義務ヲ承繼シタルトキハ相續開始後一月以内ニ戸籍謄本ヲ添附シ保證人連署ノ上中央試驗所長ニ屆出ツヘシ

第十六條　貸付種畜ニ付變疾斃死又ハ亡失其ノ他重大ナル事故アリタルトキハ直ニ其ノ事由ヲ具シ中央試驗所長ニ屆出ツヘシ但シ變疾又ハ斃死ノ場合ハ獸醫ノ診斷書檢按書又ハ檢査書又、亡失ノ場合ハ所轄警察官吏ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十七條　種畜ノ借受者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五日以内ニ借受者家族若ハ保證人ヨリ中央試驗所長ニ屆出ツヘシ但シ第三號ニ該當シ相續ヲ爲スニ非ザルトキ又ハ組合解散シタルトキハ返納申請書ヲ差出シ牽付場所ノ指揮ヲ請フヘシ

一　本籍住所氏名ニ異動アリタルトキ

二　組合ノ名稱又ハ其ノ代理者ニ變更アリタルトキ

三　隱居、死亡、失踪又ハ居所不明トナリタルトキ

四　町村ノ分合アリタルトキ

第十八條　保證人前條第三號ニ該當シ又ハ第七條ノ資格ヲ失ヒタルトキハ借受者ニ於テ新ニ保證人ヲ定メ連署ノ上又前條第一號ニ該當スルトキハ其ノ旨借受人ヨリ十日以内ニ中央試驗所長ニ屆出ツヘシ

第十九條　借受者故意又ハ怠慢ニ因リ貸付種畜ヲ變疾斃死セシメ又ハ亡失シ若ハ著シク種畜ノ資質ヲ低下セシメタルトキハ第十條ノ價格以内ニ於テ中央試驗所長ノ指定スル金額ヲ賠償スヘシ

第二十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキ中央試驗所長ハ種畜ノ貸付ヲ取消シ之カ返納ヲ命スルコトアルヘシ但シ此ノ場合ニ於テ借受者ハ因リテ生スル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

一　改良蕃殖ニ效ナシト認メタルトキ

二　借受者本令又ハ貸付ノ條件ニ基ク義務ノ履行ヲ怠リ若ハ指示ニ違反シ又ハ檢査ヲ拒ミタルトキ

三　官ニ於テ必要ト認メタルトキ

第二十一條　貸付種畜ノ牽付飼養管理種付又ハ治療其ノ他ニ要スル一切ノ費用ハ總テ借受者ノ負擔トス

第二十二條　貸付種畜ニ配シタル牝畜ノ所有者又ハ管理者ニシテ其ノ仔畜ニ對スル血統書ノ下付ヲ受ケムトスルトキハ第四號書式ニ依リ生産

後一年以内ニ中央試驗所長ニ出願スヘシ

前項ノ願書ニハ種類毛色及特徵ニ對スル獸醫ノ檢査書及畜籍簿ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十三條　獸醫ノ資格アル町村技術員ノ作製シタル診斷書檢按書又ハ檢査書ハ本令ニ依ル獸醫ノ診斷書檢按書又ハ檢査書ニ代フルコトヲ得

第二十四條　本令ニ依リ中央試驗所長ニ差出スヘキ書類ハ所轄樺太廳支廳長ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正七年四月樺太廳令第六號ハ之ヲ廢止ス

本令施行前貸付シタル種畜ハ本令ニ依リ貸付ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第一號書式

種畜貸付願

一種牡牛(馬)何種　何頭

右種畜貸付規則ニ依リ御貸付相成度此段相願候也

年　月　日

本籍
住所　借受者　氏　㊞
本籍
住所　保證人　氏　㊞

樺太廳中央試驗所長氏名殿

第二號書式

御請書

許可年月日	畜種	生年月日	毛色	體尺	特徵	價格
並番號	種類	性	號			

右貸付相受度候ニ付テハ種畜貸付規則及貸付ノ條件ヲ堅ク相守可申候也

年　月　日

本籍
住所　借受者　氏　㊞
本籍
住所　保證人　氏　㊞
本籍
住所　保證人　氏　㊞

樺太廳中央試驗所長氏名殿

第三號書式
（種付臺帳）

畜種	牝畜	種付	分娩	所有者又ハ管理者
類種	種付	第一回	性	住所
號名	毛色	第二回	年月日	氏名
色毛	年齢	第三回		
齢年	體尺			
尺體	特徴			
徴特	産地			
地産	日月			
	名牡種			
	日月			
	名牡種			
	日月			
	名牡種			

第四號書式
血統書下付願

名號	種類	性	毛色	特徴	生年月日	産地

生産者
血統 父 母

右種畜貸付規則ニ依リ血統書御下付相成度檢査書及畜籍簿謄本添付此段相願候也

年　月　日

住所
所有者（管理者）氏　名㊞

樺太廳中央試驗所長氏名殿

●家畜貸付規則

昭和四年十月三十日
廳令第三十六號

家畜貸付規則左ノ通定ム

家畜貸付規則

第一條　本則ニ於テ家畜ト稱スルハ牛馬ヲ謂フ

第二條　樺太ニ移住シ自ラ農業ヲ營ム者ニハ本則ニ依リ家畜ヲ貸付スルコトアルヘシ

第三條　家畜ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ保證人ヲ定メ第一號書式ニ依リ所轄樺太廳支廳長ニ出願スヘシ但シ集團殖民地ノ移民ニ在リテハ關係移住者指導所ヲ經由シ樺太廳長官ニ出願スヘシ

第四條　家畜貸付ノ許可ヲ受ケタル者ハ第二號書式ニ依リ請書ヲ差出シ家畜ヲ受領スヘシ

家畜ノ受授ハ所轄樺太廳支廳長、第三條但書ノモノニ在リテハ樺太廳長官ノ指定スル期日及場所ニ於テ之ヲ爲ス家畜ヲ返還シ若ハ償還スルトキ亦同シ

第五條　保證人ハ左ノ各號ニ該當セサル者ニシテ樺太廳支廳長又ハ樺太廳長官ニ於テ適當ト認メタルモノニ限ル

一　無能力者

二　破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

第六條　貸付スヘキ家畜ノ年齢ハ牛ニ在リテハ滿一歳以上馬ニ在リテハ滿二歳以上トス但シ特別ノ事情アルトキハ該年齢ニ達セサルモノト雖之ヲ貸付スルコトアルヘシ

第七條　家畜ノ貸付期間ハ牛ニ在リテハ五年以内馬ニ在リテハ六年以内トス但シ前條但書ニ依リ貸付ヲ爲シタルモノニ付テハ制規ノ年齢ニ達スル期間ヲ通算シ別ニ期間ヲ定ムルコトアルヘシ

第八條　已ムヲ得サル事由ニ因リ指定ノ期間内ニ家畜ノ償還ヲ爲シ能ハサルトキハ特ニ貸付期間ノ延期ヲ許可スルコトアルヘシ此ノ場合借受人ハ其ノ事由ヲ具シ貸付期間滿了前第三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條　貸付シタル家畜ハ借受人自ラ飼養管理スヘシ但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ所轄樺太廳支廳長、第三條但書ノ場合ニ在リテハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ其ノ飼養管理ヲ一時他人ニ委託スルコトヲ得

第十條　貸付シタル家畜疾病ニ罹リタルトキハ直ニ獸醫ノ診斷治療ヲ受ケ其ノ病狀ヲ所轄樺太廳支廳長、第三條但書ノモノニ在リテハ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ但シ一時ノ輕症ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　所轄樺太廳支廳長又ハ樺太廳長官ハ貸付シタル家畜ノ飼養管理ニ關シ必要ト認ムル事項ヲ指示シ又ハ之カ檢査ヲ爲スコトアルヘシ

第十二條　相續ニ依リ家畜ノ貸付ニ關スル權利義務ヲ繼承シタルトキハ相續開始後一月以内ニ戸籍謄本ヲ添付シ所轄樺太廳支廳長、第三條但書ノモノニ在リテハ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

第十三條　家畜ノ貸付ヲ受ケタルモノ貸付期間内ニ於テ貸付セル牝畜ヨリ生産シタルモノハ其ノ仔牝畜、生産シタル仔牝畜ナキトキハ代牝畜若ハ事情已ムヲ得サルモノニ在リテハ貸付家畜相當ノ價格ヲ償還スヘシ但シ償還畜ハ牛ニ在リテハ滿一歳以上五歳以下馬ニ在リテハ滿二歳以上七歳以下ノモノニシテ檢査ニ合格スルコトヲ要ス償還畜ノ價格カ貸付家畜ノ價格ニ滿タサルトキハ其ノ差額ヲ納金セシム

前項ノ償還ヲ完了シタルトキハ貸付セル家畜ハ借受人ノ所有ニ歸屬スト認メタルトキハ貸付家畜ヲ返還セシムルコトアルヘシ

第十四條　貸付家畜繁殖ニ適セス又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ事情已ムヲ得サルトキハ貸付家畜ヲ返還セシムルコトアルヘシ

第十五條　貸付シタル家畜ヨリ出産シタル仔畜ハ借受人ノ所得トス

第十六條　貸付シタル家畜癈疾斃死又ハ亡失シタルトキハ借受人ハ五日以内ニ其ノ事由ヲ具シ所轄樺太廳支廳長、第三條但書ノモノニ在リテハ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ但シ癈疾斃死ノ場合ハ獸醫ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添付シ亡失ノ場合ハ所轄警察官吏ノ證明ヲ要ス

第十七條　獸醫ノ資格アル町村技術員ノ作製シタル診斷書又ハ檢案書ハ前條但書ニ依ル獸醫ノ診斷書又ハ檢案書ニ代フルコトヲ得

第十八條　家畜ノ貸付ヲ受ケタル者又ハ貸付出願中ノ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五日以内ニ本人、家族又ハ保證人ヨリ所轄樺太廳支廳長、第三條但書ノモノニ在リテハ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

一　本籍住所氏名ニ異動アリタルトキ

二　轉居、死亡、失踪又ハ居所不明トナリタルトキ

第十九條　保證人前條第一項第一號ニ該當スルトキハ本人ヨリ第二號ニ該當スルトキ又ハ第五條ノ資格ヲ失ヒタルトキハ借受人ヨリ新ニ保證人ヲ定メ連署ノ上十日以内ニ所轄樺太廳支廳長、第三條但書ノモノニ在リテハ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

第二十條　貸付シタル家畜ヲ故意怠慢ニ因リ癈疾斃死セシメ又ハ亡失シタルトキハ借受人ハ所轄樺太廳支廳長又ハ樺太廳長官ノ指定スル價格ヲ辨償スベシ但シ特別ノ事情アル時ハ貸付家畜相當ノ代畜ヲ以テ賠償セシムルコトアルヘシ

〔樺法〕

第二十一條　借受人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ所轄樺太廳支廳長又ハ樺太廳長官ニ於テ貸付ヲ取消シ、家畜ヲ返還セシメ、賠償金ヲ徴收スルコトアルヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ借受人ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

前項ノ賠償金ハ貸付家畜價格ノ範圍内ニ於テ所轄樺太廳支廳長又ハ樺太廳長官之ヲ定ム

一　借受人第二條ノ資格ヲ失ヒタルトキ

二　借受人本則又ハ貸付ノ條件ニ基ク義務ノ履行ヲ怠リ若ハ指示ニ違反シ又ハ檢査ヲ拒ミタルトキ

三　飼養管理不良ナルトキ

第二十二條　貸付家畜ヨリ仔畜ヲ生産シ又ハ生産シタル仔畜ノ斃死亡失シタルトキハ三十日以内ニ第三號書式ニ依リ所轄樺太廳支廳長又ハ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

第二十三條　貸付ヲ受ケタル家畜ノ牽付又ハ治療ニ要スル費用ハ總テ借受人ノ負擔トス但シ必要ト認メタルトキハ牽付ニ要スル費用ノ一部又ハ全部ヲ給スルコトアルヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正六年八月樺太廳告示第七十九號ハ之ヲ廢止ス

本令公布ノ際從前ノ規則ニ依リ家畜貸付ノ許可ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ貸付ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第一號書式

家畜貸付願

一　牛（馬）　壹頭

右家畜貸付規則ニ依リ御貸付相成度此段相願候也

年　月　日

本籍
住所　借受人　氏　名㊞

保證人　氏　名㊞

樺太廳支廳長
（樺太廳長官）宛

第二號書式

御請書

許可年月日並番號	家畜番號	畜種	種類	名號	性	生年月日	毛色（體高）	體尺	特徴	價格

右貸付相受候ニ付テハ家畜貸付規則及貸付ノ條件ヲ堅ク相守可申候也

年　月　日

本籍
住所　借受人　氏　名㊞

本籍
住所

樺太廳支廳長
（樺太廳長官）宛

第三號書式

生産
仔畜斃死屆
亡失

保證人　氏　名㊞

樺太廳支廳長
（樺太廳長官）宛

貸付家畜		生産仔畜				
畜種	家畜番號	名號	名號	種類	性	毛色	特徴

右ノ通昭和　年　月　日仔畜生産斃死亡失仕候ニ付此段及御屆候也

年　月　日

本籍
住所　借受人　氏　名㊞

樺太廳支廳長
（樺太廳長官）宛

●種畜種付規則

昭和五年五月十四日
廳令第十九號

種畜種付規則左ノ通定ム

第十四類　拓殖　第四章　畜産

種畜種付規則

第一條　牝畜ノ飼養者又ハ管理者ハ樺太廳中央試驗所ニ其ノ飼養スル種牡畜ノ種付ヲ出願スルコトヲ得

第二條　種付ヲ行フヘキ種牡畜ノ種類ハ牛ニ在リテハ「エアーシヤー」種「ホルスタイン」種馬ニ在リテハ「アングロノルマン」種「ハクニー」種及其ノ系統ニ屬スルモノ、豚ニ在リテハ「バークシヤー」種「ヨークシヤー」種トス

第三條　牝畜ノ種付ヲ出願セムトスル者ハ指定ノ期限迄ニ第一號書式ノ願書ヲ樺太廳中央試驗所長ニ差出スヘシ

種牡畜ニ餘勢アルトキハ樺太廳中央試驗所長ハ指定ノ期限後ト雖出願ヲ受理スルコトヲ得

第四條　種付出願期限、牝畜檢査期間、檢査場所、種付期間及種付場所ハ毎年樺太廳中央試驗所長之ヲ公告ス

第五條　種付ヲ受クヘキ牝畜ハ左ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス

一　牝牛ニ在リテハ年齢滿十八箇月以上、牝馬ニ在リテハ年齢明ケ四歳以上、牝豚ニ在リテハ年齢滿十箇月以上ノモノ

二　牝馬ニ在リテハ體尺百四十二糎以上ノモノ但シ體格均稱宜シキモノハ此ノ限ニ在ラズ

三　體格優等、體質健全ナルモノニシテ遺傳病其ノ他惡性ノ疾病又ハ惡癖ナキモノ

第六條　第三條ノ出願アリタルトキハ樺太廳中央試驗所長ハ前條各號ノ事項ヲ檢査ノ上第二號書式ノ種付合格證ヲ交付スヘシ

前項ノ種付合格證ハ種付ヲ受クル際之ヲ當該官吏ニ提示スヘシ

第七條　種付合格證ノ有效期間ハ牝牛ニ在リテハ百日間牝馬ニ在リテハ種付期間內牝豚ニ在リテハ五十日間トス

種付合格證ノ有效期間內ニ於ケル種付回數ハ四回迄トス

第八條　種付料ハ當分ノ內無料トス

第九條　樺太廳中央試驗所長ハ左ノ場合ニ限リ種付合格證ノ效力ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

一　指定ノ種牡畜疾病其ノ他ノ事故ニ因リ種付スルコト能ハサルトキ

二　指定ノ種牡畜ニ付異議ヲ述ヘタルトキ

三　種付ニ際シ當該官吏ノ指揮ニ從ハサルトキ

四　牝畜ノ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ種付ニ不適當ナリト認メタルトキ

第十條　種付ヲ受ケタル牝畜ノ所有者又ハ管理者ハ遲滯ナク左ノ事項ヲ樺太廳中央試驗所長ニ屆出ツヘシ

一　牝畜ノ分娩前之ヲ讓渡シタルトキハ其ノ年月日讓受人ノ住所氏名、斃死シタルトキハ其ノ年月日及事由

二　牝畜分娩シタルトキハ生產ニ在リテハ其ノ年月日、仔牛馬ノ性、名號、毛色並特徵仔豚ノ性及頭數、死產又ハ流產ニ在リテハ其ノ年月日及事由

三　仔畜ヲ讓渡シタルトキハ其ノ年月日、價格、讓受人ノ住所氏名、斃死シタルトキハ其ノ年月日及事由

第十一條　樺太廳中央試驗所長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ次年以降ノ種付出願ヲ許可セサルコトヲ得

一　種付ヲ受ケタル牝畜又ハ其ノ仔畜ノ飼養管理ヲ怠リタル者

二　第九條第二號又ハ第三號ニ依リ種付合格證ノ效力ヲ取消サレタル者

三　前條ノ屆出ヲ怠リタル者

第十二條　牝畜ニ種付ヲ受ケタル者又ハ其ノ承繼人ニシテ其ノ仔畜ニ對スル血統證ノ下付ヲ受ケムトスルトキハ仔畜生產後一年以內ニ樺太廳中央試驗所長ニ出願スヘシ此ノ場合ニ於テハ樺太廳中央試驗所長ハ其ノ仔畜ニ付檢查ノ上之ヲ交付スヘシ

第十三條　本令ニ依リ種付ヲ受ケタル者ハ種付ニ因リ生シタル一切ノ損害ニ對シ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年四月樺太廳告示第四十九號家畜種付規則ハ之ヲ廢止ス

第一號書式

種牡牛(馬、豚)種付願

種類	名號	生年月日	體尺	毛色	特徵	產地	血統	父種	母種
								號	號

右種畜種付規則ニ依リ種付御許可相成度此段相願候也

年　月　日

住　所

所有者(管理者)　氏　　名印

樺太廳中央試驗所長氏名殿

第二號書式

〔樺法〕

試畜第　　號

種付合格證

郡　町　村　大字　字　番地

所　有　者

(管　理　者)

種付牝畜	種類	名號	毛色	生年月日	種類	產地	特徵	血統	父	母
	種	號	色		體尺					

種付回次	種付月日	指定種牡畜 種類	名號	毛色	技者印	摘要
第一回						
第二回						
第三回						
第四回						

昭和　年　月　日

樺太廳中央試驗所

●家畜去勢規則

〔樺法〕

明治四十二年六月二十九日
廳令第十五號

家畜去勢規則

第一條　家畜ノ去勢ヲ受ケントスル者ハ其ノ所有者ヨリ所轄支廳長ニ願出ヘシ

前項ノ出願者ハ支廳長ノ指揮ニ從ヒ家畜ノ檢查ヲ受クヘシ

第二條　去勢スヘキ家畜ハ牛馬及豚ノ三種トス

第三條　去勢ニ要スル費用ハ之ヲ徵收セス

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル家畜ニハ去勢ヲ執行セス

一　種畜ノ資質アリト認メタルモノ

二　疾病又ハ體質上去勢ヲ行フニ堪ヘスト認メタルモノ

第五條　去勢ハ樺太廳吏員又ハ公獸醫ヲシテ之ヲ行ハシム

第六條　去勢ノ許可ヲ受ケタル者ハ家畜ノ寄付施術其ノ他施術後ノ取扱ニ就テハ樺太廳吏員又ハ公獸醫ノ指示ニ從フヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●牛馬籍規則

昭和三年二月一日
廳令第四號

牛馬籍規則左ノ通定ム

牛馬籍規則

第一條　町村長ハ本則ニ依リ牛馬籍ニ關スル事務ヲ取扱フヘシ

第二條　本則ハ官廳所有ノ牛馬ニ之ヲ適用セス

第三條　町村長ハ第一號樣式ニ依リ其ノ區域內ニ於テ飼養スル牛又ハ馬一頭每ニ牛籍又ハ馬籍ヲ作リ之ヲ各別ニ編綴シテ帳簿ト爲スヘシ

第四條　牛馬ノ所有者、牛馬飼養ノ町村ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ屆出及實査ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲其ノ町村ニ住所又ハ居所ヲ有スル者ヲ管理者ト定メ十四日以內ニ牛馬飼養地ノ町村長ニ屆出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ六月未滿ノ飼養地變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　町村長ハ牛馬ノ所有者又ハ管理者ニ第二號樣式ノ牛籍票又ハ馬籍票ヲ下付スヘシ

牛馬籍票ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ直ニ町村長ニ屆出再下付ヲ受クヘシ

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ牛馬ノ所有者又ハ管理者ハ十四日以內ニ飼養地ノ町村長ニ屆出ツヘシ

一　牛馬所在不明トナリタルトキ又ハ所在不明後一年以內ニ回收シタルトキ（異動屆）

二　牛馬ノ所有權ヲ取得シタルトキ又ハ飼養地ヲ他ノ町村ヨリ移シ引續キ六月以上飼養セムトスルトキ若ハ所在不明後一年ヲ經テ其ノ牛馬ヲ回收シタルトキ（加籍屆）

三　牛馬ノ所有權ヲ喪失シタルトキ又ハ飼養地ヲ他ノ町村ニ移シ引續キ六月以上飼養セムトスルトキ（除籍屆）

四　前各號ノ外牛馬籍記載事項ニ異動ヲ生シタルトキ（異動屆）

前項ニ依ル屆出ハ第二號ニ在リテハ第三號樣式ニ依リ第三號ニ在リテハ第四號樣式ニ依リ第一號及第四號ニ在リテハ第五號樣式ニ依ルヘシ

第七條　屠殺ノ目的ヲ以テ移輸入シタル牛馬ニシテ移輸入後一月以內ニ屠殺スルモノハ前條ノ屆出ヲ要セス

第八條　第六條ノ屆出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ屆出ヲ爲ストキ牛馬籍票ヲ有スル者ハ之ヲ差出シ必要事項ノ記入認印ヲ受クヘシ

第九條　町村長ハ每年八月乃至十月ニ於テ其ノ部內總牛馬ノ實査ヲ行フヘシ但シ牛ハ畜牛結核病檢査ノトキ之ヲ行フコトヲ得

第十條　實査ノ期日及場所ハ所轄支廳長之ヲ定メ告示シ其ノ實査地點及牽付時限其ノ他必要事項ハ町村長之ヲ定メ所有者又ハ管理者ニ告知スヘシ

第十一條　前條ノ告知アリタルトキハ牛馬ノ所有者又ハ管理者ハ期日五日前ヨリ實査終了ニ至ル迄牛馬ヲ移動スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由ニ依リ町村長ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　町村長必要アリト認メタルトキハ所轄支廳長ノ認可ヲ受ケ臨時又ハ追實査ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條ヲ適用セス

第十三條　實査ノ告知アリタルトキハ所有者又ハ管理者ハ牛馬籍票ヲ携帶シ牛馬ヲ指定時限迄ニ實査地ニ牽付實査ヲ受クヘシ

疾病其ノ他ノ事故ノタメ前項ノ牽付ヲ爲ス能ハサルトキハ實査開始前其ノ旨町村長ニ屆出ツヘシ

第十四條　町村長ハ實査期間中獸醫ヲ參加セシムヘシ但シ町村長ニ於テ特別ノ事由ニ依リ所轄支廳長ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニアラス

第十五條　町村長實査ヲ終了シタルトキハ十日以內ニ第六號及第七號樣式ニ依リ所轄支廳長ニ報告スヘシ

支廳長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ管內總計表ヲ作製シ直チニ樺太廳長官ニ報告スヘシ

第十六條　第四條第五條第二項、第六條、第十三條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ昭和三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年四月廳令第十三號牛馬ニ關スル屆出規則ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式（用紙美濃）

牛（馬）籍　何々町村役場	調製役場	受領年月日	保管役場
名號			
種類	特徵		
性	產地		
毛色	血統	父	
		母	
生年月日			

體尺		用役	
		價格	
年月日	事項	所有者（管理人）住所氏名	年月日	事項	所有者（管理人）住所氏名
昭和年月日			昭和年月日		
昭和年月日			昭和年月日		
昭和年月日			昭和年月日		
昭和年月日			昭和年月日		
昭和年月日			昭和年月日		
事故					

（注意）

一、牛馬ニハ必ス名號ヲ附スルコト

一、種類ハ可成其ノ種別例之エアシャー、ホルスタイン、短角、アングロールマン、ハクニー、洋種、何々雜種等ト記スルコト

一、血統ノ欄ニハ種類名號ヲ記入スルコト

一、特徵ハ最モ著シキモノヨリ順次二、三ヲ記スルコト

一、用役ハ乳用、肉用、農耕用、運搬用等ヲ記入スルコト

一、價格ハ買受ニ係ルモノハ其ノ實價生產、相續又ハ無償讓受等ニ

係ルモノハ其ノ事實發生ノトキニ於ケル見積價格トス

一、事項欄ニハ取得、喪失ノ事項其ノ他異動ノ要領及管理人ノ設置變更ヲ掲クルコト

一、事故欄ニハ記載スヘキ事項ニシテ相當欄ナキモノハ總テ之ニ記入スルコト

第二號樣式（用紙美濃判半切紙質强靭ノモノ）

外

面

保管役場

何々郡何々町村役場

牛（馬）籍票

調製役場

棒太何々郡何々町村役場

面

年月日	事故	年月日	事故

第二號樣式（注意）

一　所有者ノ住所氏名ハ其ノ變更アル毎ニ抹消シ順次空欄ニ新所有者ノ住所氏名ヲ記入スルコト

事故記載例

一、年月日實査ニ於テ體尺何尺何寸何分ト更メラル

〔樺法〕

內

名號	種類	性	毛色	生年月日	體尺	特徵	產地	血統 父母

所有者（管理者）住所氏名

一、年月日種牡牛（馬）檢査ニ合格シ證明書ヲ受ク（不合格トナル若クハ期間ノ經過ニ依リ證明書無效トナル）

一、年月日何共進會又何會ニ出陳シ何ノ賞ヲ受ク

一、年月日倜養地ヲ何地ヘ變更ス

一、年月日種牡牛（馬）何種何號配合ノ結果何々ノ犢ヲ產出ス

一、年月日何地何々ヨリ逸走ス

第三號樣式　牛（馬）加籍屆

名號

種類

性

毛色

生年月日

體尺

特徵

產地　父

血統　母

倜養地

用役

價格

右何月何日生產ヘ何地何某ヨリ買受讓受等加籍ノ原因ヲ記入スルコト）致候ニ付此段及御屆候也

昭和　年　月　日

郡町村大字　字　番地

何　某㊞

町村長殿

（注意）

第十四類　拓殖　第四章　畜產

一、價格ハ買受ニ係ルモノハ其ノ賣價生產、相續又ハ無償讓受等ニ係ルモノハ其ノ事實發生ノトキニ於ケル見積價格トス

一、賣買讓渡等ノ當事者双方カ同一所轄區域內ニ在ル場合ハ双方連署ヲ以テ屆出ツルモ妨ナシ此ノ場合ニ於テ第四號樣式ノ除籍屆ヲ爲スヲ要セス

一、同一事由ノモノ數頭アルトキハ之ヲ列記スルコト

一、補助移入牝牛（馬）ナルトキハ價格ノ次ニ「其他」ノ一欄ヲ設ケ補助移入牝牛馬ナルコトヲ明示スヘシ

〔樺法〕

第四號樣式　牛（馬）除籍屆

名號

種類

性

毛色

生年月日

價格

右何月何日何々ニ依リ斃死（撲殺、屠殺等除籍ノ原因ヲ記入スルコト）致候ニ付此段及御屆候也

昭和　年　月　日

郡町村大字　字　番地

何　某㊞

町村長殿

（注意）

一、價格、賣渡ニ係ルモノハ其ノ賣價、斃死、無償讓渡等ニ係ルモノハ其ノ事實發生ノトキニ於ケル見積價格トス

一、同一事由ノモノ數頭アルトキ及補助移入牝牛（馬）ニ付テハ第三號樣式ニ於ケル注意事項ニ同シ

第五號樣式

牛（馬）籍異動屆

郡町村大字　字　番地

名號

種類

性

毛色

生年月日

價格

何　某㊞

右何月何日逸走（盜難ニ罹リ又ハ逸失盜難ノモノ何月何日何所ヨリ回收）致候ニ付此段及御屆候也

昭和　年　月　日

町村長殿

（注意）

一、價格ハ其ノ定マリタルモノヽ外事實發生ノトキニ於ケル見積價格トス

一、逸走盜難ノモノノ回收ハ其ノ事實發生ノ後一箇年以內ノモノニ限ル

一、同一事由ノモノ數頭アルトキ及補助移入牝牛（馬）ニ付テハ第三號樣式ニ於ケル注意事項ニ同シ

第六號樣式　昭和　年牛實査表

町村名

種類	種別	當歲	二歲	三歲	四歲	五歲	六歲	七歲	八歲	九歲	十歲	十一歲以上	合計
		牝 牡	牝 牡	牝 牡	牝 牡	牝 牡	牝 牡	牝 牡	牝 牡	牝 牡	牝 牡	牝 牡	計
エアシヤー系	洋種												
	雜種												
ホルスタイン系	洋種												
	雜種												
	洋種												
	雜種												
計													

（注意）實査未濟ノモノハ本表中未濟牛ノ一欄ヲ設ケ年令性別ニ朱書スヘシ

〔樣法〕

種類	種別	六歲	七歲	八歲	九歲	十歲	十一歲	十二歲	十三歲	十四歲	十五歲	十六歲以上	合計
		牝 牡	牝 牡	牝 牡	牝 牡	牝 牡	牝 牡	牝 牡	牝 牡	牝 牡	牝 牡	牝 牡	計

町村名

〔樣法〕

第七號樣式

種		
輕種	サラブレット	
	アングロアラブ	
	計	
中間種	アングロノルマン	
	ハクニー	
	トロッター	
	ノーニウス	
	計	
重種	ペルシュロン	
	計	
合計		
在來		
累		

（注意）實査未濟ノモ

第十四類　拓殖

第七號樣式

昭和　年馬實査表

〔樺法〕

町村名

種別	當歲	二歲	三歲	四歲	五歲	六歲	七歲	八歲	九歲	十歲	十一歲	十二歲	十三歲	十四歲	十五歲	十六歲以上	合計
	牝 牡 騙	牝 牡 騙	牝 牡 騙	牝 牡 騙	牝 牡 騙	牝 牡 騙	牝 牡 騙	牝 牡 騙	牝 牡 騙	牝 牡 騙	牝 牡 騙	牝 牡 騙	牝 牡 騙	牝 牡 騙	牝 牡 騙	牝 牡 騙	牝 牡 騙 計
輕種 サラブレット系 雜種																	
輕種 サラブレット系 洋種																	
輕種 アングロアラブ系 雜種																	
輕種 アングロアラブ系 洋種																	
輕種 計 雜種																	
輕種 計 洋種																	
中間種 アングロノルマン系 雜種																	
中間種 アングロノルマン系 洋種																	
中間種 ハクニー系 雜種																	
中間種 ハクニー系 洋種																	
中間種 トロッター系 雜種																	
中間種 トロッター系 洋種																	
中間種 ノーニウス系 雜種																	
中間種 ノーニウス系 洋種																	
中間種 計 雜種																	
中間種 計 洋種																	
重種 ペルシュロン系 雜種																	
重種 ペルシュロン系 洋種																	
重種 計 雜種																	
重種 計 洋種																	
合計 雜種																	
合計 洋種																	
在來種 雜種																	
累計 雜種																	

（注意）實査未濟ノモノハ種別欄ニハ未濟馬ノ一欄ヲ設ケ年齡性別ニ朱書スヘシ

●牛馬籍規則取扱手續

昭和三年二月一日
訓令第十三號

町村役場

牛馬籍規則取扱手續左ノ通定ム

牛馬籍規則取扱手續

第一條 牛馬籍規則第三條ニ依ル牛馬籍ハ大字別ニ區分シ更ニ牝牡騸閹ニ内譯ヲ付シ之ヲ編綴スヘシ

第二條 町村長牛馬籍ニ付屆出アリタルトキハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一 同一町村内ノ牛馬賣買其ノ他ニ依ル所有權取得ノ場合ハ牛馬籍並牛馬籍票ニ夫々必要事項ヲ記入シ牛馬籍票ハ之ヲ所有者又ハ管理者ニ交付スヘシ

二 賣買其ノ他ニ依リ牛馬ノ飼養地ヲ他ノ町村ニ移シタルトキハ送籍ヲ爲スヘシ右ノ場合ニ於テハ牛馬籍事故欄ニ送籍スル旨及年月日ヲ記載シ記名捺印ノ上十四日以内ニ當該町村長ニ之ヲ送付スヘシ

町村長前項ノ送籍ヲ受ケタルトキハ加籍シ牛馬籍票ニハ年月日事由ヲ記入認印ノ上所有者又ハ管理者ニ之ヲ交付スヘシ

三 斃死屠殺等ニ依リ所有權喪失ノ場合ハ牛馬籍ニ其ノ旨朱書シ朱線ヲ以テ抹消ノ上之ヲ除籍スヘシ

四 牛馬所在不明ノ屆出アリタルトキハ牛馬籍事故欄ニ其ノ旨記入認印スヘシ回收屆出アリタルトキハ亦同シ

五 牛馬籍票ハ除籍ノ場合ハ之ヲ返納セシメ所在不明ノ屆出ニ付テハ之ヲ保留シ其ノ他ニ在リテハ屆出事項ヲ記入認印スヘシ

六 所在不明ノ牛馬回收ノ屆出アリタルトキハ保留シタル牛馬籍票ヲ返付スヘシ

七 樺太廳補助ノ牛馬ナルトキハ牛馬籍及牛馬籍票欄外ニ「補助牛(馬)」ノ三字ヲ朱印スヘシ

第三條 牛馬籍規則第八條第一項ニ依ル口頭屆出ノ場合ハ屆出人ノ陳述ニ依リ各記載事項ヲ筆記シ屆出人ニ讀ミ聞カセ且署名捺印セシムルコトヲ要ス

第四條 實査ハ牛馬籍ト牛馬ヲ對照シ更ニ牛馬籍票ト對照スヘシ

第五條 町村長牛馬實査ノ際屆出未濟ノモノ或ハ牛馬籍又ハ牛馬籍票記載事項ニ相違若ハ脫漏アルヲ發見シタルトキハ直ニ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一 牛馬籍規則第六條第一項ニ該當スルモノニ在リテハ第二條ニ準シ手續ヲ爲スヘシ

二 記載事項中一部ノ變更ニ係ルモノハ更正ヲ加ヘ事由ヲ事故欄ニ記入認印スヘシ

三 定期實査二回ニ亙ルモ尙不明ノ牛馬アルトキハ其ノ旨事故欄ニ朱書シ朱線ヲ以テ抹消ノ上之ヲ除籍スヘシ

第六條 第二條第三號及第五條第三號ニ依ル除籍ハ曆年ニ依リ之ヲ編綴シ除籍簿トシテ其ノ年ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ

牛馬籍屆書ノ編綴保存モ亦前項ニ準シ取扱フモノトス

附 則

本令ハ昭和三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●畜牛結核病豫防法

明治三十四年四月十三日
法律第三十五號

改正　明三五年二月法律三號、四一年四月四五號、大三年三月一〇號、一〇年四月八四號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル畜牛結核病豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總、內、農、大臣副署）

畜牛結核病豫防法

第一條　乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ハ結核病ノ有無又ハ輕重ヲ定ムル爲行政官廳ニ於テ之ヲ檢査ス其ノ他ノ畜牛ニシテ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アルモノニ付亦同シ

第二條　前條ノ檢査ハ臨床的診察ニ依リ又ハ臨床的診察及「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ之ヲ行フ

第三條　檢査ノ期日及場所ハ行政官廳之ヲ指定ス

第一條ニ揭ケタル畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ前項ノ指定ニ從ヒ其ノ檢査ヲ受クヘシ

第四條　結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ヲ發見シタルトキハ所有者、管理者又ハ獸醫ニ於テ直ニ之ヲ屆出ツヘシ

第五條　結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ハ檢査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ隔離スヘシ

第六條　重症結核病ニ罹リタル畜牛ハ檢査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ撲殺スヘシ

第七條　（省略）

第八條　（省略）

第九條　結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體及其ノ部分、畜牛ヲ置キタル場所竝病毒ニ汚染シ及其ノ疑アル物品ハ檢査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ消毒スヘシ

第十條　重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁竝屍體及其ノ部分ハ皮角蹄ヲ除クノ外檢査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ燒棄又ハ埋却スヘシ但シ認可ヲ得タル裝置ヲ以テ化製スルモノハ此ノ限ニ在ラス

輕症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁竝屍體及其ノ部分ノ處分方法ハ主務大臣之ヲ定ム

第十一條　結核病ニ罹リタル畜牛ヲ置キタル場所竝病毒ニ汚染シ及其ノ疑アル物品ハ檢査員ニ於テ其ノ燒棄又ハ埋却ヲ命スルコトヲ得

第十二條　結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體若ハ其ノ部分又ハ病毒ニ汚染シ若ハ其ノ疑アル物品ヲ埋却シタル場所ハ三箇年間之ヲ發掘スルコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　第六條又ハ第十一條ニ依リ畜牛ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄シ若ハ埋却シタル場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ所有者ニ對シ畜牛又ハ物品ノ評價額ノ二分ノ一ニ相當スル手當金ヲ下付ス但シ勅令ノ定ムル最高金額ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ畜牛又ハ物品ノ評價ハ地方長官ノ選定スル三人以上ノ評價人ヲシテ之ヲ爲サシム地方長官其ノ評價ヲ不當ト認ムルトキハ更ニ他ノ三人以上ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條　左ノ場合ニ於テハ畜牛ノ手當金ヲ下付セス

〔棒法〕

一、檢査ヲ受ケス、之ヲ拒ミ又ハ妨ケタルトキ

二、第四條、第五條又ハ第六條ニ違背シタルトキ

三、檢査ヲ受ケシテ第七條ノ畜牛ヲ輸入又ハ移入シタルトキ

左ノ場合ニ於テハ物品ノ手當金ヲ下付セス

一、前項各號ノ一ニ該當スルトキ

二、第九條、第十條第一項又ハ同條第二項ニ基ツキテ發シタル命令ニ違背シタルトキ

三、第七條第二項、第三項又ハ第八條若ハ第十一條ノ命令ニ從ハサルトキ

第十五條　手當金ヲ受クヘキ者其ノ全部又ハ一部ヲ拒否スル處分ニ不服ナルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十六條　畜牛結核病豫防ニ關スル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國庫、北海道地方費、府縣及一個人ニ於テ之ヲ負擔ス

第十六條ノ二　本法ニ於テ外國種牛、雜種牛、內國種牛、乳用牛又ハ雜種種牡牛ト稱スル畜牛ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　檢査ヲ受ケス、之ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者、檢査ヲ受ケスシテ第七條ノ畜牛ヲ輸入若ハ移入シタル者、第五條若ハ第六條ニ違背シタル者又ハ第七條第三項ノ命令ニ從ハサル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　第四條、第九條、第十條第一項若ハ第十二條ニ違背シタル者又ハ第七條第二項、第八條若ハ第十一條ノ命令ニ從ハサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法及本法ニ基ツキテ發スル命令ノ處罰ニ關シテ之ヲ準用ス

附　則

本法ハ明治三十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ外國ヨリ輸入スル畜牛ニ關シテハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十年法律第八十四號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年四月勅令第百二十四號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行）

本法施行前第六條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ畜牛ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄シ若ハ埋却シタルニ因リ下付スル手當金ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●畜牛結核病豫防法施行規則

昭和二年七月二十日
廳令第二十四號

畜牛結核病豫防法施行規則左ノ通定ム

畜牛結核病豫防法施行規則

第一條　外國種牛トハ歐羅巴種及亞米利加種ノ畜牛ヲ謂フ

雜種牛トハ外國種牛ノ血統ト其ノ他ノ畜牛ノ血統トヲ有スル畜牛ヲ謂フ

乳用牛トハ搾乳用ニ供シ又ハ供セムトスル畜牛ヲ謂フ

雜種種牡牛トハ雜種牛ニシテ公獸醫ヨリ種牡牛檢斷書ヲ交付シタル畜牛ヲ謂フ

第二條　乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ棒太廳長

〔棒法〕

官カ告示シタル檢査期日三十日前迄ニ第一號樣式ニ依リ畜牛ノ所在地ヲ管轄スル町村長ニ屆出ツヘシ

前項屆出期間後新ニ檢査未濟ノ畜牛ヲ所有シ又ハ管理スルニ至リタル者ハ前項ニ準シ七日以內ニ屆出ツヘシ檢査未濟ノ畜牛ニ關シ前二項ノ屆出事項ニ變更アリタルトキハ七日以內ニ屆出ツヘシ但シ畜牛所在地ノ變更ニシテ他町村ノ管轄區域ニ亙ルトキハ新舊兩地ノ町村長ニ屆出ツヘシ

第三條　樺太廳長官ハ一個年每ニ乳用牛、外國種牛及雞種種牡牛ノ檢査ヲ行フ但シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ニ對シ二回以上之ヲ行フコトヲ得

樺太廳長官ハ隨時結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ檢査ヲ行フ

結核病ノ疑アル畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ前項ノ檢査ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ畜牛ニシテ「ツベルクリン」ヲ皮下注射シタルモノニ付テハ皮下注射後四十五日ヲ經ルニ非サレハ檢査ヲ請求スルコトヲ得ス

第四條　前條第一項ノ檢査期日及場所ハ樺太廳長官之ヲ定メ檢査ノ期日ヨリ少クモ四十五日以前ニ之ヲ告示ス

町村長前項告示以外ノ期日又ハ場所ヲ指定スル必要アリト認ムルトキハ其ノ旨樺太廳長官ニ願出ツヘシ

前項ノ願出アリタルトキハ樺太廳長官ハ前條第二項ノ檢査期日及場所ヲ隨時指定スルコトアルヘシ

第五條　檢査ノ際畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ健康證ヲ檢査員ニ提出スヘシ但シ亡失毀損其ノ他ノ事故ノ場合ハ檢査員ニ申出書換又ハ再下附ヲ受クヘシ

第六條　樺太廳長官ハ檢査ノ爲メ必要ト認ムルトキハ期間及區域ヲ定メ乳用牛、外國種牛及雞種種牡牛ノ移轉ヲ禁止又ハ制限スルコトアルヘシ但シ期間ハ三十日區域ハ一郡ヲ超エサルモノトス

前項ノ命令ハ移轉ノ禁止又ハ制限期間ノ初日ヨリ少クトモ十五日以前ニ於テ之ヲ發ス

第七條　正當ノ事由ニ依リ檢査ノ日時場所ニ於テ檢査ヲ受クルコト能ハサル者ハ豫メ其ノ旨町村長ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ニ依リ町村長ニヨリ報告アリタルトキハ樺太廳長官ハ其ノ者ニ付キ別ニ檢査ノ日時場所ヲ指定ス

第八條　「ツベルクリン」ノ應用ニ依ル檢査ノ方法ハ皮下注射、皮膚注射及點眼法トス

第九條　「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ結核病タル反應ヲ呈シ左ノ各號ノ一ニ該當スル畜牛ハ重症結核病ニ罹リタル畜牛トス其ノ反應顯著ナラサルモ結核病ノ臨床的症狀重大ナルモノ亦同シ

一　乳房結核
一　重症腸結核
一　汎發結核
一　前各號ノ外著シク營養ヲ損害セル結核諸症

「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ結核病タル反應ヲ呈シ臨床的症狀輕微ナル畜牛ハ之ヲ輕症結核病ニ罹リタル畜牛トス

「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ結核病タル反應顯著ナラスシテ臨床的症狀疑ハシキ畜牛ハ之ヲ結核病ニ罹リタル疑アル畜牛トス

第十條　檢査員檢査ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

〔樺法〕

一　健全ナル畜牛ニ付テハ臨床的診察ニ依ルモノハ第二號樣式ノ健康證ヲ、臨床的診察及「ツベルクリン」ノ應用ニ依ルモノニハ第三號樣式ノ健康證ヲ交付ス

二　重症結核病ニ罹リタル畜牛ニハ右耳ニ直徑五分ノ圓形孔ヲ穿ツ

三　輕症結核病ニ罹リタル畜牛ニハ右耳ニ第四號樣式ノ耳標ヲ付ス

四　結核病ノ疑アル畜牛ニハ左耳ニ第五號樣式ノ耳標ヲ付ス

前項第一號ノ健康證ハ次回檢査ノトキ之ヲ返付セシメ第三號及第四號ノ耳標ハ之ヲ付スヘキ事由消滅シタルトキハ之ヲ除去スヘシ

第三條第三項但書又ハ第二十條第一項ニ規定シタル期間ヲ經過セサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ直ニ其ノ健康證ヲ返付セシメ耳標ヲ除去シタルモノナルトキハ更ニ同一ノ耳標ヲ付スヘシ

第十一條　前條ノ耳標ニ毀損又ハ亡失アリタルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ運搬ナク樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ獸醫タル檢査員ニ於テ前條ニ準シ更ニ耳標ヲ付スヘシ

第十二條　畜牛ノ所有者又ハ管理者、檢査員ノ指定シタル隔離ノ方法若ハ場所ヲ變更セムトスルトキハ檢査員ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條　重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ撲殺ハ埋却若ハ燒棄スヘキ場所又ハ認可ヲ經タル裝置ヲ有スル化製場ニ於テ行フヘシ

第十四條　輕症結核病ニ罹リ又ハ結核病ノ疑アル畜牛ヲ屠殺セムトスルトキハ檢査員又ハ所轄警察官署ノ指揮ヲ受ケ屠獸場內特ニ區劃シタル場所ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ正當ノ事由アルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ得其ノ他ノ場所ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

第十五條　結核病ニ罹リタル畜牛ノ屍體若ハ其ノ部分又ハ病毒ニ汚染シ若ハ其ノ疑アル物品ヲ移動セムトスルトキハ檢査員又ハ所轄警察署ノ指揮ニ從ヒ病毒ノ散布ヲ防クニ足ルヘキ施設ヲ爲スヘシ

第十六條　畜牛ノ死後結核ノ病的變狀又ハ之ニ疑ハシキ症狀ヲ發見シタルトキハ所有者管理者若ハ獸醫ニ於テ直ニ檢査員又ハ所轄警察官署ニ屆出テ其ノ指揮ヲ受クヘシ

第十七條　結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛斃死シタルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ直ニ檢査員又ハ所轄警察官署ニ屆出テ其ノ指揮ヲ受クヘシ

第十八條　輕症結核病ニ罹リ又ハ結核病ノ疑アル畜牛ヲ屠殺シタル場合、前條ノ場合又ハ畜牛ノ死後ニ於テ結核ノ病的變狀ヲ發見シタル場合ニ於テ結核ノ病的變狀一臟器及其ノ淋巴線ニ局限セルカ又ハ結核ノ病的變狀二、三ノ臟器及其ノ淋巴線ニ發生セルモ各部ノ變狀小部ニ局限シ急性結核ノ變狀ヲ呈セサルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ檢査員、屠畜檢査員又ハ所轄警察官署ノ指揮ニ從ヒ患部及之ニ接近セル組織ヲ切除シ之ヲ燒棄又ハ消毒ノ上埋却スヘシ但シ認可ヲ得タル裝置ヲ以テ化製スルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ二箇以上ノ臟器及其ノ淋巴線ニ於ケル結核ノ病的變狀蔓延セルトキ又ハ急性結核ノ變狀ヲ呈スルトキハ重症結核病ニ罹リタル畜牛ニ準シ之ヲ處分スヘシ

第十九條　樺太廳長官ハ所屬職員、町村吏員及公獸醫ヨリ檢査員ヲ命シ所屬職員又ハ町村吏員及畜產業ニ經驗アル者ヨリ評價人ヲ命スヘシ但シ主任檢査員ハ本廳職員中ヨリ樺太廳長官之ヲ命ス

〔樺法〕

第二十條　樺太廳長官カ告示又ハ指定シタル檢査期日四十五日以前ヨリ檢査確定ニ至ル迄乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ニ「ツベルクリン」ノ皮下注射ヲ爲スコトヲ得ス

樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル者又ハ獸醫ニ非サレハ乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ニ「ツベリクリン」ノ應用ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ正當ノ事由ニ依リ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十一條　前條第二項及第三項ニ依リ乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ニ「ツベルクリン」ノ應用ヲ行ヒタル者ハ遲滯ナク其ノ成績ヲ第六號樣式ニ依リ樺太廳長官ニ報告スヘシ

第二十二條　畜牛結核病豫防法第四條ノ屆出ハ檢査員又ハ畜牛ノ現在地ヲ管轄スル警察官署ニ之ヲ爲スヘシ

第二十三條　畜牛結核病豫防法第十條ニ規定スル化製裝置ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ所轄警察官署ヲ經由シ樺太廳長官ニ出願スヘシ

第二十四條　畜牛結核病豫防法第十二條ニ依リ許可ヲ受ケムトスルトキハ埋却ノ年月日及發掘ノ事由ヲ具シ所轄警察官署ニ出願スヘシ

第二十五條　檢査員評價人其ノ他行政廳ノ命ヲ承ケテ公務ヲ行フ者畜牛結核病豫防法又ハ本令ノ執行ニ關シ不正ノ行爲アリタルトキハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　故意ニ第十條ノ記號ヲ滅失セシメ又ハ耳標ヲ毀損若ハ亡失セシメタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條　第三條第三項但書ニ違背シテ檢査ヲ受ケタル者又ハ第六條第一項、第二十條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

第二十八條　第二條、第七條第一項、第十四條、第十五條、第二十條、第二十一條ニ違背シタル者及第十六條、第十七條ノ屆出ヲ爲サス又ハ指揮命令ニ從ハサル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

畜牛（現在、未濟、異動）屆

種類	名號	性	年齢	毛色	用途	特徴	所在地	健康證若ハ病症番號	備考

右（現在、未濟、異動）及御屆候也

年　月　日

住所
所有者又ハ管理者　何　某㊞

町村長宛

第二號樣式　（五寸五分）

白色

第　號
畜牛健康證
住所 所有者（管理者）何　某
種類
用途

〔樺法〕

表　（三寸八分）

名號	牝牡
年齢	
特徴	毛色

右臨床檢査ヲ遂ケシ處結核病ノ症狀ヲ認メス

年　月　日

樺太廳㊞

裏

檢査員署名捺印	檢査年月日	備考

第三號樣式　（五寸五分）

青色

第　號
畜牛健康證
住所 所有者（管理者）何　某
種類	用途
名號	牝牡
年齢	毛色
特徴	

右臨床及「ツベルクリン」應用檢査（皮下注射、皮膚注射、又ハ點眼法）ヲ遂ケシ處結核病ノ症狀ヲ認メス

年　月　日

樺太廳㊞

〔樺法〕

裏

檢査員署名捺印	檢査年月日	備考

第四號樣式

平面

立面

斷面

〔樣法〕

第五號樣式

平面

立面

斷面

〔樣法〕

第六號樣式

「ツベルクリン」應用成績報告

種類	性	年齢	毛色	用途	特徴	注射前體溫	注射後體溫							
						時 分	時 分	時 分	一回	二回	三回	四回	五回	六回	七回	八回

應用ノ狀況（應用年月日、臨床的症狀皮膚注射又ハ點眼法ニ依ルモノハ其ノ反應處分、其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ詳記スヘシ）

右及報告候也

年　月　日

住所

所有者（管理者又ハ獸醫）何　某㊞

樺太廳長官宛

●畜牛結核病豫防法取扱手續

昭和二年七月二十日
訓令第三百三十八號

農林部　支廳　出張所　警察署　町村役場

畜牛結核病豫防法取扱手續左ノ通定ム

畜牛結核病豫防法取扱手續

第一條　本手續ニ於テ規則ト稱スルハ畜牛結核病豫防法施行規則ヲ謂フ

第二條　町村長規則第二條ニ依ル屆出ヲ受ケタルトキハ之ヲ檢査場別ニ整理シ檢査ノ際檢査員ニ提示スヘシ

第三條　町村長規則第三條第三項ノ檢査請求ヲ受ケタルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ付シ所轄支廳ヲ經由シ樺太廳長官ニ進達スヘシ

第四條　獸醫タル檢査員ハ一檢査場ノ檢査手續ヲ了ル毎ニ第一號樣式ノ報告書ニ第二號樣式ノ成績表ヲ添付シ及檢査員執務規程第十三條ニ依リ檢査ヲ猶豫シタル畜牛アルトキハ第三號樣式ニ依リ所轄町村役場及支廳ヲ經テ樺太廳長官ニ報告スヘシ

第五條　健康證ハ獸醫タル檢査員之ヲ作成シ所轄町村役場ヲ經テ所有者又ハ管理者ニ交付スヘシ

亡失毀損其ノ他事故ノ場合健康證ノ再下付又ハ書換ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ成績表ニ附記スヘシ

第六條　健康證ヲ有スル畜牛ニ對シ檢査ノ結果尙ホ健康ナリト檢定シタルトキハ健康證ノ裏面ニ檢査年月日ヲ記入シ署名捺印スヘシ

前項ノ檢査ニ於テ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アリト檢定シタルトキハ健康證ヲ返納セシメ檢査員ニ於テ廢棄ノ上其ノ旨成績表ニ附記スヘシ但シ此ノ場合ハ所轄警察官署及町村役場ニ通知スヘシ

第七條　警察官署ハ第四號樣式ニ依リ病牛臺帳ヲ備付スヘシ

第八條　重症結核病ト認ムル畜牛アリタルトキハ檢査員ハ其ノ處分前所轄警察官署ニ通知シ所轄町村役場ヲ經テ樺太廳長官ニ報告スヘシ

前項重症結核病ノ決定アリタルトキハ直ニ町村長ハ規則第二十二條ノ評價人タルヘキモノヲ選定上申スヘシ

第九條　警察官署ハ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ヲ屠殺又ハ撲殺セムトスルトキハ警察官吏又ハ屠畜檢査員ヲシテ立會セシムヘシ

第十條　檢査員ニ於テ規則第十二條ニ依リ病牛ノ隔離ニ付變更ノ許可ヲ與ヘタルトキハ第五號樣式ニ依リ所轄警察官署ヲ經テ樺太廳長官ニ報告スヘシ

變更ノ場所他ノ警察官署ノ管轄區域ニ亘リ當該警察官署ニ通知スルトキ亦前項ニ準スヘシ

第十一條　前條第二項ノ通知ヲ受ケタル警察官署ニ於テハ其ノ牽付アリタルトキハ隔離ノ手續ヲ行ハシメ病牛臺帳ニ登錄シ前條樣式ニ準シ樺太廳長官ニ報告スヘシ

第十二條　檢査員又ハ警察官署ニ於テ規則第十六條及第二十二條ノ屆出ヲ受ケ又ハ之ヲ發見シタルトキハ直ニ樺太廳長官ニ報告スヘシ

第十三條　健康證ヲ有スル畜牛斃死又ハ屠殺撲殺シタルトキハ所有者又ハ管理者ヨリ健康證ヲ返納セシメ町村長ハ之ヲ廢棄ノ上第六號樣式ニヨリ翌月七日迄ニ樺太廳長官ニ報告スヘシ

第十四條　結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛斃死又ハ撲殺シタルトキハ所有者又ハ管理者ヨリ耳標ヲ返納セシメ警察官署ハ之ヲ廢棄ノ上第七號樣式ニ依リ樺太廳長官ニ報告スヘシ

第十五條　警察官署ニ於テ規則第二十四條ニ依リ發掘ヲ許可シタルトキハ直ニ樺太廳長官ニ報告スヘシ

第十六條　支廳及出張所ハ檢査ノ成績及其ノ狀況ヲ檢査終了後十日以內ニ第八號樣式ニ依リ樺太廳長官ニ報告スヘシ

（第一號樣式）

〔樺法〕

第　號　畜牛結核病檢査報告

檢査場所	月日	所有者又ハ管理者	畜牛頭數 乳用牡牛	畜牛頭數 其ノ他ノ畜牛	畜牛頭數 合計	臨床診斷ノ結果 健康	臨床診斷ノ結果 疑症	臨床診斷ノ結果 輕症	臨床診斷ノ結果 重症	臨床診斷ノ結果 猶豫	臨床診斷ノ結果 計	ツベルクリン應用ノ結果 健康	ツベルクリン應用ノ結果 疑症	ツベルクリン應用ノ結果 輕症	ツベルクリン應用ノ結果 重症	ツベルクリン應用ノ結果 計	合計

右及報告候也

年　月　日

樺太廳長官宛

畜牛結核病檢査員

（第二號樣式）

備考	處分方法	診斷	注射 差溫	注射 ツベルクリン注射	注射 ベルク射後	注射 ルクリン後	注射 クリン體溫	注射 リン體溫	注射 ン溫

檢査月日	檢査場所	管理者所有者	種類	名號	性及年齡	毛色	用途	特徵	既往症	現症	注射月日時	注射量	成績 注射前溫	成績 注射前溫	成績 注射前溫	成績 注射前溫

〔樺法〕

検査番號	

（第三號樣式）

畜牛結核病檢査猶豫報告

健康證年月日番號	畜牛所在地	所有者又ハ管理者住所氏名	種類	名號	牝牡	年齢	毛色	用途	特徴	猶豫シタル事由

右檢査員執務規程第十三條ニ依リ檢査猶豫候條此段及報告候也

年　月　日

畜牛結核病檢査員

樺太廳長官宛

備考

健康證番號及檢査年月日ハ健康證ヲ有スル畜牛ニ限リ最近ノモノヲ記入スルモノトス

（第四號樣式）

畜牛臺帳

名號	住所	所有者又ハ管理者	病症別番號	檢査決定月日	種類	牝牡	毛色	年齢	用途	產地	特徴	摘要

現症

年　月　日

町村長

樺太廳長官宛

備考

健康證年月日ハ最近ノモノヲ記入スルモノトス

（第七號樣式）

結核病牛（屠殺撲殺斃死）報告

種類	名號	牝牡	年齢	毛色	用途	特徴	檢査決定月日	確病症	所在地	所有者管理者氏名	屠殺撲殺斃死月日

右ノ通（屠殺、撲殺、斃死）シタルニ付耳標ハ當署ニ於テ廢棄（又ハ何々）候條此段及報告候也

年　月　日

警察署長

樺太廳長官宛

（第八號樣式）

昭和　年甲（乙）號畜牛結核病檢査成績報告

成績表

種類	檢査牛數						檢査成績		
用途	ツベルクリン注射ヲ行ヒタルモノ			ツベルクリン注射ヲ行ハサルモノ			健康牛	疑症牛	輕症牛
計	上以才二	滿未才二	上以才二	滿未才二	上以才二	滿未才二			

重症牛		評價額	手當額
上以才二	滿未才二		

經歷	備考

（第五號樣式）

畜牛結核病牛隔離變更報告

種類	名號	牝牡	年齢	毛色	用途	特徴	檢査確定月日	病名	舊隔離場及所有者又ハ管理者	新隔離場所有者又ハ管理者	移轉事由及月日

右及報告候也

年　月　日

畜牛結核病檢査員

官職　氏　名

樺大廳長官宛

（第六號樣式）

畜牛健康證廢毀報告

健康證年月日番號	種類	名號	牝牡	年齢	毛色	用途	特徴	毀却事由及年月日	所有者（管理者）住所氏名	備考

右及報告候也

〔樺法〕

檢査ノ狀況	雄				雌				內國種				外國種			
	乳用牛	種牡牛	其他ノ牛	合計ノ牛	乳用牛	種牡牛	其他ノ牛	合計ノ牛	乳用牛	種牡牛	其他ノ牛	合計ノ牛	乳用牛	種牡牛	其他ノ牛	合計ノ牛
總計																

〔樺法〕

右及報告候也

年　月　日

支廳長（出張所長）

樺太廳長官宛

備考

規則第三條第一項ニ依リ行ヒタル檢査ノ成績報告ニハ甲號ト記シ第二項及第三項ニ依リ行ヒタル檢査ノ成績報告ニハ乙號ト記スヘシ

檢査ノ狀況ノ項ニハ檢査ノ開始終期檢査ノ日數、檢査員及評價人ノ資格人員、豫防ニ關スル施設、畜產業ニ及ホシタル影響等ヲ記スヘシ

畜牛結核病檢査員執務規程

昭和二年七月二十日
訓令第三百三十九號

畜牛結核病檢査員執務規程左ノ通定ム

畜牛結核病檢査員執務規程

第一條　檢査員ハ其ノ職務ノ執行ニ關シ上司ノ指揮命令ヲ遵奉シ公平誠實ヲ旨トスヘシ

第二條　檢査員ハ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ所有者又ハ管理者ニ結核病ノ豫防制遏ニ關シ必要ナル事項ヲ指示スヘシ

第三條　畜牛ノ所有者又ハ管理者中其ノ畜牛ノ種類ヲ誤リ又ハ知ラサルカ爲法令ノ規定ニ違反セル者アルコトヲ發見シタルトキハ懇篤ニ之ヲ說諭シ法令ノ規定ニ依ラシムヘシ故意ニ法令ニ違反セル者ニ關シテハ直ニ告發ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　檢査ノ爲牽付タル畜牛ハ成ルベク其ノ外貌ニ依リ健康ナルモノト異狀アルモノトヲ區別シ各別ニ之ヲ繫留セシムヘシ

「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ檢査ヲ行フ場所ニハ成ルヘク感冒ヲ防キ消毒ニ便ナル施設ヲ爲スヘシ

第五條　乳用牛、外國種牛、雜種種牡牛及結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ハ臨床的診察及「ツベルクリン」ノ應用ニヨリ之ヲ檢査スヘシ但シ營利ノ目的ノ搾乳用ニ供セサル乳用牛及種牡牛ニ非サル外國種牛ハ「ツベルクリン」ノ應用ニ依ラサルコトヲ得

第六條　「ツベルクリン」ノ應用ニ依ル檢査ハ皮下注射ノ方法ニ依ルヘシ但シ檢査員ニ於テ必要ト認ムルトキハ更ニ皮膚注射又ハ點眼法ヲ行フコトヲ得

第七條　「ツベルクリン」ノ皮下注射ヲ行ヒタル後四十五日以內ニ檢査ヲ爲ス場合ニ於テハ臨床的診察皮膚注射又ハ點眼法ニ依ルコトヲ得

第八條　「ツベルクリン」ノ皮下注射ニ依ル結核病タル反應ハ「ツベルクリン」注射後攝氏一度以上ノ增溫ヲ呈シ熱候稽留スルモノトス

皮膚注射ニ依ル結核病ノ反應ハ注射部胡桃大以上ノ限局性腫脹ヲ呈スルモノトス

點眼法ニ依ル結核病タル反應ハ結膜著シク潮紅シ淚液又ハ膿樣液ノ漏出スルモノトス

第九條　「ツベルクリン」ハ稀釋シタルモノト否トヲ問ハス光線ヲ遮リタル清涼ナル場所ニ置クコトヲ注意スヘシ

第十條　皮下注射ニ用フル「ツベルクリン」ハ濃厚「ツベルクリン」一分ニ煮沸水ヲ以テ溶解シタル二百倍ノ石炭酸水九分ヲ加エテ之ヲ稀釋スヘシ皮膚注射ニ用ウル「ツベルクリン」ハ濃厚「ツベルクリン」一分ニ滅菌蒸溜水一分ヲ加エテ之ヲ稀釋スヘシ

點眼法ニハ濃厚「ツベルクリン」ヲ用ウヘシ

第十一條　檢溫器ハ感度銳敏ニシテ標準トスヘキ正確ナル檢溫器ニ對照シテ度數ノ加減ヲ明確ニシタル堅牢ナルモノヲ用ウヘシ

第十二條　注射器ハ注射ニ用ウル前又ハ注射ニ用ヰタル每ニ二十倍ノ石炭酸水又ハ酒精ヲ以テ消毒ヲ行ヒタル後煮沸水ニテ洗滌スヘシ

第十三條　左ノ畜牛ハ檢査猶豫ノ取扱ヲナスコトヲ得

一　結核病以外ノ疾病又ハ傷痍ノ爲メ檢査ヲ受クルコト能ハサルモノ

二　分娩前一箇月以內若ハ分娩後十日以內ノモノ

三　六箇月未滿ノ幼牛

第十四條　「ツベルクリン」ノ皮下注射ヲ行ハムトスルトキハ其ノ當日注射前ニ三回體溫ヲ檢スヘシ

第十五條　「ツベルクリン」ヲ皮下注射スヘキ部位ハ頸部ノ側面トシ豫メ二十倍ノ石炭酸水又ハ酒精ヲ以テ消毒スヘシ

第十六條　皮下注射ニ用ウル「ツベルクリン」ハ左ノ分量ニ依ルヘシ

一　成牛　〇、五乃至〇、六立方仙米

二　一歲以上二歲未滿ノ畜牛　〇、三乃至〇、四立方仙米

三　一歲未滿ノ幼牛　〇、一乃至〇、二立方仙米

第十七條　「ツベルクリン」ヲ皮下注射シタル後第八時ヨリ第二十時ニ至ル迄二時間每ニ體溫ヲ檢スヘシ但シ最高溫度ニ達シタル後二回以上ノ檢溫ニ於テ其ノ溫度漸次下降スルコトヲ認メタル時又ハ二十時間以內ニ於テ常溫ニ復スルトキハ其ノ後體溫ヲ檢スルヲ要セス

前項ノ場合ニ於テ第二十時ニ至リ畜牛ノ發熱稽留シテ下降セサルトキハ第三十二時ニ至リ更ニ體溫ヲ檢スヘシ

第十八條　皮膚注射ヲ行ウベキ部位ハ尾根ノ鬣髮トシ豫メ酒精ヲ以テ消毒スヘシ

皮膚注射ニ用ウル「ツベルクリン」ノ分量ハ〇、一立方仙米トシ注射後第二十四時ニ注射部ヲ檢シ其ノ反應確實ナラサル時ハ相當時間後更ニ一回之ヲ檢スヘシ

第十九條　點眼法ヲ行フニハ右眼又ハ左眼ノ結膜裏內ニ二滴又ハ三滴「ツベルクリン」ヲ點下シ點眼後第十二時ニ之ヲ檢シ其ノ反應確實ナラサル時ハ相當時間後更ニ一回之ヲ檢スヘシ

第二十條　結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ臨床上ノ症狀及「ツベルクリン」ノ應用ニヨル結核病タル反應ハ精密ニ之ヲ記錄シ檢査終了ノ後樺太廳長官ニ報告スヘシ

第二十一條　輕症結核病ニ罹リタル畜牛ノ隔離ヲ命スルトキハ左ノ事項ヲ指示スヘシ

一　別棟ノ畜舍ニ輕症結核病ニ罹リタル畜牛ノミヲ繫留スル場合ニ於テハ他ノ畜牛ト接近セシメサルコト

二　同一畜舍內ニ輕症結核病ニ罹リタル畜牛ト其ノ他ノ畜牛トヲ繫留スル場合ニ於テハ地盤ヨリ天井又ハ地盤ヨリ九尺ノ高サニ至ル迄ヲ壁、木壁其ノ他堅牢ナル隔壁ヲ以テ舍內ヲ分劃シ出入口及排泄溝ヲ異ニシ輕症結核病ニ罹リタル畜牛ト他ノ畜牛トヲ各別ニ繫留セシムルコト

三　輕症結核病ニ罹リタル畜牛ハ他ノ畜牛ト交通ヲ絕タシムルコト但シ交尾ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

四　本條第一號及第二號ノ場合ニ於テ畜舍ニ附屬スル運動場アルトキハ輕症結核病ニ罹リタル畜牛及其ノ他ノ畜牛ニ付各別ニ運動場ノ區域ヲ指示スルコト

五　輕症結核病ニ罹リタル畜牛ハ指定シタル畜舍若ハ運動場以外ニ出サシメサルコト但シ檢査員ニ於テ場所及方法ヲ指示シテ放牧若ハ使役ヲ認許シ又ハ相當ノ間隔ヲ置キ結核病ノ疑アル畜牛ヲ同一畜舍ニ繫留セシムルコトヲ得

第二十二條　前條ノ規定ハ重症結核病ニ罹リタル畜牛及結核病ニ罹リタサル時ハ相當時間後更ニ一回之ヲ檢スヘシ

ル疑アル畜牛ノ隔離ニ之ヲ準用ス但シ重症結核病ニ罹リタル畜牛ニアリテハ放牧使役又ハ交尾ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第二十三條　隔離ヲ命シタル畜牛ノ所有者又ハ管理者ニ於テ讓渡其ノ他正當ノ事由ニ依リ隔離ノ方法若ハ場所ノ變更ヲ願出ツルトキハ前二條ノ規程ニ依リ更ニ之ヲ指示シ變更ノ場所他ノ警察官署ノ管轄區域ニ亙ルトキハ其ノ所轄警察署ニ通報スヘシ

隔離ヲ命シタル畜牛ヲ屠殺ノ爲メ隔離ノ場所ヨリ牽出スルコトヲ願出ツルトキハ病毒ノ撒布ヲ防クニ足ルヘキ施設及屠殺スヘキ場所並期間ヲ指示シ之ヲ許可スヘシ

第二十四條　檢査員ハ隔離ヲ命シタル畜牛ヲ隨時監視スヘシ

第二十五條　重症結核病ニ罹リタル畜牛ヨリ搾取シタル乳汁ハ搾取後直ニ石炭酸水又ハ石灰乳ヲ混シ其ノ漏出ヲ防キ廢棄處分ヲ行ウヘシ

第二十六條　重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ撲殺ハ檢査確定後十五日以内ニ之ヲ行ハシムヘシ

前項ノ畜牛ヲ撲殺スヘキ場所ニ牽行ク場合ニハ病毒ノ撒布ヲ防クニ足ルヘキ施設ヲ指示スヘシ

第二十七條　消毒ノ方法埋却スヘキ屍體ノ措置、屍體又ハ畜牛ヲ移動スル場合ニ於ケル病毒ノ撒布ヲ防クヘキ施設及結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁屍體其ノ部分並病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品ヲ埋却スヘキ土坑場所ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

●畜牛結核病檢査員執務規程ニ依ル消毒方法

昭和二年九月二十一日
訓令第四百號

畜牛結核病檢査員執務規程第二十七條ノ規定ニ依リ消毒ノ方法左ノ通定ム

畜牛結核病豫防法ニ關スル消毒法

第一　畜牛結核病豫防ノ爲施行スル消毒ノ方法ハ左ノ四種トス

一　蒸氣消毒
二　煑沸消毒
三　藥物消毒
四　醱酵消毒

第二　蒸氣消毒ハ消毒ノ目的物ヲ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ

被服、毛布、毛、器具等ノ消毒ニ適ス

第三　煑沸消毒ハ消毒ノ目的物ヲ水中ニ浸シ沸騰後一時間以上煑沸スヘシ

鄉二ニ揭クルモノノ外乳汁、肉、骨、角、蹄、飼料等ノ消毒ニ適ス但シ乳汁ニアリテハ攝氏八十度ノ溫熱ヲ十分間加フヘシ

第四　藥物消毒ニ用ウル藥劑及其ノ用法ハ左ノ如シ

一　煆製石灰末

用ニ臨ミ煆製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シ之ヲ製スヘシ

〔樟法〕

畜舍ノ床、糞便、厩肥、糞尿溜、汚水溝、濕潤ナル土床等ノ消毒ニ適ス

一　石灰乳（十倍）（水、煆製石灰一分九分）

用ニ臨ミ煆製石灰ニ水ヲ徐々ニ加ヘ攪拌シテ之ヲ製スヘシ

畜舍ノ隔壁、隔木若ハ床又ハ欄柵其ノ他病毒ニ汚染セル場所ノ消毒ニ適ス

一　クロール石灰

畜舍ノ床、井水、用水、汚水溝等ノ消毒ニ適ス

一　クロール石灰水（二十倍）（水、クロール石灰五分九十五分）

用ニ臨ミクロール石灰ニ水ヲ加ヘ攪拌シテ之ヲ製シ其ノ上清ヲ用ウヘシ

用法ハ石灰乳ニ同シ

一　石炭酸水（二十倍）（鹽三分、防疫用石炭酸五分、水九十四分又ハ九十二分、食加熱熔融セシメタル防疫用石炭酸ヲ水ニ加ヘ攪拌シタル後鹽酸又ハ食鹽ヲ加ヘテ之ヲ製スヘシ

手足、畜舍、屍體、欄柵、器具機械、革具類等ノ消毒ニ適ス但シ手足ノ消毒ニハ石炭酸水ヲ更ニ水ヲ以テ二倍ニ稀釋シタルモノヲ用ウヘシ

一　昇汞水（千倍）（水、昇汞一分鹽酸十分九百八十九分）

鹽酸ヲ加ヘタル少量ノ水ニ昇汞ヲ溶解シタル後水ヲ加ヘテ之ヲ製スヘシ

昇汞錠（一錠中昇汞〇、五グラムヲ含ムチメートルノ水ニ溶解シテ之ヲ製スヘシ）ヲ用ウル場合ハ其ノ一錠ヲ五百立方センチメートルノ水ニ溶解シテ之ヲ製スヘシ

〔樟法〕

手足、畜舍、畜體、器具機械ノ消毒ニ適ス但シ金屬製器具機械ノ消毒ニ之ヲ用ウヘカラス

一　フオルムアルデヒード

室内、被服、毛布、畜舍、骨、毛、角、蹄、革具類、貴重ナル器具機械等ノ消毒ニ適ス但シ密閉シ得サル室内ノ消毒ニハ適セス

フオルムアルデヒードヲ以テ消毒スルニハ室内又ハ消毒用器ノ容積ニ、八立方センチメートルニ付フオルマリン四十立方センチメートル以上ヲ噴霧若ハ蒸發セシメ又ハフオルムアルデヒード十五グラム以上ヲ發生セシメ同時ニ百立方センチメートル以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ

フオルムアルデヒードヲ以テ毛束、被服、毛布又ハ之ニ類似ノ物品ヲ其ノ内部ニ至ル迄消毒スル場合ハ眞空裝置ニ依ルヘシ此ノ場合ニ於ケル消毒時間ハ裝置及物品ノ種類ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一　フオルマリン水（水、フオルマリン一分三十四分）

畜舍、畜體、屍體、器具機械、骨、毛、角、蹄、革具類等ノ消毒ニ適ス

一　クレゾール水（水、クレゾール石鹼液三分四十七分）

クレゾール石鹼液ヲ水ニ溶解シテ之ヲ製スヘシ

手足、被服、畜舍、畜體、欄柵、器具機械、革具類等ノ消毒ニ適ス

一　クレゾール硫酸溶液（硫酸一分、水、粗製クレゾール二分九十七分）

粗製クレゾールニ粗製硫酸ヲ混和振盪シ二十四時間以上ヲ經過セル後水ヲ加ヘテ之ヲ製スヘシ

糞尿溜、汚水溝等ノ消毒ニ適ス

一　クレオリン水、クレシン水（クレオリン、クレシン三分、水九十七分）
　石炭酸水ニ代用スルコトヲ得
一　粗製鹽酸、粗製硫酸
　糞尿溜、汚水溝等ノ消毒ニ適ス

第五　醱酵消毒ハ幅一、五メートル深サ十五センチメートル長サ適宜ノ土溝ヲ造リ之ヲ病毒ニ汚染セサル敷藁、厩肥等ニテ埋メ其ノ上ニ消毒スヘキ糞便、敷藁、厩肥等ヲ一、五メートルノ高サニ堆積シ其ノ表面ハ病毒ニ汚染セサル莚、蓆、敷藁、厩肥等ヲ以テ適當ノ厚サニ之ヲ覆ヒ其ノ上ニ土ヲ覆ヒ少クトモ二週間放置スヘシ
　右消毒ニ在リテハ醱酵ヲ充分ナラシムル爲適宜ノ藁類ヲ混スヘシ

第六　消毒方法ノ應用
一　畜舎ノ土床ニ在リテハ煆製石灰末、クロール石灰、フオルマリン水、クレゾール水ヲ充分ニ撒布シ消毒スヘシ
一　著シク汚物ノ固著セル畜舎又ハ欄柵ノ消毒ハ鞏メ熱滿汁（粗製加里若ハ曹達一分、水二十分又ハ新製ノ木灰一分、水五分ヲ煮沸シテ製ス）又ハ熱湯ヲ以テ洗滌シタル後之ヲ行フヘシ
一　畜體ノ消毒ハ昇汞水、フオルマリン水又ハクレゾール水ヲ以テ濕シタル布片ヲ以テ清拭シ特ニ汚物ノ附著セル部分ハ前記消毒藥液ヲ以テ洗滌スヘシ
一　屍體又ハ物品ヲ運搬セムトスルトキハ昇汞水、石炭酸水、フオルマリン水又ハクレゾール水ニ濕セル布片又ハ綿類ヲ以テ病毒ヲ漏ラス虞アル天然孔其ノ他ノ箇所ヲ塞キ昇汞水、石炭酸水、フオルマリン水又ハクレゾール水ニ濕シタル莚、蓆類ヲ以テ全體ヲ包裹スヘシ

一　病畜牽付途中又ハ屍體運搬中ニ於テ糞尿其ノ他汚物ヲ漏ラシタル時ハ病毒ヲ含有セサルモノヲ除クノ外之ヲ除去シ其ノ場所ニ昇汞水、石炭酸水又ハクレゾール硫酸水ヲ充分撒布シ除去シタル汚物ハ適當ノ場所ニ於テ之ヲ燒却、埋却又ハ消毒スヘシ
一　糞尿溜及汚水溝ハ煆製石灰末、クロール石灰、クレゾール水、クレゾール硫酸水、粗製鹽酸又ハ粗製硫酸ヲ投入攪拌シ其ノ汚物ヲ浚渫シタル後更ニ石灰乳、クレゾール水又ハクレゾール硫酸水ヲ以テ消毒スヘシ
　浚渫シ能ハサルトキハ覆ヲ爲シ五日間以上放置スヘシ浚渫シタル汚物ハ深ク埋却スヘシ

第七　屍體又ハ物品ヲ埋却スル土坑ハ屍體又ハ物品ヲ投入スルモ尚地表迄一、五メートル以上ノ餘地ヲ有スルモノタルコトヲ要シ屍體又ハ物品ヲ投入シタル後厚ク石灰ヲ撒布シ土ヲ以テ塡塞スヘシ
一　燒却又ハ埋却スヘキ屍體ハ警察官吏又ハ獸醫タル檢査員ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ截切スルコトヲ得ス
一　屍體又ハ物品ノ燒却又ハ埋却ハ人家、飲料水、河流又ハ道路ニ接近セサル場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ
　前項ノ埋却ヲ爲シタル場合ハ第一號樣式ノ標杭ヲ建設シ之ヲ標示スヘシ

第一號樣式
十五センチメートル角　地上一、五メートル地下七デシメートル

〔棒法〕

表面　畜牛結核病屍體埋却地
裏面　何郡何村大字何
側面　年　月　日

●畜牛結核病豫防心得

昭和二年七月二十日
告示第百二十九號

畜牛結核病ハ他ノ獸畜傳染病ト自ラ其ノ性質ヲ異ニシ病症頑固ニシテ汎ク牛群ニ蔓延シ人畜衛生及農業經濟ニ及ホス危害極メテ大ナリ抑モ本病ハ歐羅巴種牛ノ一部ニ原發シ漸次各國ニ傳播セルモノニシテ本島ニ於テモ近時酪農業ノ勃興ニ伴ヒ北海道ヨリノ移入牛激增シ來リ之等移入牛中結核病牛ノ系統少シトセス年ヲ逐フテ蔓延ノ虞アリ今ニシテ之カ豫遏ノ法ヲ講セスンハ他日防禦ノ策ナキニ至ラン畜牛飼養者ハ單ニ法令ニノミ一任セス能ク本病ノ性質ヲ知悉シ各自警戒ヲ加ヘ日常自營ノ法ヲ怠ラサルヲ要ス仍テ左ニ本病ノ性質原因傳染ノ狀態及自衛法ノ要點ヲ揭ク

畜牛結核病豫防心得

第一項結核病ハ結核菌ト稱スル一種ノ細菌ニ原由スル慢性難治ノ傳性病ニシテ家畜中牛、豚最モ之ニ罹リ易ク稀ニハ馬、犬、羊、山羊、家禽等ニ傳染ス

第十四類　拓殖　第四章　畜産

牛ニ於テハ主トシテ肺臟、胸膜、腹膜及淋巴腺ニ發シ又關節、乳房、生殖器、腸及腦ヲ侵スコトアルモ他ノ臟器ニ發スルハ稀ナリ馬、豚、鷄、犬ニ於テハ主トシテ腸及其ノ他ノ腹腔臟器ノ結核ヲ見ル

結核菌ハ病原菌ノ中比較的抵抗力ニ富ミ乾燥スルモ容易ニ毒力ヲ失ハス能ク溫熱、腐敗作用ニ耐フ乳汁ノ如キ液體中ニ在リテハ熱ニ對スル抵抗力薄弱ニシテ攝氏七、八十度ノ熱ヲ加フレハ概ネ五分乃至十分間ニシテ毒力ヲ失フ腐敗物中ニ在リテハ百餘日間毒力ヲ存スルコトアリ消毒藥ニ對スル抵抗力モ亦他ノ病毒ト異ニシテ克ク昇汞ニ抵抗シ其ノ千倍溶液ノ如キハ十數時間ノ後始メテ僅カニ結核菌ヲ殺シ得ルノミ獨リ日光ノ消毒力ハ較々強ク數分間乃至數時間ニシテ其ノ毒力ヲ失ハシム

第二項從來結核病傳播ノ原因ニ付テハ重キヲ遺傳ニ置キタリト雖モ實驗ニ徵スレハ疾病其ノモノノ遺傳ハ稀有ニシテ僅カニ素因ヲ傳フルニ過キス牡牛ノ生殖器結核ハ交尾ノ際牝牛ニ傳染スルコトナキニアラサルモ牡系ヨリ胎兒ニ傳染セシ適例ハ未タ證明スルヲ得ス又母牛ノ結核病ハ胎盤ニ發生スルカ或ハ其血液中ニ多數ノ結核菌ヲ含有スルニアラサレハ胎兒ニ傳ハルコトナシ故ニ胎內傳染ノ例モ亦極メテ小數ニ止ルモノトス

第三項結核病ハ他ノ傳染病ノ如ク概ネ出產後ノ傳染ニ由ル傳染ノ本源ハ結核病牛其ノモノニシテ病毒ハ專ラ呼氣、咯痰、唾液、乳汁、創液、糞尿等ニ含有セラレ直接又ハ間接ニ他ノ健獸ニ傳染ス但シ間接傳染ノ媒介トナルモノハ畜舎、舍內器具蓐草取扱人等ナリ

第四項結核病毒侵入ノ經路ハ呼吸器及消化器ニシテ稀ニハ皮膚又ハ粘膜

〔棒法〕

ノ創傷ヨリ侵入ス其ノ最モ普通ノ傳染狀態ハ左ノ如シ

一　呼吸器ハ結核病毒ノ侵入スル普通ノ經路ニシテ畜舎内ノ傳染ハ構ネ之ニ基ク是レ呼吸器結核ノ多キ所以ナリ結核病毒ハ咳嗽ノ勢キ深强ノ呼吸ヲナス際咯痰霧狀ヲナシテ呼氣中ニ飛散シ又ハ塵埃ニ含有セラレ健牛ノ吸入スル所トナリ換氣不良ニシテ殊ニ多數牛ノ密居セル畜舎ニ於テ此ノ危險最モ甚シ

二　消化器傳染ハ呼吸器傳染ニ比スレハ較々尠クシテ結核病毒ヲ含有セル飼料、醱酵、飲料水、乳汁、結核腺器等ヲ攝取スルニ由ル馬、豚、鶏、犬等ノ結核病ハ概ネ此ノ原因ニ出ツ

三　牘ハ呼吸器傳染ノ外屢々結核菌ヲ含有セル乳汁又ハ流乳ヲ飲用スルニ由テ本病ニ感染ス

第五項　結核病傳染ノ難易及其ノ病勢ハ病毒ノ多少性質ニ由ルト雖モ又大ニ動物體質ノ强弱ニ關ス

體質强健ナレハ假令病毒ニ觸ルルモ容易ニ之ニ感染セス之ニ反シ體質虛弱ナレハ傳染シ易ク且重病ニ陷ルノ傾多シ之ヲ素因ト謂フ

主要ナル素因ハ胸廓ノ發育不全、營養不給、呼吸器及消化器ノ加答兒ニシテ其ノ他不合理ノ搾乳、不良ノ飼料換氣ノ失宜、小舎内畜牛密集、運動ノ不足、早齢ノ交尾等ハ何レモ素因タラサルナシ故ニ畜牛ノ飼養者ハ努メテ這般不攝生ノ事項ヲ避ケサルヘカラス

第六項

一　畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ平素畜牛ノ健康狀態ニ注意シ咳嗽淋巴腺ノ腫脹、毛、毬ノ粗硬、其ノ他結核病ノ疑ヲ生セシムル症候ヲ認ムルトキハ直ニ獸醫ヲ招キ臨床的診察竝「ツベルクリン」ノ注射ヲ請ヒ本病ニ罹リタルモノ又ハ其ノ疑アルモノハ自家ノ牛群ヨリ排斥シ健牛ノミヲ以テ繁殖ヲ圖ルヘシ

二　健牛ト病牛トノ隔離ヲ勵行シ相互ノ交通ヲ絶チ病牛ニハ特別ノ器具ヲ用ヒ成ルヘク異リタル管理人ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ已ムヲ得ス同一人ヲシテ健牛竝病牛ヲ取扱ハシムルトキハ毎次健牛ヲ先ニシ次テ病牛ノ管理ヲナシ後石鹼水、石炭酸水等ヲ以テ其ノ手指ヲ洗滌スヘシ

三　輕症結核病ニ罹リタル畜牛又ハ結核病ノ疑アルモノノ産出セシ犢ハ出産後直ニ母牛ヨリ之ヲ隔離シ攝氏八十度以上ノ熱ヲ加ヘタル健牛ノ乳汁ヲ以テ人工的哺乳ヲナスヘシ哺乳器及哺乳者ノ手指ハ微温石鹼水ヲ以テ之ヲ洗滌スヘシ

四　購入シタル畜牛ハ先ツ別舎ニ繫キ臨床的診察及「ツベルクリン」注射ヲ行ヒ健全ト認メタル後ニアラサレハ自家ノ牛群中ニ混入スヘカラス

第七項　結核病牛ノ附近ニハ豚、鶏、犬等ヲ接近セシメサル樣注意スヘシ

第八項　排水設備ノ良否ハ畜舎内外ノ空氣ノ淨否ニ大ニ關係アルモノニシテ排水法不完全ナルトキハ排泄物及其ノ他ノ汚物ハ停滯シテ大氣ハ其ノ發散セル不淨ノ分子ヲ含有スヘク動物ハ此ノ如キ不潔ノ大氣ヲ呼吸スルニ因テ終ニ其ノ健康ヲ損フニ至ルヘシ故ニ畜舎内外ノ排水設備ハ完全ナラシコトヲ期スヘシ

第九項　病牛ノ糞尿、其ノ他ノ排泄物、塵芥等ハ充分ニ消毒ヲ行ヒ病毒ノ浸潤シタル床土運動場ノ表土等ハ新鮮ナル土砂ト取換フヘシ

〔棒法〕

本項ニ依リ消毒シタル排泄物等ハ充分日光ニ曝シタル後肥料トシテ使用スルハ妨ケナシ

第十項　重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁ハ法律ノ規定ニ從ヒ廢棄處分ヲ行フコト言ヲ俟タスト雖モ輕症結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ乳汁モ危險ノ虞アルカ故ニ攝氏八十度以上ノ熱ヲ加ヘタル後ニ非サレハ人畜ノ飲用ニ供セサルヲ完全ナリトス

●競馬規則

昭和七年六月一日
廳令第十三號

競馬規則左ノ通定ム

競馬規則

第一條　競馬ヲ施行セムトスル者ハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二條　前條ノ許可ハ營利ヲ目的トセス馬ノ改良增殖及馬事思想ノ普及ヲ圖ル團體ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第三條　優勝馬投票ニ依リ景品券ヲ發行スル競馬ヲ施行スル競馬場ノ數ハ支廳及支廳出張所管内各一箇所トス

第四條　第七條第八條第十條及第十五條乃至第二十九條ノ規定ハ優勝馬投票ニ依リ景品券ヲ發行スル競馬ニ限リ之ヲ適用ス

第五條　第一條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ許可申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ之ヲ樺太廳長官ニ提出スヘシ

一　競馬場所在ノ場所

二　競馬場及其ノ附近ノ見取圖

三　競馬場カ他人ノ所有ニ係ルトキハ該所有者カ使用ヲ承諾シタルコトヲ證スル書面

四　競走ノ種類

五　競馬開催ノ豫定時期及豫定日數

六　定款又ハ規約書

優勝馬投票ニ依リ景品券ヲ發行スル競馬施行ノ許可申請書ニハ前項各號ノ事項ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

一　馬場、馬見所、下見所、優勝馬投票所、景品券交付所其ノ他ノ工作物ノ設計略圖及配置圖

二　競馬場ノ設備ニ要スル費用ノ見積額及其ノ支辨方法

三　入場料ノ等級別金額

四　入場券及入場徽章ニ關スル事項

五　入場券ノ等級別ニ依リ入場者ニ交付スヘキ優勝馬投票券ノ枚數

六　優勝馬投票及景品券交付ノ方法

第一條ノ許可ヲ受ケタル者前二項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第六條　競馬ノ開催ハ一競馬場毎ニ年二回ヲ超ユルコトヲ得ス

競馬開催ノ期間ハ毎回三日以内トス

第七條　馬場ハ其ノ長千メートル以上幅十六メートル以上ナルコトヲ要ス

第八條　競馬場ノ設備竣工シタルトキハ樺太廳長官ニ屆出テ檢査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス之ヲ變更シタルトキ亦同シ

〔棒法〕

第九條　競走ノ種類ハ駈歩競走、速歩競走及障碍競走トス

競走ノ回數ハ一日十二回以内トシ一日二回以上速歩競走ヲ行フヘシ

第十條　競走ノ距離ハ千六百メートル以上トス但シ明ケ五歳以下ノ棒太産新馬ノミヲ以テスル駈歩競走ニ在リテハ競走ノ距離ヲ八百メートル迄短縮スルコトヲ得

第十一條　明ケ三歳以下及明ケ九歳以上ノ馬ハ棒太廳長官ノ認可ヲ受クルニ非レハ之ヲ出走セシムルコトヲ得ス

第十二條　競馬賞金又ハ賞品ハ棒太産新馬、速歩及障碍競走ニハ特ニ之ヲ厚クスヘシ

第十三條　第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ競馬施行規程ヲ定メ棒太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ競馬施行規程ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　番組ノ編成ニ關スル事項

二　競走馬ニ關スル事項

三　負擔重量ニ關スル事項

四　發走及審判ニ關スル事項

五　前各號ノ外競馬ノ施行ニ必要ナル事項

第十四條　競馬ヲ開催セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ開催一月前迄ニ棒太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

一　開催ノ日時

二　番組ノ要項（各競走ノ番號、種類、名稱、距離、賞金額及賞品ノ種類等）

三　開催執務委員ノ住所、職業、氏名及其ノ分擔事務

前項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ直ニ棒太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條　優勝馬投票入場券ハ競馬開催ノ當日競馬場入口ニ於テ入場者一人ニ付一枚ヲ限リ發賣スルコトヲ得

前項ノ入場券ハ樣式第一號ニ依リ作成シ入場ノ際之ニ改鋏スヘシ

第十六條　學生生徒又ハ未成年者ニ對シ優勝馬投票入場券ヲ發賣スルコトヲ得ス

當該競馬ヲ開催スル團體ノ役員又ハ當該競馬ニ關スル開催執務委員、調教師、騎手、馬丁其ノ他競馬ノ事務ニ從事スル者ニ對シ亦前項ニ同シ

第十七條　優勝馬投票施行ノ競馬ノ主催者ハ優勝馬投票並景品券引換ニ關スル事項其ノ他觀覽者ノ心得ヘキ事項ヲ場内見易キ場所ニ掲示スヘシ

第十八條　優勝馬投票施行ノ競馬ニ在リテハ馬ニ番號ヲ附シ出場前下見所ニ於テ一般投票者ノ縱覽ニ供スヘシ

第十九條　優勝馬投票ノ受付ハ當該競走ニ參加スヘキ馬ノ確定シタル後之ヲ開始シ發走前之ヲ締切リ投票ノ成績ハ當該競走ニ參加スル馬ノ發走前ニ之ヲ見易キ場所ニ掲示スヘシ

第二十條　優勝馬投票的中者ニ對シテハ投票證ト引換ニ景品券一枚ヲ交付スヘシ

前項ノ景品券ニ表示スヘキ景品ノ價格ハ當該入場料ノ金額ヲ其ノ入場者ニ交付スヘキ優勝馬投票券ノ枚數ニテ除シテ得タル額ノ十倍ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ入場料ノ金額ヲ優勝馬投票券ノ枚數ニテ除シテ得タル額ハ二圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十一條　景品券ノ金額ハ當該競走ニ對スル優勝馬投票券總數ノ相當金額ヨリ百分ノ十五以内ヲ競馬施行ニ要スル費用トシテ控除シタル殘額ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

景品券ノ金額算出ニ於テ十錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツヘシ

第二十二條　優勝馬投票施行ノ競馬ノ主催者ハ各番組ノ競馬終了ノ都度投票數、的中數及景品券金額ヲ場内見易キ場所ニ掲示スヘシ

第二十三條　優勝馬投票入場券ノ發賣及景品券ノ交付ハ第一條ノ許可ヲ受ケタル者自ラ之ヲ爲スヘシ

第二十四條　優勝馬投票ハ競馬一競走ニ付一人一票ヲ超エテ之ヲ爲スコトヲ得ス

優勝馬投票ヲ爲サムトスル者ニハ當該競走毎ニ優勝馬投票所ノ入口ニ於テ入場券ニ改鋏シタル後其ノ競走番號ヲ表示シタル優勝馬投票券一枚ヲ交付スヘシ

前項ニ依リ交付ヲ受ケタル投票券ニ依ルニ非サレハ優勝馬投票ヲ爲スコトヲ得ス

優勝馬投票ヲ爲シタル者ニハ優勝馬投票券ト引換ニ樣式第二號ニ依ル投票證ヲ交付スヘシ

第二十五條　優勝馬投票入場券、優勝馬投票券及投票證ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第二十六條　優勝馬投票所及景品券交付所ハ競馬場内ニ之ヲ設ケ樣式第三號ニ準シ適當ナル設備ヲ爲スヘシ

第二十七條　景品券ノ引換所ハ競馬場内及其ノ出入口附近ニ之ヲ設クルコトヲ得ス

第二十八條　競馬開始後中止シタル場合ニハ一日施行シタルモノト看做ス但シ不可抗力ニ因ル中止ニシテ第十四條第二項ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　一番組ノ競走ヲ數回ニ分割施行スル場合ニハ各一回トシテ之ヲ計算ス

第三十條　競馬ヲ終了シタルトキハ二月以内ニ左ノ事項ヲ棒太廳長官ニ屆出ツヘシ

一　登錄馬數及入場馬數

二　各競走ニ於ケル第一着馬ノ名稱、種類、性、毛色、生年月日、特徴、體高、胸圍、管圍、産地、血統、競走距離、速度、負擔重量、所有者及騎手

三　等級別入場者數及等級別入場券發賣金額

四　各競走ニ於ケル優勝馬投票數、的中票數及景品券ニ表示シタル景品ノ價格

五　競馬施行ニ要シタル經費ノ收支決算

第三十一條　競馬施行ニ依リ得タル益金ハ馬ノ改良增殖及馬事思想ノ普及ノ經費ニ充當スヘシ

第三十二條　棒太廳長官公益上又ハ馬ノ改良增殖上必要アリト認ムルトキハ第一條ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ競馬場ノ設備ノ變更ヲ命シ其ノ他競馬ノ施行又ハ開催ニ關シ必要ナル事項ヲ命スルコトアルヘシ

第三十三條　第一條ノ許可ヲ受ケタル者解散シタルトキ又ハ競馬ヲ施行セサルニ至リタルトキハ直ニ棒太廳長官ニ屆出ツヘシ

第三十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ樺太廳長官ハ第一條ノ許可又ハ第十四條第一項ノ認可ノ取消、優勝馬投票ノ停止又ハ制限其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトアルヘシ

一　第一條ノ許可ヲ受ケタル者又ハ開催執務委員ノ行爲カ本則又ハ本則ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

二　公安又ハ風紀ノ維持上必要アリト認ムルトキ

第三十五條　觀覽者ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ警察官吏ニ於テ退場ヲ命スルコトヲ得

一　場内ノ秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スル虞アルトキ

二　濫リニ馬場内ニ立入リ競走ノ妨害ト爲ル虞アルトキ

第三十六條　優勝馬投票ニ依リ景品券ヲ發行スル競馬ニ付第一條ノ許可及第十四條第一項ノ認可ヲ受ケスシテ之ヲ開催シタル者ハ三月以下ノ徴役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ處ス

一　第十四條第一項ノ認可ヲ受ケスシテ優勝馬投票ニ依リ景品券ヲ發行スル競馬ニ非サル競馬ヲ開催シタル者

二　第十五條第一項ノ規定ニ違反シテ優勝馬投票入場券ヲ發賣シタル者

三　第十六條又ハ第二十四條第三項ノ規定ニ違反シタル者

四　第十六條第二項ニ掲クル者ニシテ優勝馬投票入場券ヲ購買シタルモノ

五　第二十條第一項ノ規定ニ違反スル金品ヲ交付シ又ハ同條第二項及第三項ノ制限ヲ超エタル景品券ヲ交付シタル者

六　第二十四條第一項ノ規定ニ違反シタル者

七　第二十四條第二項ノ規定ニ違反シテ優勝馬投票券ヲ交付シタル者

八　第二十五條ノ規定ニ違反シテ優勝馬投票入場券、優勝馬投票券及投票證ヲ讓渡シ又ハ讓受ケタル者

九　第三十一條ノ規定ニ違反シタル者

十　第三十二條ノ規定ニ依ル命令又ハ第三十四條ノ規定ニ依ル優勝馬投票ノ停止若ハ制限其ノ他ノ處分ニ從ハサル者

第三十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　第十五條第一項ノ規定ニ違反シテ發賣シタル優勝馬投票入場券ヲ情ヲ知リテ購買シタル者

二　情ヲ知リテ第二十條第一項ノ規定ニ違反スル金品ノ交付ヲ受ケ又ハ情ヲ知リテ同條第二項及第三項ノ制限ヲ超エタル景品券ノ交付ヲ受ケタル者

三　第三十條ノ規定ニ依ル屆出ヲ怠リ又ハ虚僞ノ屆出ヲ爲シタル者

四　第三十三條ノ規定ニ依ル屆出ヲ怠リタル者

五　審判員ノ職務執行ヲ妨害シタル者

六　第三十五條ノ命令ニ從ハサル者

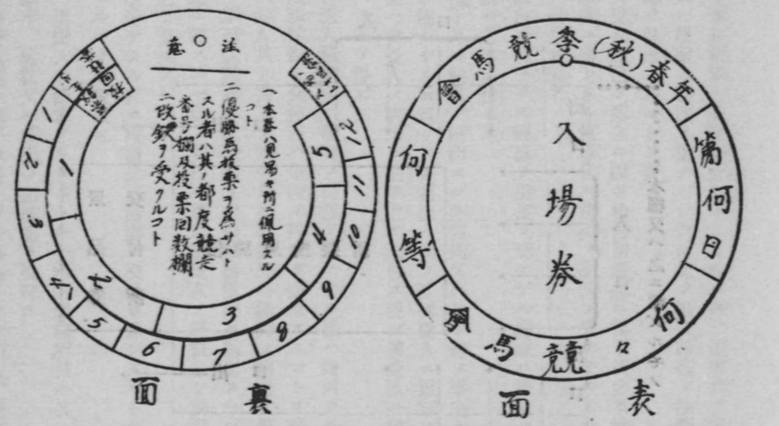
第三十九條　本則ハ祭典等ニ際シ專ラ娯樂ノ爲ニスル競馬ニ之ヲ適用セス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七條ニ該當セサル馬場ト雖事情已ムヲ得サルモノニ在リテハ當分ノ内右制限ニ依ラサルコトヲ得

樣式第一號　入場券雛形



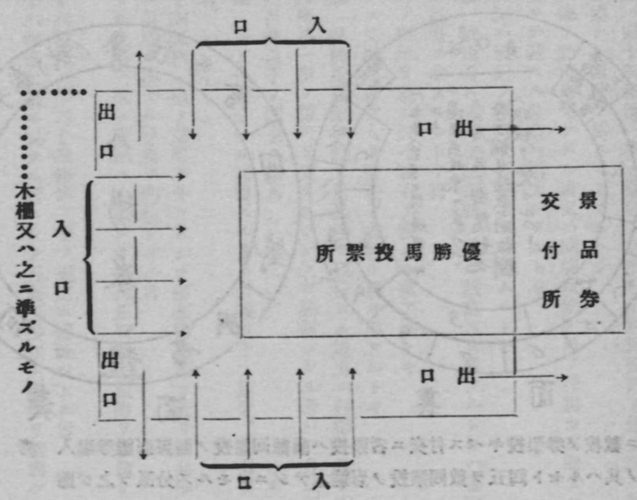
備考　入場券雛形裏面ノ投票回數欄ハ投票者ニ交付スベキ投票券ノ枚數ニ應ジ之ヲ區分スルモノニシテ本雛形ノ投票回數ヲ五回トセルハ其ノ一例ヲ示セルモノナリ

樣式第二號　投票證及其ノ控雛形

年春(秋)季競馬會	年春(秋)季競馬會
No.	No.
投票證控	投票證
何々競馬會	何々競馬會

備考　投票證及投票證控ノ下欄ニハ日附・競走番號・競走馬番號等ヲ表示スベシ

樣式第三號　優勝馬投票所設備例



●種畜種卵拂下規程

昭和五年六月十一日
廳令第二十七號

種畜種卵拂下規程左ノ通定ム

種畜種卵拂下規程

第一條　本令ニ於テ種畜ト稱スルハ種豚、種緬羊、種狐、種兎及種禽ヲ種卵トハ鷄卵ヲ謂フ

第二條　種畜又ハ種卵ハ農業者ヲ以テ組織シタル組合又ハ農業者ニ對シ本令ニ依リ樺太廳中央試驗所長(以下單ニ中央試驗所長ト稱ス)之ガ拂下ヲ爲スモノトス

中央試驗所長特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ニ規定スル以外ノ者ニ對シ種畜又ハ種卵ノ拂下ヲ爲スコトヲ得

第三條　拂下ク(キ種畜ノ種類、性、年齢、數量及價格ハ其ノ都度中央試驗所長之ヲ公告ス

種卵ハ當分ノ內無償ニテ隨時拂下ヲ爲ス

第四條　種畜又ハ種卵ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ニ依リ中央試驗所長ニ出願スヘシ但シ組合ニ在リテハ組合定款又ハ組合規約、收支豫算書、事業計劃書及拂受並事業遂行ニ關スル組合總會ノ決議錄ヲ添附スヘシ

前項種畜ノ拂下出願ニ在リテハ公告後一月以內ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　拂下ノ出願ヲ許可シタルトキハ種畜ニ在リテハ其ノ種類、性、年齢、數量、代金及其ノ納付期限並種畜引渡期限及場所種卵ニ在リテハ其ノ種類、數量並ニ引渡期限及場所ヲ定メ之ヲ出願者ニ通知ス

〔樺法〕

第六條　拂受人前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ受領書ト引替ニ種畜又ハ種卵ノ引渡ヲ受クベシ但シ此ノ場合種畜ノ拂受人ハ代金納付ノ證書ヲ呈示スルコトヲ要ス

第七條　拂受人自己ノ都合ニ因リ納付期限迄ニ拂下代金ヲ納付セス又ハ指定期限迄ニ拂下タル種畜又ハ種卵ノ引渡ヲ受ケサルトキハ拂下ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

指定期限內ニ拂下タル種畜ノ引渡ヲ受ケザル場合ニ於テハ既ニ納付シタル代金ハ之ヲ還付セス

第八條　拂下タル種畜、種卵ニシテ斃死又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引渡ヲ爲スコト能ハサルニ至リタル場合ハ其ノ旨拂受人ニ通知ス既ニ納付シタル代金ハ拂受人ノ請求ニ依リ之ヲ還付ス但シ拂受人ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ズ

第九條　拂受人種畜又ハ種卵ノ引渡ヲ受ケタル後ハ如何ナル事由アルモ代金ノ減額代物ノ交付若ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十條　拂受人其ノ拂下ヲ受ケタル種畜又ハ種卵ノ輸送ヲ委托セムトスルトキハ第三號書式ノ託送願ヲ中央試驗所長ニ提出スヘシ

前項輸送ニ要スル一切ノ費用ハ總テ拂受人ノ負擔トシ輸送ヲ引受ケタル者ニ之ヲ支拂フヘシ

輸送ヲ引受ケタル者ニ種畜又ハ種卵ノ交付ヲ爲シタルトキハ其ノ引渡ヲ了シタルモノト看做ス

第十一條　拂受人ノ請求アリタルトキハ中央試驗所長ハ其ノ拂下タル種豚、種緬羊、種狐又ハ種兎ノ血統書ヲ交付ス

第十二條　拂受人其ノ拂下ヲ受ケタル種畜ニシテ喪失、斃死又ハ撲殺、屠殺若ハ讓渡其ノ他ノ處分ヲシタルトキハ遲滯ナク中央試驗所長ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第十三條　種卵ノ拂受人ハ拂下ヲ受ケタル後二月以內ニ第四號書式ニ依リ孵化成績ヲ中央試驗所長ニ報告スヘシ

第十四條　本令ニ依リ中央試驗所長ニ差出スヘキ書類ハ總テ所轄町村役場及支廳ヲ經由スヘシ但シ種卵ノ拂下出願ニ關スル書類ハ此ノ限ニ在ラス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年五月樺太廳告示第九十七號樺太廳農事試驗場種畜種卵拂下規程ハ之ヲ廢止ス

第一號書式

種豚(種緬羊)(種狐)(種兎)(種禽)(種卵)拂下願

一　何種、何、何偶(牝又ハ牡何頭)(何番)(何箇)

右種畜種卵拂下規程ニ依リ御拂下相成度此段相願候也

年　月　日

住所
職業　氏名㊞

樺太廳中央試驗所長氏名殿

備考　團體ノ出願ニ在リテハ團體名及代表者氏名ヲ記スヘシ

第二號書式

受領書

一　何種、何、何偶(牝又ハ牡何頭)(何番)(何箇)

〔樺法〕

右御拂下相成正ニ受領候也

年　月　日　　住所　氏　名㊞

樺太廳中央試驗所物品會計官吏氏名殿

第三號書式

託送願

一　何種、何、何偶（牝又ハ牡何頭）（何番）（何箇）

右輸送ニ要スル費用ハ總テ到著拂ヲ以テ貴所御指定ノ運送業者ヘ引渡御託送相成度代金納付證相添此段相願候也

年　月　日　　住所　氏　名㊞

樺太廳中央試驗所長氏名殿

第四號書式

種卵孵化成績報告

一　抱卵ノ種類別箇數

一　孵化ノ種類別羽數

右及報告候也

年　月　日　　住所　氏　名㊞

樺太廳中央試驗所長氏名殿

●獸醫及蹄鐵工取締規則

大正九年七月三十日
廳令第十九號

獸醫及蹄鐵工取締規則

第一條　農商務大臣ノ免狀ヲ受ケタル獸醫又ハ蹄鐵工ニ非サレハ獸醫又ハ蹄鐵工ノ業ヲ營ムコトヲ得ス但シ第九條第一項ノ假免狀ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　獸醫又ハ蹄鐵工開業セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ免狀寫ヲ添ヘ所轄樺太廳支廳長ヲ經由シ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

一　本籍、住所、氏名及生年月日

二　開業ノ場所

第三條　左ノ場合ニ於テハ其ノ都度所轄樺太廳支廳長ヲ經由シ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

一　本籍、住所、氏名ニ異動ヲ生シタルトキ

二　開業ノ場所ヲ變更シ又ハ出張所ヲ設ケ若ハ之ヲ廢止シタルトキ

三　廢業シタルトキ

第四條　獸醫又ハ蹄鐵工ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ業務ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ムコトヲ得ス

第五條　獸醫ハ處方錄ヲ備ヘ左記ノ各事項ヲ詳記シ五年以上之ヲ保存スヘシ

一　患畜ノ所有者又ハ管理者ノ住所、氏名

二　患畜ノ畜種及種類

三　患畜ノ性、年齢、毛色、特徴

四　稟告及既往症

五　病因、病名

六　疾病ノ經過

七　處方

處方錄ハ當該官吏若ハ吏員ヲシテ檢閲セシムルコトアルヘシ

第六條　獸醫ハ藥價、診察料及施術料蹄鐵工ハ剪蹄料及裝蹄料其ノ他業務ニ關スル料金ヲ定メ依頼者ノ睹易キ場所ニ掲示スヘシ

第七條　樺太廳長官ハ獸醫又ハ蹄鐵工本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シ若ハ其ノ業務ニ關シ犯罪行爲アリタルトキハ其ノ業務ヲ停止若ハ禁止スルコトアルヘシ

農商務大臣ヨリ獸醫業ヲ停止セラレタル者ハ其ノ期間樺太廳長官ヨリ業務ヲ停止セラレタルモノト看做ス

第八條　免狀ヲ有セスシテ獸醫若ハ蹄鐵工ノ業ヲ營ミ又ハ第七條ノ禁止若ハ停止ノ命令ニ違反シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　樺太廳長官ハ土地ノ狀況ニ依リ第一條本文ノ資格ヲ有セサル者ト雖モ出願者ノ履歴ニ依リ又ハ試驗施行ノ上營業區域及年限ヲ定メ獸醫又ハ蹄鐵工假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

附　則

本令ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ開業セル者ニシテ尙之ヲ繼續セムトスル者ハ本令施行ノ日ヨリ一月以内ニ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

●公獸醫規程

大正十三年十月三日
廳令第三十四號

公獸醫規程左ノ通改正ス

公獸醫規程

第一條　樺太ニ公獸醫ヲ置ク

第二條　公獸醫ノ配置場所及受持區域ハ告示ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　公獸醫ハ樺太廳長官之ヲ命免シ支廳長之ヲ監督ス

第四條　公獸醫ニハ月額六十圓以内ノ補助金ヲ支給ス

第五條　公獸醫ハ配置セラレタル地ニ居住シ獸醫ノ業務ヲ營ムコトヲ要ス但シ蹄鐵工ヲ兼ネ營ムコトヲ得

第六條　公獸醫ハ官廳ノ命ニ依リ左ノ事項ヲ擔任スヘシ但シ時宜ニ依リ受持區域外ニ於ケル事項ヲ擔任セシムルコトアルヘシ

一　家畜ノ傳染病ニ關スル事項

二　家畜ノ檢屍ニ關スル事項

三　家畜ノ去勢ニ關スル事項

四　種牡牛馬及貸付家畜並補助家畜ノ監督ニ關スル事項

五　前各號ノ外家畜ノ衞生及畜産ニ關シ特ニ命セラレタル事項

第七條　公獸醫ハ受持區域内ニ於テ家畜ノ傳染病發生シタルトキハ速ニ現場ニ出張シ消毒豫防ノ方法ヲ指示シ且所轄警察官署ニ通知スヘシ

第八條　公獸醫ハ受持區域内ニ於ケル家畜衞生及畜産ニ關スル事項ヲ觀察研究シ意見ヲ具シ樺太廳長官ニ報告スヘシ其ノ概目左ノ如シ

一　家畜ノ衞生ニ關スル事項

二　屠畜ニ關スル事項
三　家畜ノ繁殖育成ニ關スル事項
四　家畜ノ飼料ニ關スル事項
五　共同放牧地ニ關スル事項
六　前各號ノ外家畜ノ衛生及畜産ニ關スル事項

第九條　公獸醫ハ左記各號ノ事項ニ就キ毎月執務報告ヲ作製シ翌月五日迄ニ樺太廳長官ニ報告スヘシ但シ緊急ヲ要スルモノハ臨時即報スヘシ

一　第六條及第八條ニ揭ケタル事項
二　診療シタル患畜ノ病類別頭數
三　貸付家畜又ハ補助家畜ヲ診斷シ若ハ檢案シタルトキハ其ノ病因或ハ其ノ推定、平素ノ飼養管理ノ狀況或ハ其ノ良否ノ推定

第十條　公獸醫ハ診斷料、手術料、藥價及蹄鐵料等ヲ定メ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十一條　公獸醫ニハ治療用器具機械ヲ貸與スルコトアルヘシ

第十二條　公獸醫ハ左ノ場合ニ於テハ所轄支廳長ノ認可ヲ受クヘシ

一　出張所ヲ設置セムトスルトキ
二　私事ノ爲旅行セムトスルトキ
三　病氣其ノ他ノ事故ニ依リ休業セムトスルトキ

出張所ヲ廢止シタルトキハ所轄支廳長ニ屆出ツヘシ

第十三條　公獸醫ニシテ病氣又ハ私事ノ故障ニ因リ休業スルコト三十日ヲ踰ユルトキハ補助金ヲ半減シ六十日ヲ踰ユルトキハ之ヲ停止ス

此ノ場合ニ於テ補助金ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十四條　本令ニ依リ樺太廳長官ニ差出ス書類ハ所轄支廳ヲ經由スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●公獸醫配置場所及受持區域

大正十三年八月十日
告示第百三十二號

改正　大一四年五月告示八八號、一五年五月九〇號、昭二年一一月二〇六號、三年一一月二四一號、四年一二月二六四號、五年六月一〇九號、九月一七四號、六年九月一七六號、七年一月二號、八年五月九一號、九月一八一號

公獸醫配置場所及受持區域左ノ通改正ス

公獸醫配置場所及受持區域

配置場所	受持區域
豐原郡豐原町大字豐原	豐原郡一圓但シ豐北村大字深雪、富岡ヲ除ク
榮濱郡落合町大字落合	榮濱郡一圓及豐原郡豐北村大字深雪、富岡
大泊郡大泊町大字大泊	大泊郡一圓
富內郡富內村大字喜美內	富內郡一圓
長濱郡遠淵村大字遠淵	長濱郡一圓

〔樺法〕

留多加郡留多加町大字留多加字本町	留多加郡三鄕村及留多加町（內大字河西字南豐榮、大豐及大字河東字北豐榮ヲ除ク）
留多加郡留多加町大字河西字大豐	留多加郡留多加町大字河西字北豐榮、南豐榮、大豐及大字河東
留多加郡能登呂村大字雨龍字雨龍	留多加郡能登呂村
本斗郡內幌村大字內幌	本斗郡一圓
眞岡郡眞岡町大字眞岡	眞岡郡一圓
野田郡野田町大字野田	野田郡一圓
泊居郡泊居町大字泊居	泊居郡一圓但シ名寄村ヲ除ク
久春內郡久春內村大字久春內	久春內郡一圓及泊居郡名寄村
鵜城郡鵜城村大字鵜城	鵜城郡一圓
名好郡惠須取町大字惠須取	名好郡惠須取町
名好郡名好村大字名好	名好郡名好村一圓
元泊郡元泊村大字元泊	元泊郡元泊村及帆寄村
元泊郡知取町大字知取	元泊郡知取町
敷香郡敷香町大字敷香	敷香郡敷香町及內路村
敷香郡泊岸村大字新岡	敷香郡泊岸村

〔樺法〕

第十五類　鑛　業

第十五類　鑛業

○鑛業法〔明三八、法四五〕……一
○鑛業法施行細則〔大元、廳令二〕……一〇
○鑛業法施行細則及砂鑛法施行細則ニ依ル鑛區圖ノ縮尺ヲ調製スヘキ地域〔昭四、告示一〕……三七
○石油試掘補助金交付規則〔昭四、廳令五〕……三七
○樺太ニ於ケル鑛業砂鑛業免許漁業ノ登錄ニ關スル件〔大一〇、勅一七二〕……四〇
○鑛業登錄令〔明三八、勅一八三〕……四一
○鑛業登錄令施行細則〔明四五、廳令二二〕……四九
○鑛業抵當法〔明三八、法五五〕……五八
○砂鑛法〔明四二、法一三〕……五九
○砂鑛法施行細則〔大元、廳令三〕……六二
○砂鑛業ノ登錄ニ關スル細則〔明四五、廳令二三〕……七二
○樺太ニ於ケル石炭ノ探掘ニ關スル件〔明四五、法二三〕……七五
○樺太ニ於ケル石炭探掘ノ許可ニ關スル件〔明四五、勅一三七〕……七五
○樺太ニ於テ石炭探掘ニ付探掘料ヲ徵收スヘキ區域〔明四五、閣令二〕……七七
○明治四十五年法律第二十三號ニ依ル石炭探掘競爭入札ニ關スル件〔明四五、閣訓拓一〕……七七

〔樺法〕

○明治四十五年法律第二十三號ニ依ル石炭探掘ニ關スル件〔明四五、廳令二四〕……七七
○海綠石ヲ含ム土石採取禁止ニ關スル件〔昭三、廳令三五〕……七九
○樺太ニ於ケル鑛業砂鑛業又ハ漁業ニ關スル手數料ノ件〔大九、勅二五六〕……七九
○鑛業及砂鑛業ノ出願申請及登錄手數料〔明四五、廳令一九〕……八〇
○鑛夫雇傭勞役扶助規則〔昭四、廳令三八〕……八二
○鑛業警察規則〔昭四、廳令三七〕……九〇
○大正二年鑛業警察規則〔大二、廳令四一抄錄〕……一〇六
○鑛業用地使用料標準〔大一五、廳議決定〕……一〇七
○鑛區地名表示ニ關スル件〔大五、廳議決定〕……一〇七
○鑛物調査出張員心得〔大四、廳議決定〕……一〇七

第十五類　鑛業

●鑛業法

明治三十八年三月八日
法律第四十五號

改正　明四〇年四月法律四一號、四三年三月一〇號、四四年三月九號、大一三年七月二二號、昭二年三月三六號、六年七月六五號、九年三月三七號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル鑛業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總、農、大、大臣副署）

鑛業法

第一章　總則

第一條　本法ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ試掘、採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條　本法ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、蒼鉛鑛、錫鑛、亞眞母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿俺鑛、重石鑛、水鉛鑛、砒鑛、ニツケル鑛、コバルト鑛、燐鑛、黑鉛、石炭、亞炭、石油、土瀝青、硫黄、石膏及重晶石ヲ謂フ但シ砂鑛ハ此ノ限ニ在ラス

含油層ト密接ノ關係アル可燃質天然瓦斯ハ之ヲ石油ト看做ス但シ工業用其ノ他ノ營利ヲ目的トセスシテ單ニ一家ノ自用ニ供スルモノニハ本法ヲ適用セス

第三條　未タ掘採セサル鑛物（廢鑛及鑛滓ヲ含ム）ハ國ノ所有トス

第四條　本法ニ於テ鑛業權ト稱スルハ試掘權及採掘權ヲ謂フ

鑛業權者ハ鑛區ニ於テ其ノ許可ヲ受ケタル鑛物ヲ掘採シ及之ヲ取得スル權利ヲ有ス但シ鑛區ノ重複シタル場合ニ於テハ鑛業權者ハ互ニ其ノ權利ヲ制限セラル

第五條　帝國臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ成立シタル法人ニ非サレハ鑛業權者トナルコトヲ得ス

第六條　本法ニ規定シタル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス

本法ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人、鑛業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七條　二人以上共同シテ鑛業ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サムトスルトキハ內一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ鑛山監督局長ニ屆出ヘシ其ノ屆出ナキトキハ鑛山監督局長之ヲ指定ス

代表者ハ國ニ對シ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ヲ代表ス

共同鑛業出願人又ハ鑛業權者ハ組合契約ヲ爲シタル者ト看做ス

第八條　本法ニ於テ鑛夫ト稱スルハ鑛業ニ從事スル勞役者ヲ謂フ

第九條　本法ニ於テ鑛區ト稱スルハ鑛業權ノ登錄ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ面積ハ石炭ニ在リテハ五萬坪以上其ノ他ノ鑛物ニ在リテハ五千坪以上トシ共ニ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス但シ鑛利保護上又ハ鑛區分合上已ヲ得サル場合ニハ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得

同一ノ鑛區ニ於テハ二以上ノ鑛業權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ目的異種ノ鑛物ナルトキ及第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條　宮城、離宮、神宮及皇陵ノ周圍三百間以內並要塞地帶第一區內ノ場所ハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

陸海軍所轄ノ軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以內並要塞地帶第二區及第三區內ノ場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

前二項ニ揭ケタル場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十一條　鐵道、軌道、道路、運河、河湖、沼池、堤塘、社寺境內地、墓地、公園地其ノ他ノ營造物及建物ノ地表地下トモ其ノ周圍三十間以內ノ場所ニ於テハ所轄官廳ノ許可、所有者及關係人ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ鑛業ヲ爲スコトヲ得ス但シ所有者及關係人ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條　鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正、增減及改正ノ出願ニ付テハ鑛業ノ出願ニ關スル規定ヲ準用ス

第十三條　本法ニ於テ鑛業稅ト稱スルハ鑛區稅及鑛產稅ヲ謂フ

第十四條　本法ハ第八章ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

第十四條ノ二　主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依ル職權ノ一部ヲ鑛山監督局長ニ委任スルコトヲ得

第二章　鑛業權

第十五條　鑛業權ハ物權トシ不動產ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民法第百七十九條第一項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　鑛業權ハ不可分トス

第十七條　鑛業權ハ相續、讓渡、滯納處分及强制執行ノ目的タルノ外權利ノ目的タルコトヲ得ス但シ採掘權ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

第十八條　試掘權ノ存續期間ハ登錄ノ日ヨリ二箇年トス

前項ノ期間ハ鑛區ノ增減又ハ改正ノ爲變更セラルルコトナシ

第十九條　鑛業權及抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅並處分ノ制限ハ鑛業原簿ニ登錄ス共同鑛業權者ノ脫退ニ付テモ亦同シ但シ鑛業權ノ處分ヲ制限セラレタルトキハ廢業ノ登錄ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ登錄ハ登記ニ代ルモノトス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　前條第一項ニ揭ケタル事項ハ相續、期限ノ到來ニ因ル鑛業權ノ消滅並第四十二條及第四十三條ノ競賣ノ場合ヲ除クノ外登錄ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十一條　鑛業ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ試掘ニ付テハ鑛山監督局長、採掘ニ付テハ主務大臣ニ出願スヘシ

第二十二條　鑛業出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ試掘ニ付テハ鑛山監督局長、採掘ニ付テハ主務大臣ニ屆出ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十三條　採掘出願人ハ出願地ニ其ノ採掘セムトスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第二十四條　主務大臣ニ於テ試掘出願地採掘ニ適スルモノト認メタルトキハ採掘ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以內ニ採掘ノ出願ヲ爲サルトキハ試掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

前二項ノ規定ハ主務大臣ニ於テ採掘出願地仍試掘ヲ要スルモノト認メタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條　採掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損ス

〔樺法〕

ルモノト認メタルトキハ主務大臣ハ其ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以內ニ訂正ノ出願ヲ爲サルトキハ採掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

第二十六條　採掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ採掘出願人ハ其ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得

第二十七條　鑛業出願人ハ出願地ノ增減ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條　試掘出願地出願ノ當時鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス

第二十九條　採掘出願地出願ノ當時他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ採掘出願人ハ優先權ヲ有ス

第三十條　採掘出願地他人ノ試掘出願地ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス但シ第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　鑛業出願地他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ異種ノ鑛物ナルトキハ鑛山監督局長ハ之ヲ鑛業權者ニ通知スヘシ

鑛業權者ハ前項ノ通知書到達ノ日ヨリ六十日以內ニ自ラ其ノ鑛業ヲ出願スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第三十六條及豫メ鑛業權者ノ承諾ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セス

第一項ノ出願他人ノ鑛業ニ妨害アリト認メタルトキハ之ヲ許可セス

第三十二條　公益ヲ害スルモノト認メタルトキ又ハ鑛業ノ慣値ナシト認メタルトキハ鑛業ノ出願ヲ許可セス

第三十三條　試掘出願地又ハ採掘出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ願書發送ノ日時ノ先ナル者優先權ヲ有ス願書發送ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督局長ハ之ヲ各出願人ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テハ出願人ハ其ノ通知書發送ノ日ヨリ六十日以內ニ協議ヲ調ヘ之ヲ屆出ヘシ

出願人前項ノ屆出ヲ爲ササルトキハ抽籤ニ依リ優先權者ヲ定ム

前二項ノ規定ハ第二十五條、第二十六條、第三十一條第二項及第三十六條ノ場合ニハ之ヲ適用セス

試掘出願地採掘出願地ト重複スル場合ニ於テ願書發送ノ日時同一ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ採掘出願人ハ優先權ヲ有ス

第三十三條ノ二　試掘權者試掘權ノ存續期間滿了後十日以內ニ同種ノ鑛物ニ付更ニ鑛業ノ出願ヲ爲シタルトキハ舊試掘鑛區ニ係ル部分ニ付テハ他ノ出願人ニ對シ優先權ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ他人ノ出願ノ目的異種ノ鑛物ナルトキハ第三十一條ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ前項ノ出願ヲ爲シタル者ヲ以テ鑛業權者ト看做ス

第三十四條　試掘出願人同種ノ鑛物ニ付更ニ採掘ノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テ出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ採掘ノ出願ハ試掘願書發送ノ日時ニ於テ試掘ノ出願ニ代リタルモノト看做ス但シ第三十三條第四項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項本文ノ規定ハ採掘出願人同種ノ鑛物ニ付更ニ試掘ノ出願ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ第二十四條及第二十五條ノ場合ニ於ケル期限經過後ノ

〔樺法〕

出願ニ之ヲ適用セス

第三十五條　採掘權者ハ鑛區ノ合併又ハ分割ヲ主務大臣ニ出願スルコトヲ得鑛區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ合併セムトスルトキ亦同シ

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ前項ノ出願ヲ爲サムトスルトキハ抵當權者ノ承諾及抵當權ノ順位ニ關スル協定ヲ經ヘシ

第三十六條　鑛業權者ハ鄰接鑛區ノ鑛業權者及抵當權者ノ承諾ヲ得タルトキハ其ノ鑛區ニ掘進スル爲增區ヲ出願スルコトヲ得

鑛床ノ位置形狀ニ依リ鄰接鑛區ニ掘進スルニ非サレハ鑛利ヲ保護スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ鑛業權者ノ承諾ヲ得テ鑛區ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鑛業權者ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

前二項ノ出願ヲ爲サムトスル者ハ其ノ願書ニ鑛區圖ノ外鑛床圖ヲ添附スヘシ

前項ノ鑛床圖ハ之ヲ鑛區圖ノ一部ト看做ス

第三十七條　第二十五條第一項、第二十六條、第二十七條及第三十三條第三項ノ規定ハ之ヲ鑛區ニ準用ス

第二十五條第一項ニ該當スル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以內ニ出願ヲ爲ササルトキハ主務大臣ハ採掘權ヲ取消スヘシ

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルトキハ豫メ抵當權者ノ承諾ヲ經ヘシ

第三十八條　錯誤ニ因リ鑛業ノ出願ヲ許可シタルトキハ主務大臣ハ鑛區ノ改正ヲ命シ又ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

前項ノ改正ヲ命シタル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以內ニ出願ヲ爲ササルトキハ主務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第三十九條　鑛業公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ主務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第四十條　鑛業權者正當ノ理由ナクシテ登錄ノ日ヨリ一箇年以內ニ事業ニ著手セス若ハ一箇年以上休業シタルトキ又ハ施業案ニ依ラスシテ採掘ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第四十一條　鑛業權者第七十二條ノ命令ニ從ハサルトキ又ハ鑛業稅ヲ納メサルトキハ主務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第四十二條　採掘權取消ノ登錄アリタルトキハ鑛山監督局長ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ

抵當權者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ採掘權ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ第三十八條第一項及第三十九條ノ規定ニ依ル採掘權取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

採掘權ハ前項ノ期間內又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍內ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競賣ニ依ル賣得金ハ競賣ノ費用及抵當權者ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

競買人ハ採掘權取消ノ登錄アリタル時ニ於テ採掘權ヲ讓受ケタルモノト看做ス

第四十三條　前條ノ規定ハ採掘權者廢業シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條　採掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ施業案ヲ鑛山監督局長ニ差出スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

採掘權者ハ施業案ニ依ルニ非サレハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス

〔樟法〕

第四十五條　鑛山監督局長ハ理由ヲ示シテ施業案ノ變更ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ變更シタル施業案ハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第四十六條　採掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ坑內實測圖及鑛業簿ヲ鑛業事務所ニ備置キ且其ノ複本ヲ鑛山監督局長ニ差出スヘシ

第四十七條　鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛業ニ關スル明細表ヲ鑛山監督局長ニ差出スヘシ

第四十八條　試掘ニ依リテ得タル鑛產物ハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第四十九條　鄰接鑛業權者其ノ他ノ利害關係人ハ他人ノ鑛區ニ付鑛山監督局長ニ其ノ實地調査ヲ出願スルコトヲ得

出願人ハ前項ノ調査ニ要スル人夫及物品ヲ供スヘシ

第三章　土地使用

第五十條　本章ニ於テ關係人ト稱スルハ第五十二條乃至第五十四條及第五十六條ノ通知前使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ

第五十一條　本章ニ於テ補償金ト稱スルハ對價、使用料其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ニ對スル補償金ヲ總稱ス

第五十二條　鑛業ノ出願又ハ鑛業ノ爲必要アルトキハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人又ハ鑛業權者ハ鑛山監督局長ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入リ測量又ハ檢査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ許可ヲ得タル者他人ノ土地ニ立入ラムトスルトキハ豫メ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十三條　前條ノ規定ニ依ル測量又ハ檢査ノ爲必要アルトキハ鑛山監督局長ノ許可ヲ得テ障碍物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ許可ヲ得タル者障碍物ヲ除却セムトスルトキハ豫メ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第五十四條　鑛業上急迫ノ危險ヲ防ク爲必要アルトキハ鑛業權者ハ鑛山監督局長ノ許可ヲ得テ直ニ他人ノ土地ニ立入リ又ハ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ遲滯ナク之ヲ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十五條　前三條ニ依リ所有者及關係人ノ受ケタル損失ニ對シテハ其ノ請求ニ因リ補償金ヲ拂渡スヘシ

第五十六條　鑛業權者ハ左ニ掲クル目的ノ爲必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

一　錐鑽孔又ハ坑口ノ開穿

二　鑛物、土石、爆發藥、用材、薪炭、鑛滓又ハ灰燼ノ置場ノ設置

三　選鑛場又ハ製錬場ノ建設

四　鐵道、軌道、道路、運河、溝渠、管樋、池井、索道又ハ電線ノ開設

五　其ノ他鑛業上必要ナル工事又ハ工作物ノ施設

前項ノ規定ニ依リ鑛業權者他人ノ土地ヲ使用セムトスルトキハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受クヘシ

鑛山監督局長前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

〔樟法〕

前項ノ通知ノ後鑛業權者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

第五十七條　土地ノ使用三箇年以上ニ亘ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキハ所有者ハ其ノ敢用ヲ請求スルコトヲ得

第五十八條　土地ノ一部ヲ敢用スルニ因リテ殘地ヲ從來用ヰタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ敢用ヲ請求スルコトヲ得

第五十九條　土地ヲ使用又ハ敢用スルトキハ土地所有者及關係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十條　土地ノ一部ヲ使用又ハ敢用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十一條　土地ヲ使用又ハ敢用スルニ因リテ通路、溝渠、墻柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、增築又ハ修繕ヲ爲スノ必要ヲ生スルトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十二條　第五十六條ノ通知ノ後土地ノ形質ヲ變更シ工作物ノ新築、改築、增築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加增置セムトスルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケスシテ之ヲ爲シタル者ハ之ニ關スル補償金ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十三條　第五十六條ノ通知ノ後事業ヲ廢止又ハ變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ニ對シ鑛業權者ハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十四條　土地所有者及關係人ハ鑛業權者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第六十五條　土地ノ使用又ハ敢用ノ協議調ヒ裁決確定シ又ハ判決アリタルトキハ補償金又ハ擔保ノ裁決確定セサルトキト雖鑛業權者ハ其ノ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ土地ヲ使用又ハ敢用スルコトヲ得

第六十六條　鑛業權者補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ウルコトヲ拒ムコトヲ得

第六十七條　土地ヲ敢用スルトキハ敢用ノ時期ニ於テ所有權ハ鑛業權者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ鑛業權者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條　土地ノ使用ヲ終リタルトキハ鑛業權者ハ土地ヲ原狀ニ復シ又ハ原狀ニ復セサルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シテ之ヲ返還スヘシ

第六十九條　先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ使用又ハ敢用ニ因リテ債務者ノ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第七十條　土地ノ使用及敢用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利ニ之ヲ準用ス

第四章　鑛業警察

第七十一條　鑛業ニ關スル左ノ警察事務ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣及鑛山監督局長之ヲ行フ

一　壓殺物及工作物ノ保安

二　生命及衞生ノ保護

三　危害ノ豫防其ノ他公益ノ保護

第七十二條　鑛業上危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキハ主務大臣ハ鑛業權者ニ其ノ豫防又ハ鑛業ノ停止ヲ命スヘシ

急迫ノ危險ヲ防ク爲必要アルトキハ鑛山監督局長ハ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第七十三條　主務大臣ハ採掘權者ニ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ改任ヲ命スルコトヲ得

管理者ノ資格及職務ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十四條　鑛業權消滅シタル後ト雖一箇年間ハ主務大臣及鑛山監督局長ハ第七十二條ノ規定ニ準シ其ノ鑛業權ヲ有セシ者ニ對シテ危害豫防ニ關スル設備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ危害豫防ノ目的ノ範圍內ニ於テ鑛業權者ト看做ス

第五章　鑛夫

第七十五條　採掘權者ハ鑛夫ノ雇傭及勞役ニ關スル規則ヲ定メ鑛山監督局長ノ許可ヲ受クヘシ

第七十六條　鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ

第七十七條　鑛業權者鑛夫ヲ解雇シタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ因リ雇傭ノ期間、業務ノ種類、技能、賃金及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

第七十八條　鑛業權者ハ每月一回以上期日ヲ定メ通貨ヲ以テ鑛夫ニ其ノ賃金ヲ支拂フヘシ

第七十九條　主務大臣ハ命令ヲ以テ鑛夫ノ年齡及就業時間並婦女、幼者ノ勞役ノ種類ヲ制限スルコトヲ得

第八十條　鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ鑛夫カ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ

第六章　鑛業稅

第八十一條　鑛業權者ニハ鑛業稅ヲ課ス

金鑛、銀鑛、鉛鑛及鐵鑛ニ付テハ鑛產稅ヲ課セス

自己ノ掘採シタル鑛物ト他人ヨリ取得シタル鑛物トヲ合併シ製鍊スル場合ニ於テ其ノ取得鑛物ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テモ亦前項ニ同シ但シ其ノ取得鑛物ノ數量カ自己ノ掘採シタル鑛物ノ數量ニ超過スルトキハ其ノ超過部分ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條　鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅及營業收益稅ヲ課セス

第八十三條　鑛區稅ハ鑛區一千坪每ニ每年試掘ニ付テハ三十錢、採掘ニ付テハ六十錢トス但シ一千坪未滿ハ之ヲ一千坪ト看做ス

第八十四條　鑛區稅ハ每年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ

第三十五條第一項ニ依ルモノヲ除クノ外鑛業權ノ設定若ハ變更ノ登錄ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル鑛區稅ニシテ其ノ登錄ノ年ニ係ルモノハ之ヲ即納スヘシ

前項ニ依リ納付スヘキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス鑛業權ノ有效期間滿了ノ年ニ係ルモノ亦同シ

第八十五條　鑛產稅ハ鑛產物ノ價格ノ千分ノ五トス

鑛產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ主務大臣之ヲ告示ス其ノ告示セサルモノハ之ヲ檢定ス

第八十六條　鑛產稅ハ每年三月中ニ前年分ヲ納付スヘシ但シ鑛業權消滅ノ場合ニ於テハ卽納スヘシ

第八十七條　共同鑛業權者ノ納稅義務ハ連帶トス

第八十八條　北海道、府縣及市町村ハ鑛業稅ニ對シ各左ノ制限內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

一　北海道、府縣

試掘鑛區稅	千分ノ三十
採掘鑛區稅	千分ノ七十
鑛產稅	千分ノ二百

二　市町村

試掘鑛區稅	千分ノ三十
採掘鑛區稅	千分ノ七十
鑛產稅	千分ノ千二百

前項ノ附加稅ノ外北海道、府縣及市町村ハ鑛業ニ對シ又ハ鑛夫、鑛產物、鑛區若ハ直接鑛業用ノ工作物、器具、機械ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ北海道及沖繩縣ノ區域(間切島)其ノ他町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第七章　訴願、訴訟及裁決

第八十九條　鑛業ニ關スル出願ノ許可又ハ拒否ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十條　第十一條又ハ第三十六條ノ承諾ヲ拒マレタル者及其ノ承諾ヲ得ルコト能ハサル者ハ鑛山監督局長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十一條　鑛業權ノ取消ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十二條　土地ノ使用若ハ收用、補償金又ハ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ鑛業權者ハ鑛山監督局長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決中土地ノ使用又ハ收用ニ付不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ裁決中補償金又ハ擔保ニ付不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十三條　處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケサル者ニ付テハ其ノ公示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第八章　罰則

第九十四條　鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ掘採シタル者又ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ鑛業權ヲ得タル者ハ二年以下ノ(軍禁錮)又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

過失ニ因リ鑛區外ニ侵掘シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條　前條ノ場合ニ於テハ其ノ掘採シタル鑛物ヲ沒收ス既ニ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徵ス

第九十六條　第十條第三項若ハ第十一條ノ規定ニ違背シタル者又ハ第七十二條若ハ第七十四條第一項ノ命令ニ從ハサル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條　第四十四條若ハ第四十五條第二項ノ規定ニ違背シタル者、第四十五條第一項若ハ第七十三條第一項ノ命令ニ從ハサル者又ハ第七十九條若ハ第八十條ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ハ百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十八條　第四十六條乃至第四十八條、第七十六條又ハ第七十八條ノ規定ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條　第五十三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ障碍物ヲ除却シタル者又ハ第七十五條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

當該官吏ニ對シテ鑛業ニ關スル書類又ハ物件ノ檢査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタル者ハ罰前項ニ同シ但シ其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第百條　第七十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百一條　詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ鑛業稅ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ其ノ脫稅金額三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第百二條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ニハ刑法ノ減輕、(再犯加重及數罪俱發)ノ例ヲ用ヰス

第百三條　鑛業權者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ鑛業權者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ鑛業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百四條　鑛業權者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

本法ニ基キテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ命令ニ規定セル罰則ニ付テモ亦同シ

第百五條　前二條ノ場合ニ於テハ禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第百六條　明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

第百七條　本法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

鑛業條例ハ之ヲ廢止ス

第百八條　鑛業條例ニ依ル試掘ノ認可ハ試掘權ノ登錄ト看做ス

第百九條　日本坑法ニ依ル借區ノ許可及鑛業條例ニ依ル採掘ノ特許ハ採掘權ノ登錄ト看做ス但シ鑛業條例第四十一條第二項ニ定メタル面積ニ滿タサル鑛區ニ對スルモノハ其ノ期限ノ到來ニ因リテ消滅ス

第百十條　本法施行前ニ於ケル官廳所屬ノ採掘區域ハ採掘鑛區トシ本法施行ノ日ニ於テ採掘權ノ登錄ヲ得タルモノト看做ス

第百十一條　鑛業條例ニ依ル採掘權ノ書入ノ登錄ハ抵當權ノ登錄ト看做ス

第百十二條　第七十四條ノ規定ハ本法施行前ニ試掘認可又ハ採掘特許ノ消滅シタル場合ニモ之ヲ適用ス但シ一箇年ノ期間ハ其ノ消滅ノ日ヨリ

之ヲ起算ス

第百十三條　日本坑法ニ依リ借區ノ許可ヲ得タル者及鑛業條例ニ依リ試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得タル者ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ明治三十八年分ノ鑛區稅又ハ其ノ不足額ヲ納付スヘシ其ノ鑛區稅ハ月割ヲ以テ計算ス

第百十四條　明治三十八年分ノ鑛產稅ハ本法施行前ニ得タル鑛產物ニ付テモ之ヲ課ス

第百十五條　第八十八條ノ規定ハ明治三十八年度分ノ稅ニ限リ之ヲ適用セス

第百十六條　鑛業條例ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ地ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第百十七條　本法施行前ニ爲シタル處分ニ對スル訴願、裁定請求、行政訴訟又ハ民事訴訟ニ關シテハ鑛業條例ノ規定ニ依ル

第百十八條　鑛業條例ニ依リ試掘又ハ採掘ヲ出願シタル鑛區ノ面積ニ付テハ鑛業條例第四十一條第二項ノ規定ヲ適用ス

第百十九條　明治三十七年十二月三十一日以前ヨリ引續キ重石鑛又ハ水鉛鑛ヲ掘採スル者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ鑛物採掘ノ特許ヲ出願スルトキハ其ノ掘採區域ニ限リ第三十一條、第三十三條及鑛區ノ面積ニ關スル第九條ノ規定ニ拘ラス特許ヲ與フヘシ

前項ノ掘採者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ特許ヲ出願シタル者ハ其ノ指令ノ日迄本法ノ規定ニ拘ラス其ノ掘採ヲ繼續スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ特許ヲ得タル區域ノ面積五千坪未滿ナル場合ニ於テハ其ノ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス

第百二十條　明治三十九年十二月三十一日以前ヨリ引續キ第二條第二項ノ可燃質天然瓦斯ヲ採掘スル者ハ同條同項但書ニ該當セサル場合ト雖明治四十年六月三十日迄ニ其ノ旨鑛山監督局長ニ屆出ルトキハ其ノ屆出ニ係ル坑井ヨリ噴出スル可燃質天然瓦斯ニ限リ本法ヲ適用セス

附　則（昭和六年法律第六十五號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和七年勅令第三百五十二號ヲ以テ昭和七年分ノ鑛業稅及之ニ對スル附加稅ヨリ之ヲ施行ス）

●鑛業法施行細則

大正元年八月七日
廳令第二號

改正　大二年一一月廳令四二號、六年一月二號、八月一七號、八年四月一〇號、一一年二月一四號、一二月七二號、昭四年一月一號、一一月三九號

鑛業法施行細則

第一條　願書、申請書、屆書及圖面ハ一件毎ニ之ヲ調製シ樣式ノ定アルモノニ付テハ其ノ樣式ニ準スヘシ

前項ノ書面又ハ圖面ハ樺太廳支廳長及町村長ヲ經由セス直ニ樺太廳長官ニ差出スヘシ

第二條　樺太廳長官ニ差出シタル書面圖面又ハ標品ニシテ必要ト認ムルモノハ之ヲ返付セス

第二條ノ二　鑛業出願人又ハ鑛業權者樺太內ニ住所ヲ有セサルトキハ樺太廳長官ハ相當ノ期限ヲ附シテ假住所ノ選定ヲ命スルコトアルヘシ

第三條　鑛業ニ關シ命令又ハ通知ヲ發スル場合ニ於テ受信人ノ住所假住所不分明ナルトキハ三日間其ノ要旨ヲ廳報又ハ廳報ヲ掲載スル新聞紙ニ廣告ス其ノ最終ノ日ヨリ十五日ヲ經過スルトキハ命令又ハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第四條　本則ノ規定ニ依リテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人、鑛業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條　本則中鑛業ノ出願ニ關スル規定ハ鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正、增減及改正ノ出願ニ付之ヲ準用ス

第六條　書面又ハ圖面不完備ナルトキハ樺太廳長官ハ相當ノ期限ヲ附シテ修正又ハ補充ヲ命スルコトアルヘシ

第七條　書面又ハ圖面ヲ郵便ニテ差出シタルトキハ消印記號ノ表示スル最終ノ日時ニ差出シタルモノト看做ス

郵便物受取證ニ依リテ前項ノ規定ニ依ル日時外ノ日時ニ差出シタルコトヲ證明シタルトキハ其ノ日時ニ差出シタルモノト看做ス其ノ日付印ナキ場合又ハ其ノ不明ナル場合ニ於テ郵便物受取證ニ依リテ其ノ差出シタル日時ヲ證明シタルトキ亦同シ

第八條　同一地域ニ於テ二種以上ノ鑛物ニ付鑛業ヲ爲サムトスル者ハ各種ノ鑛物毎ニ願書ヲ差出スヘシ但シ同一ノ鑛床中ニ存スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條　鑛業ノ許可ヲ得タル鑛物ノ名稱ヲ更正セムトスルトキハ願書ニ理由書ヲ添付シテ差出スヘシ

第十條　共同鑛業出願人ハ願書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ屆書ヲ差出スヘシ

共同鑛業出願人ハ願書ニ代表者ヲ表示シテ前項ノ屆出ニ代フルコトヲ得

前二項ノ規定ハ出願人ノ變更、鑛業權ノ設定又ハ移轉ニ依リ鑛業出願人又ハ鑛業權者ト爲ルヘキ者二人以上ナル場合ニ之ヲ準用ス但シ鑛業權設定ノ場合ニ於テハ登錄稅納付書ニ代表者ヲ表示シタルトキハ之ヲ以テ代表者ノ屆出ト看做ス

第十一條　共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者代表者ヲ改定シタルトキハ遲滯ナク連署シテ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第十二條　鑛業法第七條第一項ノ規定ニ依リ樺太廳長官代表者ヲ指定シタルトキハ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ニ之ヲ通知ス

第十三條　鑛業出願人ノ代表者ニ依リテ鑛業出願ノ取下、區域增減ノ出願又ハ出願人變更ノ屆出ヲ爲ス場合ニ於テハ願書又ハ屆書ニ其ノ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添付スヘシ

前項ノ規定ハ代表者ニ依リテ鑛區ノ增減合併又ハ分割ヲ出願スル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　鑛業ニ關スル出願ニシテ鑛利保護上又ハ鑛區分合上出願地及鑛區ノ面積百萬坪ヲ超ユル場合ニ於テハ願書ニ其ノ理由書ヲ添附スヘシ

第十五條　鑛業ノ出願地鑛業法第十條第二項ノ場所ニ係ルトキハ出願ノ日ヨリ三十日以内ニ所轄官廳ノ許可書若ハ許可ヲ受ケタルコトヲ證ス

ル書面又ハ許可ヲ申請シタルコトヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第十六條　鑛業出願地カ實地調査ニ因リテ鑛業法第十條第二項ノ場所ニ係ルコトヲ發見シタルトキハ樺太廳長官ハ前條ノ規定ニ拘ラス相當ノ期限ヲ附シ其ノ差出スヘキ書面ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ錯誤ニ因リ其ノ書面ノ添附ヲ遺漏シタルモノト認メタルトキ亦同シ

第十七條　鑛業出願地ノ形狀鑛業ヲ爲スニ不適當ナリト認ムルトキハ樺太廳長官ハ相當ノ期限ヲ附シテ出願地ノ增減ヲ命スルコトアルヘシ

第十八條　鑛業出願人他人ノ鑛區ニ隣接シテ鑛區ヲ定メムトスルトキハ中間ニ十間以上ノ距離ヲ置クヘシ但シ隣接鑛業權者ノ承諾ヲ得タルトキ又ハ試掘鑛區ノ範圍內ニ於テ採掘ヲ出願スルトキ又ハ鑛業法第三十三條ノ二ノ規定ニ依リ鑛業ヲ出願スルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項隣接鑛業權者ノ承諾ヲ得タルトキハ願書ニ承諾書ヲ添附シテ差出スヘシ之ヲ添附セサルトキハ承諾ナキモノト看做ス

鑛業ノ監督又ハ鑛利保護ノ爲前項ノ距離ノ延長又ハ減縮ヲ必要ナリト認ムルトキハ樺太廳長官ハ相當ノ期限ヲ附シテ出願地ノ增減ヲ命スルコトアルヘシ

第十九條　鑛業願書ニハ鑛區圖ノ外位置圖ヲ添附スヘシ

第十九條ノ二　（削除）

第二十條　採掘出願人ハ其ノ願書ニ採掘セムトスル鑛物ノ鑛床ニ關スル說明書ヲ添附スヘシ

第二十一條　試掘又ハ採掘ノ願書及出願地又ハ鑛區ノ增減ノ願書ハ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ發送郵便局ヨリ受附ノ年月日及時刻ヲ記載シタル受取證ヲ請置クヘシ

第二十二條　樺太廳長官ハ相當ノ期限ヲ附シ出願人ニ鑛業ノ設備ニ關スル設計書ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ命令ニ依リテ設計書ヲ提出シタル試掘出願人カ出願ノ許可後其ノ設計ヲ變更シテ作業セムトスルトキハ樺太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二十三條　樺太廳長官ハ相當ノ期限ヲ附シ試掘權者ニ鑛業ノ設備ニ關スル設計書ノ提出ヲ命シ若ハ理由ヲ附シテ設計書ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

試掘權者カ前項ノ命令ニ依リテ提出シタル設計書ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ樺太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條　樺太廳長官ハ鑛業ニ關スル出願又ハ鑛區ニ付實地調査ヲ必要ト認ムルトキハ調査事項及調査期日ヲ指定シ出願人又ハ鑛業權者ニ立會ヲ命スルコトアルヘシ若シ調査期日ヲ指定スルコト能ハサルトキハ豫定期日ヲ定メ確定期日ハ出張吏員ノ指定ニ依ルヘキコトヲ命スヘシ

出張吏員カ確定期日ヲ指定スルトキハ少クトモ三日前ニ之ヲ通知スヘシ但シ出願人又ハ鑛業權者ニ於テ異議ナキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　鑛業出願人變更ノ屆書ニハ新舊出願人連署スヘシ

第二十六條　試掘權者其ノ試掘地ニ於テ採掘ノ出願ヲ爲シタル後出願人ノ變更ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ試掘權ノ移轉ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十七條　試掘權者其ノ試掘地ニ於テ採掘ノ出願ヲ爲シタル後試掘權

ヲ移轉シタルトキハ出願人變更ノ屆出アリタルモノト看做ス

第二十八條　相續ニ因リテ鑛業出願人ト爲リタル者又ハ氏名、名稱若ハ住所ヲ變更シタル鑛業出願人ハ戶籍吏ニ屆出タル日又ハ登記ノ日ヨリ十四日以內ニ其ノ事實ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ樺太廳長官ニ屆出ヘシ法人ノ代表者ヲ變更シタルトキハ亦同シ

第二十九條　共同鑛業出願人脫退シタルトキハ代表者、若シ代表者ナキニ至リタルトキハ共同出願人ハ脫退ノ日ヨリ十日以內ニ其ノ原因ヲ證スル書面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ樺太廳長官ニ屆出ヘシ

第三十條　採掘出願地ノ訂正願書ニハ訂正理由書ヲ添附スヘシ

第三十一條　採掘出願地ノ訂正又ハ鑛業出願地ノ增減ノ願書ニ添附スヘキ圖面ニハ新舊出願地ノ關係ヲ明示スヘシ

第三十二條　第四十條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキハ出願人ハ出願地ノ增減竝鑛種名ノ更正ヲ出願スルコトヲ得ス

第三十三條　鑛業法第三十三條第二項ノ規定ニ依ル抽籤ハ關係鑛業出願人立會ノ上樺太廳長官之ヲ行フ

樺太廳長官ハ抽籤ノ日時ヲ定メ少クトモ十四日前ニ關係鑛業出願人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル鑛業出願人抽籤日時ニ出頭セサルトキハ樺太廳長官ハ二名以上ノ樺太廳職員立會ノ上之ヲ行フ

第三十四條　鑛區ノ合併又ハ分割ノ願書ニハ理由書ヲ添附シ且之ニ添附スヘキ圖面ニハ合併又ハ分割スヘキ區域ノ關係ヲ明示スヘシ但シ分割ノ願書ニ添附スヘキ圖面ハ各區域每ニ之ヲ調製スヘシ

鑛業法第三十五條第二項ノ規定ニ依ル抵當權者ノ承諾書及抵當權ノ順位ニ關スル協定書ハ合併又ハ分割ノ願書ニ之ヲ添付スヘシ

第三十五條　鑛業法第三十三條ノ二ノ規定ニ依ル鑛業ノ願書ニハ其ノ旨ヲ記載シ且之ヲ添附スヘキ圖面ニハ新區域カ舊區域ト異ナルトキハ其ノ關係ヲ明示スヘシ

第三十六條　鑛業法第三十六條第一項ノ規定ニ依ル鑛區增區ノ願書ニハ鑛床圖ノ說明書隣接鑛業權者及抵當權者ノ承諾書ヲ添附スヘシ

鑛業法第三十六條第二項ノ規定ニ依ル鑛區訂正ノ願書ニハ鑛床圖ノ說明書、隣接鑛業權者ノ承諾書又ハ鑛業法第九十條ノ規定ニ依ル裁決書若ハ判決書ノ謄本ヲ添附スヘシ

前二項ノ願書ニ添付スヘキ鑛床圖ハ平面圖及截面圖ノ二種ニ分チ之ヲ調製スヘシ

第三十七條　鑛區訂正ノ願書ニ關シテハ第三十條ノ規定ヲ準用ス

第三十八條　鑛區ノ訂正增減又ハ改正ノ願書ニ關シテハ第三十一條ノ規定ヲ準用ス

第三十九條　鑛業法第三十七條第三項ノ規定ニ依ル減區又ハ增減區ノ願書ニハ抵當權者ノ承諾書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第四十條　鑛業ノ出願許可スヘキモノト決定シタルトキハ樺太廳長官ハ其ノ旨ヲ出願人ニ通知ス

出願人ハ前項ノ通知書ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ登錄稅ヲ納付スヘシ此ノ期間內ニ登錄稅納付書ヲ差出シタルモ不受理ノ處分ヲ受ケタルモノハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ在リテハ期間後ト雖モ更ニ登錄稅ヲ納付スルコトヲ得

登錄稅ハ第一項ノ通知書ヲ受ケタル者若ハ其ノ代理人出頭シ又ハ書留

郵便ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

前項ノ登錄稅ハ第一項ノ通知書ト共ニ納付書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

前四項ノ規定ハ第九條ノ出願ニ關シ之ヲ準用ス

第四十一條　鑛區ノ合併、分割、減區又ハ增減區ノ出願ニ付許可決定ノ通知ヲ受ケタル者ハ合併、分割又ハ減少前ノ鑛業權ニ付登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ登錄稅納付書ニ添附シテ差出スヘシ但シ鑛區ノ分合又ハ增減ノ願書ト共ニ承諾書ヲ差出シタルモノニ付テハ納付書ニ其ノ事由ヲ記載スルヲ以テ足ル

第四十二條　鑛區所在地ノ名稱、種目、境界、基點又ハ面積カ鑛區圖ト相違スルコトヲ發見シタルトキハ棒太廳長官ハ相當ノ期限ヲ附シテ鑛業權ノ表示變更ニ關スル鑛區圖ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ命令書ニ調査圖ヲ添附スヘシ

棒太廳長官カ鑛業權表示變更ニ關スル鑛區圖ノ提出ヲ要セサルモノト認メタルトキ又ハ前項ノ命令ニ依リ提出シタル鑛區圖ヲ調査シ完備シタルモノト認メタルトキハ第四十條第一項ニ準シ其ノ旨ヲ鑛業權者ニ通知ス

第四十條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條　左ノ場合ニ於テハ棒太廳長官ハ願書申請書又ハ屆書ヲ受理セス

一　石炭鑛ノ試掘又ハ採掘出願地ノ全部カ明治四十五年法律第二十三號第一條ノ區域內ナルトキ

二　出願ノ鑛物カ鑛業法第二條ノ規定ニ該當セサルトキ

三　圖面ヲ添附スヘキ鑛業ノ願書ニ圖面ヲ添附セサルトキ又ハ添附圖面ニ依リ區域分明ナラサルトキ

四　手數料ヲ納付セサルトキ

五　第十三條ノ規定ニ違背シ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附セサルトキ

六　第二十一條ノ規定ニ違背シ書留郵便ヲ以テ差出ササルトキ

七　第二十五條ノ規定ニ違背シ新舊出願人連署セサルトキ

八　第二十六條ノ規定ニ違背シ試掘權ノ移轉ヲ證明スル書面ヲ添附セサルトキ

九　第三十四條第二項ノ規定ニ違背シ承諾書及協定書ヲ添付セサルトキ

十　第三十六條又ハ第三十九條ノ規定ニ違背シ承諾書又ハ之ニ代ルヘキ書面ヲ添附セサルトキ

第四十四條　左ノ場合ニ於テハ棒太廳長官ハ登錄稅納付書ヲ受理セス

一　第四十條第四項又ハ第四十三條第三項ノ規定ニ違背シ通知書ヲ差出ササルトキ

二　第四十一條ノ規定ニ違背シ第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附セサルトキ

第四十五條　左ノ場合ニ於テハ棒太廳長官ハ願書又ハ屆書ヲ却下ス

一　實地調査ノ際出願人カ出願區域ヲ明示スルコト能ハサルカ又ハ第二十四條第一項ノ規定ニ依リテ指定シタル調査事項ノ說明ヲ爲スコト能ハサルトキ

二　願書ニ添附シタル圖面カ實地ノ區域ト著シク相違スルトキ

二ノ二　第二條ノ二ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ假住所ノ選定ヲ爲ササルトキ

三　第六條ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキ

四　第十五條ニ規定シタル期間內又ハ第十六條ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ許可書又ハ證明書ヲ差出ササルトキ

五　第十七條又ハ第十八條第三項ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ區域增減ノ願書ヲ差出ササルトキ

五ノ二　（削除）

六　第二十二條ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ設計書ヲ差出ササルトキ

七　第二十四條ノ規定ニ依リ指定シタル期日ニ出願人立會ヲ爲ササルトキ

八　第四十條ニ規定シタル期間內ニ登錄稅納付書ヲ提出セサルトキ

第四十六條　相續ニ因リテ鑛業權者若ハ抵當權者ト爲リタル者又ハ氏名、名稱若ハ住所ヲ變更シタル鑛業權者若ハ抵當權者ハ戶籍吏ニ屆出タル日又ハ登記ノ日ヨリ十四日以內ニ其ノ登錄ヲ申請スヘシ法人ノ代表者ヲ變更シタルトキハ之ニ準シテ其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ棒太廳長官ニ屆出ツヘシ

第四十七條　鑛業權者鑛業ニ著手シタルトキハ遲滯ナク鑛區所在地又ハ其ノ附近ニ鑛業事務所ヲ定メ棒太廳長官ニ屆出ヘシ

第四十八條　試掘權者ハ試掘鑛區圖及試掘工程表ヲ、採掘權者ハ抗內實測圖及鑛業簿ノ外採掘鑛區圖及鑛業施業案ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ

第四十九條　鑛業者ハ鑛業權ノ設定若ハ移轉ノ登錄アリタル日ヨリ六箇月以內ニ事業ニ著手セス又ハ六箇月以上休業セムトスルトキハ理由ヲ詳記シテ棒太廳長官ニ屆出ヘシ

休業期間內事業ニ著手シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ棒太廳長官ニ屆出ヘシ

第五十條　鑛業施業案ニハ之ヲ說明スヘキ圖面ヲ添ヘ鑛業ニ著手ノ日ヨリ三十日以前ニ差出スヘシ

鑛業ノ種類又ハ狀況ニ依リ前項ノ規定ニ依リ難キモノアルトキハ理由ヲ明示シ樣式ノ記載事項ヲ增減スルコトヲ得

第五十一條　鑛業法第四十五條第二項ノ規定ニ依ル變更願書ニハ新ナル施業案及變更ノ理由ヲ詳記シタル書面ヲ添付スヘシ

第五十二條　坑內實測圖ハ平面圖及截斷圖ノ二種トシ少クトモ每月末ニ於ケル掘進ノ狀況ヲ測定シ翌月中ニ調製スヘシ

坑內實測圖ノ複本ハ石炭坑ニ在リテハ每年六月末日及十二月末日迄ノ分ヲ各八月末日及二月末日迄ニ其ノ他ニ在リテハ每年十二月末日迄ノ分ヲ二月末日迄ニ差出スヘシ但シ鑛山ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ棒太廳長官ハ何時ニテモ坑內實測圖ノ複本ノ提出ヲ命シ又ハ其ノ提出期若ハ提出回數ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依リテ差出シタル前期ノ坑內實測圖複本ハ請求ニ因リ之ヲ下付ス

第五十三條　鑛業簿ニハ鑛產物ノ數量、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ記載スヘシ

鑛業簿ノ複本ハ每年六月末日及十二月末日迄ノ分ヲ各七月末日及一月末日迄ニ差出スヘシ

第五十四條　前二條ノ規定ニ依リテ調製シ若ハ差出スヘキ書類又ハ圖面ハ採掘權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニハ採掘權ヲ有セシ者ニ於テ其ノ登錄ノ日ヨリ三十日以內ニ調製シ若ハ差出スヘシ

第五十五條　鑛業明細表ハ每年一月末日迄ニ其ノ前年分ヲ差出スヘシ

第五十六條　前條ノ規定ニ依リテ差出スヘキ書類ハ鑛業權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニハ鑛業權ヲ有セシ者ニ於テ其ノ登錄ノ日ヨリ三十日以內ニ差出スヘシ

第五十七條　前五條ノ規定ニ依リ坑內實測圖若ハ鑛業簿ノ複本又ハ鑛業明細表ヲ差出スヘキ場合ニ於テ記載スヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ屆出ヘシ

第五十八條　二箇以上ノ鑛區ニ付合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ第五十條乃至第五十六條ノ書類又ハ圖面ハ合併シテ之ヲ調製スルコトヲ得

第五十九條　鑛業權者自ラ鑛業ヲ管理セサルトキハ鑛業代理人ヲ選任シ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

前項ノ代理人ハ鑛業法及鑛業法ノ施行ニ關スル命令ノ規定ニ依リテ鑛業ノ管理ニ關シ鑛業權者ノ爲スヘキ一切ノ手續其ノ他ノ行爲ヲ委任セラレタルモノト看做ス但シ鑛業權者ハ其ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ屆出ヘシ

第六十條　試掘權者ハ試掘工程表ヲ調製シテ一箇月每ニ開坑ニ關スル狀況、鑛產物ノ數量、行業日數及工數ヲ記載スヘシ

第六十一條　試掘ニ依リテ得タル鑛產物ヲ處分セムトスルトキハ其ノ方法及數量ヲ記載シ樺太廳長官ニ出願スヘシ

第六十二條　鑛業法第四十九條ノ規定ニ依ル實地調査ノ願書ニハ調査區域及其ノ理由ヲ詳記シタル書面ヲ添附スヘシ

樺太廳長官調査ヲ要スルモノト認メタルトキハ調査日數並之ニ要スル人夫及物品ノ豫定書ヲ調製シ出願人ニ交付スヘシ

出願人ハ人夫及物品ヲ準備シ現場ニ立會フヘシ

第六十三條　鑛業法第五十二條ノ規定ニ依リテ他人ノ土地ニ立入リ測量又ハ檢査ヲ爲サムトスル者ハ土地ノ名稱、種目及其ノ目的ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

第六十四條　鑛業法第五十三條ノ規定ニ依リテ障碍物ヲ除却セムトスル者ハ障碍物ノ種類、名稱、存在ノ場所、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱並豫定價格ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

第六十五條　鑛業法第五十四條ノ規定ニ依リテ他人ノ土地ニ立入リ又ハ之ヲ使用セムトスル者ハ土地ノ名稱、占有者ノ氏名又ハ名稱及其ノ目的ヲ記載シテ出願スヘシ

前項ノ出願ハ電信ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

本條ノ出願ニ對シ電信ヲ以テ指令ヲ受ケムトスル者ハ土地ノ名稱、占有者ノ氏名又ハ名稱及立入リ又ハ使用ノ目的ヲ記スルニ相當スル電信料ヲ前納スヘシ

第六十六條　鑛業法第五十二條乃至第五十四條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入リ、之ヲ使用シ又ハ障碍物ヲ除却セムトスル者ハ樺太廳長官ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第六十七條　鑛業法第五十六條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用セムトスル者ハ土地ノ名稱、種目、面積、所有者ノ氏名又ハ名稱、住所、使用ノ目的、時期及期間ヲ記載シタル願書ニ土地登記謄本、未登記ノ土地

ニ付テハ所有者ニ關スル官廳ノ證明書、關係地實測圖及工事設計書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第六十八條　鑛業權者鑛業法ノ規定ニ基キテ他人ノ土地ニ關スル權利ヲ取得シタルトキ、使用ヲ始メタルトキ、使用ノ終リタルトキ又ハ使用セサルニ至リタルトキハ直ニ樺太廳長官ニ屆出ヘシ

前項ノ權利取得ニ關スル屆書ニハ土地ノ名稱、種目、面積、所有者ノ氏名又ハ名稱、住所、使用ノ目的、時期及期間並補償金及擔保ヲ記載スヘシ

第六十九條乃至第七十二條　（削除）

第七十三條　鑛業法第九十條第一項又ハ第九十二條第一項ノ規定ニ依ル申請書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載シ請求地ニ於ケル工事又ハ鑛床ノ關係圖並所有者及關係人又ハ隣接鑛業權者ト交渉シタル始末書ヲ添附スヘシ但シ交渉ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ以テ始末書ニ代フルコトヲ得

一　申請人ノ氏名又ハ名稱及住所

二　所有者及關係人又ハ隣接鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所

三　鑛業權ノ登錄番號

四　申請ノ目的及事由

樺太廳長官前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ所有者及關係人又ハ隣接鑛業權者ニ交付ス

所有者及關係人又ハ隣接鑛業權者ハ申請書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ答辯書ヲ差出スヘシ

所有者及關係人又ハ隣接鑛業權者前項ノ期間內ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ樺太廳長官ハ申請書ノミニ依リテ裁決スルコトアルヘシ申請書ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ

申請人第六條ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキハ申請書ヲ却下ス

裁決書ニハ理由ヲ附シテ樺太廳長官之ヲ申請人、所有者及關係人、隣接鑛業權者ニ交付ス

第七十四條　鑛業法第九十條第二項又ハ第九十二條第二項ノ規定ニ依ル訴願ニハ樺太廳長官ノ與ヘタル裁決書ノ謄本ヲ添ヘテ差出スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ訴願ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十五條　鑛業法第八十九條、第九十條第二項、第九十一條及第九十二條第二項ノ規定ニ依リテ行政訴訟ヲ提起シタル者ハ七日以內ニ其ノ旨ヲ樺太廳長官ニ屆出ヘシ

第七十六條　鑛業法第九十三條第二項又ハ本令第四十五條ノ規定ニ基ク處分又ハ裁決ノ公示ハ樺太廳公布式ヲ以テ之ヲ爲ス

第七十七條　第二十八條、第二十九條、第四十六條乃至第四十九條、第五十四條、第五十六條、第五十七條、第六十條、第六十六條、第六十八條、第七十五條ノ規定ニ違背シタル者、第二條ノ二ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ假住所ノ選定ヲ爲ササル者、第二十三條第一項ノ規定ニ依ル命令ノ期間內ニ設計書ヲ差出ササルトキ若ハ第二十二條第一項及第二十三條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ基キ提出シタル設計書ニ反シテ作業シタル者、第二十四條ノ鑛區ニ關スル規定ニ基ク指定ノ定期日ニ立會ハス若ハ調査事項ノ說明ヲ爲ササル者、第四十二條第一項ノ規定ニ依ル命令ノ期間內ニ鑛區圖ヲ差出ササルトキ若ハ同條第三項ノ規定

ニ違背シ期間内ニ登錄稅ヲ納メサル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條　第五十九條ノ規定ニヨリテ鑛業代理人ヲ定メタル場合ニハ鑛業權者、法定代理人又ハ法人ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十九條　本則ハ第七十七條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ準用ス

附則

第八十條　本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十一條　明治四十年五月樺太廳令第五十九號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

樣式第一號

何鑛試掘許可願

樺太何郡何町、村大字何字何

面積　何　坪

右箇所ニ於テ何鑛試掘許可相成度圖面相添此段相願候也

年　月　日

住所

出願人　氏　名(名稱)印

樺太廳長官氏名殿

注意

一　圖面四葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ

二　共同出願ノ場合ハ願書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ願書ヲ差出スヘシ但シ願書ニ代表者ヲ表示シテ願書ニ代フルコトヲ得

樣式第二號

何鑛試掘(探掘)出願地增減區(增區、減區)願

何年何月何日出願

樺太何郡何町、村大字何字何

何鑛試掘(探掘)出願地何坪

增區何郡何町村大字何字何

面積何坪

減區何郡何町村大字何字何

面積何坪

合計(又ハ差引)何坪

右試掘(探掘)出願地變更許可相成度圖面相添此段相願候也

年　月　日

住所

出願人　氏　名(名稱)印

樺太廳長官氏名殿

注意

一　圖面四葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ

二　代表者ニテ出願スル場合ハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

樣式第三號

何鑛試掘(探掘)鑛區增減區(增區、減區)願

〔樺法〕

樺太廳試掘(探掘)權登錄第何號

樺太何郡何町、村大字何字何

何鑛試掘(探掘)鑛區何坪

增區何郡何町村大字何字何

面積何坪

減區何郡何町村大字何字何

面積何坪

合計(又ハ差引)何坪

右試掘(探掘)鑛區變更許可相成度圖面相添此段相願候也

年　月　日

住所

試掘(探掘)權者氏名(名稱)印

樺太廳長官氏名殿

注意事項(樣式第二號ニ同シ)

樣式第四號

何鑛試掘(探掘)鑛區改正願

樺太廳試掘(探掘)權登錄第何號

樺太何郡何町、村大字何字何

何鑛試掘(探掘)鑛區何坪

增區何郡何町村大字何字何

面積何坪

減區何郡何町村大字何字何

面積何坪

合計(又ハ差引)何坪

右試掘(探掘)鑛區變更許可相成度圖面相添此段相願候也

年　月　日

住所

試掘(探掘)權者氏名(名稱)印

樺太廳長官氏名殿

注意事項(樣式第二號ニ同シ)

樣式第五號

試掘(探掘)鑛區名更正願

樺太廳試掘(探掘)權登錄第何號

右試掘(探掘)權ノ鑛種ハ何鑛トシテ登錄相成候處何鑛ト更正許可相成度別紙理由書相添ヘ此段相願候也

年　月　日

住所

試掘(探掘)權者氏名(名稱)印

樺太廳長官氏名殿

樣式第六號

試掘(探掘)出願人變更願

〔樺法〕

何年何月何日出願
樺太何郡何町、村大字何字何
何鑛試掘(探掘)出願地何坪
右試掘(探掘)出願人何某ニ變更致候間新舊出願人連署此段屆出候也

年　月　日

住所　舊出願人　氏　名(名稱)印
住所　新出願人　氏　名(名稱)印

樺太廳長官氏名殿

注意

一　新出願人二人以上ナル場合ニハ屆書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ屆書ヲ差出スヘシ但シ本屆書ニ代表者ヲ表示シテ屆書ニ代フルコトヲ得

二　舊出願人代表者ニテ屆出ヲ爲スニハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

樣式第七號

試掘(探掘)出願相續屆

何年何月何日出願
樺太何郡何町、村大字何字何
試掘(探掘)出願地何坪
右試掘(探掘)出願人何某死亡(其ノ他相續ノ原因ヲ記載ス)ニ因リ相續致候間戸籍抄本(又ハ相續ニ關スル證明書)相添此段屆出候也

年　月　日

住所　相續人　氏　名印

樺太廳長官氏名殿

樣式第八號

共同試掘(探掘)出願人脫退屆

何年何月何日出願
樺太何郡何町、村大字何字何
何鑛試掘(探掘)出願地何坪
右共同出願人何某何(脫退ノ原因ヲ記載ス)ノ爲脫退致候間別紙何(脫退ノ原因ヲ證スル書面)相添此段屆出候也

年　月　日

住所　代表者　氏　名(名稱)印

樺太廳長官氏名殿

樣式第九號

何鑛探掘許可願

樺太何郡何町、村大字何字何
面積何坪
右箇所ニ於テ何鑛探掘許可相成度圖面竝鑛床說明書相添此段相願候也

年　月　日

住所　出願人　氏　名(名稱)印

樺太廳長官氏名殿

注意

樺太廳長官氏名殿

〔樺法〕

一　圖面四葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　鑛業法第二十五條ニ依ル出願ノ場合ハ理由書ヲ要セス但シ此ノ場合ニ於テハ命令何號ニ依ルモノナルコトヲ記載スヘシ

樣式第十一號

何鑛探掘鑛區合併願

一　樺太廳探掘權登錄第何號
樺太何郡何町、村大字何字何
何鑛探掘鑛區何坪
一　樺太廳探掘權登錄第何號
樺太何郡何町村大字何字何
何鑛探掘鑛區何坪
合計何坪
右鑛區合併許可相成度圖面竝合併理由書相添此段相願候也

年　月　日

住所　探掘權者　氏　名(名稱)印

樺太廳長官氏名殿

注意

一　圖面三葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　抵當權ノ設定アル場合ハ抵當權者ノ承諾書ヲ添附スヘシ
三　二以上ノ抵當權ノ登錄アル場合ニハ承諾書ノ外抵當權ノ順位ニ關スル協定書ヲ添附スヘシ

四　代表者ニテ出願スル場合ニハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

樣式第十二號

何鑛採掘鑛區分割願

樺太廳採掘權登錄第何號

樺太何郡何町、村大字何字何

何鑛採掘鑛區何坪

此ノ分割

樺太何郡何町、村大字何字何

面積何坪

樺太何郡何町、村大字何字何

面積何坪

右鑛區分割許可相成度分割圖面竝分割理由書相添此段相願候也

年　月　日

住所

採掘權者　氏　名(名稱)印

樺太廳長官氏名殿

注意

一　圖面ハ分割區域每ニ各三葉ヲ調製シ願書ニ添附シテ適宜契印スヘシ

二　其ノ他ノ注意事項ハ樣式第十一號中二、三、四號ニ同シ

樣式第十三號

鑛業法第三十六條ニ依ル何鑛採掘鑛區訂正願

樺太廳採掘權登錄第何號

樺太何郡何町、村大字何字何

何鑛採掘鑛區何坪

增區　何郡何町村大字何字何

面積　何坪

合計　何坪

右鑛區ノ鑛床ハ樺太廳採(試)掘權登錄第何號何鑛採(試)掘鑛區ノ未採掘鑛床ト聯絡シ且該鑛區ノ目的タル鑛床ト異ナルニ依リ訂正許可相成度別紙圖面、鑛床圖、鑛床說明書及訂正區域內鑛業權者ノ承諾書（鑛業法第九十條ノ規定ニ依ル裁決書若ハ判決書ノ謄本）竝訂正理由書相添此段相願候也

年　月　日

住所

採掘權者　氏　名(名稱)印

樺太廳長官氏名殿

注意

一　鑛區圖、鑛床圖各三葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ

二　隣接鑛業權者ノ連署アルトキハ承諾書ノ提出ヲ要セス

樣式第十四號

鑛業法第三十六條ニ依ル何鑛採掘鑛區增區願

樺太廳採掘權登錄第何號

樺太何郡何町、村大字何字何

何鑛採掘鑛區何坪

增區　何郡何町村大字何字何

面積　何坪

合計　何坪

右鑛區ヨリ樺太廳採(試)掘權登錄第何號何鑛採(試)掘鑛區ヘ掘進致度ニ付增區許可相成度別紙圖面、鑛床圖、鑛床說明書竝隣接鑛業權者及抵當權者ノ承諾書相添此段相願候也

年　月　日

住所

採掘權者　氏　名(名稱)印

樺太廳長官氏名殿

注意事項(樣式第十三號ニ同シ)

樣式第十五號ノ甲

何鑛試掘(採掘)鑛區圖

縮尺何分ノ一

大正年月日出願

樺太何郡何町、村大字何字何

何官地又ハ民地地種地目

何官地又ハ民地地種地目

面積　何坪

住所

出願人　氏　名(名稱)印

（寫眞）號　符號

何度（走向）

鑛床露頭

標品採取場

横坑口

竪坑口

山

河川

支廳界

村界

中界

官民地界

鐵道

道路

橋梁

堤防

神社

家屋

道標石

鑛區境界線

注意

一　本圖面ニハ左ニ掲クル事項ヲ明示スヘシ

イ　出願地ノ名稱及種目

ロ　出願地ノ面積

ハ　南北線

ニ　縮尺

ホ　二箇以上ノ不動基點並其ノ名稱附特徴（基點ハ特稱アル橋梁、家、辻、川股、標石其ノ他近傍ニアル顯著ナル不動物體二箇以上ヲ成ルヘク反對ノ位置ニ選定スヘシ）

ヘ　出願地ノ各隅トナルヘキ測點並其ノ番號

ト　境界線並基點ト連結シタル測點間ノ方位及其ノ間數

チ　出願地ヨリ五十間以内ニ於ケル他ノ鑛區トノ關係

リ　出願地又ハ其ノ附近ニ於ケル鑛床ノ露頭及其ノ走向、傾斜

ヌ　出願地及其ノ附近ニ於ケル地形其ノ他鑛業法第十條又ハ第十一條ニ記載シタルモノ

二　圖面用紙ハ礬水引美濃紙ヲ用ウヘシ

三　圖面ニ地目別ヲ顯スニハ左記ノ諸色ヲ用ウヘシ

山林（綠色）原野（鼠色）田（淡藍色）畑（黄色）宅地（褐色）水（濃藍色）

四　基點及測點附近ノ地形及地物ハ成ルヘク詳細ニ之ヲ記入シ若記入シ難キトキハ欄外ニ於テ地形及地物ニ關スル説明ヲ附記スヘシ

五　鉛筆及「インキ」ヲ使用スヘカラス

六　縮尺ハ六千分ノ一ニ調製スヘシ但シ棒太廳長官ノ告示シタル地域ニ在リテハ二千五百分ノ一又ハ五千分ノ一ニ調製スヘシ

樣式第十五號ノ乙

何鑛試掘（採掘）鑛區位置圖

縮尺何分ノ一　大正　年　月　日出願

第十五類　鑛業

住所　出願人　氏　名（名稱）印

何郡何町何村大字何　地種地目　坪數

何山
何山
何郡
何村
何村
何村
鑛區
何川
何川
何川

注意

一　坑道ノ上下段ハ色別ヲ以テ區別スヘシ

二　軌道ヲ敷設シタル坑道又ハ機械等設置ノ場所ニシテ本圖ノ尺度ニテ圖上ニ顯シ難キモノハ適宜ノ尺度ヲ用ウヘシ

三　圖面縮尺ハ千二百分ノ一ニ調製スヘシ

四　木造堰ハ黃色ニ煉瓦堰ハ赤色ニ色分ヲ爲スヘシ

樣式第十六號(乙)

樺太廳採掘權登錄第何號

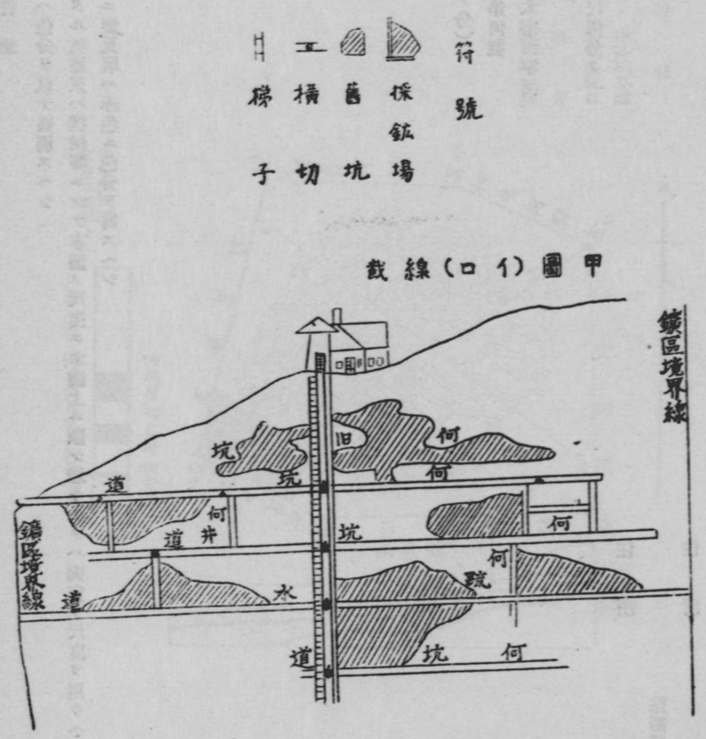
樺太何郡何町、村大字何字何

何鑛山

坑內實測截面圖　縮尺何分ノ一

住所　採掘權者　氏　名(名稱)印

住所　測量者　氏　名印



注意

一　坑道ノ上下段ハ色分ヲ以テ區別スヘシ

二　軌道ヲ設置シタル坑道又ハ機械等ニシテ本圖ノ尺度ニテ圖上ニ顯シ難キモノハ適宜ノ尺度ヲ用ウヘシ

三　木造堰ハ黃色ニ煉瓦堰ハ赤色ニ色分ヲ爲スヘシ

樣式第十七號（石炭鑛ノ分）

樺太廳採掘權登錄第何號

樺太何郡何町、村大字何字何

何炭鑛

坑內實測圖　縮尺何分ノ一

住所　採掘權者　氏名（名稱）印

住所　測量者　氏名印

〔樺法〕

符號
鑛區境界線
坑外鑿坑口
坑井
採炭跡
何度何間
(ロ)線截面
何尺何尺何尺何尺何尺
何尺何尺何尺何尺何尺
何尺何尺何尺何尺何尺

注意

一　平面圖ニハ坑道ヲ著色シテ各炭層ヲ區別スヘシ

二　採掘セシ部分ハ坑道ト同色ノ平行線ヲ以テ顯スヘシ

三　炭層中ニハサミ物アラハ柱狀圖ニ之ヲ顯スヘシ

四　圖面縮尺ハ千二百分ノ一ニ調製スヘシ

五　木造堰ハ黃色ニ煉瓦堰ハ赤色ニ色分ヲナスヘシ

六　捲揚機械、喞筒、煽風器及軌道其ノ他特種ノモノヲ設置セル場合ニハ適宜ノ符號ヲ用ヒテ之ヲ明示スヘシ

住所　　採掘權者　氏　　名(名稱)印

住所　　測量者　氏　　名印

〔樣法〕

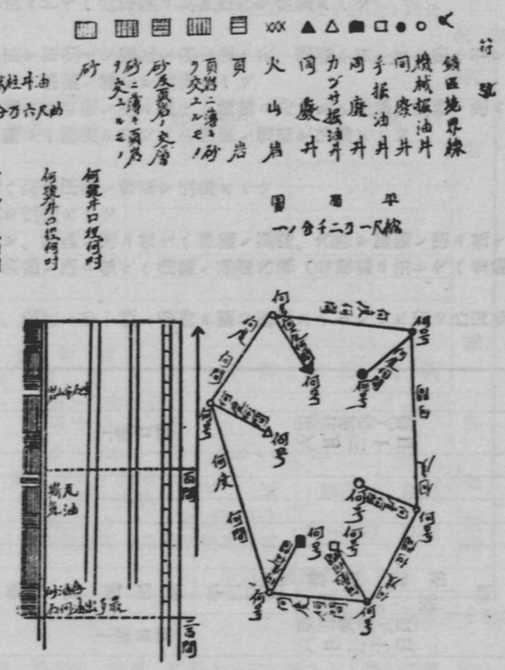
樣式第十八號

樺太鑛採掘權登錄第何號

樺太何郡何町、村大字何字何

何石油鑛

坑內實測圖　縮尺何分ノ一


符號
鑛區境界線
機械振油井
同廢井
手振油井
同廢井
カンザ振油井
同廢井
火山岩
頁岩
頁岩ニ薄キ砂ノ交ルモノ
砂質頁岩ノ交ル層
砂ニ薄キ頁岩ノ交ルモノ
砂
何號井口現何吋
何號井口根何吋
何號井口底何吋
縮尺一ノ何分ノ一千二百分ノ一
何
何
何

大正　年鑛業明細表

樺太廳登錄第何號

鑛種	位置名稱	樺太何郡何町村大字何字何	鑛業權者又ハ代表者	住所何某印	採鑛部								選鑛ノ部						製錬ノ部						記事
					種別	越高	採鑛高	選鑛元鑛高	製錬元鑛高	販賣高	平均品位	殘高	種別	越高	精鑛高	平均品位	製錬元鑛高	販賣高	種別	越高	製出高	平均品位	販賣高	殘高	
					工數								工業						工數						
					工業日數								工業日數						工業日數						
					六月三十日現在使役人員								六月三十日現在使役人員						六月三十日現在使役人員						

備考

一　本表ハ金、銀、銅其ノ他一般ノ鑛物ニ關シ適用スルモノトス但シ石炭亞炭及石油ヲ除ク

二　種別ノ欄ニハ採鑛ノ部ニ於テハ粗鑛ノ種類名稱（金屬鑛ニ在リテハ金鑛、銀鑛等ノ如シ）ヲ、選鑛ノ部ニ於テハ精鑛ノ種類、名稱ヲ製鑛ノ部ニ於テハ製品ノ種類名稱ヲ記載スヘシ

三　採鑛高ノ欄ニハ採掘粗鑛ノ數量ヲ記載スヘシ

四　（削除）

五　選鑛元鑛高ノ欄ニハ選鑛ニ供シタル粗鑛ノ數量ヲ記載スヘシ

六　製錬元鑛高ノ欄ニハ採鑛ノ部ニ於テハ製錬ニ供シタル粗鑛、選鑛ノ部ニ於テハ製錬ニ供シタル精鑛ノ數量ヲ記載スヘシ

七　粗鑛、精鑛ハ貫ヲ單位トシ製品ノ内金銀ハ匁、鐵類ハ貫、其ノ他ハ斤ヲ單位トス

八　販賣セサル鑛物ニ付テハ記事欄ニ見積價格ヲ記載スヘシ

九　鑛物ヲ買入レ自己採掘ニ係ル鑛物ト合併精錬シタルモノハ該當欄ニ夫々區別シテ記載シ尚其ノ產出鑛山名、鑛山名不明ナルトキハ其ノ買入先、數量及平均品位ヲ記事欄ニ各別ニ記載スヘシ

大正　年鑛業明細表

樺太廳登錄第何號

鑛種	位置名稱	樺太何郡何町村大字何字何	鑛業權者又ハ代表者	住所何某印	計																				記事
石炭又ハ亞炭					種別	越高	產出高	計	販賣高				自家用	殘高											
									數量	價格															
					工數																				
					工業日數																				
					六月三十日現在使役人員																				

備考

一　本表ハ石炭又ハ亞炭ニ限リ適用スルモノトス

二　種別ノ欄ニハ石炭ニ付テハ塊炭、粉炭、切込炭、粗炭、爆石ニ種別シ記入スヘシ

大正　年鑛業明細表

樺太廳登錄第何號

鑛種	位置名稱	樺太何郡何町村大字何字何	鑛業權者又ハ代表者	住所何某印	原由								製油								記事
石油					種別	越高	產出高	計	販賣高				自家用	殘高							
									數量	價格											
					工數																
					工業日數																
					六月三十日現在使役人員																

備考

一　本表ハ石油ニ限リ適用スルモノトス

二　比重欄内ニハ「ボーメ」比重計ニ依ル比重ヲ記入スヘシ

三　製品ノ種別欄内ニハ揮發油、燈油、重油、機械油等製品ノ普通名稱ニ區別シ記入スヘシ

四　原油ヲ買入レ自己採掘ニ係ル原油ト合併製油シタルモノハ該當欄ニ夫々區別シテ記載スヘシ

様式第二十號甲

鑛業施業案

鑛業權者（又ハ鑛業代理人）
何　何　某㊞

登錄番號　樺太廳採掘權登錄第何號
鑛區ノ所在地　樺太何郡何町村大字何字何
鑛山ノ名稱　何　々
鑛種名　金、（銀）（銅）（何）

一　採掘ニ關スル事項
　（イ）主要ナル鑛床ノ位置、走向、傾斜及厚サ
　（ロ）採掘方法
　（ハ）一箇年間ニ於ケル粗鑛採掘豫定高
二　選鑛及製錬ニ關スル事項
　（イ）選鑛及製錬ノ方法
　（ロ）一箇年間ニ於ケル鑛產物產出豫定高
三　操業上ノ危害豫防ニ關スル事項
　（イ）捨石及鑛滓堆積場ノ位置
　（ロ）捨石、鑛滓、坑水、廢水等ノ處置ニ關シ特別ノ設備ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ設備ニ關スル事項
　（ハ）地表又ハ坑內ノ保全其ノ他危害ノ豫防又ハ公益ノ保護ニ關シ特別ノ施設又ハ制限ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ施設又ハ制限ニ關スル事項

様式第二十號乙

鑛業施業案

鑛業權者（又ハ鑛業代理人）
何　何　某㊞

登錄番號　樺太廳採掘權登錄第何號
鑛區ノ所在地　樺太何郡何町村大字何字何
鑛山ノ名稱　何　々
鑛種名　石炭（又ハ亞炭）

一　採炭ニ關スル事項
　（イ）主要ナル炭層ノ位置、名稱、走向、傾斜及厚サ
　（ロ）採炭ノ方法
　（ハ）一箇年間ニ於ケル豫定出炭高
二　操業上ノ危害豫防ニ關スル事項
　（イ）坑內ノ通氣ニ關スル方法又ハ設備
　（ロ）地表又ハ坑內ノ保全其ノ他危害ノ豫防又ハ公益ノ保護ニ關シ特別ノ施設又ハ制限ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ施設又ハ制限ニ關スル事項

様式第二十號丙

鑛業施業案

鑛業權者（又ハ鑛業代理人）

登錄番號　樺太廳採掘權登錄第何號
鑛區ノ所在地　樺太何郡何町村大字何字何
鑛山ノ名稱　何　々

鑛種名　石油

一　採油ニ關スル事項
　（イ）鑿井方法
　（ロ）原油ノ處分方法
二　操業上ノ危害豫防ニ關スル事項
　（イ）汲油又ハ製油ノ爲發生スル汚水又ハ廢物ノ處理方法
　（ロ）前號ノ外危害ノ豫防又ハ公益ノ保護ニ關シ特別ノ施設ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ施設ニ關スル事項

備考

一　甲ハ金、銀、銅其ノ他一般ノ鑛物ニ關シ乙ハ石炭又ハ亞炭ニ關シ丙ハ石油ニ關シ適用スルモノトス
二　樺太廳長官ノ發シタル豫防命令ニ基キ施行スヘキ事項ハ施業案ニ記載スルコトヲ要セス

●鑛業法施行細則及砂鑛法施行細則ニ依ル鑛區圖ノ縮尺ヲ調製スヘキ地域

昭和四年一月九日
告示第一號

改正　昭五年六月告示九一號

鑛業法施行細則樣式第十五號ノ甲中注意六及砂鑛法施行細則樣式第九號及第十號中注意五ノ但書ニ依ル鑛區圖ノ縮尺ヲ二千五百分ノ一又ハ五千分ノ一ニ調製スヘキ地域左ノ通定ム

地域

一　豐原郡
一　散江郡
一　敷香郡
一　元泊郡
一　榮濱郡
一　大泊郡
一　富內郡
一　長濱郡
一　留多加郡
一　久春內郡

●石油試掘補助金交付規則

昭和四年三月二十九日
廳令第五號

石油試掘補助金交付規則左ノ通定ム

石油試掘補助金交付規則

第一條　樺太廳長官ハ每年其ノ指定スル地域ニ指定スル深度ノ石油試掘ヲ爲ス者ニ對シ豫算ノ範圍內ニ於テ左ノ補助金ヲ交付スルコトヲ得

一　「ロータリー」式深度一メートルニ付三十五圓以內
　但シ樺太廳長官ノ指定スル深度ニ於テコーア採取器ヲ使用シテ地質ノ精査ヲ爲ストキハ深度一メートルニ付四十圓以內トス

二　「ロータリー」式深度千二百メートルヲ超ユルトキハ其ノ超過部分一メートルニ付五十圓以内

三　綱式　深度一メートルニ付四十五圓以内

前項ノ補助金ノ交付ヲ受クル者其ノ試掘ヲ爲ス爲左ノ機械及其ノ附屬品ヲ購入スル場合ニ於テハ樺太廳長官ハ豫算ノ範圍内ニ於テ其ノ購入費ノ半額以内ノ補助金ヲ交付スルコトヲ得

一　鑿井機械

二　櫓及櫓金具

三　原動機及「ポンプ」

四　坑用鐵管

前項ノ補助金ノ交付ヲ受クル場合ニ於テハ第一項ノ補助金ハ一メートルニ付二圓五十錢以内ヲ減ジタル額以内トス

第二條　前條ノ試掘地域及深度ハ樺太廳長官之ヲ告示ス

第三條　補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ別記樣式ノ事業計劃書及機械購入費明細書ヲ添付シ樺太廳長官ニ提出スベシ

補助金ノ交付ヲ受クル者事業計劃ヲ變更セントスルトキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　樺太廳長官必要ト認ムルトキハ補助金ノ交付ヲ受クル者ニ對シ其ノ事業又ハ會計ニ關シ檢査ヲ爲シ又ハ報告ヲ徵スルコトヲ得

第五條　補助金ノ交付ヲ受クル者試掘ニ著手シ又ハ事業計劃ニ定ムル深度ノ試掘ヲ了リタルトキハ遲滯ナク其ノ旨樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

第六條　補助金ノ交付ヲ受クル者ハ鑿井ニ著手シタル日ヨリ坑況日誌ヲ作リ鑿井及地質ニ關スル狀況ヲ記入シ其ノ寫ヲ毎日樺太廳長官ニ提出スベシ

第七條　補助金ノ交付ヲ受クル者試掘ノ結果採油ヲ爲スニ至リタル場合ニ於テ採油開始後一年以内ニ其ノ受ケタル第一條第一項ノ補助金ノ倍額ニ相當スル價額ノ採油權アリタリト認ムルトキハ其ノ時ヨリ起算シ四年間毎年其ノ採油價額ノ三割ニ相當スル金額ヲ返還セシムルコトヲ得

但シ其ノ返還金ノ總額ハ其ノ受ケタル補助金額ヲ限度トス

第八條　補助金ノ交付ヲ受クル者其ノ事業ヲ讓渡セントスルトキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ前條ノ補助金返還義務ナキ場合又ハナキニ至リタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　補助金ノ交付ヲ受クル者其ノ補助金ノ交付ヲ受ケテ購入シタル機械及其ノ附屬品ヲ事業計劃書ニ定ムル深度ノ試掘ヲ了ラザル以前又ハ之ヲ了リタル後五年以内ニ處分セントスルトキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ補助金ノ交付ヲ停止若ハ廢止シ又ハ補助金ノ一部若ハ全部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

一　試掘ヲ廢止シタルトキ

二　第三條第二項ノ規定ニ違反シテ事業計劃ヲ變更シタルトキ

三　第四條ノ命令ニ違反シタルトキ

四　第五條及第六條ノ義務ヲ怠リタルトキ

五　第八條ノ規定ニ違反シテ事業ヲ讓渡シタルトキ

六　第九條ノ規定ニ違反シテ機械及其ノ附屬品ヲ處分シタルトキ

七　詐欺其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ補助金ノ交付ヲ受ケ又ハ第七條ノ補助金返還義務ヲ免レントシタルトキ

【樺法】

附　則

本則ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記樣式）

第一號　事業計劃書

一　試掘セントスル鑛區ノ登錄番號及其ノ所在地

二　鑿井地點（鑿井地點ヲ記入シタル鑛區圖ヲ添付スヘシ）

三　鑿井機ノ種類及型式

四　坑徑及掘止深度

五　鑿井ノ著手及終了豫定時期

六　主任技術者及主任鑿井手ノ氏名及履歴

第二號　機械購入費明細書

種別	品名	新古別	型式	大サ	能力	個數	價格 單價	價格 金額	用途	製造者	備考
鑿井機械	「ロータリー」式鑿井機										
	綱式鑿井機										
	「コーア」採取機										
	採揚機										
櫓及櫓金具	櫓										
	櫓金具										
發動機及「ポンプ」	汽罐										
	蒸汽機關										

【樺法】

電動機			
原動機附屬機械			
「ポンプ」			
坑用鐵管			
D・B・×「ケーシング」			
普通「ケーシング」			
D・B・×「チューピング」			
普通「チューピング」			
合計			

備考

本機械購入費明細書ハ第一條第二項ノ補助金ノ交付ヲ受ケントスル場合ニ限リ之ヲ添附スルモノトス

●樺太ニ於ケル鑛業砂鑛業免許漁業ノ登錄ニ關スル件

大正十年四月二十七日
勅令第百七十二號

改正　昭四年六月勅令一七二號

朕樺太ニ於ケル鑛業砂鑛業及免許漁業ノ登錄ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總、大臣副署）

第一條　樺太ニ於ケル鑛業ニ關スル登錄ハ樺太廳ニ於テ鑛業原簿ニ、砂鑛業ニ關スル登錄ハ樺太廳ニ於テ砂鑛原簿ニ之ヲ爲ス

鑛業ノ登錄ニ關シテハ鑛業登錄令ヲ、砂鑛業ノ登錄ニ關シテハ鑛業登錄令第二條乃至第四條第五條第二項第六條乃至第二十七條第三十條乃至第三十七條第三十九條乃至第六十條ノ規定ヲ準用ス但シ同令中鑛務ニ關スル事項ヲ管掌スル官署ハ之ヲ樺太廳トシ當該官署ノ長ノ職務及第七條第十四條ニ規定スル（農商務大臣）ノ職務ハ樺太廳長官、第五十四條第五十五條第五十八條第六十條ニ規定スル（農商務大臣）ノ職務ハ拓務大臣之ヲ行フ

第二條　樺太ニ於ケル免許漁業ニ關スル登錄ハ樺太廳ニ於テ免許漁業原簿ニ之ヲ爲ス

前項ノ登錄ニ關シテハ漁業登錄令ヲ準用ス但シ同令ニ規定スル主務大臣又ハ（農商務大臣）ノ職務ハ樺太廳長官之ヲ行フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年勅令第三十四號、明治四十五年勅令第百三十八號及同年勅令第百三十九號ハ之ヲ廢止ス

舊令ニ依ル鑛業原簿、砂鑛原簿及免許漁業原簿ハ各之ヲ本令ニ依ル鑛業原簿、砂鑛原簿及免許漁業原簿ト看做ス

舊令ニ依リ爲シタル登錄ハ之ヲ本令ニ依リ爲シタル登錄ト看做ス

●鑛業登錄令

明治三十八年六月二十日
勅令第百八十三號

改正　明四二年六月勅令一六三號、大一一年一二月五一四號、昭四年一〇月三一五號

朕鑛業登錄令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（農、司、大臣副署）

鑛業登錄令

第一章　總則

第一條　鑛業ニ關スル登錄ハ鑛山監督局ニ於テ之ヲ爲ス

第二條　同一ノ鑛業權ニ關シテ登錄シタル權利ノ順位ニ付法令ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ順位ハ登錄ノ前後ニ依ル

第三條　附記登錄ノ順位ハ主登錄ノ順位ニ依ル但シ附記登錄間ノ順位ハ其ノ前後ニ依ル

第四條　假登錄ヲ爲シタルモノニ付本登錄ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ順位ハ假登錄ノ順位ニ依ル

第二章　鑛業原簿

第五條　鑛業原簿ハ試掘原簿、採掘原簿ノ二種トス

共同鑛業權者ニ付テハ共同人名簿、鑛區圖ニ付テハ鑛區圖綴込帳、信託ニ付テハ鑛業信託原簿ヲ設ケ鑛業原簿ノ一部トス

第六條　何人ト雖手數料ヲ納付シテ鑛業原簿ノ謄本、抄本ノ交付ヲ請求シ又ハ鑛業原簿若ハ其ノ附屬書類ノ閲覽ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵便切手ヲ納付シテ鑛業原簿ノ謄本、抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第七條　鑛業原簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テ其ノ調製ニ關スル手續ハ商工大臣之ヲ定ム

前項ニ依リテ調製シタル原簿ハ滅失前ノ鑛業原簿ト看做ス

第八條　前條鑛業原簿ノ調製ヲ終リタルトキハ其ノ登錄ノ謄本又ハ抄本ヲ登錄名義人ニ交付スルコトヲ要ス

第三章　登錄手續

第一節　通則

第九條　登錄ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外申請、囑託又ハ命令アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

〔樺法〕

囑託又ハ命令ニ因ル登錄ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外申請ニ因ル登錄ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條　登錄ハ登錄權利者及登錄義務者又ハ其ノ代理人出頭シ又ハ書留郵便ヲ以テ申請スルコトヲ要ス

第十一條　判決又ハ相續其ノ他ノ一般承繼ニ因ル登錄ハ登錄權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第十二條　登錄名義人ノ表示ノ變更又ハ更正ノ登錄ハ登錄名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第十三條　左ノ登錄ニ付テハ官廳又ハ公署ハ囑託書ニ登錄原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ囑託スルコトヲ要ス

一　處分ノ制限ノ登錄

二　公賣處分ニ因ル鑛業權移轉ノ登錄

第十四條　鑛業權ヲ取消シタルトキ又ハ取消處分ノ取消ヲ爲シタルトキハ商工大臣ハ其ノ登錄ヲ命スルコトヲ要ス

第十五條　登錄ヲ申請スルニハ左ノ書類ヲ提出スルコトヲ要ス

一　申請書

二　登錄原因ヲ證スル書面

三　登錄原因ニ付第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面

四　代理人ニ依リテ登錄ヲ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面

採掘權ノ設定、變更ニ關スル試掘權ノ抹消登錄ノ申請又ハ共同鑛業ノ場合ヲ除クノ外廢業登錄ノ申請ニ付テハ前項第二號ノ書面ヲ提出スル

登錄原因ヲ證スル書面カ執行力アル判決ナルトキハ第一項第三號ニ掲ケタル書面ヲ提出スルコトヲ要セス

國、法人ノ代表者又ハ共同鑛業ノ代表者ニ依リテ申請スル場合ニ於テハ第一項第四號ノ書面ヲ提出スルコトヲ要セス

第十六條　申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　鑛區所在地

二　鑛業權ノ登錄番號

三　申請人ノ氏名又ハ名稱及住所

四　代理人又ハ代表者ニ依リテ登錄ヲ申請スルトキハ其ノ氏名及住所

五　登錄原因及其ノ日附

六　登錄ノ目的

七　年月日

第三十條第二項ノ規定ニ依ル抵當權設定ノ申請ニ付テハ前項第二號ノ記載ヲ要セス

前條第二項ノ申請ニ付テハ第一項第五號ノ記載ヲ要セス

第十六條ノ二　債權者カ民法第四百二十三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登錄ヲ申請スルニハ第十五條第一項ニ掲ケタル書面ノ外代位原因ヲ證スル書面ヲ提出シ且申請書ニ第十六條第一項ニ記載シタル事項ノ外債權者ノ氏名又ハ名稱及住所竝代位原因ヲ記載シ之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第十七條　左ノ場合ニ於テハ申請人ハ申請書ニ其ノ事實ヲ證スル戸籍若ハ登記簿ノ謄本若ハ抄本又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコ

トヲ要ス

一　申請人カ相續人其ノ他ノ一般承繼人ナルトキ

二　登錄名義人カ其ノ表示ノ變更又ハ更正ノ登錄ヲ申請スルトキ

三　死亡ニ因ル共同鑛業權者脫退ノ登錄ヲ申請スルトキ

第十八條　申請書ニ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其ノ第三者ヲシテ申請書ニ署名捺印セシメテ其ノ書面ニ代フルコトヲ得

第十九條　同一鑛山監督局ノ管轄ニ屬スル數箇ノ鑛區ニ關シ抵當權ノ設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ登錄原因及登錄ノ目的カ同一ナルトキニ限リ同一ノ申請書ヲ以テ登錄ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限ノ登錄ヲ囑託スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十條　登錄ハ受附ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十一條　左ノ場合ニ於テハ登錄ノ申請ハ之ヲ受理セス

一　事件カ管轄ニ屬セサルトキ

二　事件カ登錄スヘキモノニ非サルトキ

三　當事者カ出頭セス又ハ申請書ヲ書留郵便ヲ以テ差出ササルトキ

四　申請書カ方式ニ適合セサルトキ

五　申請書ニ掲ケタル鑛業權又ハ抵當權ノ表示カ鑛業原簿ト抵觸スルトキ

六　第十七條第一號ノ場合ヲ除クノ外申請書ニ掲ケタル登錄義務者及共同鑛業代表者ノ表示カ鑛業原簿ト符合セサルトキ又ハ申請人タル者カ登錄名義人タル場合ニ於テ其ノ表示カ鑛業原簿ト符合セサルトキ

七　申請書ニ掲ケタル事項カ登錄原因ヲ證スル書面ト符合セサルトキ

八　申請ニ必要ナル書面ヲ提出セサルトキ

九　登錄稅ヲ納付セサルトキ

第二十二條　登錄名義人ノ表示ノ變更若ハ更正ノ登錄又ハ共同鑛業權者脫退及其ノ代表者改定ノ登錄ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

第二十三條　行政區畫又ハ其ノ名稱ノ變更アリタルトキハ鑛業原簿ニ記載シタル行政區畫又ハ其ノ名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス大字若ハ字又ハ其ノ名稱ノ變更アリタルトキ亦同ジ

前項ノ變更アリタルトキハ鑛山監督局長ハ鑛業權ノ表示ニ付テハ其ノ變更ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十四條　登錄ヲ完了シタル後其ノ登錄ニ付錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ旨ヲ登錄權利者及登錄義務者ニ通知スルコトヲ要ス第十六條ノ二ノ場合ニ於テハ債權者ニ對シテモ亦之ヲ爲スコトヲ要ス

錯誤又ハ遺漏カ鑛業權ノ表示ニ關スル登錄ニ係ルトキハ更正ノ登錄ヲ爲シタル後前項ノ通知ヲナスコトヲ要ス

錯誤又ハ遺漏カ前項以外ノ登錄ニ係ルトキハ登錄更正ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ナキトキ又ハ申請書ニ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキニ限リ附記ニ依リ更正ノ登錄ヲ爲ス

第二十五條　抹消シタル登錄ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ對抗スル

コトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十六條　申請書其ノ他登錄ニ關スル書面ヲ作ルニハ字畫明瞭ナルコトヲ要ス

金錢其ノ他ノ物ノ數量、年月日及番號ヲ記載スルニハ壹、貳、參、拾ノ文字ヲ用ウルコトヲ要ス

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ之ニ捺印シ其ノ削除ニ係ル文字ハ尙讀得ヘキ爲字體ヲ存スルコトヲ要ス

第二節　鑛業權ニ關スル登錄手續

第二十七條　鑛業ノ出願許可スヘキモノト決定シタル場合ニ於テ登錄稅ノ納付アリタルトキハ鑛山監督局長ハ鑛業權ノ設定又ハ變更ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス鑛業權ノ表示ノ變更又ハ鑛種名更正ニ依ル表示ノ更正ノ場合亦同シ

第二十八條　死亡、破產又ハ禁治產ニ因ル共同鑛業權者脫退ノ登錄ハ登錄權利者又ハ登錄義務者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十九條　（削除）

第三十條　鑛業法第三十五條第二項ノ場合ニ於テ採掘權設定ノ登錄ヲ爲サムトスルトキハ其ノ旨ヲ抵當權者ニ通知スルコトヲ要ス

前項ノ抵當權者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ抵當權設定ノ登錄ヲ申請スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ抵當權ノ順位ハ協定ノ順位ニ依ル

前項ノ申請ニ付テハ最後ニ通知ヲ受ケタル者ニ對スル前項ノ期間滿了ノ日ノ翌日ニ於テ採掘權設定ノ登錄ト共ニ其ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

期間滿了前ト雖總抵當權者ノ申請アリタルトキハ直ニ前項ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第三節　抵當權ニ關スル登錄手續

第三十一條　鑛業法第三十五條第二項ニ基キ爲シタル承諾及協定ニ因ル抵當權設定ノ登錄ハ登錄權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第三十二條　抵當權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登錄原因ニ辨濟期ノ定アルトキ、利息ニ關スル定アルトキ、其ノ發生期若ハ支拂時期ノ定アルトキ又ハ債權ニ條件ヲ附シタルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十三條　抵當權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ設定者カ債務者ニ非サルトキハ申請書ニ債務者ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス

抵當權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ抵當權カ債權ト共ニ移轉スルヤ否ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十四條　一定ノ金額ヲ目的トセサル債權ノ擔保タル抵當權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ債權ノ價格ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十五條　債權ノ一部ノ讓渡又ハ代位辨濟ニ因ル抵當權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ讓渡又ハ代位辨濟ノ目的タル債權額ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十六條　抵當權變更ノ登錄ノ申請アリタル場合ニ於テハ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ナキトキ又ハ申請書ニ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シ

タルトキニ限リ附記ニ依リ變更ノ登錄ヲ爲ス

第三十七條　抵當權ノ移轉、順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更及其ノ處分ノ制限ノ登錄ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

第四節　抹消ニ關スル登錄手續

第三十八條　期限ノ滿了ニ因リ鑛業權カ消滅シタルトキハ其ノ原因ヲ記載シ抹消ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第三十九條　廢業ニ因ル鑛業權消滅ノ登錄ハ登錄權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第四十條　鑛區ノ合併又ハ分割ニ因ル採掘權設定ノ登錄ヲ爲シタルニ因リ其ノ合併又ハ分割前ノ採掘權消滅シタルトキハ其ノ原因ヲ記載シテ抹消ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第四十一條　抵當權ノ登錄アル採掘權ニ關シ廢業ニ因ル抹消ノ申請アリタルトキハ抹消ノ登錄ヲ爲スト同時ニ競賣ノ目的ノ範圍內ニ於テ仍存續スル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

抵當權者競賣ノ請求ヲ爲サヽルトキ又ハ競賣申立ノ登錄アリタル場合ニ於テ其ノ登錄抹消ノ囑託アリタルトキハ其ノ旨ヲ登錄シタル後存續ニ關スル記載ヲ抹消スルコトヲ要ス

第四十二條　前條ノ規定ハ鑛業法第三十八條第一項及第三十九條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外低當權ノ登錄アル採掘權取消ニ因ル抹消ノ命令アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條　抵當權カ人ノ死亡ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テ申請書ニ其ノ死亡ヲ證スル戶籍ノ謄本其ノ他之ニ相當スル書面ヲ添附スルトキハ登錄權利者ノミニテ登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四十四條　登錄權利者カ登錄義務者ノ行方ノ知レサルニ因リ之ト共ニ登錄ノ抹消ヲ申請スルコト能ハサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請書ニ其ノ謄本ヲ添附シ登錄權利者ノミニテ登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ申請書ニ債權證書、債權ノ受取證書竝民法第三百七十四條ノ規定ニ依リ抵當權ヲ行フコトヲ得ル定期金及損害賠償ノ受取證書ヲ添附シタルトキハ登錄權利者ノミニテ抵當權ニ關スル登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四十五條　廢業ニ因ル場合ヲ除クノ外登錄ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ抹消ニ付登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ第二十五條ノ規定ヲ準用ス

廢業ニ依ル登錄ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ假登錄又ハ豫告登錄ヲ爲シタル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十六條　第十三條ノ規定ニ依リ公賣處分ニ因ル鑛業權移轉ノ登錄ノ囑託アリタル場合ニ於テハ處分ノ制限ノ登錄ヲ抹消シ若シ抵當權ノ登錄アルトキハ其ノ登錄ヲ抹消スルコトヲ要ス

第五節　信託ニ關スル登錄手續

第四十七條　鑛業權ノ信託ノ登錄ニ付テハ受託者ヲ登錄權利者トシ委託者ヲ登錄義務者トス

第四十八條　信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財產ニ屬スル鑛業權ノ信託ノ登錄ハ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ信託法第二十七條ノ規定ニ基ク信託財産ノ復歸ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條　受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ信託ノ登錄ヲ申請スルコトヲ得

第十六條ノ二ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル代位登錄ノ申請ニ之ヲ準用ス

此ノ場合ニ於テハ申請書ニ倘登錄ノ目的タル鑛業權カ信託財産タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十條　信託ノ登錄ノ申請ハ信託ニ因ル鑛業權移轉ノ登錄ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ前條ノ規定ニ依リテ受益者又ハ委託者カ受託者ニ代位シテ信託ノ登錄ヲ申請スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財産ニ屬スル鑛業權ノ信託ノ登錄ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十一條　受託者更迭ノ場合ニ於テ鑛業權移轉ノ登錄ヲ申請スルニハ申請書ニ其ノ更迭ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託法第五十條第二項ノ場合ニ於テ爲スヘキ變更ノ登錄ニ之ヲ準用ス

第五十二條　受託者ノ任務カ死亡、破産、禁治産、準禁治産又ハ裁判所若ハ主務官廳ノ解任命令ニ因リテ終了シタルトキハ前條ノ登錄ハ新受託者又ハ他ノ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得受託者タル法人ノ任務カ解散ニ因リテ終了シタルトキ亦同シ

第五十三條　信託ノ登錄ノ申請書ニハ第十六條ニ掲クル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　委託者、受託者、受益者及信託管理人ノ氏名又ハ名稱及住所
二　信託ノ目的
三　信託財産ノ管理方法
四　信託終了ノ事由
五　其ノ他信託ノ條項

前項ニ掲クル事項ハ職權ヲ以テ鑛業信託原簿ニ之ヲ登錄スルコトヲ要ス

第五十四條　裁判所カ信託管理人ヲ選任シ又ハ解任シタルトキハ遲滯ナク鑛業信託原簿ノ登錄ヲ鑛山監督局長ニ囑託スルコトヲ要ス主務官廳カ信託管理人ヲ選任シタルトキ亦同シ

第五十五條　前條ノ規定ハ裁判所又ハ主務官廳カ受託者ヲ解任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條　裁判所カ信託財産ノ管理方法ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク鑛業信託原簿ノ登錄ヲ鑛山監督局長ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ主務官廳カ信託ノ條項ヲ變更シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條　第五十一條又ハ第五十二條ノ場合ニ於テ鑛業原簿ノ登錄ヲ爲シタルトキハ鑛山監督局長ハ職權ヲ以テ鑛業信託原簿ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第五十八條　第五十一條、第五十二條及第五十四條乃至第五十六條ノ場合ヲ除クノ外第五十三條第一項ニ掲ケタル事項ノ變更ニ關スル鑛業信託原簿ノ登錄ハ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第十六條ノ二ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル代位登錄ノ申請ニ之ヲ準用ス

第五十九條　第五十五條ニ規定スル登錄ヲ爲シタルトキハ鑛山監督局長ハ職權ヲ以テ鑛業原簿ニ其ノ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第六十條　信託財産ニ屬スル鑛業權カ移轉ニ因リテ信託財産ニ屬セサルニ至リタル場合ニ於テ爲スヘキ信託登錄抹消ノ申請ハ移轉登錄ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託終了ニ因リ信託財産ニ屬スル鑛業權カ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十一條　第五條第二項及第四十七條乃至前條ノ規定ハ採掘權ヲ目的トスル抵當權ノ信託ノ登錄ニ之ヲ準用ス

第四章　假登錄及豫告登錄

第六十二條　假登錄ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

一　鑛業權ノ移轉又ハ抵當權ノ設定、移轉、變更若ハ消滅ノ登錄ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セサルトキ
二　前號ノ事項ニ關シ請求權ヲ保全セムトスルトキ

第六十三條　假登錄ハ次條ノ場合ヲ除クノ外假登錄權利者ノ申請ニ因リ其ノ目的タル鑛區ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ假處分命令ハ假登錄權利者カ假登錄原因ヲ疏明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スルコトヲ要ス

申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ即時抗告ニ付ナハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第六十四條　假登錄ハ假登錄義務者ノ承諾アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書ヲ添附シテ假登錄權利者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第六十五條　假登錄ノ抹消ハ假登錄名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

申請書ニ假登錄名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登錄上ノ利害關係人ヨリ假登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第六十六條　豫告登錄ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

一　登錄原因ノ無效又ハ取消ニ因ル登錄ノ抹消又ハ回復ノ訴訟ノ提起アリタルトキ但シ登錄原因ノ無效又ハ取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル場合ニ限ル
二　鑛業法第八十九條ノ規定ニ依リ鑛業權ニ關スル出願ノ許可ニ對シ訴願又ハ行政訴訟ノ提起アリタルトキ

第六十七條　豫告登錄ハ前條ニ掲ケタル訴訟又ハ訴願ヲ受理シタル官廳ヨリ囑託書又ハ命令書ニ訴狀若ハ訴願書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シテ囑託又ハ命令スルコトヲ要ス

第六十八條　第六十六條第一號ニ掲ケタル訴ヲ却下シタル裁判若ハ之ヲ提起シタル者ニ對シテ敗訴ヲ言渡シタル裁判カ確定シタルトキ、訴ノ取下アリタルトキ、請求ノ拋棄アリタルトキ又ハ請求ノ目的ニ付和解アリタルトキハ第一審裁判所ハ囑託書ニ裁判ノ謄本若ハ抄本又ハ訴ノ取下、請求ノ拋棄若ハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附シテ豫告登錄ノ抹消ヲ囑託スルコトヲ要ス

第六十九條　第六十六條第二號ニ掲ケタル訴願又ハ行政訴訟ヲ却下シ、請求ヲ否認シ若ハ其ノ取下アリタルトキハ商工大臣ハ豫告登錄ノ抹消ヲ命シ行政裁判所ハ之ヲ囑託スルコトヲ要ス

第五章　異議

第七十條　登錄ニ關スル處分ヲ不當トスル者ハ處分ノ了リタル日ヨリ三十日以内ニ商工大臣ニ異議ヲ爲スコトヲ得

第七十一條　異議ハ鑛山監督局長ニ異議狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス

第七十二條　異議ハ新ナル事實及證據方法ヲ以テ其ノ憑據ト爲スコトヲ得ス

第七十三條　鑛山監督局長異議ヲ理由ナシトスルトキハ意見ヲ附シテ事件ヲ商工大臣ニ送付スルコトヲ要ス

鑛山監督局長異議ヲ理由アリトスルトキハ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス若シ登錄完了ノ後ナルトキハ假登錄ヲ爲シ之ヲ登錄上ノ利害關係人ニ通知シ且前項ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

異議ノ取下アリタルトキハ鑛山監督局長ハ前項ノ假登錄ヲ抹消シ之ヲ登錄上ノ利害關係人ニ通知スルコトヲ要ス

第七十四條　異議ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス

第七十五條　商工大臣ハ登錄上ノ利害關係人ニ決定ノ謄本ヲ送付スルコトヲ要ス

商工大臣異議ヲ理由アリトスルトキハ鑛山監督局長ニ相當ノ處分ヲ命シ異議ヲ理由ナシトスルトキハ假登錄ヲ爲シタルモノニ付テハ其ノ抹消ヲ命スルコトヲ要ス

附則

第七十六條　本令施行前ニ鑛山監督局ニ備付タル鑛業ニ關スル原簿及書入登錄簿ヲ以テ舊鑛業原簿トス

第七十七條　本令施行前ニ於ケル官廳所廳ノ採掘區域ニ關シテハ本令施行ノ日ニ於テ採掘權設定ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條　本令施行前ニ認可若ハ特許ノ鑛業權又ハ登錄ノ抵當權ニ付鑛業權ノ抹消ヲ除クノ外登錄ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ爲ストキハ鑛業原簿ニ舊鑛業原簿中抹消ニ係ラサル登錄ヲ移シ舊鑛業原簿中鑛業原簿ニ移シタル登錄ヲ抹消スルコトヲ要ス

第七十九條　舊鑛業原簿ニ記載シアル鑛業權ニ付其ノ抹消登錄ノ申請アリタルトキハ其ノ原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス期限滿了ニ因ル抹消ノ登錄ヲ爲ス場合亦同シ

第八十條　〔鑛業條例〕ニ依リ差出シタル廢業屆ニ付テハ舊鑛業原簿ニ郵便差出ノ日時ニ於テ廢業ヲ爲シタルコトノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第八十一條　〔鑛業條例〕ニ依リ差出シタル鑛業特許證書換願、探掘權書入登錄願又ハ登錄シタル抵當權ノ變更、移轉若ハ取消願ニ付テハ舊鑛業原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ願書ヲ差出シタル日ヲ以テ申請ノ日ト看做ス

第八十二條　本令施行前ニ相續ニ因リテ鑛業人ト爲リタル者又ハ氏名、名稱若ハ住所ヲ變更シタル鑛業人ハ本令中相續又ハ變更ノ申請ニ關スル規定ニ準シテ調製シタル屆書ヲ差出スコトヲ要ス

前項ノ屆出アリタルトキハ舊鑛業原簿ニ相續又ハ變更ノ記入ヲ爲スコトヲ要ス

第八十三條　本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和四年勅令第三百十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鑛業登錄令及明治四十二年勅令第百六十四號中「農商務大臣」ヲ「商工大臣」ニ、「鑛山監督署」及「鑛務署」ヲ「鑛山監督局」ニ、「鑛山監督署長」及「鑛務署長」ヲ「鑛山監督局長」ニ改ム

明治四十二年勅令第百六十四號第十條中「第六十三條、第六十四條及第六十七條」ヲ「第七十八條、第七十九條及第八十二條」ニ改ム

●鑛業登錄令施行細則

明治四十五年七月十二日
廳令第二十二號

改正　大元年八月廳令四號

鑛業登錄令施行細則左ノ通相定ム

鑛業登錄令施行細則

第一條　登錄事務ニ關シ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一　鑛業原簿
二　共同人名簿
三　鑛區圖綴込帳
四　登錄受附帳
五　申請書、囑託書附屬書類綴込帳
六　通知書綴込帳
七　通知簿
八　鑛業原簿謄本綴込帳
九　鑛業權、抵當權登錄濟通知簿
十　異議書類決定原本綴込帳
十一　謄本抄本交付閲覽申請事件簿
十二　謄本抄本交付閲覽申請書綴込帳

第二條　鑛業原簿ハ第一號及第二號ノ樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三條　鑛業原簿ハ一鑛區ニ付一用紙ヲ備フヘシ

第四條　共同人名簿ハ第三號及第四號ノ樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五條　鑛區圖綴込帳ハ各圖面ニ登錄番號並登錄年月日ヲ記載シ登錄番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴シ丁數ヲ附スヘシ

第六條　登錄受附帳ハ第五號樣式ニ依リ毎年之ヲ調製シ受附番號ヲ更新スヘシ

第七條　第一條第七號及第九號ノ通知簿ニハ通知事項ヲ記入シ通知書ト契印スヘシ

第八條　鑛業原簿ノ謄本、抄本若ハ鑛區圖謄本ノ交付又ハ鑛業原簿若ハ附屬書類ノ閲覽ヲ請求スル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スヘシ

一　申請人ノ氏名又ハ名稱及住所
二　鑛區所在地及登錄番號又ハ鑛區ヲ表示スルニ足ルヘキ事項
三　申請ノ範圍
四　年月日

第九條　前條ノ申請アリタルトキハ第一條第十一號ノ帳簿ニ請求ノ範圍、申請人ノ氏名又ハ名稱、受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シタル上相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第十條　鑛業原簿ノ謄本ハ鑛業原簿ト同一樣式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作成シ餘白アルトキハ之ニ朱線ヲ施シ其ノ末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモ

ノヲ添附シテ契印ヲ爲シ樺太廳長官之ニ年月日ヲ記載シテ記名捺印ヲ爲ス

此ノ謄本ハ鑛業原簿ト相違ナキコトヲ認證ス

前項ノ規定ハ鑛區圖ノ謄本及鑛業原簿ノ抄本ヲ作成スル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條　鑛業原簿ノ謄本、抄本又ハ鑛區圖ノ謄本ヲ交付スルトキハ第六條第七號ノ帳簿ニ交付ノ年月日ヲ記載シ謄本又ハ抄本ト契印スヘシ

第十二條　登錄申請書カ數葉ニ渉ルトキハ申請人ハ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但シ登錄權利者又ハ登錄義務者カ多數ナルトキハ其ノ一人ノ契印ヲ以テ足ル

前項ニ依ル契印ナキモノニ付テハ擔當職員ニ於テ契印ヲ爲スヘシ

第十三條　申請書ノ提出アリタルトキハ登錄受附帳ニ登錄ノ目的、申請人ノ氏名又ハ名稱受附ノ年月日及受附番號ヲ、申請書ニ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載スヘシ但シ申請人カ郵便ニ依リ申請シタル場合ニ於テ其ノ郵便物ノ到達カ執務時間外ニ係ルトキハ郵便物ノ表面ニ登錄申請ナルコトヲ明記シタルモノニ限リ其ノ到達ノ時ヲ以テ受附ノ時ト看做ス

前項受附番號ハ受附ノ順序ニ依リ之ヲ附ス但シ同一ノ鑛業權又ハ抵當權ニ關シテ同時ニ數箇ノ申請アリタルトキハ同一ノ受附番號ヲ附スヘシ

第一項ニ依リ申請人ノ氏名又ハ名稱ヲ記載スル場合ニ於テ登錄權利者又ハ登錄義務者カ多數ナルトキハ代表者又ハ筆頭者ノ氏名若ハ名稱及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

前三項ノ規定ハ登錄稅納付書ノ提出アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　登錄番號欄ニハ各鑛區ニ付試掘原簿又ハ採掘原簿ニ登錄ヲ爲シタル順序ヲ記載スヘシ

表示欄ニハ鑛業權ノ表示ヲ爲シ竝其ノ變更消滅及鑛業法第三十一條又ハ第三十六條ノ規定ニ依リ鑛區ノ重複シタル場合ニ於ケル鑛業權ノ制限ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

試掘原簿ニ在リテハ事項欄ニ試掘權ノ設定、移轉、處分ノ制限及共同鑛業權者ノ脫退ニ關スル事項ヲ、順位番號欄ニ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ、採掘原簿ニ在リテハ甲區事項欄ニ採掘權ノ設定、移轉、處分ノ制限及共同鑛業權者ノ脫退ニ關スル事項ヲ、乙區事項欄ニ抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅及處分ノ制限ニ關スル事項ヲ、順位番號欄ニ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

第十五條　表示欄ニ登錄ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、登錄ノ目的其ノ他鑛業權ノ表示ニ關スル事項竝登錄ノ年月日ヲ記載シテ擔當職員捺印スヘシ

事項欄ニ登錄ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、登錄權利者ノ氏名又ハ名稱、住所、登錄原因及其ノ日附登錄ノ目的其ノ他登錄スヘキ權利ニ關スル事項竝登錄ノ年月日ヲ登錄シテ擔當職員捺印スヘシ

鑛業登錄令第十六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ事項欄ニ登錄ヲ爲スニハ前項ニ依ル外債權者ノ氏名又ハ名稱及住所竝代位原因ヲ記載スルコトヲ要ス

第十六條　表示欄ニ登錄ヲ爲ストキハ表示番號欄ニ番號ヲ、事項欄ニ登錄ヲ爲ストキハ順位番號欄ニ番號ヲ記載スヘシ

第十三條第二項但書ノ規定ニ依リ同一ノ受附番號ヲ附シ同一ノ事項欄ニ登錄ヲ爲スモノニ付テハ同一ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第十七條　表示欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及表示欄ニ縱線ヲ劃シ事項欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及事項欄ニ縱線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

第十八條　附記登錄ノ順位番號ヲ記載スルニハ主登錄ノ番號ヲ用ヰ其ノ番號ノ左側ニ附記何號ト記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ主登錄ノ順位番號ノ左側ニ附記登錄番號ヲ記載スヘシ

第十九條　假登錄ハ登錄用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲シ其ノ左側ニ餘白ヲ存スヘシ

第二十條　假登錄ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縱線ヲ劃シ其ノ左側ニ本登錄ヲ爲シ得ヘキ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及事項欄ニ縱線ヲ劃スヘシ

第二十一條　假登錄ヲ爲シタル後本登錄ノ申請アリタルトキハ假登錄ノ左側ノ餘白ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ假登錄ノ抹消ノ申請アリタルトキ亦同シ

第二十二條　豫告登錄ハ鑛業登錄令第五十一條第一號ニ關スルモノニ付テハ登錄用紙中相當區事項欄ニ、同條第二號ニ關スルモノニ付テハ表示欄ニ之ヲ爲スヘシ

第二十三條　變更又ハ更正ノ登錄ヲ爲ストキハ其ノ登錄ニ因リテ變更又ハ更正セラレタル登錄事項ヲ朱抹スヘシ

第二十四條　登錄ヲ完了シタルトキハ登錄原因ヲ證スル書面ニ登錄番號、申請書受附ノ年月日、順位番號、登錄ノ年月日及登錄濟ノ旨ヲ記載シ樺太廳ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登錄權利者ニ還付シ且登錄義務者ニハ登錄番號、登錄ノ原因及其ノ日附、登錄ノ目的、申請書受附ノ年月日、順位番號、登錄ノ年月日及登錄濟ノ旨ヲ記載シ樺太廳ノ印ヲ押捺シタル書面ヲ交付スヘシ

法令ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ爲ス登錄又ハ申請ニ登錄原因ヲ證スル書面ヲ要セサルモノノ登錄ノ場合ニ於テハ前項ニ準シ作成シタル登錄濟通知書ニ樺太廳ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登錄權利者ニ交付スヘシ但シ鑛業權ノ設定、變更又ハ表示ノ變更ニ關スル場合ニ於テハ鑛區圖ヲ添附スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ登錄權利者又ハ登錄義務者多數ナルトキハ其ノ一人ニ交附スルヲ以テ足ル

第二十五條　鑛業登錄令第十六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ完了シタルトキハ前條第一項ニ揭ケタル書類ヲ債權者ニ還付シ且前條第一項ニ準シ作成シタル登錄濟通知書ニ樺太廳ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登錄權利者ニ交付スヘシ

第二十六條　鑛業權消滅ノ登錄ヲ爲シタル後登錄回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ爲スニハ登錄用紙中登錄番號欄ニ新ナル番號欄ニ新ナル番號ヲ、其ノ左側ニ前登錄番號ヲ、表示欄ニ回復ノ原因ヲ記載シ其ノ消滅前ノ登錄ト同一ノ登錄ヲ爲スヘシ

第二十七條　前條ニ規定シタル場合ヲ除クノ外登錄回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ回復スルトキハ回復ノ登錄ヲ爲シタル後更ニ抹消ニ

〔樺法〕

係ル登錄ト同一ノ登錄ヲ爲シ若登錄事項ノ一部ノミカ抹消ニ係ルトキハ附記ニ依リ更ニ其ノ事項ヲ登錄スヘシ

第二十八條　登錄用紙中部又ハ區カ登錄ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新用紙中登錄番號欄ニ前用紙ノ登錄番號ヲ轉寫シ其ノ左側ニ第二ナルコト、前用紙ヲ編綴セル鑛業原簿ノ冊數、丁數及其ノ繼續用紙ナル旨ヲ記載シ且前用紙ノ登錄番號ノ左側ニ其ノ第一ナルコト、新用紙ヲ編綴セル鑛業原簿ノ冊數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ但シ前用紙中其ノ餘白アルモノニ付テハ仍之ニ記載スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條　鑛業權ノ設定、變更又ハ表示ノ變更ノ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ登錄用紙中表示欄ニ爲シタル登錄ノ末尾ニ鑛區圖綴込帳ノ冊數及丁數ヲ記入スヘシ

第三十條　鑛業權ノ設定又ハ移轉ノ登錄ヲ爲ス場合ニ於テ登錄權利者多數ナルトキハ代表者ノミノ氏名又ハ名稱及住所並其ノ代表者ナルコトヲ登錄用紙ニ、共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所並代表者ノ氏名又ハ名稱ヲ共同人名簿ニ記載スヘシ

共同鑛業代表者改定ノ屆出又ハ指定アリタルトキハ前項ニ準シテ其ノ登錄ヲ爲シタル後前ノ代表者ノ表示ヲ朱抹スヘシ

第三十一條　前條ノ規定ニ依リ共同人名簿ニ記載ヲ爲スニハ番號欄ニ番號ヲ、代表者欄ニ代表者ノ氏名又ハ名稱及其ノ屆出又ハ指定ノ年月日ヲ、共同人名欄ニ共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ、備考欄ニ登錄番號及順位番號ヲ記載シテ擔當職員捺印スヘシ

第三十二條　共同鑛業權者ノ表示ノ變更、更正又ハ脫退ニ付鑛業原簿ニ登錄ヲ爲シタルトキハ共同人名簿中備考欄ニ登錄ノ目的タル新ナル事項及其ノ順位番號ヲ記載シ擔當職員捺印シ前ニ記載シタル事項ヲ朱抹スヘシ

第三十三條　前二條ノ場合ニ於テ代表者欄又ハ備考欄ニ餘白ナキニ至リタルトキハ新ニ番號欄ニ前番號ヲ轉寫シ其ノ左側ニ其ノ第二ナルコト、前用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及其ノ繼續用紙ナル旨ヲ、共同人名欄ニ共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シ且前用紙ノ番號ノ左側ニ其ノ第二ナルコト、繼續用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ但シ前用紙中其ノ餘白アルモノニ付テハ仍之ニ記載スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條　共同人名簿ニ記載ヲ爲シタル場合ニ於テハ鑛業原簿ニ爲シタル登錄ノ末尾ニ共同人名簿ニ於ケル番號ヲ記載スヘシ

第三十五條　共同人名簿ニ共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所ノ記載ヲ爲シタルトキハ共同人名欄ニ於ケル末尾ノ縱線ヲ番號欄、代表者欄及備考欄ニ延長シテ餘白ト分界スヘシ

第三十六條　鑛業法第三十一條又ハ第三十六條ニ依ル鑛業權ノ設定又ハ變更ノ登錄ヲ爲ストキハ其ノ旨ヲ記載シ且他ノ鑛業權ノ登錄番號ヲ表示シテ之ト重複ノ關係ヲ有スル旨ヲ記載シ他ノ鑛業權ニ付テハ其ノ登錄用紙中表示欄ニ鑛業法第三十一條又ハ第三十六條ニ依ル鑛業權ノ登錄番號ヲ表示シ之ト重複ノ關係ヲ有スル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ一箇ノ鑛業權消滅シタルトキハ之ト重複ノ關係ヲ有スル他ノ鑛業權ノ登錄用紙中表示欄ニ其ノ鑛業權ノ消滅シタル旨

ヲ記載シ消滅ニ係ル登錄事項ヲ朱抹スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ鑛區ノ合併又ハ分割ニ因ル採掘權消滅ノ登錄ヲ爲ストキハ前項ノ手續ヲ爲スノ外合併又ハ分割ニ因リ設定セラレタル新ナル鑛業權ノ登錄番號ヲ表示シ之ト重複ノ關係アルコトヲ記載スヘシ

第三十七條　數箇ノ採掘權カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ一箇ノ採掘權ニ付抵當權設定ノ登錄ヲ爲ストキハ其ノ採掘權ノ登錄用紙中乙區事項欄ニ他ノ採掘權ノ登錄番號及鑛區所在地ヲ表示シ其ノ採掘權カ共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

第三十八條　追加抵當權設定ノ登錄ヲ爲シタルトキハ同一債權ニ因リ抵當權ノ目的タル他ノ採掘權ノ登錄用紙中乙區事項欄ニ追加抵當權ノ目的タル採掘權ノ登錄番號及鑛區所在地ヲ表示シ其ノ採掘權カ共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ附記スヘシ

第三十九條　數箇ノ採掘權カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ一箇ノ採掘權又ハ抵當權ノ消滅ノ登錄ヲ爲シタルトキハ他ノ採掘權ノ登錄用紙中乙區事項欄ニ其ノ抵當權消滅シタル旨ヲ附記シ消滅ニ係ル登錄事項ヲ朱抹スヘシ

第四十條　前條ノ場合ニ於テ採掘權ノ消滅カ鑛區ノ合併又ハ分割ニ因ルモノナルトキハ前條ノ手續ヲ爲スノ外鑛業登錄令第三十條ニ依リテ新ニ設定セラレタル採掘權ノ登錄番號及鑛區所在地ヲ表示シ其ノ採掘權カ共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

第四十一條　登錄ヲ抹消スルニハ抹消ノ登錄ヲ爲シタル後抹消スヘキ登錄ヲ朱抹スヘシ

第四十二條　鑛業法第四十二條及第四十三條ノ規定ニ基キテ爲シタル鑛寶ニ因ル鑛業權移轉ノ登錄ノ囑託アリタル場合ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ準シ登錄ヲ爲シタル後移轉ノ登錄ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前登錄用紙ノ表示欄ニ新登錄用紙ニ登錄ヲ移シタル旨ヲ記載スヘシ

附　則

本令ハ明治四十五年勅令第百三十八號公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年樺太廳令第八十號及同年樺太廳訓令第百四十八號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號樣式

試掘原簿　第何冊

樺太廳

紙數表紙ヲ除キ　枚

年月日　樺太廳長官印

登錄番號	表題部	表示番號	表示欄	表示番號	表示欄	表示番號	表示欄

試掘原簿　丁

順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄

區、事項

探掘原簿

第何冊

樺太廳

紙數表紙ヲ除キ　枚

年月日

樺太廳長官印

〔樺法〕

登錄番號	表題部	表示番號	表示欄	表示番號	表示欄	表示番號	表示欄

探掘原簿　丁

順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄

甲

順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄

探掘原簿　丁

順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄

區

乙

區

〔樺法〕

第三號樣式

試掘共同人名簿

第何冊

樺太廳

紙數表紙ヲ除キ

枚

年　月　日

樺太廳長官印

番號	代表者欄	共同人名欄	備考

試掘共同人名簿

丁

番號	代表者欄	共同人名欄	備考

〔樺法〕

第四號樣式

採掘共同人名簿

第何冊

樺太廳

紙數表紙ヲ除キ

枚

年　月　日

樺太廳長官印

番號	代表者欄	共同人名欄	備考

採掘共同人名簿

丁

番號	代表者欄	共同人名欄	備考

〔樺法〕

第五號樣式

何年分登錄受附帳

樺太廳

登錄受附簿　丁

受附ノ年月日	受附番號	登錄ノ目的	申請人ノ氏名	備考

●鑛業抵當法

明治三十八年三月十三日
法律第五十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鑛業抵當法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
（總、農、司、大臣副署）

鑛業抵當法

第一條　採掘權者ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲鑛業財團ヲ設クルコトヲ得

第二條　鑛業財團ハ左ニ掲クルモノニシテ鑛業ニ關シ同一採掘權者ニ屬スルモノノ全部又ハ一部ヲ以テ之ヲ組成スルコトヲ得

一　鑛業權
二　土地及工作物
三　地上權及土地ノ使用權
四　賃貸人ノ承諾アルトキハ物ノ賃借權
五　機械、器具、車輛、船舶、牛馬其ノ他ノ附屬物

第三條　鑛業財團ニ付テハ工場抵當法中工場財團ニ關スル規定ヲ準用ス

第四條　採掘權取消ノ登錄アリタルトキハ〔鑛山監督局長〕ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ直ニ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ抵當權ヲ實行セムトスルトキハ抵當權者ハ第一項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六箇月內ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

採掘權ハ前項ノ期間內又ハ抵當權實行ノ終了ニ至ル迄抵當權實行ノ目的ノ範圍內ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競落人又ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル法人ハ採掘權取消ノ登錄ア

〔樺法〕

リタルトキニ於テ採掘權ヲ讓受ケタルモノト看做ス

前二項ノ規定ハ錯誤ニ因リ鑛業ノ出願カ許可セラレタル場合又ハ鑛業カ公益ヲ害スルモノト認メラレタル場合ニ於ケル採掘權ノ取消ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五條　前條ノ規定ハ採掘權者カ廢業シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條　競賣ニ付セラレタル鑛業ヲ目的トシ帝國法律ニ從ヒ法人ヲ設立セムトスル者カ競賣ニ加入スルトキハ競買ノ申込ト同時ニ其ノ旨ヲ執行裁判所ニ申出ツヘシ

前項ノ規定ニ依リ競賣ニ加入スル者ハ競買ノ申込ニ關シテハ連帶シテ其ノ責ニ任ス

第七條　鑛業財團ノ競落人カ前條第一項ノ規定ニ依リ競賣ニ加入シタル者ナルトキハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日ヨリ三箇月內ニ法人ヲ設立シ之ヲ執行裁判所ニ屆出ツヘシ

第八條　前條ノ競落人ハ法人設立ノ日ヨリ一週間以內ニ競落代金ヲ執行裁判所ニ支拂フヘシ但シ債權者カ競落人タル場合ニ於テハ自己カ競落代金中ヨリ受取ルヘキ金額ヲ控除シ其ノ殘額ノミヲ支拂フヲ以テ足ル

第九條　前條ノ規定ニ依リ競落代金ノ支拂アリタルトキハ競賣ニ付セラレタル鑛業財團ノ所有權ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル法人ニ移轉ス

第十條　第七條ノ期間內ニ法人設立ノ屆出ナキトキ又ハ第八條ノ期間內ニ競落代金ノ支拂ナキトキハ執行裁判所ハ職權ヲ以テ鑛業財團ノ再競賣ヲ命スヘシ

前項ノ再競賣ニ關シテハ民事訴訟法第六百八十八條ノ規定ヲ準用ス

第十一條　工場抵當法中工場財團ニ關スル罰則ハ鑛業財團ニ關シ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム　（明治三十八年六月勅令第百八十八號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

〔樺法〕

●砂鑛法

明治四十二年三月二十五日
法律第十三號

改正　大五年三月法律三一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル砂鑛法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
（總、農、大臣副署）

砂鑛法

第一條　本法ニ於テ砂鑛ト稱スルハ砂金、砂鐵、砂錫其ノ他沖積鑛床ヲ爲シタル金屬鑛ヲ謂フ

金鑛ノ廢鑛又ハ鑛滓ニシテ主務大臣ニ於テ其ノ存在狀態砂金ト類似スト認メタルモノハ之ヲ砂金ト看做ス

第二條　本法ニ於テ砂鑛業ト稱スルハ砂鑛ノ採取及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第三條　本法ニ於テ砂鑛區ト稱スルハ砂鑛權ノ登錄ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ

第四條　砂鑛權者ハ砂鑛區內ニ於ケル各種ノ砂鑛ヲ採取スル權利ヲ有ス

但シ第六條ノ砂金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　砂鑛區鑛區ト重複スル場合ニ於テハ砂鑛權者及鑛業權者ハ其ノ採取及採掘又ハ試掘ニ付互ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ砂鑛權者又ハ鑛業權者ハ〔鑛山監督署長〕ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得遞法ニ權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六條　金鑛ヲ目的トスル鑛業權者ハ其ノ採掘鑛區內ニ存スル砂金ヲ採取スル權利ヲ有ス但シ其ノ鑛區內ニ既ニ存スル砂鑛區ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ鑛業權者ハ砂金ノ採取ニ關シ之ヲ砂鑛權者ト看做ス

第七條　砂鑛權ハ相續、讓渡、抵當權、滯納處分又ハ强制執行ノ目的タル外權利ノ目的タルコトヲ得ス

第八條　砂鑛權ヲ得ムトスル者ハ願書ニ砂鑛區圖ヲ添ヘテ主務大臣ニ出願スヘシ

第九條　砂鑛出願地他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者ノ承諾ヲ受クヘシ

土地所有者ハ命令ノ定ムル期間內ニ於テ自ラ砂鑛權ノ出願ヲ爲ストキノ外前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第十條　砂鑛出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得但シ主務大臣ニ屆出ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十一條　砂鑛權者ハ砂鑛區ノ增減ヲ出願スルコトヲ得

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ砂鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルトキハ抵當權者ノ承諾ヲ受クヘシ

第十二條　土地所有者、地上權者、永小作權者又ハ土地ニ對シ使用ノ權利ヲ有スル者ハ其ノ土地ニ於テ砂鑛ヲ採取セムトスル者ニ對シ相當ノ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第十三條　前條ノ請求權者ハ砂鑛權者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第十四條　砂鑛權者補償金ノ拂渡ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ第十二條ノ請求權者ハ砂鑛ノ採取ヲ拒ムコトヲ得

第十五條　補償金又ハ其ノ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ砂鑛權者ハ〔鑛山監督署長〕ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十六條　前條ノ裁決アリタルトキハ其ノ未タ確定セサルトキト雖砂鑛權者ハ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供託シテ砂鑛ヲ採取スルコトヲ得

第十七條　鑛業法第三章ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ準用ス但シ同法第五十六條ニ依ル土地ノ使用ハ左ノ場合ニ限ル

一　洗鑛

二　製錬所ノ建設

三　洗滌用水路及溜池ノ開設

四　砂鑛試料ノ置場

第十八條　當該官吏砂鑛業取締ノ爲必要アリト認ムルトキハ工場其ノ他ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得

當該官吏臨檢ノ際砂鑛業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ搜索ヲ爲シ

又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第十九條　權利ヲ有セスシテ砂鑛業ヲ爲シ又ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ砂鑛採取ノ許可ヲ受ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　第二十三條ニ於テ準用シタル鑛業法第十條第三項又ハ同法第七十二條ノ命令ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　砂鑛權ノ出願又ハ砂鑛業ノ爲ニ他人ノ土地ニ立入リテ測量又ハ檢査ヲ爲ス場合ニ於テ〔鑛山監督署長〕ノ許可ヲ受ケスシテ障害物ヲ除去シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

當該官吏ノ訊問ニ對シ虛僞ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十二條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十三條　鑛業法第五條、第六條、第七條第一項第二項、第十條、第十二條、第十五條、第十六條、第十九條、第二十條、第二十七條、第三十二條、第三十三條第一項第二項、第三十五條、第三十八條乃至第四十三條、第四十九條、第七十二條、第七十四條、第八十七條乃至第八十九條、第九十一條乃至第九十三條、第百三條及第百四條ノ規定ハ砂鑛業ニ關シテ之ヲ準用ス

附　則

第二十四條　本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

砂鑛採取法ハ之ヲ廢止ス

第二十五條　砂鑛採取法ニ依ル砂鑛採取ノ許可ハ之ヲ砂鑛權ノ登錄ト看做ス

第二十六條　本法施行前ニ金鑛ヲ目的トスル鑛業ノ出願ヲ爲シタル者第一條第二項ノ砂金ノミヲ採取セムトスルトキハ命令ノ定ムル期間內ニ之ヲ〔鑛山監督署長〕ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ鑛業ノ出願ハ願書發送ノ日時ニ於テ砂鑛權ノ出願ニ代リタルモノト看做ス

第二十七條　本法施行前設定シタル鑛業權ニシテ第一條第二項ノ砂金ノミヲ目的トスルモノニ付テハ命令ノ定ムル期間內ニ其ノ鑛區ニ付砂鑛權設定ノ登錄ヲ申請スヘシ其ノ登錄アリタルトキハ鑛業權ノ上ニ現ニ存スル權利義務ハ砂鑛權ノ上ニ存續ス

前項ノ鑛業權ニ關シテハ砂鑛權ノ登錄アル迄仍鑛業法ヲ適用ス

第一項ノ鑛業權ニシテ鑛業財團ヲ組成スルモノニ付テハ砂鑛權ノ登錄アリタル後ト雖其ノ財團ノ關係ニ於テハ之ヲ鑛業權ト看做ス

第二十八條　本法施行前砂鑛採取法ニ依リ又ハ本法第一條第二項ノ砂金ニ關シ鑛業法ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十九條　本法施行前砂鑛採取法ニ依リ又ハ本法第一條第二項ノ砂金ニ關シ鑛業法ニ依リテ爲シタル處分ニ對スル訴願、訴訟、判定、裁定又ハ裁決ニ關シテハ各砂鑛採取法又ハ鑛業法ノ規定ニ依ル

●砂鑛法施行細則

大正元年八月十三日
廳令第三號

改正　大二年一一月廳令四二號、六年一月二號、八年四月一一號、一一年二月一三號、昭四年一月二號

砂鑛法施行細則

第一條　砂鑛出願地他人ノ所有ニ係ルトキハ砂鑛願書ニ出願後三十日以內ニ土地所有者ノ承諾書若ハ承諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ

第二條　土地所有者カ砂鑛權ノ出願ヲ承諾セサルトキハ樺太廳長官ハ土地所有者ニ砂鑛願書ノ提出ヲ命ス

土地所有者カ期限ノ命令書到達ノ日ヨリ六十日以內ニ砂鑛願書ヲ差出ササルトキハ砂鑛權ノ出願ヲ承諾シタルモノト看做ス

第三條　砂鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定ム但シ河床ニ存スル砂鑛ヲ目的トスルモノ又ハ河岸ニ沿フテ境界ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　直線ヲ以テ砂鑛區ノ境界ヲ定ムル場合ニ於テハ砂鑛願書ニ添附スヘキ圖面ハ樣式第九號ニ依リテ之ヲ調製シ左ニ揭クル事項ヲ明示スヘシ

一　出願地ノ名稱及種目
二　出願地ノ面積
三　南北線
四　縮尺
五　二箇以上ノ不動基點竝其ノ名稱及特徵
六　出願地ノ各隅ト爲ルヘキ測點竝其ノ番號
七　境界線竝基點ト連結シタル測點間ノ方位及其ノ間數
八　出願地及其ノ附近ニ於ケル地形其ノ他鑛業法第十條及第十一條ニ記載シタルモノ

河床ニ存スル砂鑛ヲ目的トスル砂鑛願書ニ添附スヘキ圖面ハ樣式第十號ニ依リテ之ヲ調製シ左ニ揭クル事項ヲ明示スヘシ

一　出願河川ノ名稱及河川ニ沿ヘル土地ノ名稱種目
二　出願區域ノ總延長竝幹流及支流ノ各延長
三　南北線
四　縮尺
五　出願區域ノ各端
六　各端ニ關スル不動基點竝其ノ特徵及名稱
七　基點ト各端ノ測點トノ間ノ間數及其ノ方位
八　出願地及其ノ附近ニ於ケル地形其ノ他鑛業法第十條及第十一條ニ記載シタルモノ
九　河床ノ全幅ヲ出願區域ト爲ササルモノニ付テハ河床中ノ境界線

第五條　砂鑛法第十一條第二項ノ規定ニ依ル減區又ハ增減區ノ願書ニハ抵當權者ノ承諾書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第六條　砂鑛出願地ノ實測ニ因リテ手數料ノ不足ヲ發見シタルトキハ樺太廳長官ハ其ノ追納ヲ命スルコトアルヘシ

出願人ハ前項ノ命令ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ手數料ヲ納付スヘシ

第七條　砂鑛出願地カ實地調査ニ因リテ他人ノ所有地ニ係ルコトヲ發見シタルトキハ樺太廳長官ハ相當ノ期限ヲ附シ第一條ノ規定ニ依リ添附スヘキ書面ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第八條　左ノ場合ニ於テハ樺太廳長官ハ願書、申請書又ハ屆書ヲ受理セス

一　出願ノ砂鑛カ砂鑛法第一條ノ規定ニ該當セサルトキ
二　圖面ヲ添附スヘキ砂鑛業ノ願書ニ圖面ヲ添附セサルトキ又ハ添附圖面ニ依リ區域分明ナラサルトキ
三　手數料ヲ納付セサルトキ
四　鑛業法施行細則第十三條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ之ニ違背シ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附セサルトキ
五　鑛業法施行細則第二十一條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ之ニ違背シ書留郵便ヲ以テ差出ササルトキ
六　鑛業法施行細則第二十五條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ之ニ違背シ新舊出願人連署セサルトキ
七　鑛業法施行細則第三十四條第二項ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ之ニ違背シ承諾書及協定書ヲ添附セサルトキ
八　第五條ノ規定ニ違背シ承諾書ヲ添附セサルトキ

第九條　左ノ場合ニ於テハ樺太廳長官ハ願書又ハ屆書ヲ却下ス

一　實地調査ノ際出願人カ出願區域ヲ明示スルコト能ハサルカ又ハ鑛業法施行細則第二十四條第一項ノ規定ニ準シテ指定シタル調査事項ノ說明ヲ爲スコト能ハサルトキ
二　願書ニ添附シタル圖面カ實地ノ區域ト著シク相違スルトキ
二ノ二　鑛業法施行細則第一條ノ二ノ定ニ準シテ發スル命令ノ期限內ニ假住所ノ選定ヲ爲ササルトキ
三　鑛業法施行細則第六條ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期限內ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキ
四　鑛業法施行細則第十五條若ハ第十六條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ之ニ違背シ期限內ニ承諾書又ハ證明書ヲ差出ササルトキ又ハ第七條ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ承諾書又ハ承諾ヲ得ルコト能ハサル事由ヲ記載シタル書面ヲ差出ササルトキ
五　鑛業法施行細則第十七條ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期限內ニ區域增減ノ願書ヲ差出ササルトキ
六　鑛業法施行細則第二十二條ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期限內ニ設計書ヲ差出ササルトキ
七　鑛業法施行細則第二十四條ノ規定ニ準シテ指定シタル期日ニ出願人立會ヲ爲ササルトキ
八　第六條ニ規定シタル期限內ニ手數料ヲ納付セサルトキ
九　鑛業法施行細則第四十條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ之ニ違背シ期間內ニ登錄稅納付書ヲ提出セス又ハ郵便ニ附セサルトキ
十　第一條ニ規定シタル期間內ニ承諾書又ハ承諾ヲ得ルコト能ハサル事由書ヲ差出ササルトキ

第十條　砂鑛權者其ノ砂鑛區內ニ於テ許可ヲ得タル砂鑛以外ノ砂鑛ヲ採出セムトスルトキハ豫メ砂鑛權ノ表示變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

第十一條　砂鑛權者ハ砂鑛區圖ヲ砂鑛業事務所ニ備置クヘシ

第十二條　砂鑛權者ハ每年一月末日迄ニ其ノ前年ニ於ケル鑛產物ノ數量、其ノ販賣高、販賣代價、工業日數及工數ヲ記載シタル砂鑛業明細

表ヲ樺太廳長官ニ差出スヘシ砂鑛權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニ於テハ砂鑛權ヲ有セシ者ニ於テ其ノ登錄ノ日ヨリ三十日以內ニ砂鑛業明細表ヲ差出スヘシ

前二項ノ規定ニ依リテ砂鑛業明細表ヲ差出スヘキ場合ニ於テ之ニ記載スヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第十三條　二箇以上ノ砂鑛區ニ付合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ砂鑛業明細表ハ合併シテ之ヲ調製スルコトヲ得

第十四條　砂鑛法第五條第二項ノ規定ニ依ル裁決申請書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載シ請求地ニ於ケル鑛床ノ關係圖及鑛業權者又ハ砂鑛權者ト交渉シタル始末書ヲ添附スヘシ但シ交渉ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ以テ始末書ニ代フルコトヲ得

一　申請人ノ氏名又ハ名稱及住所

二　鑛業權者又ハ砂鑛權者ノ氏名又ハ名稱及住所

三　砂鑛權及鑛業權ノ登錄番號

四　申請ノ目的及理由

樺太廳長官前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ鑛業權者又ハ砂鑛權者ニ交付ス

鑛業權者又ハ砂鑛權者ハ申請書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ答辯書ヲ差出スヘシ

鑛業權者又ハ砂鑛權者前項ノ期間內ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ樺太廳長官ハ申請書ノミニ依リテ裁決スルコトアルヘシ申請書ヲ交付スルコト能ハサルトキ亦同シ

申請人鑛業法施行細則第六條ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期限內ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキハ申請書ヲ却下ス

裁決書ニハ理由ヲ附シテ樺太廳長官之ヲ當事者雙方ニ交付ス

第十五條　砂鑛法第五條第三項ノ規定ニ依ル訴願ニハ樺太廳長官ノ與ヘタル裁決書ノ謄本ヲ添ヘテ差出スヘシ前條ノ規定ハ前項ノ訴願ノ場合ニ於テ準用ス

第十六條　砂鑛法第十五條ノ規定ニ依ル裁決ノ申請ニ付テハ第十四條ノ規定ヲ準用ス

第十七條　鑛業法第九十三條第二項又ハ本令第十條ノ規定ニ基ク處分又ハ裁決ノ公示ハ樺太廳公布式ヲ以テ之ヲ爲ス

第十八條　第十條、第十一條、第十二條ノ規定ニ違背シタル者、鑛業法施行細則第二十八條、第四十六條、第四十七條、第四十九條、第六十六條、第六十八條、第七十五條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ之ニ違背シタル者、鑛業法施行細則第四十二條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ第一項ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ砂鑛區圖ヲ差出ササルトキ又ハ同條第三項ノ規定ニ違背シ期間內ニ登錄稅ヲ納メサル者、鑛業法施行細則第二十二條及第二十三條ヲ準用スル場合ニ於テ其ノ規定ニ依ル命令ニ基キ提出シタル設計書ニ反シテ作業シタル者又ハ同則第二十三條ノ規定ニ依ル命令ノ期限內ニ設計書ヲ提出セサル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　鑛業法施行細則第一條乃至第七條、第十條乃至第十三條、第十五條乃至第十七條、第二十一條乃至第二十五條、第二十八條、第三十一條乃至第三十四條、第三十八條、第四十條第一項乃至第四項、第四十一條、第四十二條、第四十四條、第四十六條、第四十七條、第四十九條、第五十九條、第六十二條乃至第六十八條、第七十三條乃至第七十五條、第七十八條ノ規定ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

第二十條　本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條　明治四十二年樺太廳令第二十四號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

樣式第一號

砂(金、鐵、錫)採取願

樺太何郡何町、村大字何字何

面積何坪(延長何里)

右箇所ニ於テ砂(金、鐵、錫)存在候ニ付採取許可相成度圖面相添此段相願候也

年　月　日

住　所

出願人　氏　　名(名稱)印

樺太廳長官　氏　名殿

注　意

一　圖面四葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ

二　共同出願ノ場合ハ願書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ屆書ヲ差出スヘシ但シ願書ニ代表者ヲ表示シテ屆出ニ代フルコトヲ得

樣式第二號

砂鑛區增減區(增區、減區)願

何年何月何日出願

樺太何郡何町、村大字何字何

砂(金、鐵、錫)採取出願地何坪(延長何里)

增區　何郡何町村大字何字何

面積何坪(延長何里)

減區　何郡何町村大字何字何

面積何坪(延長何里)

合計(又ハ差引)何坪(延長何里)

右砂鑛出願地變更許可相成度圖面相添此段相願候也

年　月　日

住　所

出願人　氏　　名(名稱)印

樺太廳長官氏名殿

注　意

一　圖面四葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ

二　代表者ニテ出願スル場合ハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

樣式第三號

砂鑛區增減區(增區、減區)願

樺太廳砂鑛權登錄第何號

樺太何郡何町、村大字何字何
砂(金、鐵、錫)鑛區何坪(延長何里)
增區　何郡何町村大字何字何
面積何坪(延長何里)
減區　何郡何町村大字何字何
面積何坪(延長何里)
合計(又ハ差引)何坪(延長何里)
右砂鑛區變更許可相成度圖面相添此段相願候也
年　月　日
住所
砂鑛權者　氏　名(名稱)印
樺太廳長官氏名殿
注意　事項樣式第二號ニ同シ

樣式第四號
砂鑛區改正願
樺太廳砂鑛權登錄第何號
樺太何郡何町、村大字何字何
砂(金、鐵、錫)鑛區何坪(延長何里)
增區　何郡何町村大字何字何
面積何坪(延長何里)
減區　何郡何町村大字何字何

面積何坪(延長何里)
合計(又ハ差引)何坪(延長何里)
右砂鑛區ニ關スル何號御命令ノ通改正許可相成度圖面相添此段相願候也
年　月　日
住所
砂鑛權者　氏　名(名稱)印
樺太廳長官氏名殿
注意
圖面三葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ

樣式第五號
砂鑛區合併願
一　樺太廳砂鑛權登錄第何號
樺太何郡何町、村大字何字何
砂(金、鐵、錫)鑛區何坪(延長何里)
一　樺太廳砂鑛權登錄第何號
樺太何郡何町、村大字何字何
砂(金、鐵、錫)鑛區何坪(延長何里)
合計何坪(延長何里)
右砂鑛區合併許可相成度圖面並合併理由書相添此段相願候也
年　月　日
住所
砂鑛權者　氏　名(名稱)印
樺太廳長官氏名殿
注意
一　圖面三葉ヲ添附シ適宜契印スヘシ
二　抵當權ノ設定アル場合ハ抵當權者ノ承諾書ヲ添附スヘシ
三　二以上ノ抵當權ノ登錄アル場合ハ承諾書ノ外抵當權ノ順位ニ關スル協定書ヲ添附スヘシ
四　代表者ニテ出願スル場合ハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

樣式第六號
砂鑛區分割願
樺太廳砂鑛權登錄第何號
樺太何郡何町、村大字何字何
砂(金、鐵、錫)鑛區何坪(延長何里)
此ノ分割
樺太何郡何町村大字何字何
面積　何坪(延長何里)
樺太何郡何町村大字何字何
面積　何坪(延長何里)
右砂鑛區分割許可相成度圖面並分割理由書相添此段相願候也
年　月　日
住所
砂鑛權者　氏　名(名稱)印
樺太廳長官氏名殿
注意
一　圖面ハ分割區域毎ニ各三葉ヲ調製シ願書ニ添附シテ適宜契印スヘシ
二　其ノ他ノ注意事項ハ樣式第五號中二、三、四號ニ同シ

樣式第七號
砂鑛出願人相續屆
何年何月何日出願
樺太何郡何町、村大字何字何
砂(金、鐵、錫)採取出願地何坪(延長何里)
右採取出願人何某死亡(其ノ他相續ノ原因ヲ記載ス)ニ因リ相續致候間戸籍謄本(又ハ相續ニ關スル證明書)相添此段屆出候也
年　月　日
住所
相續人　氏　名印
樺太廳長官氏名殿

樣式第八號

砂鑛出願人變更屆

何年何月何日出願

樺太何郡町、村大字何字何

砂(金、鐵、錫)採取出願地何坪(延長何里)

右採取出願人何某ニ變更致候間新舊出願人連署此段屆出候也

年　月　日

住所
舊出願人　氏　　名(名稱)印

住所
新出願人　氏　　名(名稱)印

樺太廳長官氏名殿

注意

一　新出願人二人以上ナル場合ニハ屆書ト共ニ連署シタル代表者選定ノ屆書ヲ差出スヘシ但シ本屆書ニ代表者ヲ表示シテ屆出ニ代フルコトヲ得

二　舊出願人代表者ニテ屆出ヲ爲スニハ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附スヘシ

樣式第九號(四通)

砂(金、鐵、錫)鑛區圖　縮尺何分ノ一

大正　年　月　日出願

住所　　氏　　名(名稱)印

樺太何郡何町、村大字何字何

何々官地又ハ民地地種目

何々官地又ハ民地地種目

何坪

注意

一　圖面用紙ハ特別ノ場合ヲ除キ「ハトロン」紙ヲ使用スヘシ

二　縮尺ハ千分ノ一、三千分ノ一、又ハ六千分ノ一位ニ選定スヘシ

三　鑛業及鑛區附近ノ地形、地物ハ成ルヘク簡略ニ之ヲ記入スヘシ

四　鑛業及鑛區附近ノ地形及地物ニ關スル說明ヲ附記スヘシ

五　縮尺ハ千二百分ノ一ヲ使用ウ、但シ特別ノ場合ニ於テハ千分ノ一ヲ用ウ

様式第十號(四通)

砂(金、鐵、錫)鑛區圖　縮尺何分ノ一

大正　年　月　日　出願

住所

氏

名(名稱)印

樺太何郡何町、村大字何字何

樺太何郡何町、村大字何字何

延長何里何町何間

内

幹流何川何里何町何間

第一支流何川何里何町何間

第二支流何川何里何町何間

第三支流何川何里何町何間

三　基點附近ノ地形及地物ハ成ル(ク詳細ニ之ヲ記入シ若シ記入シ難キトキハ欄外ニ於テ地形及地物ニ關スル說明ヲ附記スヘシ

四　鉛筆及「インキ」ヲ使用スヘカラス

五　縮尺ハ千二百分ノ一、三千分ノ一又ハ六千分ノ一ヲ用ウヘシ但シ樺太廳長官ノ告示シタル地域ニ在リテハ二千五百分ノ一又ハ五千分ノ一ヲ用ウヘシ

六　支流ノ番號ハ出願ニ係ルモノノミヲ揭クヘシ

七　圖面ニ肩書スル管轄支廳、村、字名ハ砂鑛區ノ兩岸ニ接スル分ヲ記載スヘシ

様式第十一號

大正　年砂鑛業明細表

樺太廳登錄第何號

| 鑛種 | 位置 | 樺太何郡何町、村大字何字何 | 砂鑛權者又ハ代表者 | 住所 | 何 | 某印 | | |

●砂鑛業ノ登錄ニ關スル細則

明治四十五年七月十八日
廳令第二十三號

砂鑛業ノ登錄ニ關スル細則

第一條　砂鑛原簿ハ第一號ノ樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　砂鑛業共同人名簿ハ第二號ノ樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三條　登錄番號欄ニハ各砂鑛區ニ付砂鑛原簿ニ登錄ヲ爲シタル順序ヲ記載スヘシ

表示欄ニハ砂鑛權ノ表示ヲ爲シ竝其ノ變更及消滅ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

甲區事項欄ニハ登錄權ノ設定、移轉、處分ノ制限ニ關スル事項ヲ、乙區事項欄ニハ抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅及處分ノ制限ニ關スル事項ヲ記載シ順位番號欄ニハ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

第四條　明治四十五年廳令第二十二號第一條第五號乃至第十二號、第三條、第五條、第六條乃至第十三條、第十五條乃至第三十五條、第三十七條乃至第四十二條ノ規定ハ砂鑛業ニ關スル登錄ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十五年勅令第百三十九號公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年廳令第十八號及同年廳訓第百四十九號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（第一號樣式）

砂鑛原簿

第何冊

樺太廳

〔樣法〕

紙數表紙ヲ除キ　枚

年月日

樺太廳長官印

〔樣法〕

登錄番號	表題部	表示番號	表示欄	表示番號	表示欄	表示番號	表示欄

砂鑛原簿　丁

甲	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄

區	乙	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄

砂鑛原簿　丁

〔樣法〕

（第二號樣式）

砂鑛業共同人名簿　　第何冊

樺太廳

紙數表紙ヲ除キ　　枚

年月日　　樺太廳長官印

番號	代表者欄	共同人名欄	備考

砂鑛業共同人名簿　丁

番號	代表者欄	共同人名欄	備考

●樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル件

明治四十五年六月二十二日
法律第二十三號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總、副署大臣）

第一條　樺太ニ於テハ主務大臣ノ指定シタル區域内ノ石炭採掘ニ付採掘料ヲ徴收ス

前項ノ區域内ニ於ケル石炭ノ採掘ハ其ノ採掘料ヲ競爭入札ニ付シ落札者ニ之ヲ許可ス

競爭入札加入者ノ資格及競爭入札ノ方法ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　行政官廳ハ前條ノ規定ニ依ル採掘ノ許可ニ條件ヲ附スルコトヲ得

前項ノ條件ニ依リテ生スル鑛業權者ノ義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス

第三條　鑛業權者採掘料ヲ完納セス又ハ許可ノ條件ニ違反シタルトキハ行政官廳ハ其ノ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第四條　採掘料ノ徴收ニ關シテハ國稅徴收法及明治四十年法律第三十四號ヲ準用ス但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際第一條ノ區域内ニ於ケル國ノ石炭採掘區域ニ付テハ國ハ其ノ鑛業權ヲ有ス

●樺太ニ於ケル石炭採掘ノ許可ニ關スル件

明治四十五年六月二十二日
勅令第百三十七號

改正　大一〇年三月勅令六六號

朕明治四十五年法律第二十三號ニ依ル石炭採掘ノ許可ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總、副署大臣）

第一條　明治四十五年法律第二十三號ニ依ル石炭採掘ノ許可ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　競爭入札ニ加入セムトスル者ハ鑛業法ニ依リ鑛業權者ト爲ルコトヲ得ル者ニシテ直接國稅年額千圓以上ヲ納メ且一年五萬噸以上ノ石炭ヲ產出スル鑛區ヲ二年以上經營シタル者ニ限ル

前項ノ外樺太廳長官ハ必要ト認ムルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ特ニ競爭入札加入者ノ資格ヲ定ムルコトヲ得

第一項ノ直接國稅ノ種類ハ樺太廳長官之ヲ定ム

第三條　樺太廳長官ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者ハ爾後二年間競爭入札ニ加入スルコトヲ得ス

一　競爭ニ際シ入札金額ヲ低落スルノ目的ヲ以テ連合ヲ爲シタル者

二　競爭ノ加入ヲ妨害シ又ハ落札者ノ義務履行ヲ妨害シタル者

三　自己ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ鑛業權取消ノ處分ヲ受ケタル者

第四條　競爭入札ハ指名競爭ノ場合ヲ除クノ外其ノ入札期日ヨリ少クトモ四月前ニ官報及新聞紙ニ公告シテ之ヲ行フヘシ

第五條　前條公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

一　採掘ヲ許可スヘキ區域及坪數

二　許可ニ條件ヲ付スルトキハ其ノ條件又ハ之ヲ示スヘキ方法

三　入札及開札ノ場所日時

四　入札保證金額

第六條　競爭入札ニ加入セムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ入札保證金ヲ納付スヘシ

第七條　入札人ハ一旦提出シタル入札書ノ引換變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　入札人競爭ニ際シ入札金額ヲ低落スルノ目的ヲ以テ連合ヲ爲シタリト認ムルトキハ當該官吏ハ入札ヲ中止スヘシ既ニ入札後ナルトキハ其ノ入札全部ヲ無效トス

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ入札ハ之ヲ無效トス

一　競爭入札ニ加入スルノ資格ナキ者

二　入札ニ關シ不正ノ所爲アリタル者

三　代理人ニ依リ入札スル場合ニ於テ其ノ代理權ヲ證明セサル者

四　入札保證金ヲ納付セサル者

五　自己ノ爲ニスルト他人ノ爲ニスルトヲ問ハス一人ニテ二以上ノ入札ヲ爲シタル者

六　入札書中必要ナル事項ヲ明確ニ記載セサル者

第十條　開札ハ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ入札人出席セサルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

第十一條　樺太廳長官ノ豫定シタル金額以下ノ最高額ノ入札ヲ爲シタル者ハ之ヲ落札者トス但シ同額ノ入札ヲ爲シタル者二人以上アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札ヲ定メ抽籤スヘキ者出席セサルトキハ立會官吏ヲシテ抽籤セシムヘシ

第十二條　開札ノ結果落札者ナキトキハ直ニ出席入札人ヲシテ再度入札セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ再度入札ニ付スルモ尙落札者ナキトキハ指名競爭ニ付スルコトヲ得但シ之カ爲當初定メタル採掘區域、入札豫定金額及條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第十三條　落札者決定シタルトキハ樺太廳長官ハ期間ヲ指定シ石炭採掘ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ規定ニ依リ提出シタル願書又ハ圖面法令ノ規定ニ適合セス又ハ不備ナリト認ムルトキハ樺太廳長官ハ期間ヲ指定シ其ノ修正又ハ補充ヲ命スヘシ

第十四條　樺太廳長官ハ前條ノ出願ヲ許可スル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ保證金ヲ徵スルコトヲ得

第六條ノ規定ハ前項ノ保證金ニ之ヲ準用ス

第十五條　落札者第十三條ノ命令ニ從ハサルトキハ其ノ落札ハ之ヲ無效トス此ノ場合ニ於テハ入札保證金ハ政府之ヲ取得ス

第十六條　落札無效ト爲リタル爲更ニ競爭入札ヲ行フ場合ニ於テハ第四條ノ公告期間ヲ四十日迄ニ短縮スルコトヲ得

第十二條ノ場合ニ於テ再度入札又ハ指名競爭ニ付セス更ニ競爭入札ヲ行フトキ亦前項ニ同シ

第十七條　入札保證金ハ政府ニ於テ之ヲ取得スル場合ヲ除クノ外開札終了後直ニ之ヲ還付ス但シ落札者ノ入札保證金ハ石炭ノ採掘ヲ許可シタル後之ヲ還付ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●樺太ニ於テ石炭採掘ニ付採掘料ヲ徵收スヘキ區域

明治四十五年六月二十二日
閣令第二號

明治四十五年法律第二十三號ニ依リ樺太ニ於テ石炭採掘ニ付採掘料ヲ徵收スヘキ區域左ノ通定ム

一　雨龍川及吐鰒保川流域以南能登呂半島一圓

二　泊居川流域一圓

三　東ハ分水嶺ヲ界トシ北ハ泊居川流域ヨリ南追手川流域ニ至ル間一圓

四　内淵川流域一圓但シ第一支流落合基點ヨリ下流ヲ除ク

五　川上川流域一圓但シ第一支流落合基點ヨリ下流ヲ除ク

六　内路川以北國境ニ至ル間ノ幹線道路ト其ノ西方分水嶺トノ間一圓

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●明治四十五年法律第二十三號ニ依ル石炭採掘競爭入札ニ關スル件

明治四十五年六月
内閣訓令拓第一號

【樺法】

明治四十五年法律第二十三號第一條ニ依リ指定シタル區域内ノ石炭採掘ニ付其ノ採掘料ヲ競爭入札ニ付セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一　石炭ノ採掘ヲ許可スヘキ區域、坪數及其ノ圖面

二　入札豫定金額、入札保證金額及其ノ算定ノ基礎

三　許可ノ條件

前項許可ノ條件中ニハ鑛業ノ著手期限、一年ノ採炭最條件ニ違背シタル場合ノ處分其ノ他必要ト認ムル一切ノ事項ヲ定ムヘシ

●明治四十五年法律第二十三號ニ依ル石炭採掘ニ關スル件

明治四十五年七月三十日
廳令第二十四號

改正　大四年七月廳令一三號、八年二月二號、九年二月一號、一〇年四月一四號

明治四十五年法律第二十三號ニ依ル石炭採掘ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條　明治四十五年法律第二十三號ノ施行ニ關シテハ同年勅令第百三十七號ニ依ルノ外本令ニ依ル

第二條　競爭入札加入者ノ資格ニ關スル直接國稅ノ種類左ノ如シ

一　地租
二　所得稅
三　營業稅
四　鑛業稅

第三條　競爭入札ニ加入セムトスル者ハ官公署ノ認證アル書面ヲ以テ其ノ資格ヲ有スルコトヲ證明スヘシ

入札人代理人ナルトキハ前項ノ外尙其ノ代理權ヲ證明スヘシ

第四條　（削除）

第五條　現金ヲ以テ入札保證金ヲ納付セムトスル者ハ第一號書式ノ納付書ヲ添ヘ主務官吏ニ納付シ其ノ預證書ヲ受クヘシ

第六條　無記名國債證券ヲ以テ入札保證金ヲ納付セムトスル者ハ第二號書式ノ質權設定書ヲ添ヘ主務官吏ヘ納付シ登錄國債ヲ以テ入札保證金ヲ納付スルトキハ明治三十九年大藏省令第二十三號國債規則ニ定ムル質權登錄請求書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第七條　入札書ハ第三號書式ニ依リ調製シ封緘ノ上之ヲ提出スヘシ

第八條　入札金額ヲ表示スル數字ハ壹、貳、參、拾ノ文字ヲ用ユヘシ

第九條　石炭ノ採掘ヲ許可スル場合ニ於テ保證金ヲ徵スルトキハ其ノ保證金ノ納付ニ關シテハ第十條乃至第十五條ノ規定ニ依ルヘシ

第十條　（削除）

第十一條　現金ヲ以テ保證金ヲ納付セムトスル者ハ其ノ納付書ヲ主務官吏ニ差出シ寄託通知書ノ交付ヲ受ケ指定ノ金庫ニ現金ヲ納付シ其ノ保管證書ヲ受クヘシ

前項ノ納付書ハ第一號書式ニ準シ之ヲ調製スヘシ

第十二條　無記名國債證券ヲ以テ保證金ヲ納付セムトスル者ハ質權設定證書ヲ主務官吏ニ差出シ寄託通知書ノ交付ヲ受ケ指定ノ金庫ニ當該無記名國債證券ヲ納付シ其ノ保管證書ヲ受クヘシ

前項ノ質權設定證書ハ第二號書式ニ準シ之ヲ調製スヘシ

第十三條　登錄國債ヲ以テ保證金ヲ納付セムトスル者ハ質權ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ提出スヘシ登錄國債ニシテ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノハ尙記名國債證券ヲ寄託シ其ノ保管證書ヲ受クヘシ

第十四條　（削除）

第十五條　第十一條乃至第十三條ノ金庫保管證書ハ指定ノ期間內ニ主務官吏ニ差出シ其ノ預證書ヲ受クヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年鑛令第二十號ハ之ヲ廢止ス

第一號書式

入札保證金納付書

一金「何程」　國債證券ヲ以テ納付

但シ外金「何程」

右明治四十五年ニ法律第二十三號ニ依ル石炭採掘料ノ競爭入札保證金トシテ納付候也

年　月　日

住所

氏　名印

〔樺法〕

樺太廳長官宛

備　考

現金ノミニテ保證金ヲ納付スルトキハ但書ノ記載ヲ要セス

第二號書式

質權設定證書

一「何」公債證書　記番號額面「何」圓　「何」枚

此擔保價格金「何程」

右ハ拙者所有ノ有價證券ニ有之候處（何某ノ）明治四十五年法律第二十三號ニ依ル石炭採掘料ノ競爭入札保證金トシテ質權設定候也

年　月　日

住所

質權設定者　氏　名印

樺太廳長官宛

備　考

（何某）ノハ第三者カ入札人ノ爲ニ其ノ所有ニ係ル國債證券ニ付質權ヲ設定シタル場合ニ限リ之ヲ記載スヘシ

第三號書式

入札書

一金「何程」

石炭一英噸採掘料

右入札候也

年　月　日

住所

入札人　氏　名印

〔樺法〕

第十五類　鑛業

●海綠石ヲ含ム土石採取禁止ニ關スル件

昭和三年九月十三日
廳令第三十五號

海綠石ヲ含ム土石採取禁止ニ關スル件左ノ通定ム

海綠石ヲ含ム土石採取禁止ニ關スル件

本島官有地內ニ於テ海綠石ヲ含ム土石ハ之ヲ採取スルコトヲ得ス但シ樺太廳長官ノ特ニ認可シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ違背シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ禁錮拘留又ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●樺太ニ於ケル鑛業砂鑛業又ハ漁業ニ關スル手數料ノ件

大正九年八月十三日
勅令第二百五十六號

改正　大一〇年四月勅令一七一號

朕明治四十五年勅令第百四十號樺太ニ於ケル鑛業砂鑛業又ハ漁業ニ關スル手數料ノ件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總、大臣副署）

樺太ニ於テ鑛業又ハ砂鑛業ニ關スル出願、申請又ハ屆出ヲ爲ス者ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ納付スヘシ漁業ニ關スル出願又ハ申請ヲ爲ス者ニ付亦同シ

前項ノ規定ハ國ニ之ヲ適用セス

●鑛業及砂鑛業ノ出願申請及登錄手數料

明治四十五年七月六日
廳令第十九號

改正　大九年八月廳令二二號、一〇年五月二四號

第一條　鑛業ニ關スル出願申請又ハ屆出ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一　試掘願　毎一件　金五拾圓

二　試掘出願地ノ變更願
　增區又ハ增減區　毎一件　金參拾圓
　減區　毎一件　金五圓

三　試掘鑛區ノ變更願
　增區又ハ增減區　毎一件　金參拾圓
　減區　毎一件　金五圓
　改正　毎一件　金五圓

四　試掘出願人ノ變更屆
　相續　毎一件　金五圓
　相續以外ノ原因ニ因ル變更　毎一件　金五拾圓

五　採掘願　毎一件　金七拾五圓

六　採掘出願地ノ變更願
　增區又ハ增減區　毎一件　金五拾圓
　減區　毎一件　金五圓

七　採掘鑛區變更願
　增區又ハ減區　毎一件　金五拾圓
　減區　毎一件　金五圓
　鑛區訂正　毎一件　金參拾圓
　改正　毎一件　金五圓

八　採掘鑛區ノ合併又ハ分割願　毎一件　金參拾圓

九　採掘鑛區ノ分合願　毎一件　金五拾圓

十　採掘出願人ノ變更屆
　相續　毎一件　金五圓
　相續以外原因ニ因ル變更　毎一件　金五拾圓

十一　共同鑛業出願人ノ脫退屆　毎一件　金五圓

十二　鑛種名更正願　毎一件　金拾圓

十三　鑛業法第四十九條ノ規定ニ因ル實地調査願　毎一件　金五拾圓

十四　鑛業法第五十一條ノ規定ニ因ル測量又ハ檢査願　毎一件　金拾圓

十五　鑛業法第五十三條ノ規程ニ因ル障碍物除却願　毎一件　金拾五圓

十六　鑛業法第五十六條ノ規定ニ因ル鑛業用地使用願　毎一件　金貳拾五圓

十七　裁決申請　毎一件　金貳拾五圓

第二條　鑛業登錄令第六條ノ規定ニ依リテ鑛業原簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求シ又ハ鑛業原簿若クハ附屬書類ノ閲覽ヲ請求スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一　鑛業原簿ノ謄本又ハ抄本交付ノ申請　用紙毎一枚　金五拾錢

二　鑛區圖謄本交付ノ申請　鑛區毎十萬坪　金貳圓五拾錢

三　鑛業原簿又ハ附屬書類ノ閲覽申請　毎鑛區毎一時間　金貳拾五錢

紙數、面積又ハ時間ニ依リ手數料額ヲ定ムル場合ニ於テハ一枚、十萬坪又ハ一時間ニ滿タサルモノト雖モ一枚、十萬坪又ハ一時間トシテ計算ス

第三條　砂鑛業ニ關スル出願、申請又ハ屆出ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一　砂鑛採取願　毎一件　金拾圓

二　砂鑛出願地ノ增區又ハ增減區願
　增區又ハ增減區願　毎一件　金拾圓

三　砂鑛出願地ノ減區願　毎一件　金壹圓

四　砂鑛區ノ增壹區又ハ增減區願　毎一件　金拾圓

五　砂鑛區ノ減區願　毎一件　金壹圓

六　砂鑛區ノ合併又ハ分割願　毎一件　金貳圓

七　砂鑛出願人ノ變更屆
　相續以外ノ原因ニ因ル變更　毎一件　金五圓

八　砂鑛區實地調査願　毎一件　金參拾圓

九　測量又ハ檢査許可願　毎一件　金拾圓

十　障碍物除却許可願　毎一件　金拾五圓

十一　砂鑛業用地使用許可願　毎一件　金拾五圓

十二　裁決申請　毎一件　金貳拾五圓

前項第一號ノ出願ニ付テハ河床ニ在リテハ二里毎ニ、其ノ他ニ在リテハ十萬坪毎ニ一件分ノ手數料ヲ納ムヘシ

第一項第二號及第四號ノ出願ニ付テハ其ノ增區部分ノミニ付前二項ニ依ル手數料ヲ納ムヘシ

第四條　砂鑛登錄令ニ依リテ砂鑛原簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求シ又ハ砂鑛原簿若ハ附屬書類ノ閲覽ヲ請求スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一　砂鑛原簿ノ謄本又ハ抄本交付ノ申請　用紙毎一枚　金五拾錢

二　砂鑛區圖謄本交付ノ申請　砂鑛區毎二里又ハ毎十萬坪　金貳圓五拾錢

三　砂鑛原簿又ハ附屬書類ノ閲覽申請　毎鑛區毎一時間　金貳拾五錢

第五條　砂鑛業ニ關シ紙數、面積又ハ時間ニ依リ手數料額ヲ定ムル場合ニ於テハ一枚、二里、十萬坪又ハ一時間ニ滿タサルモノト雖モ一枚、

二里、十萬坪又ハ一時間トシテ計算ス

第六條乃至第八條　（削除）

附　則

本令ハ明治四十五年勅令第一四〇號公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年樺太廳令第二五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附　則（大正十年廳令第二十四號）

本令ハ大正十年四月勅令第百七十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●鑛夫雇傭勞役扶助規則

昭和四年十一月三日
廳令第三十八號

鑛夫雇傭勞役扶助規則左ノ通定ム

鑛夫雇傭勞役扶助規則

第一條　鑛業法第七十五條ノ規定ニ依ル鑛夫ノ雇傭勞役規則ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ鑛業者手前樺太廳長官ニ其ノ許可ヲ申請スベシ

一　業務ノ種類
二　雇入ノ手續
三　解雇ノ事由及手續
四　解雇ノ場合ニ於ケル歸鄉旅費支給ニ關スル事項
五　賃金ノ支拂方法及支拂期日
六　石炭鑛業ニ在リテハ檢炭ニ關スル事項
七　鑛夫ノ貯金其ノ他ノ積立金ヲ管理スルトキハ其ノ方法、拂戾ノ事由及手續
八　鑛夫ノ負擔ニ屬スル作業用品目
九　業務別就業時間及就業時ノ轉換方法
十　休日
十一　尋常小學校ノ教科ヲ修了セザル學齢兒童ヲ雇傭スルトキハ就學ニ關シ必要ナル事項
十二　賞與及制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項

鑛夫雇傭勞役規則ヲ變更セムトスルトキハ樺太廳長官ノ許可ヲ受クベシ

第二條　採掘權者ハ變災若ハ變災ノ虞アル爲又ハ避クベカラザル事由ニ依リ臨時必要アル場合ニ於テハ就業時間、就業時ノ轉換方法及休日ニ關スル事項ニ付雇傭勞役規則ニ依ラザルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ就業セシメタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

第三條　鑛業權者鑛夫ヲ雇入レタルトキハ鑛夫名簿ニ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一　氏名
二　生年月日
三　本籍
四　履歴ノ要領
五　鑛夫十六歳未滿ナル場合ニ於テハ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル尋常小學校名及修了年月、尋常小學校ノ教科ヲ修了セザル者ニ在リテハ其ノ旨
六　業務ノ種類
七　雇入ノ年月日
八　雇傭期間ヲ定メタル者ニ在リテハ其ノ期間

前項記載事項ニ異動アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ訂正スベシ

第四條　鑛業權者鑛夫ヲ解雇シ又ハ鑛夫死亡シタルトキハ鑛夫名簿ニ左ニ掲グル事項ヲ記入シ解雇又ハ死亡ノ日ヨリ五ケ年以上之ヲ保存スベシ

一　解雇又ハ死亡ノ年月日
二　解雇ノ事由又ハ死亡ノ原因

第五條　鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ズ

鑛業權者ハ選炭作業ニ從事スル者ニ付テハ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ前項ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得

第六條　鑛業權者ハ溫度攝氏三十度ヲ超ユル坑內ノ場所ニ於テ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ就業セシムル場合ニ在リテハ其ノ者ヲシテ他ノ場所ニ於ケル就業時間ト通算シテ一日ニ付八時ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ズ

鑛業權者ハ溫度攝氏三十五度ヲ超ユル坑內ノ場所ニ於テ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ズ

第七條　鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ズ

但シ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八條　鑛業權者ハ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルトキハ十六歳未滿ノ者及女子ニ對シ十日ヲ超エザル期間毎ニ其ノ就業時ヲ轉換スベシ

第九條　鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ニ對シ一日ノ就業時間ガ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ設クベシ

第十條　鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムル場合ニ於テハ少クトモ四回ノ休日ヲ設クベシ

第十一條　鑛業權者ハ變災又ハ變災ノ虞アル爲急迫ノ必要アル場合ニ於テハ第五條、第六條第一項及第七條乃至第十條ノ規定ニ拘ラズ就業セシムルコトヲ得鑛業權者ハ避クベカラザル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ第五條、第六條第一項及第七條乃至第十條ノ規定ニ拘ラズ就業セシムルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ就業セシメタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

第十二條　鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ左ニ掲グル業務ニ就カシムルコトヲ得ズ

一　原動機、電氣機械其ノ他ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危險ナル部分ノ運轉中ニ於ケル掃除、注油、檢査又ハ修理
二　機械又ハ動力傳導裝置ノ運轉中ニ於ケル調帶若ハ調索ノ危險ナル方法ニ依ル取附又ハ取外
三　汽罐ノ焚火、給水弁若ハ阻汽弁ノ開閉又ハ安全弁ノ取扱
四　發電機、電動機、發電機ノ抵抗器、變壓器又ハ「コットレル」集塵

〔樺法〕

裝置ニ屬スル整流機ノ取扱
五　高壓電線ノ接續
六　機械力ニ依リ運轉スル捲揚機ノ取扱
七　運轉中ノ車輛ノ連結又ハ分離
八　鑛物ノ掘採及岩石ノ掘鑿
九　爆發藥ノ裝塡又ハ點火
十　支柱ノ取附又ハ取外
十一　製錬作業ニ於テ熱灼若ハ熔解セル鑛物又ハ鑛滓ノ取扱
十二　有害ナル煙塵ノ堆積セル煙道又ハ煙突ノ掃除
十三　砒素、水銀、鉛若ハ亞鉛又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ準ズベキ有害料品ノ粉碎、蒸騰又ハ瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務
十四　電解精錬ヲ爲ス場所ニ於ケル業務
十五　鑛石、燃料其ノ他ヲ熔鑛爐ニ裝入スル業務

第十三條　鑛業權者ハ十六歲未滿ノ者ヲシテ左ニ揭グル業務ニ就カシムルコトヲ得ズ

一　砒素若ハ水銀又ハ其ノ化合物、「チアンカリウム」、硫酸、硝酸、鹽酸、苛性加里、苛性曹達其ノ他之ニ準ズベキ毒性又ハ劇性料品ノ取扱
二　揮發油、二硫化炭素其ノ他之ニ準ズベキ發火性又ハ引火性料品ノ取扱
三　土石又ハ鑛物ノ粉塵ヲ著シク飛散スル場所ニ於ケル業務

第十四條　鑛業權者ハ左ニ揭グル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ズ但シ第四號又ハ第五號ニ揭グル疾病ニ罹レル者ニ付傳染豫防ノ處置アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　精神病
二　癲、肺結核、喉頭結核
三　丹毒、再歸熱、癩疹、流行性腦脊髓膜炎其ノ他之ニ準ズベキ急性熱性病
四　黴毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病
五　膿漏性結膜炎、「トラホーム」(著シク傳染性ノ虞アルモノ)其ノ他之ニ準ズベキ傳染性眼病

鑛業權者ハ肋膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、腱鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症惡化ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ズ

鑛業權者ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹リタル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セザルモノヲ就業セシムルコトヲ得ズ但シ醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條　鑛業權者ハ四週日以內ニ出產スルコトアルベキ者休業ヲ求メタルトキハ其ノ者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ズ

鑛業權者ハ產後六週日ヲ經過セザル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ズ但シ產後四週日ヲ經過シタル者就業セムコトヲ求メタル場合ニ於テ醫師ノ支障ナシト認メタル業務ニ就カシムルコトヲ妨ゲズ

第十六條　生後滿一年ニ達セザル生兒ヲ哺育スル女子ハ就業時間中ニ於テ一日二回各三十分ヲ限リ其ノ生兒ヲ哺育スベキ時間ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ哺育時間中其ノ女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ズ

鑛業權者坑內作業ニ從事スル女子ノ生兒ノ保育ニ關シ必要ナル施設ヲ爲シ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ坑內作業ニ從事スル女子ニ哺育時間ヲ與ヘザルコトヲ得

第十七條　鑛夫業務上負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ本令ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲スベシ但シ扶助ヲ受クベキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ鑛業權者ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

前項扶助ノ義務ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外鑛夫ノ解雇ニ因リテ變更セラルルコトナシ

第十八條　鑛夫負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ鑛業權者ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スベシ

第十九條　鑛夫療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルニ因リ賃金ヲ受ケザルトキハ鑛業權者ハ鑛夫ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六十以上ノ休業扶助料ヲ支給スベシ但シ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リテ發シタル疾病ニツキ其ノ支給百八十日ヲ超エタルトキハ其ノ後ノ支給額ヲ一日ニ付賃金百分ノ四十迄ニ減ズルコトヲ得

第二十條　鑛夫ノ負傷又ハ疾病治癒シタルトキニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル程度ノ身體障害ヲ存スルトキハ鑛業權者ハ左ニ揭グル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ

一　終身自用ヲ辨ズルコト能ハザルモノ
　　賃金　五百四十日分以上
二　終身勞役ニ從事スルコト能ハザルモノ
　　賃金　三百六十日分以上
三　從來ノ勞役ニ從事スルコト能ハザルモノ、健康舊ニ復スルコト能ハザルモノ又ハ女子ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ
　　賃金　百八十日分以上
四　身體ヲ傷害シ舊ニ復スルコト能ハズト雖引續キ從來ノ勞役ニ從事スルコトヲ得ルモノ
　　賃金　四十日分以上

第二十一條　鑛夫重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且鑛業權者其ノ事實ニ就キ樺太廳長官ノ認定ヲ受ケタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セザルコトヲ得

第二十二條　鑛夫死亡シタルトキハ鑛業權者ハ遺族又ハ鑛夫ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ賃金三百六十日分以上ノ遺族扶助料ヲ支給スベシ

第二十三條　鑛夫死亡シタルトキハ鑛業權者ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ鑛夫死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ賃金三十日分(其ノ金額三十圓ニ滿タザルトキハ三十圓)以上ノ葬祭料ヲ支給スベシ

第二十四條　遺族扶助料ヲ受クベキ者ハ鑛夫ノ配偶者トス

配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受クベキ者ハ鑛夫死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル鑛夫ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト親等相同ジキトキハ卑屬ヲ先ニス

第二十五條　前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

一　鑛夫ノ家督相續人又ハ戶主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス

二　男ハ之ヲ女ヨリ先ニス

三　直系ノ卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖之ヲ私生子ヨリ先ニス

四　前二號ニ掲グル事項ニ付相同ジキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第二十六條　第二十四條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲グル者ノ中一人ニ遺族扶助料ヲ支給スベシ但シ鑛夫ノ遺言又ハ鑛業權者ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲グル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フベシ

一　鑛夫ノ家督相續人又ハ戸主

二　鑛夫ノ兄弟姉妹ニシテ鑛夫ノ死亡當時之ト同一ノ家ニ在ル者

三　鑛夫死亡當時其ノ收入ニ依ル生計ヲ維持スル者鑛業權者ニ對シテ爲シタル豫告ニ依ル特定アリタルトキハ鑛業權者遲滯ナク之ヲ鑛夫名簿ニ記載スベシ

第二十七條　第十八條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及第十九條ニ依ル休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ支給スベシ

障害扶助料ハ鑛夫ノ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滯ナク遺族扶助料及葬祭料ハ鑛夫ノ死亡後遲滯ナク之ヲ支給スベシ但シ障害扶助料及遺族扶助料ハ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケ數回ニ分割シテ之ヲ支給スルコトヲ得

第二十八條　鑛業權者ハ詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ニ對シテハ扶助ノ全部又ハ一部ヲ爲サザルコトヲ得

第二十九條　第十八條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル鑛夫療養開始後三箇年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治癒セザルトキハ鑛業權者ハ賃金五百四十日分以上ノ打切扶助料ヲ支給シ以後本令ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲サザルコトヲ得

第三十條　鑛業權者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本令ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲サザルコトヲ得

一　鑛夫ノ解雇後一箇年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラズ解雇前ニ又ハ解雇後一箇年內ニ請求シタル扶助ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同ジ

二　扶助ヲ受ケテ治療シタル負傷又ハ疾病ガ鑛夫ノ解雇後ニ於テ再發スルトキ

第三十一條　扶助料及葬祭料算出ノ標準トスベキ賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

一　定額ニ依リ賃金ヲ定ムル場合ニ於テハ其ノ賃金ノ額

二　定額ニ依リ賃金ノ定ナキ場合ニ於テハ疾病ニ在リテハ診斷ニ據ル發病ノ日ヲ除キ、發病ノ日明ナラザルトキハ診斷前七日ヲ除キ、負傷又ハ即死ニ在リテハ事故發生ノ日ヲ除キ其ノ前（賃金締切日アル場合ニ於テハ直前ノ賃金締切月以前）三月間（雇入後三月ニ滿タザルトキハ其ノ期間）ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得ズ

前項第二號ニ規定スル期間中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル期間アルトキハ其ノ日數及其ノ期間ニ於ケル賃金ハ前項ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

一　業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シタル期間

二　產前又ハ產後ノ女子第十五條ノ規定ニ依リ休業シタル期間

三　試ノ雇傭期間

四　鑛業權者ノ都合ニ依リ鑛夫臨時ニ休業シタル期間第一項第二號ノ賃金總額ニハ三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賃與及發明善行其ノ他特別ノ行爲ニ對スル賞與又ハ手當ヲ包含セズ

前三項ノ規定ニ依リ扶助料及葬祭料算出ノ標準トスベキ賃金ヲ算出スルコトヲ得ザル場合ニ於テハ扶助規則ノ定ムル所ニ依ル但シ扶助規則ニ定メナキトキハ樺太廳長官之ヲ定ム

第三十二條　樺太廳長官ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ因リ鑛夫ノ負傷、疾病又ハ死亡ノ原因、第二十條各號ニ掲グル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審査シ及事件ノ調停ヲ爲スコトアルベシ

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムルコトヲ得

第三十三條　鑛業權者ハ扶助規則ヲ作製シ扶助ノ金額手續其ノ他扶助ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ鑛業著手前之ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

鑛業權者扶助規則ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク之ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

樺太廳長官必要ト認ムルトキハ扶助規則ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

第三十四條　扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三箇年以上之ヲ保存スベシ

第三十五條　鑛業權者扶助ヲ爲シタルトキハ樣式第一號ニ依リ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

第三十六條　鑛夫就業中又ハ事業場內ニ於テ負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ遲滯ナク醫師ヲシテ診斷又ハ檢案ヲ爲サシムベシ

第三十七條　鑛業權者ハ樣式第二號ニ依リ第一條第一項第四號ノ歸鄉旅費支給ノ狀況ヲ樣式第三號ニ依リ同條同項第七號ノ貯金其ノ他ノ積立金ノ狀況ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

第三十八條　鑛業權者ハ始業及終業ノ時刻並休憩及休日ニ關スル事項ヲ見易キ場所ニ掲示スベシ

第三十九條　鑛業權者ハ雇傭勞役規則及扶助規則ヲ適當ナル方法ヲ以テ鑛夫ニ周知セシムベシ

第四十條　鑛業權者ハ鑛夫ノ雇傭勞役又ハ扶助ニ關シ紛擾ヲ生ジタルトキハ遲滯ナク其ノ事由及狀況ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

第四十一條　樺太廳長官ハ鑛業權者ニ對シ本令施行上必要ナル報告ヲ命ズルコトアルベシ

第四十二條　雇傭勞役規則ニ違背シタル探掘權者、第十四條、第十五條、第十六條第一項、第三十三條第一項第二項若ハ第三十四條ノ規定ニ違反シタル者、正當ノ事由ナクシテ第三十六條ノ診斷若ハ檢案ヲ爲サシメザリシ者又ハ第三十三條第三項ノ規定ニ依リ發シタル命令ニ從ハザル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十三條　鑛業權者ヲシテ不正ニ扶助義務ノ全部又ハ一部ヲ免ラシメ又ハ免レシメムトスル所爲ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十四條　第二條第二項、第三十五條若ハ第三十七條乃至第四十條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第四十一條ノ規定ニ依リ命ゼラレタル報告ヲ爲サザル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十五條　鑛業法施行細則第五十九條ノ規定ニ依リ鑛業代理人ヲ置キタルトキハ鑛業權者又ハ法定代理人ニ適用スベキ本令ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セザル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十六條　本令ハ第十七條乃至第三十三條、第四十二條乃至第四十五條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

國ノ鑛業ニ於ケル鑛夫及其ノ遺族ノ扶助ニ附テハ別ニ定ムル規定ニ依ル

附則

第四十七條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十八條　本令施行前ニ許可ヲ受ケタル雇傭勞役並扶助規則ニシテ本令ニ依リ變更ヲ要スルモノハ本令施行ノ日ヨリ三箇月內ニ其ノ變更ノ手續ヲ爲スベシ

第四十九條　從前ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル者本令施行後引續キ扶助ヲ受クルトキハ本令施行後ハ本令ニ依リ之ヲ扶助スベシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷者ハ疾病ガ本令施行後再發シテ扶助ヲ受クルトキ亦同ジ

第五十條　本令中第三條ノ規定ヲ除キ十六歲トアルハ本令施行後三年間ハ之ヲ十五歲トス

樣式第一號ノ甲

鑛夫扶助月報　昭和年月分

| 鑛種 | | |

鑛夫歸鄉旅費年報　昭和　年分

鑛業權者又ハ代表者	鑛業代理人	鑛夫	種別	人數	金額	記事
住所 何	住所 何	位置 名稱	業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ解雇セラレ歸鄉スル場合 未成年者又ハ女子鑛業權者ノ都合ニ依リ解雇セラレ歸鄉スル場合 其ノ他ノ場合			
某印	某印					

掘權登錄第　號

備考

一　本表ハ一月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分ヲ翌年一月三十一日迄ニ差出スベシ

二　「其ノ他ノ場合」ニ包含スル事由ノ概略ヲ記事欄ニ記載スベシ

三　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スベシ

樣式第三號

鑛夫貯蓄金年報　昭和　年分

鑛業權者又ハ代表者	鑛業代理人	鑛夫	種別	員數
住所 何	住所 何	位置 名稱	男 女 計	
某印	某印			

掘權登錄第　號

備考

一　本表ハ十二月三十一日現在ニ依リ翌年一月三十一日迄ニ差出スベシ十二月三十一日前ニ休業シタル鑛業ニアリテハ休業ノ際ノ狀況ニ依リ其ノ旨記事欄ニ記載スベシ

二　本表ニハ信認金、積立金其ノ他何等ノ名義ヲ用フルニ拘ラズ鑛夫ノ貯蓄金ニシテ鑛業權者ノ管理スルモノヲ記載スベシ

三　既ニ解雇シタル鑛夫ノ貯蓄金ニシテ住所不明其ノ他ノ事由ニ因リ返還スルコト能ハザルニ依リ之ヲ管理スル場合ニハ其ノ員數及金額ヲ記事欄ニ記載スベシ

四　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スベシ

●鑛業警察規則

昭和四年十一月三日
廳令第三十七號

鑛業警察規則左ノ通改正ス

鑛業警察規則

第一條　採掘權者技術ニ關スル事項ヲ管理セシムル爲特別ノ管理者ヲ選任又ハ改任セムトスルトキハ其ノ履歷書ヲ添ヘ樣太廳長官ノ認可ヲ受クベシ

第二條　樣太廳長官ハ採掘權者ニ技術管理者ノ選任又ハ改任ヲ命ズルコトアルベシ

第三條　左ノ資格ヲ有スル者ニ非ザレバ技術管理者タルコトヲ得ズ

一　帝國大學、大學令ニ依ル大學又ハ實業專門學校ニ於テ鑛業ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シタル者ニシテ一年以上其ノ實務ニ從事シタルモノ

二　鑛業ノ技術ニ關シ前號ニ揭グル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ一年以上其ノ實務ニ從事シタルモノ

三　工業學校尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノモノ又ハ高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年ノモノニ於テ鑛業ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シタル者ニシテ三年以上其ノ實務ニ從事シタルモノ

四　鑛業ノ技術ニ關シ前號ニ揭グル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ三年以上其ノ實務ニ從事シタルモノ

石炭山ニ於テ五年以上其ノ鑛業ノ技術ニ關スル實務ニ從事シタル者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ樣太廳長官ノ詮衡ヲ經テ之ヲ石炭山ノ技術管理者ニ選任スルコトヲ得石炭山以外ノ鑛山ニ於テ五年以上其ノ鑛業ノ技術ニ關スル實務ニ從事シタル者石炭山以外ノ鑛山ニ付亦同ジ

第四條　技術管理者ハ鑛業ノ技術ニ關スル一切ノ事項ヲ管理ス但シ採掘權者ニ於テ樣太廳長官ノ認可ヲ受ケ其ノ權限ニ制限ヲ加ヘタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條　採掘權者二人以上ノ技術管理者ヲ選任シタルトキハ其ノ權限ヲ區別シ樣太廳長官ノ認可ヲ受クベシ

第六條　技術管理者ハ樣太廳長官ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ他ノ鑛山ノ技術管理者ヲ兼ヌルコトヲ得ズ

第七條　鑛業權者ハ本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依リ係員ヲ選任又ハ改任シタルトキハ遲滯ナク其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ樣太廳長官ニ屆出ヅベシ

前項ノ係員ヲ解任シタルトキハ遲滯ナク之ヲ樣太廳長官ニ屆出ヅベシ

第八條　樣太廳長官ハ本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依ル係員ノ選任、改任又ハ其ノ增員ヲ命ズルコトアルベシ

第九條　本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依ル係員ハ左ノ資格ヲ有スル二十歲以上ノ者ヨリ之ヲ選任スベシ

一　帝國大學、大學令ニ依ル大學又ハ實業專門學校ニ於テ擔任ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シタル者ニシテ六月以上其ノ實務ニ從事シタルモノ

二　擔任ノ技術ニ關シ前號ニ揭グル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ六月以上其ノ實務ニ從事シタルモノ

三　工業學校尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノモノ又ハ高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年ノモノニ於テ擔任ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シタル者ニシテ一年以上其ノ實務ニ從事シタルモノ

四　擔任ノ技術ニ關シ前號ニ揭グル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ一年以上其ノ實務ニ從事シタルモノ

五　中學校ヲ卒業シタル者ニシテ二年以上擔任ノ職務ニ關スル作業ニ從事シタルモノ

六　前號ニ揭グル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ二年以上擔任ノ職務ニ關スル作業ニ從事シタルモノ

七　尋常小學校ヲ卒業シタル者ニシテ三年以上其ノ擔任ノ職務ニ關スル作業ニ從事シタルモノ

前項第五號乃至第七號ノ期間ハ安全燈係員及發破係員ニ付テハ一年以上トス

第十條　本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依ル係員ハ二以上ノ鑛山ノ係員ヲ兼ヌルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條　採掘權者ハ保安係員ヲ置キ坑內外ノ保安及衞生ニ關スル事項ヲ掌ラシムベシ

樺太廳長官必要ト認ムルトキハ試掘權者ニ前項ノ規定ヲ適用スルコトアルベシ

第十二條　鑛業權者又ハ技術管理者ハ危險又ハ危險ノ虞アリト認メタルトキハ直ニ應急又ハ豫防ノ處置ヲ爲スベシ

第十三條　保安係員ハ每日一回以上鑛夫ノ就業場所及通行場所竝危險ノ虞アル場所ヲ巡視シ危險ノ有無ヲ檢査スベシ但シ瓦斯ノ存在スル石炭坑ニ於テハ鑛夫入坑時前ニ之ヲ爲スベシ

保安係員ハ保安日誌ヲ作リ巡視ノ都度各場所ニ於ケル狀況及危害豫防ニ付爲シタル處置ヲ記入スベシ

第十四條　保安係員ハ危險又ハ危險ノ虞アリト認メタルトキハ作業ノ中止、通行ノ遮斷其ノ他適當ナル處置ヲ爲シ遲滯ナク之ヲ鑛業權者又ハ技術管理者ニ報告スベシ

前項ノ規定ニ依リ作業ヲ中止シ又ハ通行ヲ遮斷シタル場合ニ於テハ鑛業權者又ハ技術管理者ハ檢査ヲ爲シ危險ナシト認メタル後ニ非ザレバ再ビ作業ヲ開始セシメ又ハ遮斷ヲ解クコトヲ得ズ但シ危害豫防ノ爲已ムコトヲ得ザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條　鑛業權者ハ機械係員ヲ置キ汽罐、汽機、空氣壓縮機、主要扇風機、捲揚裝置其ノ他特別ノ注意ヲ要スル機械及其ノ附屬裝置ヲ管守セシムベシ

機械係員ハ每日一回以上前項ノ機械及裝置ヲ監視シ異狀アリト認メタルトキハ適當ナル處置ヲ爲シ遲滯ナク之ヲ鑛業權者又ハ技術管理者ニ報告スベシ

機械係員ハ機械日誌ヲ作リ監視ノ狀況、危害豫防ニ付爲シタル處置、機械ノ修理及休止其ノ他重要ナル事項ヲ記入スベシ

第十六條　瓦斯又ハ炭塵ノ存在スル石炭坑ニ於テハ鑛業權者ハ發破係員ヲ選任シ坑內ニ於ケル爆發藥ノ携帶、授受、裝塡及點火ヲ爲サシムベシ但シ携帶及裝塡ニ付テハ特定ノ助手ヲシテ之ヲ補助セシムルコトヲ得

樺太廳長官必要ト認ムルトキハ瓦斯又ハ炭塵ノ存在セザル石炭坑ニ前項ノ規定ヲ適用スルコトアルベシ

第十七條　發破係員ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ

一　發破ヲ行ハムトスルトキハ瓦斯及炭塵ニ付六メートル以上ノ區域內ニ於テ危險ノ有無ヲ檢査スベシ同一箇所ニ於テ引續キ發破ヲ行フ場合亦同ジ

二　石炭層中ニ於テ發破ヲ行フ場合ニ於テハ空發其ノ他危險ノ虞ナカラシムル爲雷孔ノ位置、狀態及深ニ付檢査スベシ

三　炭粉其ノ他可燃性ノ物ハ込物トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

四　空氣中ノ瓦斯量百分ノ一以上ノ箇所ニ於テハ發破ヲ行フコトヲ得ズ但シ瓦斯量百分ノ二ニ達セザル箇所ニ於テ電氣點火法ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

五　乾燥炭塵存在スル場合ニ於テハ電氣點火法ニ依ルニ非ザレバ同一箇所ニ於テ同時ニ二發以上ノ發破ヲ行フコトヲ得ズ

六　石炭層中隣接箇所ニ於テ引續キ數回ノ發破ヲ行フ場合ニ於テハ風下ヨリ順次ニ之ヲ行フベシ

第十八條　同時ニ五十人以上ノ鑛夫ヲ入坑セシムル坑內又ハ通路ヨリ岐レタル枝坑ニ於テハ其ノ奧部ニ於テ連絡シ何時ニテモ出入シ得ベキ裝置ヲ爲シタル二箇以上ノ坑口ヲ設クル等適當ナル施設ヲ爲スベシ

樺太廳長官必要ト認ムルトキハ同時ニ五十人未滿ノ鑛夫ヲ入坑セシムル坑內ニ前項ノ規定ヲ適用スルコトアルベシ

第十九條　坑道ノ掘進其ノ他掘鑿ヲ爲ス場合ニ於テ多量ノ水又ハ有害瓦斯ノ噴出ニ因リ危害發生ノ虞アルトキハ先進鑽孔ノ穿鑿其ノ他適當ナル處置ヲ爲スベシ

第二十條　竪坑ヲ開鑿スル場合ニ於テハ土石其ノ他物ノ墜落ニ因ル危害ヲ豫防スル爲適當ナル處置ヲ爲スベシ

第二十一條　落磐ノ虞アル場所ニ於テハ危害豫防ノ爲適當ナル支柱其ノ他ノ設備ヲ爲スベシ

採炭中支柱ヲ要スル石炭坑ニ於テハ支柱方法ヲ定メ鑛夫ヲシテ之ヲ遵守セシムベシ

第二十二條　採掘又ハ掘進中特ニ落磐ノ虞アル場所ニ於テハ支柱材其ノ他坑內支持ニ必要ナル材料ヲ作業上便宜ノ場所ニ豫メ配置スベシ

第二十三條　竪坑、坑井、手掘油井、試錐孔ノ櫓上又ハ四十度以上ノ斜坑ノ坑口及其ノ坑道ト交叉スル箇所ニハ墜落豫防ノ爲蓋柵圍其ノ他適當ナル設備ヲ爲スベシ

第二十四條　鑛業ノ全部又ハ一部ヲ廢止セムトスルトキハ竪坑、斜坑其ノ他危險ノ虞アル坑口ハ之ヲ後害ナキ樣閉塞スベシ

第二十五條　竪坑及坑井ニ架設スル梯子道ニシテ常時通行ニ供スルモノハ傾斜八十度以內ト爲シ少クトモ十メートル每ニ踏棚ヲ設ケ梯子ノ上端ハ七十センチメートル以上之ヲ突出セシメ又ハ之ニ代ルベキ適當ナル設備ヲ爲スベシ但シ深三十メートル以內ノ竪坑又ハ坑井ニ架設スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於テハ梯子ト坑壁トノ間ニ相當ノ間隔ヲ置クベシ

第二十六條　主要通行坑道ノ分岐點其ノ他必要ナル箇所ニハ其ノ名稱ヲ揭示シ出口ノ方向ヲ指示スベシ

第二十七條　捲揚裝置ニ依リ人ヲ昇降セシムル竪坑ニハ何時ニテモ出入シ得ベキ裝置ヲ爲シタル他ノ坑口ヲ有スル場合ノ外梯子道ヲ架設スベシ

第二十八條　捲揚裝置ヲ設クル竪坑ニ於テ常時通行ニ供スル梯子道ヲ架設スルトキハ其ノ間ニ板仕切其ノ他適當ナル設備ヲ爲スベシ

第二十九條　人ヲ昇降セシムル竪坑捲揚裝置ニハ制動機及深度指示器ヲ備ヘ竝捲揚超過ヨリ生ズル危害豫防ノ設備ヲ爲シ其ノ捲揚臺ニハ上蓋ヲ備フベシ

前項ノ捲揚臺ヲ支持スル捲綱及附屬金具ハ少クトモ最大荷重ノ十倍ニ耐ユルモノヲ用フベシ

繼合セタル捲綱ハ人ヲ昇降セシムル捲揚臺ノ支持ニ用フルコトヲ得ズ

第三十條　自動車道又ハ捲揚車道ニ使用スル車輛ニハ當該係員又ハ鑛夫ノ外乘車スルコトヲ得ズ但シ前條ノ規定ニ準ジ施設ヲ爲スノ外特ニ適當ナル危害豫防ノ設備ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條　自動車道又ハ捲揚車道ニ依リ車輛ヲ運轉スル場合ニ於テハ逸走豫防ノ爲適當ナル裝設ヲ爲スベシ

第三十二條　自動車道又ハ捲揚車道ヲ敷設スル坑道ヲ通行ニ供スル場合ニ於テハ軌道ノ傍側ニ步道又ハ白色ノ標示ヲ爲シタル回避所ヲ設クベシ

前項ノ場合ニ於テ樺太廳長官必要ト認ムルトキハ步道又ハ專用通行坑道ノ設置ヲ命ズルコトアルベシ

第三十三條　捲揚用竪坑、坑井、坑內ノ自動車道及捲揚車道ニハ信號裝置ヲ設クベシ但シ人聲ヲ以テ合圖ヲ爲シ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十四條　同時ニ五十人以上ノ鑛夫ヲ入坑セシムル坑內ニ於テハ坑ノ內外及坑內主要箇所間ニ電話其ノ他ノ通信裝置ヲ設クベシ

樺太廳長官必要ト認ムルトキハ同時ニ五十人未滿ノ鑛夫ヲ入坑セシムル坑內ニ前項ノ規定ヲ適用スルコトアルベシ

第三十五條　鑛夫ハ濫ニ危害豫防ノ爲メ就業若ハ通行ヲ禁止セラレタル場所ニ立入リ又ハ衞生若ハ危害豫防ニ關スル設備及裝置ヲ毀損又ハ變更スルコトヲ得ズ

第三十六條　爆發藥ノ裝塡用込物ハ鑛業權者之ヲ鑛夫ニ給與スベシ

前項ノ込物ハ粘土其ノ他發火ヲ誘起スルノ虞ナキ物ノ外之ヲ使用スコトヲ得ズ

第三十七條　樺太廳長官必要ト認ムルトキハ一定種類ノ爆發藥、雷管、導火線及電氣點火器ノ坑內ニ於ケル使用ヲ禁止シ又ハ一鑽孔ニ裝塡スル爆發藥ノ數量ヲ制限スルコトアルベシ

第三十八條　爆發藥ヲ使用スル者ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ

一　「ダイナマイト」其ノ他「ナイトログリセリン」爆發藥ニシテ凍結シタルモノハ火若ハ濕纖ニ近ケ又ハ直接蒸汽ト接觸セシムル等危險ナル方法ヲ以テ融解スルコトヲ得ス

二　裝塡ハ鐵製込棒ヲ以テ爲スコトヲ得ズ但シ「ナイトログリセリン」爆發藥又ハ棉火藥ノ裝塡ニ込棒ヲ使用スル場合ニ於テハ木製ノモノニ限ル

三　點火ハ豫メ其ノ附近ノ鑛夫ニ警告シ安全ト認メタル後ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

四　點火後爆發セザルトキハ少クトモ十五分間ハ其ノ場所ニ近寄ルコトヲ得ズ

五　不發ノ裝藥及其ノ込物ハ鑛夫之ヲ掘出スルコトヲ得ズ此ノ場合ニ於テハ當該係員ノ指揮ヲ受クベシ

爆發藥ノ取扱ニ付テハ前項各號ニ揭グル事項其ノ他注意ヲ要スル事項ヲ定メ鑛夫ヲシテ之ヲ遵守セシムベシ

第三十九條　坑內ニハ衞生及危害豫防ノ爲必要ナル分量ノ空氣ヲ給送スベシ

第四十條　石炭坑內ニ於テ新ニ瓦斯ノ存在ヲ認メタルトキハ鑛業權者ハ速ヤカニ之ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

第四十一條　石炭坑內ニ於ケル空氣中ノ瓦斯量百分ノ二以上ノ箇所ニ於

テハ鑛夫ノ就業ヲ禁止シ百分ノ三以上ノ箇所ニ於テハ其ノ通行ヲ禁止スベシ但シ特ニ安全ナル方法ニ依リ通氣改良ニ關スル作業ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ箇所ニハ遲滯ナク標其ノ他適當ナル設備ヲ爲シ一定ノ警標ヲ揭グベシ

第四十二條　同時ニ五十人以上ノ鑛夫ヲ入坑セシムル石炭坑ニ於テハ氣壓計及寒暖計ヲ坑口附近適當ナル場所ニ備付ケ保安係員ニ於テ每日一回以上其ノ示度ヲ通氣簿ニ記入スベシ

第四十三條　前條ノ石炭坑ニ於テハ氣流ノ通路及方向、通氣裝置並通氣觀測點ノ位置ヲ坑內實測圖又ハ坑內通氣圖ニ記入スベシ

第四十四條　第四十二條ノ石炭坑ニ於テハ保安係員ハ每月一回以上測風器及安全燈其ノ他瓦斯檢定器ヲ以テ通氣量ノ測定及ビ瓦斯ノ檢査ヲナスベシ通氣ニ異狀アリト認メタルトキハ其ノ都度之ヲ爲スベシ

保安係員ハ前項ノ測定及檢査ノ結果ヲ通氣簿ニ記入スベシ

第四十五條　樺太廳長官必要ト認ムルトキハ同時ニ五十人未滿ノ鑛夫ヲ入坑セシムル石炭坑ニ前三條ノ規定ヲ適用スルコトアルベシ

第四十六條　瓦斯ノ存在スル石炭坑ニ於テハ保安係員ハ每日一回以上安全燈其ノ他瓦斯檢定器ヲ以テ其ノ分量ヲ檢定シ其ノ結果ヲ通氣簿ニ記入スベシ

第四十七條　前條ノ石炭坑ニ於テ扇風機ニ依リ坑內全部ニ亙ル通氣ヲ爲ス場合ニハ水壓計ヲ坑內適當ナル場所ニ備付ケ保安係員ニ於テ每日一回以上之ヲ觀測シ其ノ結果ヲ通氣簿ニ記入スベシ

第四十八條　石炭坑內ニ於テ瓦斯存在ノ虞アル場所ニ在リテハ安全燈又ハ安全電燈ノ外燈火ヲ使用スルコトヲ得ズ

瓦斯ノ存在スル石炭坑ニ於テハ運搬又ハ通氣ノ關係上同一區域ト認メ得ベキ區域全部ニ亙リ安全燈又ハ安全電燈ノ外燈火ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ火番所又ハ特ニ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタル區域ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十九條　坑內ニ於テ燈火用トシテ石油其ノ他揮發性燈油及魚油ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ特種ノ安全燈ヲ使用シ又ハ他ノ油ニ混ジテ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十條　瓦斯ノ存在スル石炭坑內ニ於テハ喫煙ヲ爲スコトヲ得ズ但シ鑛業權者ノ特ニ設ケタル喫煙所ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ石炭坑內ニ於テハ當該係員ノ指揮ニ依ル場合ノ外發火具、喫煙具及煙草ヲ携帶スルコトヲ得ズ

第五十一條　石油坑口又ハ貯油場ノ周圍十メートル以內ニ於テハ發火具、裸火其ノ他危險ナル燈火ヲ使用シ又ハ喫煙ヲ爲スコトヲ得ズ製油場又ハ可燃質瓦斯ノ精製場ニ於ケル油類及可燃質瓦斯ノ貯藏又ハ其ノ取扱ヲ爲ス場所ノ周圍十メートル以內亦同ジ

第五十二條　安全燈ノ使用ヲ必要トスル石炭坑ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ

一　安全燈係員ヲ置キ安全燈ノ授受、檢査及掃除ヲ爲サシムベシ

二　安全燈室ハ採光ニ注意シ成ルベク不燃質ノ物ヲ以テ建築スベシ

三　坑內ニ於テ使用中ノ安全燈毀損シ若ハ故障ヲ生ジタル場合ニ於テ之ヲ交換シ又ハ一定ノ場所ニ於テ點火スル爲メ適當ナル方法ヲ設クベシ

第五十三條　前條ノ石炭坑ニ於テハ安全燈係員ハ安全燈ノ解體及掃除ヲ爲シ金網、硝子、燈芯、油壺、油量、鎖鑰、各接合部其ノ他必要ナル部分ヲ檢査シ完全ト認メタル後ニ非サレバ之ヲ鑛夫ニ交付スルコトヲ得ズ

第五十四條　樺太廳長官必要ト認ムルトキハ一定種類ノ安全燈又ハ携帶用安全電燈ノ使用ヲ禁止スルコトアルベシ

第五十五條　第五十二條ノ石炭坑ニ於テハ鑛夫ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ

一　安全燈ヲ開キ又ハ之ヲ開クニ用ウベキ器具ヲ携帶スルコトヲ得ズ

二　安全燈ハ天井ニ接近シ又ハ顚倒若ハ破損ノ虞アル箇所ニ之ヲ置クコトヲ得ズ

三　安全燈ハ濫ニ之ヲ振動シ又ハ傾斜セシムルコトヲ得ズ

四　安全燈ハ點火シタル儘之ヲ坑內ニ置去ルコトヲ得ズ

五　安全燈ノ火焰ハ濫ニ之ヲ伸大スルコトヲ得ズ

六　安全燈ノ火焰伸大シ消火ヲ要スル場合ニ於テ之ヲ放棄シ又ハ吹消スコトヲ得ズ

七　安全燈ノ毀損又ハ故障ヲ發見シタル場合ニ於テハ遲滯ナク消火シ當該係員ノ指揮ヲ受クベシ

安全燈ノ取扱ニ付テハ前項各號ニ揭グル事項其ノ他注意ヲ要スル事項ヲ定メ鑛夫ヲシテ之ヲ遵守セシムベシ

第五十六條　瓦斯又ハ炭塵ノ爆發、火災、水害其ノ他ノ變災ニ因リ死者又ハ重傷者ヲ生ジタル場合ニ於テハ其ノ事由及狀況ヲ樺太廳長官ニ急報スベシ死者又ハ重傷者ヲ生ゼザル場合ト雖事業ノ全部若ハ一部ヲ休止スルニ至リタルトキ亦同ジ

前項ノ場合ニ於テハ變災ノ經過及之ニ對スル處置ヲ遲滯ナク樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

第五十七條　坑內通氣用主要扇風機、原動力七キロワット以上ノ捲揚裝置、坑內無極綱索軌道、壓力一平方センチメートルニ付三キログラム以上ノ空氣壓縮機ヲ設置セムトスルトキハ工作物ノ種類ニ從ヒ樣式第一號ニ依リ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同ジ

第五十八條　選鑛場(手選鑛場ヲ除ク)、燒鑛場、製錬場、天然揮發油採收場、石油精製場又ハ天然揮發油採收場ニ附屬セザル石油タンクニシテ容量十キロリットル以上ノモノノ汽罐、架空索道、汽罐車ヲ運轉スル軌道、坑外無極綱索軌道及其ノ他延長一キロメートル以上ノ坑外軌道ヲ設置セムトスルトキハ工作物ノ種類ニ從ヒ樣式第二號ニ依リ樺太廳長官ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ工作物ノ工事完成シタルトキハ其ノ旨樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

第五十九條　前條第一項ニ揭グル事項ヲ變更セムトスルトキハ豫メ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ但シ樺太廳長官ニ於テ豫メ變更ノ認可ヲ受クベキコトヲ命令シタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニハ前條第二項ノ規定ヲ適用ス

第六十條　第五十七條及第五十八條ノ工作物ノ使用ヲ廢シタルトキハ之ヲ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

第六十一條　樺太廳長官ヨリ汽罐其ノ他機械又ハ裝置ニ付檢査ノ通知ヲ受ケタルトキハ豫メ檢査ニ必要ナル處置ヲ爲シ置クベシ

第六十二條　原動機、動力傳導裝置其ノ他ノ機械又ハ裝置ノ危險ナル部分ニハ金網、柵圍其ノ他適當ナル豫防設備ヲ爲スベシ

第六十三條　坑內ニ於ケル見張所、火番所、喞筒座、捲揚機械場其ノ他火災發生ノ虞アル場所ニ在ツテハ防火施設ヲ爲シ且消火器又ハ砂ヲ備付クル等適當ナル消火施設ヲ爲スベシ

第六十四條　硫酸、硝酸、鹽酸、苛性加里、苛性曹達其ノ他之ニ準ズベキ劇性又ハ毒性料品ヲ多量ニ取扱フ場所ニハ傷害又ハ中毒豫防ノ爲適當ナル施設ヲ爲スベシ

第六十五條　著シク粉塵ヲ飛散スル坑內作業ヲ爲ス場合ニ於テハ注水其ノ他粉塵防止ノ施設ヲ爲シ又ハ鑛夫ヲシテ防塵具ヲ著用セシムベシ

第六十六條　粉塵ヲ多量ニ飛散スル選鑛場、燒鑛場又ハ製錬場ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ

一　作業場ハ之ヲ清潔ニシ通氣ヲ十分ナラシムベシ

二　飲料水ヲ多量ニ備置キ粉塵ノ混入セザル設備ヲ爲スベシ

三　喫飯所及洗面所ハ作業場ト離レタル場所ニ之ヲ設クベシ

第六十七條　採掘權者ハ業務上ノ傷病者ノ救護ニ必要ナル救急治療用具及材料ヲ備置クベシ

第六十八條　鑛業權者ハ業務上ノ死傷病者ニ付樣式第三號ニ依リ樺太廳長官ニ屆出ヅベシ

第六十九條　鑛業權者ハ本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令中鑛夫ノ遵守スベキ規定ハ適當ナル方法ヲ以テ鑛夫ニ之ヲ周知セシムベシ

第七十條　鑛業權者ハ現ニ入坑セル鑛夫ノ員數、氏名及就業場所ハ之ヲ坑外ニ於テ知リ得ベキ方法ヲ設クベシ

第七十一條　本則ノ規定ニ違反シタル者又ハ本則ノ規定ニ依リ發シタル命令ニ從ハザル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十二條　本則ノ規定ニ依リ從業者ヲ罰スベキ場合ニ於テハ直接ノ監督者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ監督上相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十三條　鑛業警察法施行細則第五十九條ノ規定ニ依リ鑛業代理人ヲ置キタルトキハ鑛業權者又ハ其ノ法定代理人ニ適用スベキ本則ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セザル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七十四條　技術管理者ヲ置キタルトキハ技術ニ關スル事項ニ付採掘權者、其ノ法定代理人又ハ鑛業代理人ニ適用スベキ本則ノ罰則ハ之ヲ技術管理者ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セザル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七十五條　本則ハ第七十一條乃至第七十四條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

附　則

第七十六條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十七條　火藥類及銃砲刀劍類ノ取締ニ關シテハ當分ノ內大正二年十一月廳令第四十一號鑛業警察規則第三十三條第一號乃至第三號及第八號、第三十五條及第三十八條ノ規定ニ依ル

本令施行ノ際大正二年十一月廳令第四十一號鑛業警察規則規定ニ基キ現ニ技術管理者タルモノ及係員タルモノハ本則ノ規定ニ依ル技術管理者及係員ト看做ス

第七十八條　第十八條、第三十一條、第六十二條、第六十三條、第六十五條及第六十六條ノ規定ハ本令施行ノ日ヨリ一箇年間之ヲ適用セズ

樣式　第一號

一　坑內通氣用主要扇風機

(一)設置場所
(二)種類及大
(三)廻轉數及風量
(四)最大負壓又ハ正壓
(五)原動機ノ種類及實馬力
(六)原動機トノ接續方法
(七)豫備扇風機及豫備原動機ノ有無
(八)排氣口ノ構造
(九)工事完成豫定期日

二　竪坑若ハ斜坑ノ原動力七キロワット以上ノ捲揚裝置

(一)設置場所
(二)使用目的
(三)捲揚機ノ種類及主要部分ノ大
(四)鼓胴ノ形狀及大
(五)制動機及深度指示器ノ種類並構造
(六)捲揚櫓ノ構造及大
(七)櫓滑車ノ構造及大
(八)捲揚臺ノ重量及最大積載重量
(九)鑛車ノ重量及積載重量
(十)同時ニ捲揚臺ニ搭載シ又ハ捲揚車道ニ於テ連結スル鑛車ノ數
(十一)捲揚臺承ノ構造
(十二)捲綱ノ種類、構造、大、延長、最大擴張力及製作所名
(十三)捲綱緊張ノ角度
(十四)最大捲揚速度
(十五)竪坑ニ在リテハ其ノ大、深及區劃並爲搭ノ種類及構造
(十六)斜坑ニ在リテハ捲揚車道ノ大、長、最大勾配、曲線ノ最小半徑、軌條ノ重量、軌距及單線又ハ複線ノ區別
(十七)人ヲ昇降セシムルモノニ在リテハ安全裝置ノ構造及搭載定員
(十八)竪坑口又ハ斜坑口ニ於ケル裝置ノ配置圖
(十九)捲揚櫓、捲揚臺及車輛ノ正面圖側面圖及平面圖
(二十)竪坑ノ構造及區劃ノ說明圖
(二十一)捲揚臺及捲綱ノ連接說明圖
(二十二)工事完成豫定期日

三　坑內無極綱索軌道

(一)使用目的
(二)兩極ノ位置、裝置及延長
(三)最大及平均勾配、曲線ノ最小半徑、軌條ノ重量及軌距

(四)最大運搬重量
(五)綱索ノ種類、直徑及最大擴張力
(六)車輛ノ構造、自重、最大積載重量並車輛相互ノ間隔
(七)クリップノ構造及連結方法
(八)綱索ノ最大運轉速度
(九)原動機ノ種類及實馬力
(十)車輛ノ逸走豫防裝置
(十一)線路配置圖
(十二)工事完成豫定期日

四　空氣壓縮機（壓力一平方センチメートルニ付三キログラム以上ノモノ）

(一)設置場所
(二)使用目的
(三)壓縮機ノ數、種類及大
(四)重要部分ノ構造
(五)一分間ノ廻轉數
(六)最大常用壓力
(七)最大送風量
(八)製作所名、新舊別其他履歷ノ概要

第十五類　鑛業

樣式　第二號

一　選鑛場

(一)設置場所
(二)取扱元鑛ノ種類及產出鑛山
(三)一箇月間ノ取扱元鑛數量
(四)一箇月間ノ精鑛ノ種類及數量
(五)操業方法ノ概要
(六)選鑛機械器具ノ種類、大、箇數及其ノ一箇月間ノ取扱數量
(七)原動機ノ種類及實馬力
(八)捨石ノ量及處理方法
(九)捨石堆積場ノ位置、構造及堆積量
(十)廢水ノ量及處理方法
(十一)建設物ノ設計概要並略圖及配置圖
(十二)工事完成豫定期間

二　燒鑛場

(一)設置場所

(二)取扱元鑛ノ種類及產出鑛山
(三)一箇月間ノ取扱元鑛數量
(四)一箇月間ノ燒鑛ノ種類及數量
(五)一箇月間ノ燃料ノ種類及數量
(六)操業方法ノ概要
(七)燒鑛爐ノ種類、大、箇數及其ノ一箇月間ノ取扱數量
(八)原動機ノ種類及實馬力
(九)燒鑛ニ因リ生ズル煙ノ煙道、煙塵室並煙突ノ構造、大及材料
(十)建設物ノ設計概要並略圖及配置圖
(十一)附近ノ地形及地種目ヲ示セル地圖
(十二)工事完成豫定期間

三　製錬場
(一)設置場所
(二)取扱元鑛ノ種類及產出鑛山
(三)一箇月間ノ取扱元鑛數量
(四)一箇月間ノ製品ノ種類及數量
(五)一箇月間ノ燃料並藥劑ノ種類及數量
(六)操業方法ノ概要
(七)製錬用ノ爐又ハ機械器具ノ種類、大、箇數及其ノ一箇月間ノ取扱數量
(八)原動機ノ種類及實馬力
(九)廢水ノ量及處理方法
(十)鑛滓ノ堆積場ノ位置、構造及堆積量
(十一)廢水ノ量及處理方法
(十二)製錬ニ因リ生ズル煙ノ煙道、煙塵室並煙突ノ構造大及材料
(十三)建設物ノ設計概要並略圖及配置圖
(十四)附近ノ地形及地種目ヲ示セル地圖
(十五)工事完成豫定期間

四　石油精製場
(一)設置場所
(二)取扱原油ノ種類及產出鑛山
(三)一箇月間ノ取扱原油數量
(四)一箇月間ノ製品ノ種類及數量
(五)一箇月間ノ燃料並藥劑ノ種類及數量
(六)操業方法ノ概要
(七)蒸溜釜其ノ他製油用ノ機械、器具ノ種類、大、箇數及其ノ一箇月間ノ取扱數量
(八)原動機ノ種類及實馬力
(九)廢水ノ量及處理方法

(十)建設物ノ設計概要並略圖及配置圖
(十一)工事完成豫定期間

五　天然揮發油採收場
(一)設置場所
(二)取扱瓦斯ノ種類及產出鑛山
(三)一箇月間ノ取扱元瓦斯量
(四)一箇月間ノ製品ノ種類及數量
(五)操業方法ノ概要
(六)壓縮機又ハ吸收槽其ノ他採收用ノ機械器具ノ種類、大、數及其ノ一箇月間ノ取扱數量
(七)原動機ノ種類及實馬力
(八)建設物ノ設計概要並略圖及配置圖
(九)工事完成豫定期間

六　石油タンク（石油精製場又ハ天然揮發油採收場ニ附屬セザル容量十キロリットル以上ノモノ）
(一)設置場所
(二)使用目的
(三)容量
(四)構造、材料、主要寸法及圖面
(五)石油タンクト其ノ附近ニ於ケル建設物、道路等ノ關係圖

(六)工事ノ著手及完成ノ豫定時期

七　汽罐
(一)使用目的
(二)種類
(三)主要部分ノ構造
(四)爐格面積及傳熱面積
(五)安全弁ノ種類、直徑、面積及箇數
(六)水壓試驗ヲ爲シタル年月日及其ノ成績
(七)最大常用壓力
(八)製作所名、製作年月及修繕其他履歷ノ概要
(九)煙突ノ直徑、高及材料
(十)汽罐ノ正面圖、平面圖、縱斷面圖及各接合部ノ圖面
(十一)設置場所及建設物、道路、石油坑井等ノ關係ヲ示セル圖面
(十二)工事完成豫定期間

八　架空索道
(一)使用目的
(二)方式
(三)兩極ノ位置及延長
(四)最大運搬量

(五)綱索ノ種類、直徑及最大擴張力
(六)搬器ノ自重及最大積載重量並搬器相互ノ間隔
原動機ノ種類及實馬力
(七)綱索ノ最大運轉速度
(八)荷物ノ積卸方法
(九)通路、建設物等ニ對スル危害豫防設備
(十)線路地形圖
(十一)工事完成豫定期間
(十二)

九　機關車ヲ運轉スル軌道
(一)使用目的
(二)兩極ノ位置及延長
(三)最大勾配、曲線ノ最小半徑、軌條ノ重量、軌距及單線又ハ複線ノ區別
(四)橋梁ノ長及構造
(五)機關車ノ種類及重量
(六)制動機ノ種類
(七)車輛ノ自重及最大積載重量又ハ搭載定員
(八)車輛ノ最大連結數及連結方法
(九)線路地形圖
(十)工事完成豫定期間

十　坑外無極綱索軌道
(一)使用目的
(二)兩極ノ位置、裝置及延長
(三)最大及平均勾配、曲線ノ最小半徑、軌條ノ重量及軌距
(四)最大運搬重量
(五)綱索ノ種類、直徑及最大擴張力
(六)車輛ノ構造、自重、最大積載重量並車輛相互間ノ間隔
(七)クリップノ構造及連結方法
(八)綱索ノ最大運轉速度
(九)原動機ノ種類及實馬力
(十)車輛ノ逸走豫防裝置
(十一)線路配置圖
(十二)工事完成豫定期間

十一　前二號ノ軌道ヲ除キタル延長一キロメートル以上ノ坑外軌道
(一)使用目的
(二)兩極ノ位置及延長
(三)最大勾配、曲線ノ最小半徑、軌條ノ重量、軌距及單線又ハ複線ノ區別

〔樣法〕

(四)車輛ノ自重及最大積載重量
(五)制動器ノ種類

樣式第三號ノ甲

鑛夫死傷者月報　昭和　年　月分

鑛業權者又ハ代表者　住何所　某印
鑛業代理人　住何所　某印

鑛種	位置名稱	事由	種別	死亡				重傷				輕傷				合計			
			員數	十五歲未滿		二十歲未滿		十五歲未滿		二十歲未滿		二十歲以上		十五歲未滿		二十歲以上		死亡	重傷	輕傷
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
		落磐																			
		瓦斯又ハ炭塵ノ爆發																			
		坑 捲揚 捲揚超過																			
		坑 竪坑 鎖又ハ綱ノ切斷ニ於テ捲揚臺ニ依リ昇降中																			
		坑 自動車道 鎖又ハ綱ノ切斷																			
		坑 捲揚又ハ逸走車ノ鎖ノ股線ニ於テ																			
		坑 其ノ他																			

(六)線路地形圖
(七)工事完成豫定期間

| 表 | | |

備考

一　本表ハ毎月一回二十日迄ニ前月分ヲ差出スベシ

二　本表ニハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ記載スベシ

(一)　死者

(二)　負傷又ハ疾病ノ爲解雇セラレタル者

(三)　負傷又ハ疾病ノ爲三十日以上醫療ヲ受ケ休業シタル者

(四)　傳染病豫防法第一條ノ傳染病者但シ病名別患者數ノミヲ記事欄ニ記載スベシ

三　負傷又ハ疾病ノ爲休業三十日以上ニ亘ル者ニシテ未タ轉歸ニ至ラサルモノハ「治癒」欄ニ未治ト記入シ轉歸ニ至リタルトキハ其ノ月ノ月報ニ再記スベシ

四　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スベシ

●大正二年鑛業警察規則（抄錄）

大正二年十一月三十日
廳令第四十一號

鑛業警察規則

第三十三條

一、鑛業權者ハ火藥係員ヲ置キ火藥類ノ授受及其ノ取締等ニ關スル事項ヲ掌ラシムヘシ

二、火藥係員ハ一日間ノ使用見積高ヨリ多量ノ火藥類ヲ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス

三、鑛夫ハ火藥類ヲ使用シタル後殘餘アルトキハ直ニ之ヲ火藥係員ニ還付スヘシ

八、火藥係員ハ火藥類ノ使用ニ關シ特別ノ帳簿ヲ設ケ毎日ノ渡高、使用高及還付高ヲ記載スヘシ

第三十五條　警察官吏ハ必要アリト認ムルトキハ火藥類貯藏所又ハ火藥類ヲ收藏スルノ疑アリト認ムル場所ニ臨檢シ帳簿及物件ニ付檢査ヲ行フコトヲ得

第三十八條　從業者ハ私ニ火藥類ヲ所持シ又ハ銃砲刀劍類ヲ携帶スルコトヲ得ス

●鑛業用地使用料標準

大正十五年五月十九日
廳議決定

一、市街宅地、部落宅地中ニ介在シ又ハ接續スルモノハ各其ノ土地貸付料ニ準ス

二、右以外　一坪一箇年　金五厘

三、前各號ニ該當スト雖モ其ノ土地ノ形狀其ノ他實際ノ情況ニ依リ適宜斟酌シ其ノ都度增減スルコトアルベシ

●鑛區地名表示ニ關スル件

大正五年十一月
廳議決定

曩ニ郡、町、村、大字、字ノ名稱ニ對シ告示セラレ一般其ノ名稱ヲ用フルコトト相成居候處鑛業出願ニ在リテハ鑛區ノ多クハ山地ニ係ルヲ以テ字界ノ如キハ之ヲ表示スルコト難事ニ屬シ候條自今鑛業、砂鑛ノ出願ニ限リ特ニ其ノ鑛區表示ヲ郡、村、大字ニ留メ字名ハ省略處理候コトニ致度仰裁候也

●鑛物調査出張員心得

大正四年五月
廳議決定

鑛物調査出張員心得

一、鑛物調査ノ出張命令ヲ受ケタルトキハ其ノ區域ニ關スル書類及圖面ヲ取調ヘ實地調査ノ資料ト爲スヘシ

二、出張員ハ其ノ出張前ニ於テ左ノ書類ヲ主務課ニ差出スヘシ

一　携帶スヘキ書類及物品ノ目錄

二　出張中ノ調査豫定日割表

三、出張員ハ直ニ其ノ宿所又ハ野營地或ハ淹留スヘキ調査ノ地域ヲ報告シ且所轄支廳、支廳出張所及郵便局ニ居所ヲ通報スヘシ

四、出張中ハ毎月三回調査ノ概要ヲ旬報スヘシ

旬報ニハ其ノ後ノ十日間ニ於ケル調査豫定ヲ附記スヘシ

五、出張中ハ天候及事業功程並調査ニ關スル事項、文書收發其ノ他ノ事故ヲ棒太廳手簿ニ詳記シ歸廳ノ後其ノ取扱文書ト共ニ復命書ニ添附スヘシ

六、出張中ハ豫メ承認ヲ得タルモノノ外繰替拂ヲ爲スコトヲ得ス但シ郵便切手ハ此ノ限ニ在ラス

御用物、鑛物其ノ他標本ハ運送業者又ハ驛遞ニ託送ノ手續ヲ爲シ其ノ料金ハ見積書ヲ添附シ直接請求セシムヘシ

七、郵便切手ハ其ノ受拂又ハ繰替拂ニ付帳簿ヲ作製シ年月日、發信地、受信先、件名、切手種別並數量、金額、郵便種類ヲ記載シ歸廳ノ後復命書ニ添附スヘシ

八、出張中ノ執業時間ハ午前六時ヨリ午後六時迄トス

風雨其ノ他外業ニ從事シ能ハサルノ日ハ製圖其ノ他ノ內業ヲ爲スヘシ

九、出張員ハ鑛物ノミニ留ラス有用岩石ニ於テモ亦之ヲ調査スヘシ

一〇、調査ハ主トシテ河川ニ依リ幹流、支流共ニ成ルヘク踏査ヲ爲シ左ノ事項ヲ圖面又ハ野帳ニ記入スヘシ

一　地名　二　山、川名　三　地形及附近ノ狀況　四　地質ノ概要　五　鑛床狀態　六　鑛物、岩石、走向、傾斜　七　標本採取箇處　八　其ノ他必要ト認ムル事項

調査ニ於ケル觀察ハ現場ニ於テ詳記シ置キ成ルヘク即日圖面及野帳ノ整理ヲ爲スヘシ

一一、調査シタル地域ハ總テ踏査原圖ヲ調製スヘシ

踏査原圖ハ方眼紙ヲ用ヒ歩測、視測ニ依リ其ノ縮尺ハ一萬二千分ノ一トス

一二、鑛物ヲ發見シタルトキハ左ノ事項ヲ精査スヘシ有用岩石ノ發見モ亦之ニ準ス

一　地質鑛床　二　鑛量　三　四至ノ狀況　四　最近町村ヘノ里程及狀況　五　氣候　六　其ノ他稼行上必要ト認ムヘキ事項

稼行ノ價値ナキ鑛物ニ在リテハ第三號以下ノ調査ヲ要セス

一三、稼行ノ價値アル鑛物ヲ發見シタルトキハ直ニ電信報告ヲ爲シ更ニ調査ノ概要ヲ申報スヘシ

一四、鑛物標本ハ必ス採取スヘシ必要ト認ムル岩石及化石モ亦同シ

標本ニシテ分析ノ要アルモノハ其ノ平均試料ヲ採取スヘシ

一五、踏査原圖ハ初葉ニハ踏査シタル地ノ所轄支廳名、地名、調査者ノ官職氏名ヲ記シ捺印ヲ爲シ每葉ニ調査起止ノ年月日ヲ揭記スヘシ

一六、野帳ハ初頁ハ所轄支廳名、調査地域名、調査者ノ官職氏名ヲ記シ捺印ヲ爲シ次頁以下ニハ調査起止ノ年月日及調査事項ヲ記載スヘシ

一七、踏査原圖及野帳ハ復命ノ後ハ主務課ニ差出スヘシ

一八、出張命令豫定期間內ニ用務終了シ難キトキハ豫メ事由ヲ具シ延期ヲ請フヘシ

一九、出張中止ムヲ得サル事故ニ依リ歸廳ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ指揮ヲ受クヘシ

二〇、歸廳シタルトキハ七日以內ニ第五、第七ノ書類ヲ添附調査ノ概要ヲ報告シ圖面又ハ殘務ヲ整理シタル後左記事項ニ付圖面ヲ添附シ詳細ナル復命ヲ爲スヘシ但シ殘務ノ整理豫定書ヲ主務課長ニ差出スヘシ

一　調査區域　二　地理及地勢　三　地質概要必要ニ依リ各記ヲ爲スコト　四　鑛床必要ニ依リ各記ヲ爲スコト　五　鑛物各記分布、鑛量、其ノ他　六　有用岩石各記石材、石灰石、粘土、其ノ他　七　鑛泉　八　其ノ他調査シタル事項　九　意見

〔樺法〕

第十六類　水　産

第十六類　水産

第一章　漁業

○水産會法〔大一〇、法六〇〕……一
○水産會法施行規則〔昭二、廳令二五〕……四
○水産會法第二十六條ニ依ル異議ノ申立、訴願及行政訴訟ニ關スル件〔大一〇、勅二六一〕……七
○漁業法〔明四三、法五八〕……八
○樺太ニ於ケル漁業法施行規則〔大一五、廳令一二〕……一四
○樺太ニ於テ免許スヘキ漁業ノ種類〔明四四、閣令三〕……一八
○樺太ニ於テ免許スヘキ漁業名稱〔明四四、告示四一〕……一九
○樺太ニ於ケル漁業免許ノ取消及漁業料ノ徴收ニ關スル法律〔明四四、法四九〕……一九
○樺太ニ於ケル漁業法施行規則ニ依リ提出スル願書ニ添附スヘキ漁業圖書調製心得〔大九、告示一〇九〕……一九
○樺太ニ於ケル鑛業、砂鑛業及免許漁業ノ登錄ニ關スル件〔大一〇、勅一七二〕……十五類鑛業ニ輯ム
○漁業登錄令〔明四三、勅四三〇〕……二五
○樺太ニ於ケル漁業登錄令施行規則〔明四四、廳令五〕……三二
○漁業登錄令ニ依ル登錄申請書式〔明四四、告示六二〕……四四
○樺太ニ於ケル鑛業砂鑛業又ハ漁業ニ關スル手數料ノ件〔大九、勅二五六〕……十五類鑛業ニ輯ム
○漁業ニ關スル出願申請及登錄手數料〔明四四、廳令六〕……四九
○土人ノ共有スル漁業權貸付ノ件〔明四一、廳令四〇〕……五〇
○樺太漁業取締規則〔大一一、廳令二九〕……五〇
○樺太漁業取締規則第一條ニ依ル出願手數料〔大二、廳令九〕……五六
○鮭鱒蕃殖保護河川湖沼及鱒鮭蕃殖區域〔大二、告示二五〕……五六
○鰊鱒鮭ノ免許漁業ノ漁業時期〔大一〇、告示一一一〕……五七
○樺太漁業取締規則第二十二條ニ依リ「タラバカニ」ノ蕃殖保護期間〔昭八、告示一六六〕……五七
○樺太漁業取締規則ニ依ル牡蠣ノ蕃殖保護期間〔大一一、告示八〇〕……五八
○樺太漁業取締規則ニ依ル蟹漁業ノ禁止區域〔大一二、告示八五〕……五八
○樺太漁業取締規則〔第二十六條〕ニ依ル昆布ノ採取期〔昭八、告示一四〇〕……五八
○樺太漁業取締規則〔第三十四條第一項但書〕ニ依リ土人ノ鰊、鱒及鮭漁業ヲ爲スコトヲ得ベキ區域〔昭九、告示二九〕……五八
○船澗修築ニ關スル件〔大七、水一二九六通牒〕……五九
○水産業奬勵補助規程〔昭七、廳令一六〕……五九

第二章　組合

○樺太ニ於ケル漁業組合ニ關スル件〔明四四、勅三三〕……六三
○漁業組合令〔明四三、勅四二九〕……六三

○漁業組合令施行規則〔大八、廳令一二〕……七二
○漁業組合ニ關スル取扱心得〔大八、廳訓一二〕……七四
○漁業組合模範規約〔大一〇、告示一〇〇〕……七五
○漁業組合經費收支豫算書、收支決算書、剩餘金處分書、財產目錄及事業報告書ノ方式及記載事項ニ關スル件〔大一〇、告示八七〕……八一
○樺太ニ於ケル水利組合規則ノ件〔大六、內令四〕……八八
○水利組合規則〔大五、農令一五〕……八八

第三章　製品取締及檢査

○罐詰及壜詰製造業取締規則〔大一五、廳令一〕……九〇
○水產製造物檢査規則〔大一五、廳令五〕……九一
○水產製造物檢査手數料〔昭八、告示八七〕……九三
○水產製造物ノ荷造及結束ノ方法、量目、等級其ノ他檢査ノ標準〔昭八、告示八八〕……九四
○水產製造物檢査規則ニ依ル檢査證及檢印〔昭八、告示八九〕……一〇六
○水產物檢査ニ關スル件〔大三、廳訓五〕……一一〇

第四章　海獸獵獲

○膃肭獸保護條約〔明四四、條約一三〕……一一一

第十六類　水產

第一章　漁業

●水產會法

大正十年四月十一日
法律第六十號

改正　昭八年五月法律五六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル水產會法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總、農、大臣副署）

水產會法

第一條　水產會ハ水產業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條　水產會ハ法人トス

第三條　水產會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得

第四條　政府ハ其ノ定ムル條件ヲ具備スル水產會ニ豫算ノ範圍內ニ於テ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第五條　水產會ハ水產業ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得
水產會ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スヘシ

第六條　行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ水產會ニ對シ水產業ニ關スル報告書ノ提出及水產業ニ關スル事項ノ調査ヲ命スルコトヲ得

第七條　水產會ハ郡市水產會、道府縣水產會及帝國水產會トス

第八條　水產會ノ地區ハ郡市水產會ニ在リテハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外郡市、道府縣水產會ニ在リテハ道府縣、帝國水產會ニ在リテハ內地ノ區域ニ依ル

第九條　水產會ノ名稱ニハ郡若ハ市水產會、道、府若ハ縣水產會又ハ帝國水產會ナル文字ヲ用ヰルヘシ但シ郡市水產會ノ地區カ郡市ノ區域ニ依ラサルトキハ其ノ名稱中ニ郡又ハ市ノ文字ヲ用ヰサルコトヲ得
本法ニ依リ設立シタル水產會ニ非サレハ其ノ名稱中ニ前項ニ揭クル文字ヲ用ヰルコトヲ得ス

第十條　水產會ハ郡市水產會ニ在リテハ命令ヲ以テ規定シタル者ヲ除クノ外其ノ地區內ニ於テ漁業又ハ水產物ノ製造、取引若ハ保管ノ業ヲ營ム者及其ノ地區內ニ於ケル漁業權又ハ入漁權ヲ有スル者、道府縣水產會ニ在リテハ其ノ地區內ノ郡市水產會、帝國水產會ニ在リテハ道府縣水產會ヲ以テ之ヲ組織ス

第十一條　水產會ヲ設立セムトスルトキハ其ノ地區內ノ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ會則ヲ議定シ行政官廳ノ認可ヲ申請スヘシ
郡市水產會ノ設立ニ關シ前項ニ規定スル會員タル資格ヲ有スル者ノ員數ノ計算ニ付テハ漁業權又ハ入漁權ノ共有ノ場合ニ於テハ其ノ漁業權者又ハ入漁權者ハ之ヲ一人ト看做シ、一人ニシテ前條ニ揭クル二以上ノ資格ヲ有スル者ハ之ヲ一人トス

第十二條　水產會ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時成立ス

第十三條　水產會成立シタルトキハ其ノ地區內ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ總テ之ニ加入シタルモノト看做ス但シ特別ノ事由ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　郡市水產會ニ總代會、其ノ他ノ水產會ニ總會ヲ置ク

總代會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ノ選任シタル議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員タル水産會ノ選任シタル議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十五條　水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ議員定數ノ五分ノ一ヲ超エサル特別議員ヲ置クコトヲ得

行政官廳ハ水産會ノ特別議員ヲ命スルコトヲ得但シ其ノ員數ハ議員定數ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條　左ニ掲クル事項ハ總代會又ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ

一　收支豫算

二　經費ノ分賦收入方法

三　事業報告及收支決算ノ承認

四　豫算ヲ以テ定メタルモノヲ除クノ外新ニ義務ヲ負ヒ又ハ權利ヲ失フヘキ行爲

五　基金ノ造成、管理及處分

六　不動産ニ關スル權利ノ得喪及變更

七　會則ノ變更

八　役員及特別議員ノ選任及解任

九　訴願、訴訟及和解

前項第一號、第二號、第四號及第七號ニ掲クル事項ノ決議ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十七條　總代會又ハ總會ハ會長之ヲ招集ス但シ第一回ノ總代會又ハ總會ハ水産會成立シタルトキ遲滯ナク設立申請者之ヲ招集スヘシ

議員又ハ特別議員ハ議員及特別議員ノ總數ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及招集ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總代會又ハ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

會長正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後十四日以内ニ總代會又ハ總會ヲ招集セサルトキハ請求者ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第十八條　議員及特別議員ハ總代會又ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス

第十九條　總代會及總會ノ議事ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二十條　會則ノ變更ハ總代會又ハ總會ニ於テ之ヲ組織スル者半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決ス

郡市水産會ノ會則ノ變更カ地區ノ增減ニ關スルトキハ前項ノ規定ニ依ル議決ノ外新ニ編入又ハ削除セラルヘキ區域内ノ會員タル資格ヲ有スル者又ハ會員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

前項ニ規定スル會員タル資格ヲ有スル者又ハ會員ノ員數ノ計算ニ付テハ第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二十一條　水産會ニ左ノ役員ヲ置ク

會　長

副會長　一人又ハ二人

評議員　數人

役員ハ郡市水産會ニ在リテハ總代會ニ於テ其ノ會員中ヨリ、其ノ他ノ水産會ニ在リテハ總會ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事

由アル場合ニ於テハ會員又ハ議員ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依ル選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十二條　會長ハ水産會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

副會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會長ノ職務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ並會務ノ執行及財産ノ狀況ヲ監査ス

第二十三條　總代會又ハ總會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ臨時急施ヲ要シ總代會又ハ總會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ專決處分スルコトヲ得但シ第十六條第二項ノ事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ會長ハ次ノ總代會又ハ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第二十四條　水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ委員會ヲ置クコトヲ得

左ニ掲クル者ヲ以テ委員トス

一　會　長

二　副會長

三　會則ニ定メタル方法ニ依リ選任シタル者

第二十五條　委員會ハ仲裁判斷其ノ他會則ニ定ムル事項ニ關シ審議決定ス

第二十六條　水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

郡市水産會ノ經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ其ノ會長ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ水産會ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ

市町村カ前項ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ處分ニ著手セス又ハ九十日以内ニ之ヲ完了セサルトキハ會長ハ地方長官ノ認可ヲ得テ之ヲ處分スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村制第百十一條第一項及第四項ノ規定ヲ準用ス

前二項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次キ其ノ時效ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依ル

經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徵收ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　帝國水産會ハ〔農商務大臣〕ノ認可ヲ受ケ朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ外國ニ於テ設立シタル水産會ニ準スル法人其ノ他ノ團體ヲ會員ト爲スコトヲ得

第二十八條　行政官廳ハ水産會ニ對シ事實ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ檢査シ會則、收支豫算又ハ經費ノ分賦及收入ノ方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十九條　行政官廳ハ水産會ノ總代會、總會若ハ委員會ノ決議又ハ役員若ハ委員ノ行爲ニシテ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員若ハ委員ヲ解任シ、議員ノ改選ヲ命シ水産會ノ事業ヲ停止シ又ハ水産會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第三十條　水産會解散又ハ合併若ハ分割ヲ爲サムトスルトキハ會員ノ三

分ノ二以上ノ同意ヲ得テ其ノ事由ヲ具シ尙分割ノ場合ニ於テハ分割ノ各水産會ノ會員又ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得且水産會ノ標利義務ノ限度ヲ定メ〔農商務大臣〕ノ認可ヲ受クヘシ

前項ニ規定スル會員又ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ員數ノ計算ニ付テハ第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條　水産會ハ債權者ノ同意ヲ得又ハ異議アル債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シ若ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ水産會ノ解散、合併若ハ分割ヲ爲シ又ハ地區ノ增減ニ關スル會則ノ變更ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條　合併後存續スル水産會又ハ合併ニ因リテ設立シタル水産會ハ合併ニ因リテ消滅シタル水産會ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ設立シタル水産會ハ第三十條ノ規定ニ依リテ定リタル限度ニ於テ從前ノ水産會ノ權利義務ヲ承繼ス

第三十三條　水産會ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍內ニ於テハ尙存續スルモノト看做ス

第三十四條　水産會解散シタルトキハ會長及副會長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ會則ニ別段ノ定アルトキ又ハ總代會若ハ總會ニ於テ選任シタル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ行政官廳清算人ヲ選任シ清算人闕ケタルトキ亦同シ

第三十五條　清算人ハ水産會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算ノ方法及財産處分ニ付テハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十六條　行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ清算ノ方法及財産處分ノ變更ヲ命シ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十七條　本法ニ於テ郡市町村トアルハ郡制市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム　（大正十年六月勅令第二百六十號ヲ以テ同年同月十五日ヨリ施行）

本法施行ノ際現ニ存スル水産組合及水産組合聯合會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ本法ニ依ル水産會ト爲スコトヲ得

●水産會法施行規則

昭和二年七月二十日
廳令第二十五號

改正　昭七年九月廳令二四號、八年六月一六號

水産會法施行規則左ノ通定ム

水産會法施行規則

第一條　左ニ揭クル者ハ水産會ノ會員ヨリ之ヲ除外ス

一　國及公共團體

二　小賣ヲ主タル目的トスル製造業者及販賣業者

三　水産物ノ保管ヲ主タル目的トセサル保管業者

前項ニ揭クル者ノ外樺太廳長官ニ於テ特別ノ事由アリト認ムル者アルトキハ水産會ノ會員ヨリ之ヲ除外スルコトヲ得

第二條　水産會ヲ設立セムトスルトキハ會員タル資格ヲ有スル者十人以上發起人トナリ會員タル資格ヲ有スル者ニ地區、事業ノ概目、創立費用及收支ノ概算並經費分賦收入方法ノ概要ヲ通知シ設立ノ同意ヲ求ムヘシ

第三條　發起人創立總會ヲ招集セムトスルトキハ少クトモ十四日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ會員タル資格ヲ有スル者ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ

第四條　創立總會ノ議事ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス

會員タル資格ヲ有スル者ハ他ノ會員タル資格ヲ有スル者ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受任者ハ委任狀ヲ差出スヘシ

第十八條ノ規定ハ創立總會ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　水産會ノ負擔ニ歸スヘキ創立費用及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第六條　創立總會終了シタルトキハ發起人ハ遲滯ナク設立認可申請書ヲ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ會則、設立ニ付法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面、創立費用ノ明細書及議事錄ノ謄本ヲ添附スヘシ

第七條　會則ニハ水産會法又ハ本令ニ規定スルモノノ外左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　目的

二　名稱

三　地域

四　事務所

五　役員ノ定數及任期ニ關スル規定

六　議員ノ任期、選任及解任ニ關スル規定

七　會議ニ關スル規定

八　會計ニ關スル規定

第八條　水産會成立シタルトキハ樺太廳長官ハ其ノ名稱、地域、事務所及認可ノ年月日ヲ告示ス其告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第九條　水産會ノ議員ノ定數ハ會則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但シ三十人ヲ超ユルコトヲ得ス

第十條　水産會ノ議員ハ會員中ヨリ投票ニ依リ之ヲ選任スヘシ

第十一條　水産會ノ議員ヲ選任スル權利ハ一人一個トス但シ漁業權又ハ入漁權共有ノ場合ニ於テハ其ノ漁業權者又ハ入漁權者ハ之ヲ一人ト看做ス

前項ノ權利ハ會員自ラ之ヲ行フヘシ但シ未成年者及禁治産者ニ在リテハ法定代理人ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十二條　水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會員ヲ區域又ハ業種ニ分チ各別ニ議員ヲ選任セシムルコトヲ得

第十三條　水産會ノ議員ノ選任ニ關スル事務ハ會長之ヲ管理ス但シ第一回ノ選任ニ付テハ設立申請者中ノ一人之ヲ管理ス

前項但書ノ規定ニ依ル管理者ハ設立申請者ノ互選ニ依リ之ヲ定メ所轄樺太廳支廳長ニ屆出ツヘシ

第十四條　水産會ノ議員ヲ選任シタルトキハ業種別ニ其ノ氏名及住所（法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所及代表者ノ氏名）ヲ所轄樺太廳支廳

長ニ屆出ツヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ

第十五條　總代會ヲ招集セムトスルトキハ少クトモ十四日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ議員及特別議員ニ通知スヘシ

前項ノ期間ハ會則ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得

第十六條　總代會ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル事項ニ付テノミ議決ヲ爲スコトヲ得但シ會則ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　議員ハ他ノ議員ニ、特別議員ハ他ノ特別議員ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受任者ハ委任狀ヲ差出スヘシ

第十八條　總代會ノ議事錄ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ署名捺印スヘシ

一　開會ノ日時及場所

二　議員及特別議員ノ定數

三　出席者ノ員數

四　議事ノ要領

五　議決シタル事項及贊否ノ數

六　閉會ノ日時

議事錄ニハ會議ノ回數ヲ附スヘシ

第十九條　總代會終了シタルトキハ遲滯ナク其ノ議事錄ノ謄本ヲ所轄棒太廳支廳長ニ差出スヘシ但シ他ノ書類ニ添附シ提出濟ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　總代會招集ノ通知ヲ發スルトキハ同時ニ其ノ通知事項ヲ所轄棒太廳支廳長ニ屆出ツヘシ會議ヲ中止シ、延期シ又ハ流會シタルトキ亦同シ

第二十一條　水産會ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但シ會則ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　收支豫算及經費分賦收入方法ノ認可申請書ハ少クトモ每事業年度開始一月前ニ之ヲ差出スヘシ但シ初年度ニ在リテハ總代會ノ決議ヲ經タル後遲滯ナク之ヲ差出スヘシ

第二十三條　事業報告、收支決算及財産目錄ハ次ノ事業年度內ニ總代會ノ承認ヲ受ケ遲滯ナク之ヲ棒太廳長官ニ差出スヘシ

第二十四條　水産會法第二十一條第三項ノ規定ニ依ル役員選任ノ認可申請書ニハ履歷書及會員ニ非ザル者ヨリ役員ヲ選任シタル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第二十五條　水産會ニハ會則ノ定ムル所ニ依リ主事、技術員其ノ他ノ職員ヲ置クコトヲ得

職員ヲ命免シタルトキハ之ヲ所轄棒太廳支廳長ニ屆出ツヘシ

第二十六條　水産會ノ解散、合併、分割又ハ地域ノ增減ニ關スル會則變更ノ認可申請書ニハ法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面及水産會法第三十一條ニ規定スル事項ヲ證スル書面ヲ添附シ尙合併ノ場合ニ於テハ合併後存續スル水産會又ハ合併ニ因リテ設立スル水産會ノ會則ヲ、分割ノ場合ニ於テハ分割後存續スル水産會又ハ分割ニ因リテ設立スル水産會ノ會則及其ノ權利義務ノ限度ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第二十七條　水産會法第十六條第四號及第七號ニ掲クル事項竝本令第二十二條、第二十四條及第二十六條ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ總代會ノ議事錄ヲ添附スヘシ

第二十八條　水産會ノ解散又ハ合併若ハ分割アリタルトキハ棒太廳長官

【譯法】

ハ之ヲ告示ス

第二十九條　清算終了シタルトキハ清算人ハ清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添ヘ之ヲ棒太廳長官ニ屆出ツヘシ

第三十條　左ノ場合ニ於テハ水産會ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ之ヲ所轄棒太廳支廳長ニ屆出ツヘシ

一　水産會法第二十三條ノ規定ニ依リ專決處分ヲ爲シタルトキ

二　委員ヲ選任シ又ハ委員ノ退任アリタルトキ

三　役員又ハ特別議員ノ選任、解任又ハ退任アリタルトキ

四　會則ノ施行又ハ事務執行ニ關スル規定ヲ設ケ又ハ之ヲ改廢シタルトキ

五　清算人ノ就任又ハ退任アリタルトキ

第三十一條　水産會法第十一條、第十三條、第十五條乃至第十七條、第二十一條、第二十九條、第三十五條及第三十六條ニ於テ行政官廳ト稱スルハ棒太廳長官、第三十四條ニ在リテハ所轄棒太廳支廳長、其ノ他ニ在リテハ棒太廳長官及所轄棒太廳支廳長トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則　（昭和八年廳令第十六號）

本令ハ昭和八年法律第五十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス　（昭和八年五月二十七日ヨリ施行）

●水産會法第二十六條ニ依ル異議ノ申立、訴願及行政訴訟ニ關スル件

大正十年六月四日
勅令第二百六十一號

改正　昭二年六月勅令一六二號、八年一三七號

【譯法】

朕水産會法第二十六條ニ依ル異議ノ申立、訴願及行政訴訟ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總、農、大臣副署）

第一條　水産會ノ經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徵收ノ通知ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ水産會ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ其ノ水産會ノ會長ハ評議員ノ意見ヲ徵シ遲滯ナク決定ヲ爲シ異議申立人ニ之ヲ通知スヘシ

第二條　郡市水産會又ハ道府縣水産會ノ會員ニシテ前條第二項ノ規定ニ依リ決定ヲ受ケタルモノ其ノ決定ニ不服アルトキハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ農林大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル地方長官ノ裁決ニ付テハ當該ノ郡市水産會又ハ道府縣水産會ノ會長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

帝國水産會ノ會員ニシテ前條第二項ノ規定ニ依リ決定ヲ受ケタルモノ其ノ決定ニ不服アルトキハ農林大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三條　前條第一項ノ規定ニ依リ地方長官ニ訴願セムトスルトキハ其ノ決定ヲ爲シタル水産會ヲ經由スヘシ前條第三項ノ規定ニ依リ訴願セムトスルトキ亦同シ

第四條　水産會法第二十六條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依ル處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

水産會法第二十六條第三項ノ規定ニ依ル處分ニ付地方長官ニ訴願セントスルトキハ其ノ處分ヲ爲シタル水産會ヲ經由スベシ

第五條　異議ノ申立又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

異議ノ申立ニ關シテハ訴願法第五條、第八條第三項、第九條、第十條及第十二條乃至第十四條ノ規定ヲ準用ス

第六條　本令ノ樺太ニ於ケル適用ニ付テハ農林大臣トアルハ拓務大臣、地方長官トアルハ樺太廳長官トス

附　則

本令ハ水産會法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス　（大正十年六月十五日ヨリ施行）

附　則（昭和八年勅令百三十七號）

本令ハ昭和八年法律第五十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和八年五月二十七日ヨリ施行）

●漁業法

明治四十三年四月二十一日
法律第五十八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル漁業法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
（御名御璽、内閣、農林大臣副署）

漁業法

第一條　本法ニ於テ漁業ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ水産動植物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ

本法ニ於テ漁業者ト稱スルハ漁業ヲ爲ス者及漁業權又ハ入漁權ヲ有スル者ヲ謂フ

第二條　公共ノ用ニ供セサル水面ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ノ規定ヲ適用セス

第三條　公共ノ用ニ供スル水面ト連接シ一體ヲ成ス公共ノ用ニ供セサル水面ニハ本法ヲ適用ス

前項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ數地ノ所有者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業ニ關シ之カ利用ヲ制限シ又ハ廢止スルコトヲ得

第四條　漁具ヲ定置シ又ハ水面ヲ區劃シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ其ノ免許スヘキ漁業ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス

第五條　水面ヲ專用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ハ漁業組合カ其ノ地先水面ノ專用ヲ出願シタル場合ノ外之ヲ與ヘス

第六條　前二條ノ外主務大臣ニ於テ免許ヲ受ケシムル必要アリト認ムル漁業ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　漁業權ハ物權ト看做シ土地ニ關スル規定ヲ準用ス

民法第二編第九章ノ規定ハ漁業權ニ之ヲ適用セス

第八條　漁業權ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テ其ノ漁場ニ定著シタル工作

物ハ民法第三百七十條ノ準用ニ關シテハ漁業權ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ト看做ス

第九條　裁判所ノ土地ノ管轄カ不動産所在地ニ依リテ定マル場合ニ於テハ漁場ニ最近キ沿岸ノ屬スル市町村又ハ之ニ相當スル行政區劃ヲ以テ不動産所在地ト看做ス

第十條　漁業權ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ分割シ其ノ他變更スルコトヲ得ス

地先水面專用ノ漁業權ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第十一條　漁業權者ノ有スル水面使用ニ關スル權利義務ハ漁業權ノ處分ニ從フ

第十二條　入漁權者ハ設定行爲又ハ舊法施行前ノ慣行ニ從ヒ他人ノ專用漁業權ニ屬スル漁場内ニ入會ヒ其ノ專用漁業權ノ全部又ハ一部ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス

第十三條　入漁權ハ物權ト看做ス

入漁權ハ相續及讓渡ノ目的タル外權利ノ目的タルコトヲ得ス

第十四條　入漁權ハ漁業權者ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ別段ノ慣行アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　漁業權又ハ入漁權ノ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ處分スルコトヲ得ス

第十六條　漁業權ノ存續期間ハ二十年以内ニ於テ行政官廳ノ定ムル所ニ依ル但シ第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ之ヲ算入セス

前項ノ期間ハ漁業權者ノ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十七條　設定行爲ニ於テ存續期間ニ付別段ノ定ナキ入漁權ハ目的タル漁業權ノ存續中存續スルモノト看做ス但シ入漁權者ハ何時ニテモ其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得

第十八條　入漁權者カ入漁料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ漁業權者ハ其ノ入漁ヲ拒ムコトヲ得

入漁權者カ引續キ二年以上入漁料ノ支拂ヲ怠リ又ハ破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキハ漁業權者ハ入漁權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第十九條　入漁料ハ入漁ヲ爲サルサトキハ之ヲ支拂フコトヲ要セス

第二十條　入漁權ニ關シ前三條ノ規定ニ異リタル慣行アルトキハ其ノ慣行ニ從フ

第二十一條　行政官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ漁業ノ免許ヲ與フルニ當リ之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第二十二條　漁業ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ一年間其ノ漁業ニ從事スル者ナキトキ又ハ引續キ二年間休業シタルトキハ行政官廳ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十三條　行政官廳ノ認可ヲ得テ漁業ヲ爲ササル期間及第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ前條ノ期間ニ之ヲ算入セス

第二十四條　水産動植物ノ蕃殖保護、船舶ノ航行碇泊繫留、水底電線ノ敷設若ハ國防其ノ他ノ軍事上必要アルトキ又ハ公益上害アルトキハ主務大臣ハ免許シタル漁業ヲ制限シ、停止シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

漁業權者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ

漁業ヲ制限シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十五條　錯誤ニ依リ漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ行政官廳ハ之ヲ取消スコトヲ得

第二十六條　免許漁業原簿ノ登錄ハ登記ニ代ハルモノトス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條　漁業免許ノ取消アリタルトキハ行政官廳ハ直ニ之ヲ登錄シタル抵當權者及先取特權者ニ通知スヘシ

前項ノ權利者ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ漁業權ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ第二十四條第一項又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

漁業權ハ前項ノ期間内又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競賣ニ依ル賣得金ハ競賣ノ費用及第一項ノ權利者ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキハ漁業免許ノ取消ハ其ノ效力ヲ生セサリシモノト看做ス

第二十八條　漁業權ハ登錄シタル權利者ノ同意アルニ非サレハ之ヲ分割、變更又ハ拋棄スルコトヲ得ス

第二十九條　漁業者ハ左ニ掲クル目的ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用シ又ハ立木竹若ハ土石ノ除去ヲ制限スルコトヲ得

一　漁場ノ標識ノ建設

二　魚見若ハ漁業ニ關スル信號又ハ之ニ必要ナル設備

三　漁業ニ必要ナル目標ノ保存又ハ建設

第三十條　漁業者ハ必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ特別ノ用途ナキ他人ノ土地ニ立入リ漁業ヲ爲スコトヲ得

第三十一條　漁業ニ關スル測量、實地調査又ハ前二條ノ目的ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入リ支障木竹ヲ伐採シ又ハ障碍物ヲ除去スルコトヲ得

第三十二條　前三條ノ行爲ヲ爲ス者ハ豫メ其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知シ爲ニ生シタル損害ハ之ヲ賠償スヘシ

第三十三條　行政官廳ハ漁業者ニ漁場ノ標識ノ建設ヲ命スルコトヲ得

第三十四條　地方長官ハ水産動植物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲主務大臣ノ認可ヲ得テ左ノ命令ヲ發スルコトヲ得

一　水産動植物ノ採捕ニ關スル制限又ハ禁止

二　水産動植物若ハ其ノ製品ノ販賣又ハ所持ニ關スル制限若ハ禁止

三　漁具又ハ漁船ニ關スル制限若ハ禁止

四　漁業者ノ數又ハ資格ニ關スル制限

五　水産動植物ニ有害ナル物ノ遺棄ニ關スル制限又ハ禁止

六　水産動植物ノ蕃殖保護ニ必要ナル物ノ採取又ハ除去ニ關スル制限若ハ禁止

主務大臣ニ於テ前項ノ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

前二項ノ命令ニハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物、製品及漁具ノ沒收竝犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ價額ノ追徵ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三十五條　汽船「トロール」漁業又ハ汽船捕鯨業ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

前項ノ漁業ニ關スル制限又ハ禁止ハ主務大臣之ヲ定ム

第三十六條　爆發物ヲ使用シテ水産動植物ヲ採捕スルコトヲ得ス但シ海獸捕獲ノ爲ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條　主務大臣ハ遡河魚類ノ通路ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ水面ノ一定區域内ニ於ケル工作物ノ設置ニ付制限又ハ禁止ニ關スル命令ヲ發スルコトヲ得

工作物ニシテ遡河魚類ノ通路ヲ害スルモノト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ所有者又ハ占有者ニ除害工事ヲ命スルコトヲ得

第三十八條　前條第二項ノ規定ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ハ工作物ニ付權利ヲ有スル者ニ對シ相當ノ補償ヲ爲スヘシ但シ利害關係人ノ申請ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ申請者之ヲ補償スヘシ

前項ノ補償金額ニ付不服アル者ハ補償金額決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十九條　公共ノ用ニ供セサル水面ニシテ公共ノ用ニ供スル水面又ハ第三條ノ水面ニ通スルモノニハ命令ヲ以テ第三十四條、第三十六條乃至第三十八條、第五十五條及第五十九條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第四十條　漁業ニ從事スル者ノ雇傭竝雇人及遺族ノ扶助ニ關シテハ勅令ヲ以テ規程ヲ設クルコトヲ得

第四十一條　海軍艦艇乘組將校、警察官吏、港務官吏、稅關官吏又ハ漁業監督吏員ハ漁業ヲ監督シ必要アリト認ムルトキハ船舶、店舗其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ檢査スルコトヲ得

前項ノ臨檢ニ際シ漁業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ捜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、捜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス但シ同法第四條ノ規定ハ漁業監督吏員以外ノ者ニ之ヲ準用セス

第四十二條　一定ノ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合ヲ設クルコトヲ得

漁業組合ノ地區ハ市町村ノ區域又ハ市町村内ノ漁業者ノ部落ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ市町村ニ準スヘキモノヲ以テ前項ノ市町村ト看做ス

北海道ニ於テハ郡ヲ以テ漁業組合ノ地區ト爲スコトヲ得

第四十三條　漁業組合ハ法人トス

漁業組合ハ漁業權若ハ入漁權ヲ取得シ又ハ漁業權ノ賃付ヲ受ケ組合員ノ漁業ニ關スル共同ノ施設ヲ以テ目的トス

漁業組合ハ自ラ漁業ヲ營ムコトヲ得ス

組合員ハ漁業組合ノ取得シ若ハ賃付ヲ受ケタル專用漁業權又ハ入漁權ノ範圍内ニ於テ各自漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス但シ組合規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四十四條　漁業組合ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合聯合會ヲ設クルコトヲ得

漁業組合聯合會ハ法人トス

第四十五條　漁業組合及漁業組合聯合會ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス

第四十六條　漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ設立ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

登記シタル事項ノ變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十七條　行政官廳ハ何時ニテモ漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、事業及財産ノ狀況ヲ檢査シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十八條　漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ決議若ハ役員ノ行爲ニシテ法令、行政官廳ノ命令若ハ規約ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　決議ノ取消

二　役員ノ解職

三　組合又ハ聯合會ノ解散

第四十九條　本法ニ規定スルモノノ外漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ設立、登記、管理、分合、解散、清算其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條　漁業組合又ハ漁業組合聯合會ニ於テ本法中特ニ組合又ハ聯合會ニ關スル規定ニ違反シタル場合ニ於テハ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

本法ニ基キテ發スル組合又ハ聯合會ニ關スル命令ニ於テハ組合又ハ聯合會カ之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

前二項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第五十一條　漁業者又ハ水産動植物ノ製造若ハ販賣ヲ業トスル者ハ水産業ノ改良發達及水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他水産業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲水産組合ヲ設クルコトヲ得

第五十二條　水産組合成立シタルトキハ其ノ地區內ニ於テ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ組合ニ加入シタルモノト看做ス但シ主務大臣ニ於テ加入ノ義務ナシト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條　水産組合ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲水産組合聯合會ヲ設クルコトヲ得

第五十四條　水産組合及水産組合聯合會ハ法人トシ重要物産同業組合法ヲ準用ス

第五十五條　漁業ノ免許若ハ許可ノ出願又ハ期間更新ノ申請ニ對スル許否ニ不服アル者及第三條第二項、第二十二條、第二十四條、第二十五條若ハ第三十七條第二項ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十六條　漁場ノ區域、漁業權若ハ入漁權ノ範圍又ハ漁業ノ方法ニ付漁業者ノ間ニ爭アルトキハ關係者ヨリ行政官廳ニ之ニ關スル裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

【樺法】

第五十七條　民事又ハ刑事ノ訴訟ニ付前條ノ規定ニ依ル裁決又ハ判決ヲ待ツノ必要アル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第五十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　免許ニ依ラス若ハ漁業ノ停止中第四條又ハ第六條ノ漁業ヲ爲シタル者

二　免許漁業ノ制限又ハ免許ノ條件若ハ制限ニ違反シテ漁業ヲ爲シタル者

三　專用漁業ノ停止中其ノ漁場ニ於テ停止シタル漁業ヲ爲シタル者

前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第五十九條　汽船「トロール」漁業ニ關シ第三十五條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金、汽船捕鯨業ニ關シ同條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止又ハ第三十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處シ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第六十條　漁業權又ハ漁業組合員ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ侵害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第六十一條　漁場ノ標識ヲ移轉シ、汚損シ又ハ毀壞シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十二條　第四十一條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ妨ケタル者及臨檢搜索ノ際當該吏員ノ訊問ニ對シ答辭ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十三條　營業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條　營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第六十五條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附　則

第六十六條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十三年勅令第四百二十八號ヲ以テ明治四十四年四月一日ヨリ施行）

第六十七條　本法ハ鰣虎及腥鵬獸ノ漁獲ニ之ヲ適用セス

第六十八條　本法施行前ノ漁業ニ關スル出願ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第六十九條　舊法ニ依リ發生シタル漁業權ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ定メタル效力ヲ有ス但シ其ノ存續期間ハ發生ノ時ヨリ起算ス

本法施行前ニ發生シタル入漁權ニ關シ亦前項ニ同シ

第七十條　本法施行前免許漁業原簿ニ登錄シタル事項ハ本法又ハ本法ニ

【樺法】

基キテ設スル命令ニ依リ登錄スルコトヲ得ヘキモノニ限リ之ニ依リ登錄シタルモノト看做ス

第七十一條　舊法施行前ノ契約又ハ慣行ニ依リテ入漁スルノ權利ハ專用漁業免許後一年間ニ限リ登錄ナキモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第七十二條　本法施行前ニ爲シタル處分又ハ第六十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ對スル裁決ノ申請、訴願又ハ行政訴訟ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第七十三條　舊法ニ依リ設ケタル漁業組合ハ本法施行後一年間ニ限リ登記ナキモ其ノ設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

●樺太ニ於ケル漁業法施行規則

大正十五年五月二十七日
廳令第十二號

樺太ニ於ケル漁業法施行規則左ノ通改正ス

樺太ニ於ケル漁業法施行規則

第一條　本令ニ於テ免許漁業ト稱スルハ定置漁業、區劃漁業及專用漁業ヲ謂フ

第二條　本令ニ於テ定置漁業ト稱スルハ漁具ヲ定置シテ爲ス漁業、區劃漁業ト稱スルハ水面ヲ區劃シテ爲ス漁業、專用漁業ト稱スルハ他ノ免許漁業ニ該當セスシテ水面ヲ專用シテ爲ス漁業ヲ謂フ

第三條　免許漁業ニ關スル出願、申請又ハ屆出ハ樺太廳長官ニ之ヲ爲ス（〈シ

第四條　行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ出願、申請又ハ屆出ヲ爲シタル者、漁業權者、入漁權者其ノ他漁業ニ關シ利害關係ヲ有スル者ニ對シ書類ノ提出、訂正、補充又ハ物件ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第五條　住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ因リ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ行政官廳ハ其ノ事由及書類ノ要領ヲ公告スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ公告ノ終リタル日ヨリ起算シテ五十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付アリタルモノト看做ス

第六條　本令ニ依リ行政官廳ニ於テ爲ス公告ハ一定ノ公布式ニ依ルモノトス

第七條　左ノ區域ヲ以テ免許漁業ノ漁場トス

一　定置漁業ニ在リテハ漁具ヲ敷設スル區域

二　區劃漁業ニ在リテハ養殖ヲ爲ス區域

三　專用漁業ニ在リテハ專用スル區域

第八條　水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキ又ハ漁業ノ價値ナシト認ムルトキハ漁業ノ免許ヲ與ヘス

既ニ免許ヲ與ヘタル漁業ト相容レスト認ムルトキ亦前項ニ同シ但シ漁業權者及登錄シタル權利者ノ同意アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ規定ハ漁業權變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條　鱒及鮭鮏ノ定置漁業又ハ專用漁業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ非サレハ之カ免許ヲ與ヘス

一　漁業法第二十四條第一項ノ規定ニ依リ漁業ノ免許ヲ取消サレタル者又ハ其ノ取消ヲ受ケサル前行政官廳ノ指示ニ從ヒ漁業權ヲ抛棄シ

タル者ニ於テ樺太廳長官ノ指定スル所ニ從ヒ漁業ノ免許ヲ出願シタルトキ

二　漁業組合ニ於テ樺太廳長官ノ指定スル所ニ從ヒ漁業ノ免許ヲ出願シタルトキ

漁業ノ種類カ定置漁業ニ係ルトキハ其ノ漁場ノ位置ハ隣接スル同種漁業ノ漁場ト鰊ニ在リテハ六百間、鱒鮭ニ在リテハ千二百間以上ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ル漁場間ノ距離ハ漁場區域ノ中心ヲ縱斷スル直線間ノ最短距離ニ依リ之ヲ算出ス

漁業ノ種類カ專用漁業ニ係ルトキハ其ノ漁具ノ種類ハ鰊ニ在リテハ刺網及小建網、鱒鮭ニ在リテハ小建網ニ限ル但シ漁場ノ狀況ニ依リ小建網ヲ地曳網ニ變フルコトヲ得

第十條　第八條第二項及前條第二項ノ規定ハ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ニ之ヲ適用セス

第十一條　鰊及鱒鮭ノ免許漁業ノ漁業時期ハ地方別ニ依リ鰊ト鱒鮭ト重複セサル範圍内ニ於テ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依ル

第十二條　定置漁業ノ漁場區域ハ鰊ニ在リテハ幅百間沖出五百間以内、鱒鮭ニ在リテハ幅百五十間沖出八百間以内トシ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依ル但シ樺太廳長官ニ於テ特別ノ事由アリト認ムル場合ハ沖出ニ限リ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第十三條　漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ專用漁業ニ在リテハ一漁業毎ニ、其ノ他ノ漁業ニ在リテハ漁業ノ名稱及漁場毎ニ願書二通ヲ作リ之ヲ出願スヘシ

前項ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　專用漁業ニ在リテハ漁具ノ種類又ハ漁業ノ方法、其ノ他ノ漁業ニ在リテハ漁業ノ種類及名稱

二　漁獲物ノ種類

三　漁業時期

四　漁業權存續期間

第十四條　前條ノ願書ニハ漁場ノ位置及區域ヲ記載シタル漁場圖二通ヲ添附スヘシ

定置漁業ノ漁場圖ニハ漁具敷設ノ形狀ヲ、區劃漁業ノ漁場圖ニハ漁場ノ面積ヲ設載スヘシ

第十五條　二人以上共同シテ漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ之ヲ屆出テ又ハ願書ニ記載スヘシ

代表者ノ屆出又ハ記載ナキトキハ樺太廳長官ハ代表者ヲ指定ス

第十六條　代表者ハ共同者全員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得

代表者ニ變更アリタルトキハ之ヲ屆出ツヘシ

代表者ノ變更ハ前項ノ屆出ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ行政官廳ニ對抗スルコトヲ得ス

第十七條　前二條ノ規定ハ二人以上共同シテ漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利若ハ入漁權ヲ取得シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス第十五條及第十六條ノ規定ニ依ル代表者ハ免許ヲ受ケタル漁業權ニ付其ノ共同者ヲ代表スルモノト看做ス

第十九條　漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ樺太廳長官ハ左ノ事項ヲ公告ス

一　免許番號

二　免許年月日

三　漁業權者又ハ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所

四　漁場ノ位置

五　漁業ノ種類及名稱（專用漁業ニ在リテハ漁具ノ種類又ハ漁業ノ方法）

六　漁獲物ノ種類

七　漁業時期

八　漁業權存續期間

九　條件又ハ制限ノ事項

第二十條　漁業權ノ分割其ノ他變更ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ願書二通ヲ作リ之ヲ出願スヘシ

前項ノ場合ニ於テ登錄シタル權利者アルトキハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲ、其ノ出願カ漁業權ノ分割又ハ漁場區域ノ變更ニ係ルトキハ其ノ分割又ハ變更スル漁場ノ漁場圖二通ヲ添附スヘシ

第十四條ノ規定ハ前項ノ漁場圖ニ之ヲ準用ス

第二十一條　漁業權存續期間更新ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ更新期間ヲ定メ申請書二通ヲ作リ存續期間滿了ノ日ヨリ一月前ニ之ヲ申請スヘシ

第二十二條　漁業權ノ分割其ノ他變更ヲ許可シタルトキ又ハ漁業權存續期間ノ更新ヲ免許シタルトキハ樺太廳長官ハ之ヲ公告ス

第二十三條　漁業ノ免許ヲ取消シ、免許シタル漁業ヲ制限若ハ停止シ又ハ其ノ處分ヲ變更若ハ取消シタルトキハ樺太廳長官ハ之ヲ公告シ且登錄權利者ニ通知ス

第二十四條　漁業法第十條第二項ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由書ヲ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於テ漁業權者カ持分ノ處分ヲ爲ストキハ他ノ共有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ、拋棄ヲ爲ストキハ登錄シタル權利者ノ同意ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第二十五條　免許漁業ノ休業認可ヲ受ケムトスルトキハ休業期間ヲ定メ其ノ事由ヲ具シ之ヲ申請スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタル者漁業ヲ爲スニ至リタルトキハ遲滯ナク之ヲ屆出ツヘシ

休業認可ノ期間內ニ漁業ヲ爲シタルトキハ爾後認可ノ效力ヲ失フ

第二十六條　漁業權ヲ拋棄シタルトキハ之ヲ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ニハ登錄シタル權利者アルトキハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第一項ノ屆出アリタルトキハ之ヲ公告ス

第二十七條　漁業權者ハ定置漁業ノ漁場ニ在リテハ別記雛形第一號、區劃漁業ノ漁場ニ在リテハ別記雛形第二號、專用漁業ノ漁場ニ在リテハ別記雛形第三號ノ漁場標識ヲ建設スヘシ

樺太廳長官ニ於テ漁場標識ノ建設方法ニ付指示シタルトキハ漁業權者ハ之ニ從フヘシ

第二十八條　漁業法第二十九條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ニ揭クル事項ヲ具シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ之ヲ樺太廳長官ニ願出ツヘシ

一　土地ノ使用ニ付テハ其ノ所在、面積、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ目的及期間

二　立木又ハ土石ノ除去ニ付テハ其ノ種類、存在ノ場所、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ目的及期間

第二十九條　前條ノ出願ヲ許可シタルトキハ樺太廳長官ハ所有者及占有者ニ之ヲ通知シ且公告ス

第三十條　漁業法第三十條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ土地ノ所在、面積、現況、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ時期及期間ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ之ヲ樺太廳長官ニ願出ツヘシ

第三十一條　漁業法第三十一條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ所轄樺太廳支廳長ニ願出ツヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者支障木ヲ伐採シ又ハ障害物ヲ除去スルトキハ許可證ヲ携帶スヘシ

第三十二條　漁業權者ニ對シテ爲シタル漁業法第二十九條乃至第三十一條ノ許可、其ノ承繼人及其ノ漁業權ニ依リ漁業ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ爲ニモ亦效力ヲ有ス

第三十三條　臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法施行規則第二條乃至第五條、第八條及第十二條ノ規定ヲ準用ス

第三十四條　漁業法第五十六條第一項ノ裁決ヲ申請セムトスルトキハ樺太廳長官ニ之ヲ爲スヘシ

第三十五條　裁決ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ且證據書類ヲ添附スヘシ

一　申請者及相手方ノ氏名若ハ名稱及住所

二　申請ノ目的及理由

三　立證

申請書ニハ相手方ノ數ニ應シ前項書類ノ副本ヲ添附スヘシ

第三十六條　樺太廳長官ニ於テ裁決ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ答辯書提出期限ヲ指定ス

第三十七條　裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附ス裁決ノ申請ヲ却下スルトキ亦同シ

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ定置漁業權ヲ有スル者ニシテ大正十五年十月三十一日迄ニ漁場區域ニ付漁業權變更ノ許可ヲ出願シタル場合ニ於テハ第八條第二項ノ規定ニ拘ラス之ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ出願スルコトヲ得ル漁業ノ漁場區域ハ基點方位線ヲ中心トスルコトヲ要ス

本令施行ノ際現存スル專用漁業ニシテ其ノ漁具ノ種類カ鰊鮭船曳網ノモノニ付テハ大正十五年十月三十一日迄仍其ノ漁業ヲ爲スコトヲ得

雛形第一號　三寸角長サ地上元標ハ約四尺副標ハ約二尺

表面

何年何月何日免許

何地先免許定第何號鰊建網（鰊鮭飄網）漁場右（左）基點元（副）標

裏面

方位北（南）何度何分東（西）沖出何間

何年何月何日建設

三寸角長サ地上元標ハ約三尺副標ハ約二尺

表面
何地先免許定第何號諫建網鱒鮭甕網基點元(副)標

裏面
沖出何間
何年何月何日建設

雛形第二號　三寸角長サ地上約四尺

表面
何年何月何日免許
何地先免許區第何號何養殖漁場基點標

裏面
何年何月何日建設

雛形第三號　三寸角長サ地上約四尺

表面
何年何月何日免許
何地先免許專第何號專用漁場右(左)(中央)基點元(副)標

赤色

裏面
方位北(南)何度何分東(西)沖出何間
何年何月何日建設

●樺太ニ於テ免許スヘキ漁業ノ種類

明治四十四年三月二十八日
閣令第三號

改正　大九年七月閣令五號、一五年五月三號

漁業法第四條ニ依リ樺太ニ於テ免許スヘキ漁業ノ種類左ノ通定ム

第一條　樺太ニ於テ免許スヘキ漁業ノ種類左ノ如シ

漁具ヲ定置シテ爲ス漁業ノ種類

一　臺網類漁業　敷網及垣網ヲ土俵ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

二　落網類漁業　落網、上網及垣網ヲ土俵ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

水面ヲ區劃シテ爲ス漁業ノ種類

一　第一種　一定ノ區域内ニ於テ瓦石竹木等ヲ沈設シ又ハ杙ヲ建設シテ爲ス養殖業

二　第二種　土石竹木等ノ關障ニ依リ限界セラレタル一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業

三　第三種　前二號ヲ除クノ外一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業

第二條　前條ノ規定ニ該當スル免許漁業ノ名稱ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●樺太ニ於テ免許スヘキ漁業名稱

明治四十四年五月二十日
告示第四十一號

改正　大九年七月告示九二號

定置漁業

一　臺網類漁業　諫建網
　　鱒鮭建網
　　鱒鮭甕網

二　落網類漁業

區劃漁業

一　第一種漁業　牡蠣養殖業

二　第二種漁業　魚類養殖業

三　第三種漁業　介類養殖業
　　藻類養殖業

●樺太ニ於テ免許ノ取消及漁業料ノ徴收ニ關スル法律

明治四十四年三月二十九日
法律第四十九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル樺太ニ於ケル漁業免許ノ取消及漁業料ノ徴收ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總、大、大臣副署)

樺太ニ於テ漁業ノ免許ヲ受ケタル者漁業料ノ納付ヲ怠リタルトキハ樺太廳長官ハ免許ヲ取消スコトヲ得

樺太ニ於ケル漁業料ノ徴收ニ關シテハ國稅徴收法及明治四十年法律第三十四號ヲ準用ス但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●樺太ニ於ケル漁業法施行規則ニ依リ提出スル願書ニ添付スヘキ漁場圖調製心得

大正九年八月十九日
告示第百九號

改正　大一五年六月告示一〇五號

第一條　漁場圖ハ左ノ各號ニ依リ調製スヘシ

一　漁場ノ位置ヲ示スニハ基點、方位及距離ヲ記入スヘシ

二　基點ノ位置ヲ示スニハ其ノ附近ニ在ル顯著ナル不動物體ノ方位及距離ヲ記入スヘシ但シ其ノ之ナキトキハ附近ノ見取圖ヲ添附スヘシ

三　方位ハ磁針ニ依ルヘシ

四　距離ハ間(六尺)、面積ハ坪ヲ以テ表示スヘシ

五　海岸線ハ朔望滿潮時ヲ以テスヘシ

六　定置漁業ノ漁場圖ニハ漁具敷設ノ間數ヲ記入スヘシ

七　區劃漁業ノ漁場圖ニハ面積ノ算出ニ必要ナル事項ヲ記入スヘシ

八　漁場圖ニハ其ノ漁場附近ノ地形、顯著ナル物體、郡町村大字字等ノ境界線、南北線及縮尺ヲ記入スヘシ

九　漁場ノ區域線(海岸線ヲ除ク)ハ實線、方位線及見通線ハ點線ヲ以テ朱記スヘシ

十　用紙ハ礬水引美濃紙ヲ用ヰ描寫ニハ鉛筆、炭素紙又ハ「インキ」ヲ用フヘカラス

第二條　定置漁業漁場圖ハ樣式第一號又ハ第二號ニ、區劃漁業漁場圖ハ樣式第三號又ハ第四號ニ、專用漁業漁場圖ハ樣式第五號ニ、準シ調製スヘシ

樣式第一號

定置漁業漁場圖　　縮尺何分ノ一

臺網類漁業何建網

漁場ノ位置

何郡何町(村)大字何字何地先

點ノ位置

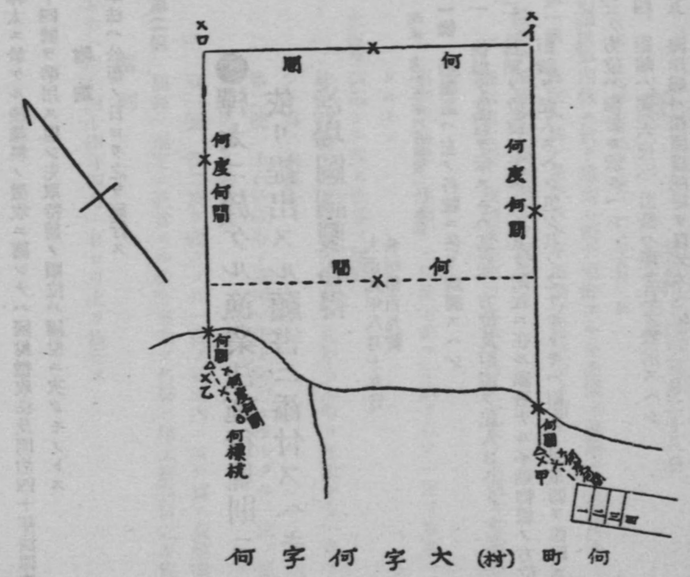
基點甲、　何町(村)大字何字何、何々ニ建設ノ標木

基點乙、　何町(村)大字何字何、何々ニ建設ノ標木

イ、甲ヨリ何度何間ノ處

ロ、乙ヨリ何度何間ノ處

漁場區域


何
何度何間
何度何間
何
何標杭
何標杭
何
何
何